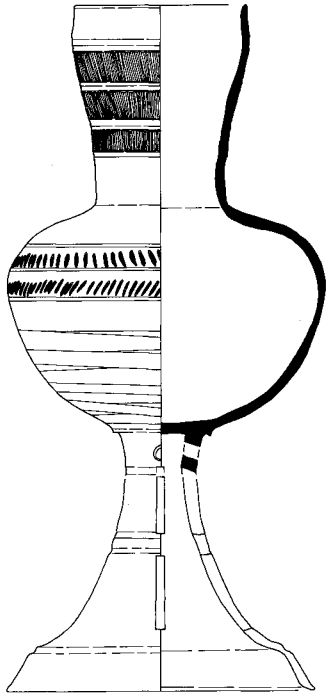
大屋敷遺跡 II

1994

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

大屋敷遺跡 II



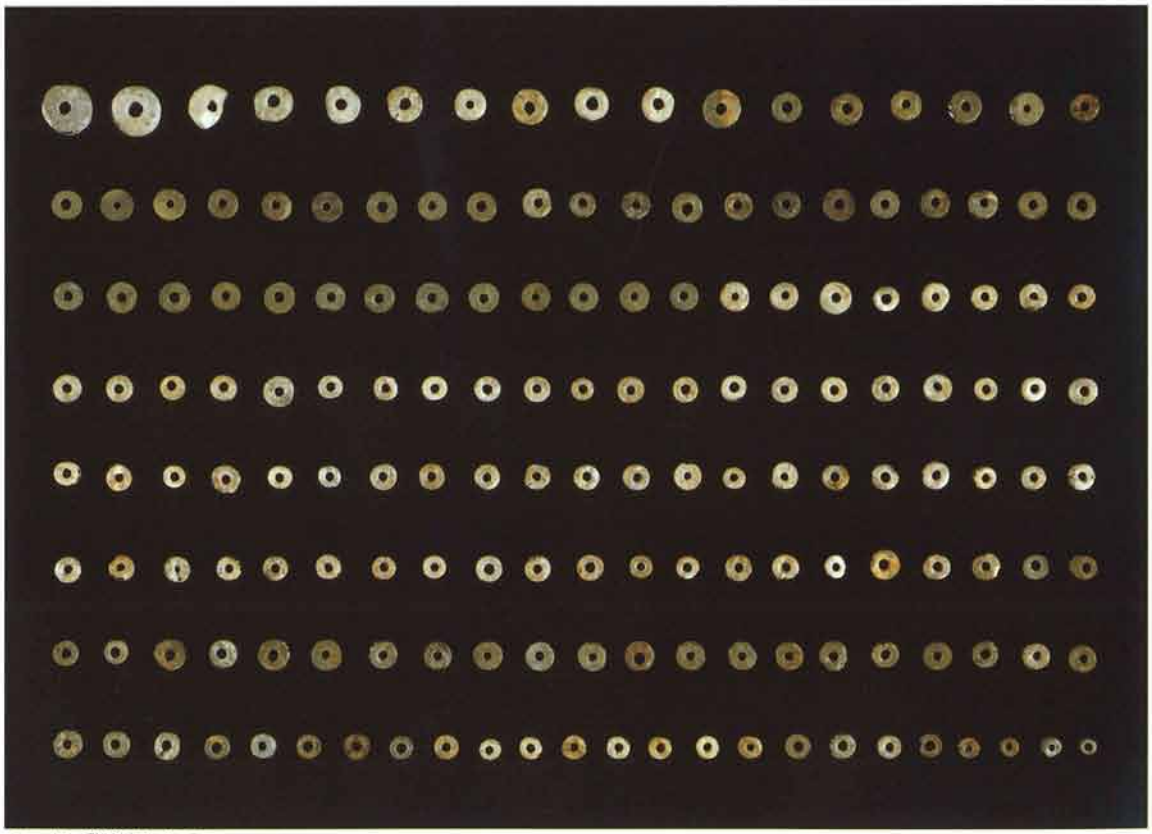
H－58号住居址出土の台付長頸壺

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1．大屋敷遺跡と総社古墳群

2．大屋敷遺跡出土土器（古墳時代後期）

3．大屋敷遺跡出土石製模造品



4．大屋敷遺跡出土臼玉

序

群馬県前橋市は、関東平野の北西端に位置し水と緑に恵まれた人口28万余を擁する県都であります。市の歴史は大変古く、初めてこの地に人々が住み始めたのは、今から2万年以上も前の旧石器時代であるということが分かっております。前橋の地は、永い歴史の中で古代においては「東国の奈良」、近世においては「関東の華」と称され、さらに江戸時代末期から明治・大正時代にかけては日本の生糸貿易を支える養蚕製糸業の中心地として発展した歴史の薫り高い街であります。

特に、大屋敷遺跡が所在する総社地区は、古代上毛野国の中心地域であり、国指定史跡総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・山王塔跡を始めとする歴史遺産の豊富な地区として知られております。

近年、都市基盤整備の必要性が高まり、この地区にも土地区画整理が実施されることとなりました。歴史的に重要な地区となっているため、前橋市教育委員会と前橋市都市計画部で、遺跡の取り扱いについて協議しましたが、現状での保存は難しいということで、平成4年度より道水路部分を中心に発掘調査を実施することとなりました。本年度はその2年次に当たります。

本年度の調査は、開発予定地の中央を南北に走る道路を中心に面積2,386㎡の調査でしたが、古墳時代から平安時代にかけて103軒という膨大な数の住居址の外、溝址5条・井戸址3基等を検出し、地域史を解明する貴重な資料を得ることができました。また、調査区中央に位置する住居址から他に類例をみない台付長頸壺、大型器台、石製模造品等が出土したことも特筆されます。

最後になりましたが、このたびの調査では前橋市大屋敷地区土地区画整理組合の方々、前橋市都市計画部の担当者及び隣接住民の方々、さらに天候不順の中、発掘調査・整理作業に従事していただきました作業員の方々の深い御理解と御協力を得ましたことに心より御礼申し上げます。

本報告書が総社地区の歴史を解明していく上で、少しでも参考になれば幸いに存じます。

平成6年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　有　坂　　淳

例　　言

1．本書は、前橋市大屋敷地区土地区画整理事業に伴う大屋敷遺跡Ⅱ（おおやしきいせきに）発掘調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県前橋市総社町大字総社1946－1番地ほかに所在する。

3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　有坂　淳　が前橋市大屋敷地区土地区画整理組合　代表者　大山栄一と委託契約を締結し実施した。

調査担当および調査期間は以下の通りである。

発掘・整理担当者　　大山知久・真塩欣一（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係）

発掘調査期間　　平成5年4月23日～平成5年11月1日

整理・報告書作成期間　　平成5年11月2日～平成6年3月25日

4．本書の原稿執筆・編集は大山・真塩が行った。整理作業をはじめ図版作成には、石原義夫・岩木賢一・岩木　操・岸フクエ・住谷文彦・渡木秋子・湯浅たま江・湯浅道子の協力があった。

5．下記の専門的分野については、次の機関ならびに方々のお世話になった。（敬称略）

石器石材：飯島静男　　石製模造品：杉山秀宏（財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団）

瓦：木津博明（財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団）

6．発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の1/20万地形図（長野・宇都宮）と1/2.5万地形図（前橋）を使用した。

3．本遺跡の略称は5A60である。

4．各遺構及び遺構施設の略称は次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の住居址、I…井戸址、D…土坑

W…溝址、O…落込み、P…柱穴

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。

遺構　　住居址・土坑・井戸址・落込み…1/60、竈セクション…1/30

溝址…1/120、溝址セクション…1/60、全体図…1/250・1/500

遺物　　土器…1/3・1/4、鉄器…1/3、石製模造品…1/2・2/3

石器・石製品…1/3・2/3・1/4・1/8、瓦…1/3・1/4・1/6・1/8

6．スクリーントーンの使用は次のとおりである。

遺構平面図　　焼土…点、灰…斑

遺構断面図　　火山灰…濃点、構築面…斜線

遺物実測図　　施釉範囲…あられ、黒色処理…網、炭化物（スス付着など）…斑

須恵器断面…黒塗り、灰釉陶器断面…点

石器使用痕…縦線

── 目　　次 ──

序 …… i

Ⅰ 調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ 遺跡の位置と環境
　1 遺跡の立地 …… 1
　2 歴史的環境 …… 1

Ⅲ 調査の経過
　1 調査方針 …… 5
　2 調査経過 …… 6

Ⅳ 層序 …… 7

Ⅴ 遺構と遺物
　1 住居址 …… 8
　2 溝址 …… 22
　3 井戸址 …… 23
　4 落込み …… 23
　5 土坑 …… 23
　6 縄文時代の遺物 …… 24
　7 石製模造品 …… 24
　8 グリッド出土の遺物 …… 25

Ⅵ まとめ …… 29

付編
　大屋敷遺跡出土の頁岩の産地について（飯島 静男） …… 40

図　　版

口 絵　1　大屋敷遺跡と総社古墳群
　　2　大屋敷遺跡出土土器(古墳時代後期)
口 絵　3　大屋敷遺跡出土石製模造品
　　4　大屋敷遺跡出土臼玉

PL. 1　赤城山と大屋敷遺跡、大屋敷遺跡全景
2　B区西側全景、C区全景
3　D区全景、住居址（H-35,36,38,39,43）
4　住居址（H-46,47,56,57,58,107,108,117）
5　住居址（H-59,63,73,79,103）
6　住居址（H-60,61,75,118）
7　住居址（H-82,91,105,111）
8　住居址（H-126他）、溝址、井戸址
9　石鏃・打製石斧、古墳～平安時代の遺物
10　古墳～平安時代の遺物
11　古墳～平安時代の遺物
12　古墳～平安時代の遺物
13　古墳～平安時代の遺物
14　古墳時代の遺物
15　古墳時代～中世の遺物、瓦
16　瓦、鉄器

挿　　図

頁

Fig. 1　大屋敷遺跡の位置 …… vi
2　位置図と周辺遺跡図 …… 2
3　周　辺　図 …… 4
4　グリッド設定図 …… 5
5　調査経過図 …… 6
6　標準土層図 …… 7
7　観音山古墳出土須恵器との比較 …… 29
8　古墳時代全体図（6世紀）…… 30
9　石製模造品の出土遺跡と石材産地 …… 32
10　遺跡・遺構全体図（A・B区）…… 43・44
11　遺跡・遺構全体図（C・D区）…… 45・46
12　H－28・29・91号住居址 …… 47
13　H－30・31・46・87・88号住居址 …… 48
14　H－32号住居址 …… 49
15　H－33～35号住居址 …… 50
16　H－36・37・42号住居址 …… 51
17　H－38～40号住居址 …… 52
18　H－41・45・85号住居址 …… 53
19　H－43・44・49・89・90号住居址 …… 54
20　H－47・48・51・120号住居址 …… 55
21　H－50・52号住居址 …… 56
22　H－53～55・98号住居址 …… 57
23　H－56・57・107・108・117号住居址 …… 58
24　H－56・107・117号住居址 …… 59
25　H－58・59・86号住居址 …… 60
26　H－60～62・118号住居址 …… 61
27　H－63号住居址 …… 62
28　H－65～67・123号住居址 …… 63
29　H－68・69・71・93号住居址 …… 64
30　H－70・72・75号住居址 …… 65
31　H－73・74・103・104号住居址 …… 66
32　H－78・79・82号住居址 …… 67
33　H－76・77・83・105・129号住居址 …… 68
34　H－80・81・122号住居址 …… 69
35　H－84・92・100～102号住居址 …… 70
36　H－94～97・99号住居址 …… 71
37　H－106・109・121号住居址 …… 72
38　H－110・113・116・119・124号住居址 … 73
39　H－111・112号住居址 …… 74
40　H－114・115号住居址 …… 75
41　H－125～128・130・131号住居址 …… 76
42　D－47・49・51・52号土坑 …… 77
43　W－4～8号溝址 …… 78
44　I－2～4号井戸址、O－2号落込み … 79

	観察表番号	頁
Fig. 45	古墳～平安時代の土器(1～15)	80
46	古墳～平安時代の土器(16～29)	81
47	古墳～平安時代の土器(30～41)	82
48	古墳～平安時代の土器(42～57)	83
49	古墳時代の土器(58～73)	84
50	古墳～平安時代の土器(74～88)	85
51	古墳～平安時代の土器(89～110)	86
52	古墳～平安時代の土器(111～120)	87
53	古墳～平安時代の土器(121～133)	88
54	古墳～平安時代の土器(134～150)	89
55	古墳～平安時代の土器(151～164)	90
56	古墳～平安時代の土器(165～179)	91
57	古墳～平安時代の土器(180～198)	92
58	古墳時代の土器(199～204)	93
59	古墳時代～中世の土器(205～217)	94
60	古墳～平安時代の土器(218～223)	95
61	臼　玉	96
62	石製模造品(1)	97
63	石製模造品(2)、鉄器	98
64	瓦(1)	99
65	瓦(2)	100
66	石器、石製品	101
67	縄文式土器	102

表

		頁
Tab. 1	包含層出土の縄文式土器一覧	24
2	大屋敷遺跡Ⅱ遺構一覧表	25
3	古墳時代～中世土器観察表	34
4	臼玉観察表	39
5	石製模造品観察表	40
6	鉄器観察表	40
7	瓦観察表	41
8	石器・石製品観察表	41
9	縄文式土器観察表	42

調査参加者　赤石忠彦　新井雄一郎　石原義夫　岩木賢一　岩木　操　大賀良助
大平大輔　小野里　学　小見　崇　狩野元宏　岸　フクエ　河野　誠
後藤　明　近藤俊男　桜井れい　下田裕司　須藤キク　須藤八江子
住谷文彦　関口哲聡　渡木秋子　富沢清八　中林美智子　堀込とよ江
牧　正五郎　松本　映　三浦雅明　湯浅たま江　湯浅道子　湯浅有紀
横山岩夫　吉田　誠　力石正子

調査協力　群馬県教育委員会文化財保護課　群馬県埋蔵文化財調査事業団
群馬県立歴史博物館　前橋市大屋敷地区土地区画整理組合
前橋市都市計画部都市計画課
飯島静男　井上　太　泉本知秀　梅澤重昭　犬塚康博　女屋和志雄
鬼形芳夫　加部二生　唐沢至朗　神戸聖語　木津博明　小森紀男
篠原裕一　島田孝雄　志村　哲　白石太一郎　杉山秀宏　須長泰一
関　晴彦　芹沢清八　外山和夫　野沢則幸　早川隆弘　樋口吉文
平野進一　古澤勝幸　松村和男　右島和夫　宮田　毅
井上測量株式会社　たつみ写真スタジオ　宮下工業株式会社　(有)青高館
(有)丹生サーヴェイ　(五十音順　敬称略)

大屋敷遺跡の位置（丸印）

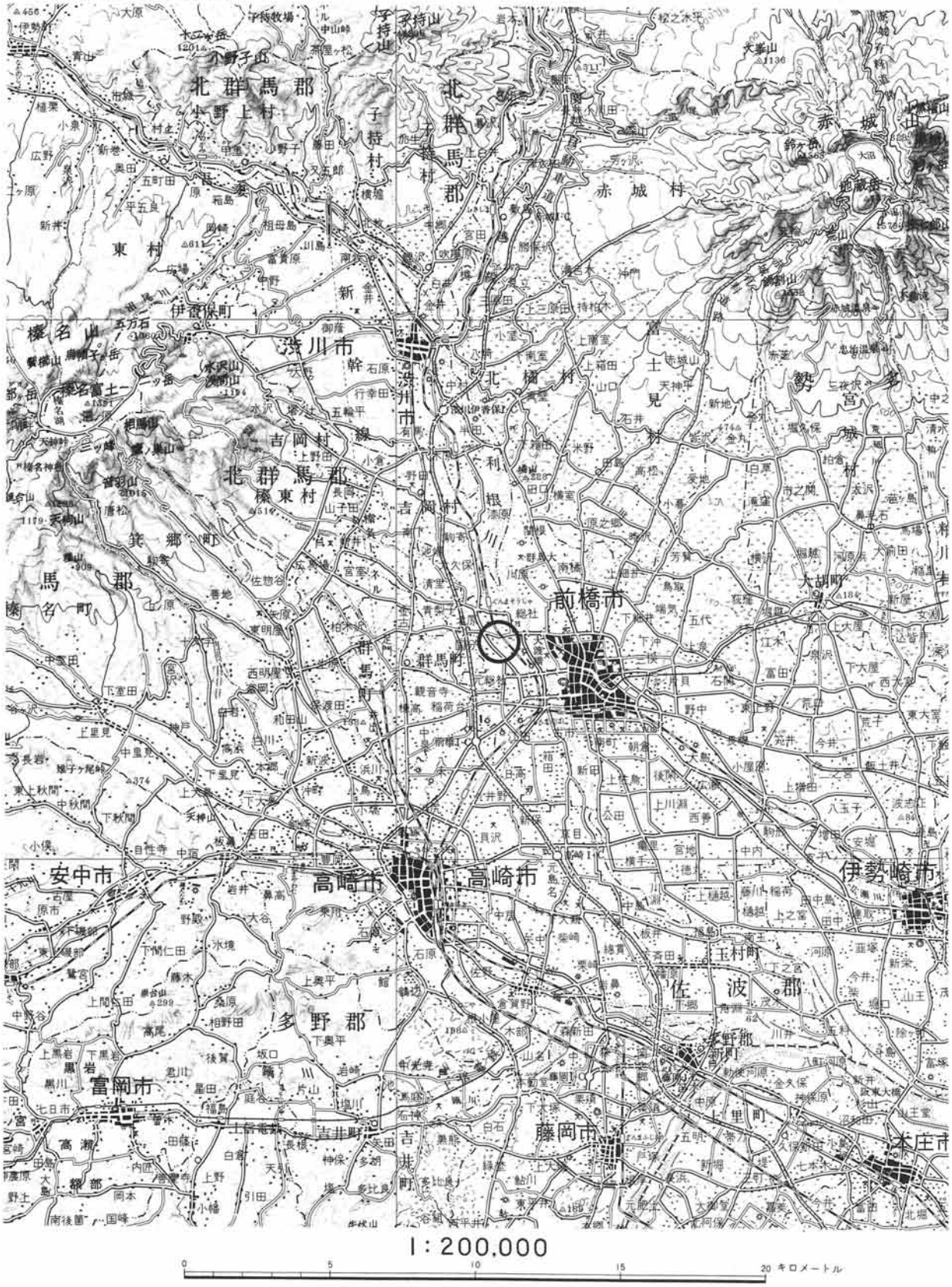


Fig. 1 大屋敷遺跡の位置

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市総社町大屋敷地区を対象とした土地区画整理事業実施に伴い、大屋敷地区の土地区画整理を目的とした前橋市大屋敷地区土地区画整理組合（代表者　大山栄一）と前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団との間で、平成４年７月27日に締結された、５年間にわたる発掘調査に関する覚書に基づいて実施されている。調査開始から２年目となる本年度は、４月20日に組合と調査団との間で発掘調査に関する委託契約が締結され、その３日後の23日より、現地での発掘調査を開始した。本年度の発掘調査面積は2,386㎡であり、昨年度の調査地域の南北に広がる部分の調査となった。遺跡名称は、昨年度からの名称を継承し「大屋敷遺跡Ⅱ」とし、略称は５Ａ60とした。

なお、初年度、覚書を締結し、発掘調査を実施するはこびとなった経緯については、「大屋敷遺跡Ⅰ」に詳しく述べられているので本書では省略する。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

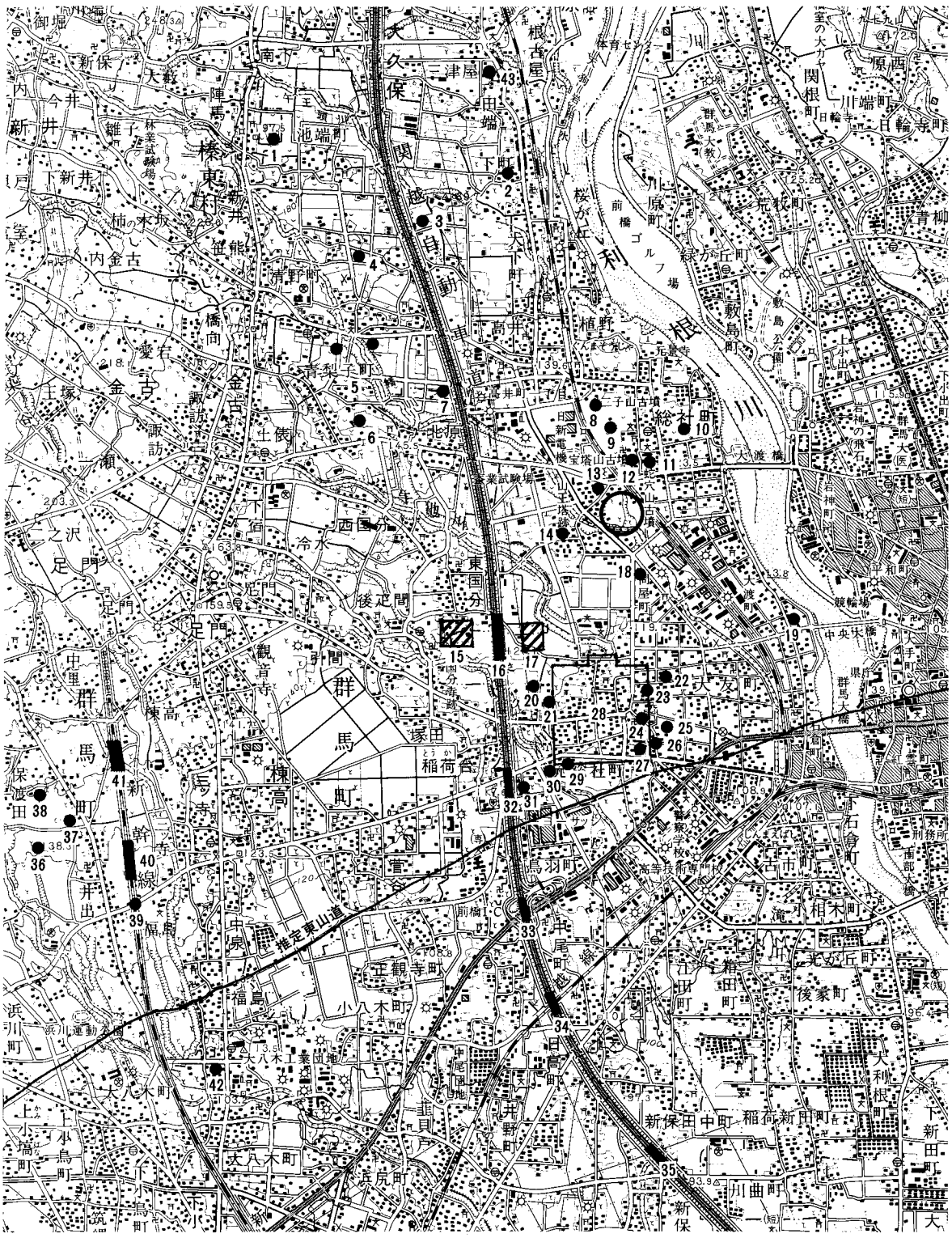
１　遺跡の立地

大屋敷遺跡は前橋市街地（県庁付近）から利根川を隔てて、北西約３㎞の地点に所在する。遺跡地の地番は前橋市総社町総社1937番地ほかである。遺跡地の周囲は主要幹線道が縦横に走っている。北側100ｍ付近には前橋・箕郷線が東西に走り、西側は市道大友西通線（通称、産業道路）が、また約300ｍ程東にはＪＲ上越線が南北に走っている。そして、これらの主要幹線に沿って市街化が進み、工場や住宅街が遺跡地を取り囲むように立ち並んでいる。遺跡地の立地は榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地の扇頂部より流下する河川群のひとつ、八幡川左岸域の標高約123ｍの微高地上にある。位置的にはほぼ、相馬ケ原扇状地面と前橋台地面の境界付近を占地する。

遺跡地の南側には榛東村に源を発する八幡川が南東方向に流れ、東側には江戸時代初期、総社藩主秋元長朝により開削された天狗岩用水がわずかな流量ながら南流し、両者は遺跡地の南東脇で合流し滝川と名前を変えた後、利根川と平行する形でさらに流下してゆく。遺跡地の両川と接する部分は比高５～６ｍほどの段丘崖を呈し、遺跡地を含む段丘上は高燥化した台地が広がり、主に畑作地として利用されている。

２　歴史的環境

今回の調査によって、検出された主な遺構は古墳時代から中世にかけての遺構であるが、調査区の出土遺物のなかには縄文時代中期、加曽利Ｅ式の土器片も若干検出されているので、ここでは本遺跡地周辺の歴史的環境を縄文時代から順に概観してみたい。



1．清里・陣場遺跡群　2．中島遺跡　3．長久保遺跡　4．清里・庚申塚遺跡　5．清里南部遺跡群　6．熊野谷遺跡　7．下東西遺跡　8．総社二子山古墳　9．愛宕山古墳　10．遠見山古墳　11．蛇穴山古墳　12．宝塔山古墳　13．村東遺跡　14．山王廃寺跡　15．上野国分僧寺跡　16．国分僧寺・尼寺中間地域遺跡　17．上野国分尼寺跡　18．産業道路西遺跡　19．王山古墳　20．小見遺跡　21．草作遺跡　22．閑泉樋遺跡　23．閑泉樋南遺跡　24．寺田遺跡　25．大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡　26．元総社明神遺跡Ⅴ　27．元総社小学校校庭遺跡　28．推定上野国府　29．天神遺跡　30．染谷川遺跡　31．弥勒山遺跡　32．鳥羽遺跡　33．中尾遺跡　34．日高遺跡　35．神保遺跡　36．二子山古墳　37．八幡塚古墳　38．薬師塚古墳　39．三ツ寺Ⅰ遺跡　40．三ツ寺Ⅱ遺跡　41．三ツ寺Ⅲ遺跡　42．雨壺遺跡　43．三津屋古墳

Fig. 2　位置図と周辺遺跡図

縄文時代の代表的な遺跡としては国分僧寺・尼寺中間地域遺跡（16）、産業道路西遺跡（18）があげられ、縄文中期・後期の遺構が集落的な規模で検出され、当該地域の縄文文化を考えるうえで重要な資料となった。また熊野谷遺跡（６）からは中期加曽利Ｅ式土器を伴う住居址群のほか、遺物では早期の押型文土器や沈線文土器が検出され、当地域における初源事例を更新した。そのほかの遺跡としては、下東西遺跡（７）、清里南部遺跡群（５）、清里・陣場遺跡群（１）、中島遺跡（２）、長久保遺跡（３）、雨壺遺跡（42）などがあげられ、時期的には前期から後期初頭といった範囲でおさえられる。

弥生時代の周辺遺跡は、集落・住居主体の遺跡と水田址関係の遺跡とに大別され、前者は八幡川、牛池川、染谷川流域などの高燥化した台地上に立地し、後者は、さらに下った平野部の後背湿地上に集中している。弥生時代中期後半の環濠集落である清里・庚申塚遺跡（４）、後期の住居が検出された国分僧寺・尼寺中間地域遺跡などは前者であり、日高遺跡（34）、新保遺跡（35）に代表されるAs－C軽石（浅間山起源：４世紀中頃）下の水田址などは後者である。

古墳時代を彩る一大モニュメントとしての古墳が本遺跡地周辺に姿を現すのは、５世紀末頃と推定される。まず、主軸70ｍを測る遠見山古墳（10）が築かれ、次いで６世紀前半代には、利根川右岸段丘上に、川原石を用いた積石塚である王山古墳（19）が造られる。その後、本遺跡の北約２㎞には、国指定史跡で前方部と後円部に石室を有する総社二子山古墳（８）、巨石使用の横穴式石室をもつ愛宕山古墳（９）、さらに県内最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた宝塔山古墳（12）と蛇穴山古墳（11）など、総社古墳群を構成する数々の古墳が連綿と築かれていく。宝塔山古墳の南西約500ｍに所在する山王廃寺跡（14）にみる石造物群は、宝塔山古墳石棺や蛇穴山古墳石室と同系統の石造技術を駆使して加工されたと考えられている。共通する技法から時代決定の根拠とされ、白鳳期の建立と考えられる山王廃寺を中心にして、総社・元総社周辺では、仏教文化が古墳文化と併存しながら花開いた様子が窺える。

奈良・平安時代になると、国府（28）、国分僧寺（15）、国分尼寺（17）等の建設とあいまって、当地域はいよいよ古代上野の政治的・文化的中心地としての様相を帯びてくる。国府周辺遺跡では、閑泉樋遺跡（22）、閑泉樋南遺跡（23）、小見遺跡（20）、草作遺跡（21）、大友屋敷遺跡（25）、寺田遺跡（24）、元総社小学校校庭遺跡（27）、天神遺跡（29）、染谷川遺跡（30）、弥勒山遺跡（31）等がある。また国分僧寺の発掘調査は昭和55年12月から始まり、それ以降毎年発掘調査が進められ、各種遺構の礎石、築地、堀などが確認されている。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が進められ、道筋にあたる中尾遺跡（33）、鳥羽遺跡（32）、国分僧寺・国分尼寺中間地域遺跡等が発見されている。これらの遺跡からは、奈良・平安時代の住居址が大量に検出されている。このことからも、奈良時代から平安時代にかけて、当地では爆発的に集落の拡大した様子が窺われる。その後、中世には長尾氏により国府の掘割を利用し蒼海城が築かれる。

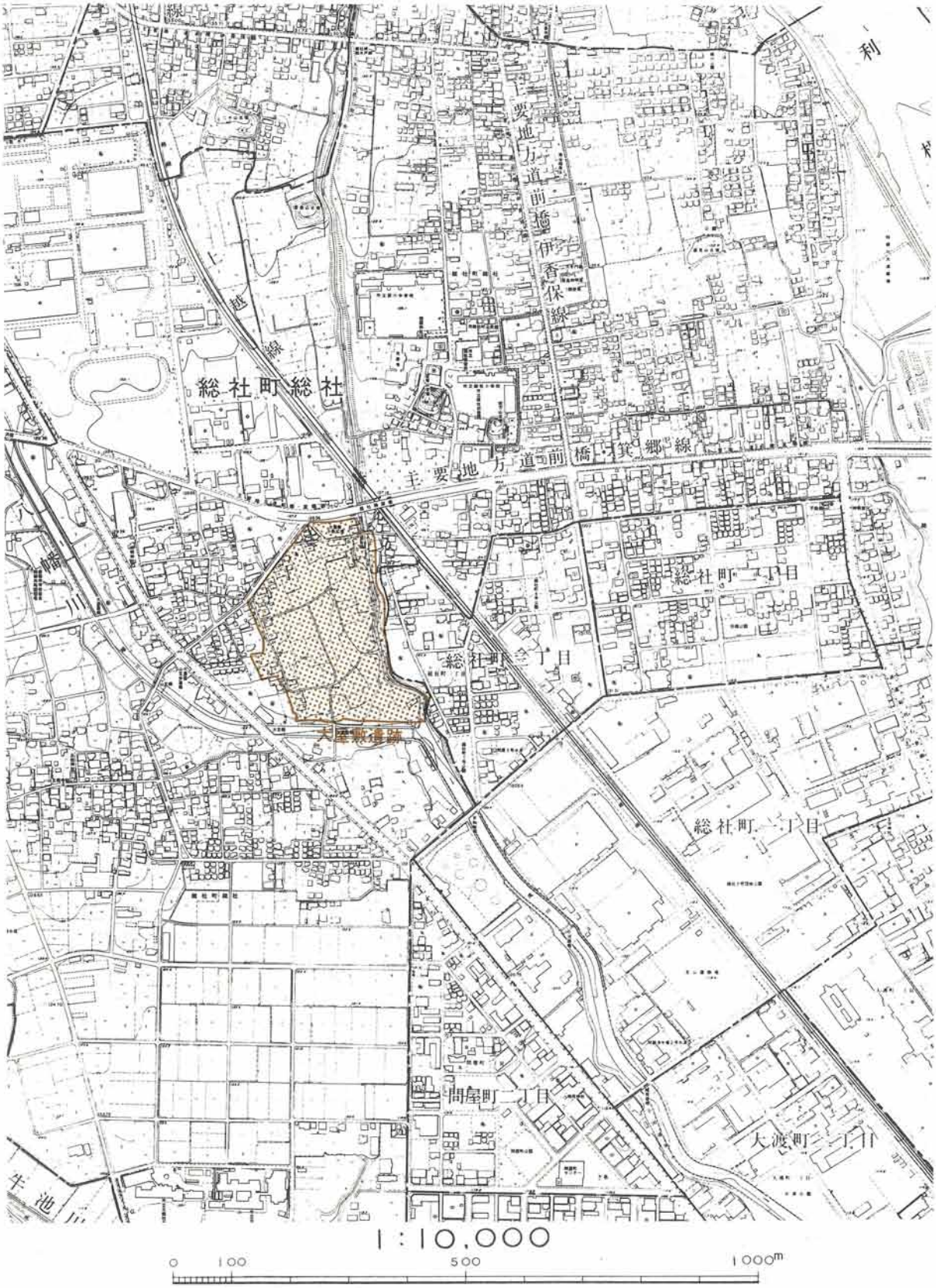


Fig. 3 大屋敷遺跡周辺図

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針

委託された調査箇所は幅６ｍの計画道路部分2,386㎡である。調査範囲の形状から全体をＡ区、Ｂ区、Ｃ区、Ｄ区の４調査区に区分した。調査実施に際しては、まず５年間の発掘調査範囲の全域をカバーする４ｍグリッドを設定し、このグリッドを最小単位とした。各グリッドの呼称方法は南北方向をＹ軸とし、北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３･･･、東西方向をＸ軸とし西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３･･･で表し、それぞれ北西の交点をグリッド名とした。その他、調査実施段階での方針は以下のとおりである。

１．土層観察は遺構中央部で交差するセクションンベルトを設けて行う。

２．10㎝四方以上の遺物は縮尺1/20にて図化し、それ以下についてはドット標記した平面図を作製し、取り上げに際しては遺物台帳に諸属性を記録する。

３．竈は原則として縮尺1/10で図化し、遺構平面図は原則として縮尺1/20にて実施する。

なお、測量の基準点はＸ50、Ｙ60グリッドで公共座標は第Ⅸ系（Ｘ＝＋44,700ｍ、Ｙ＝－71,160ｍ）である。

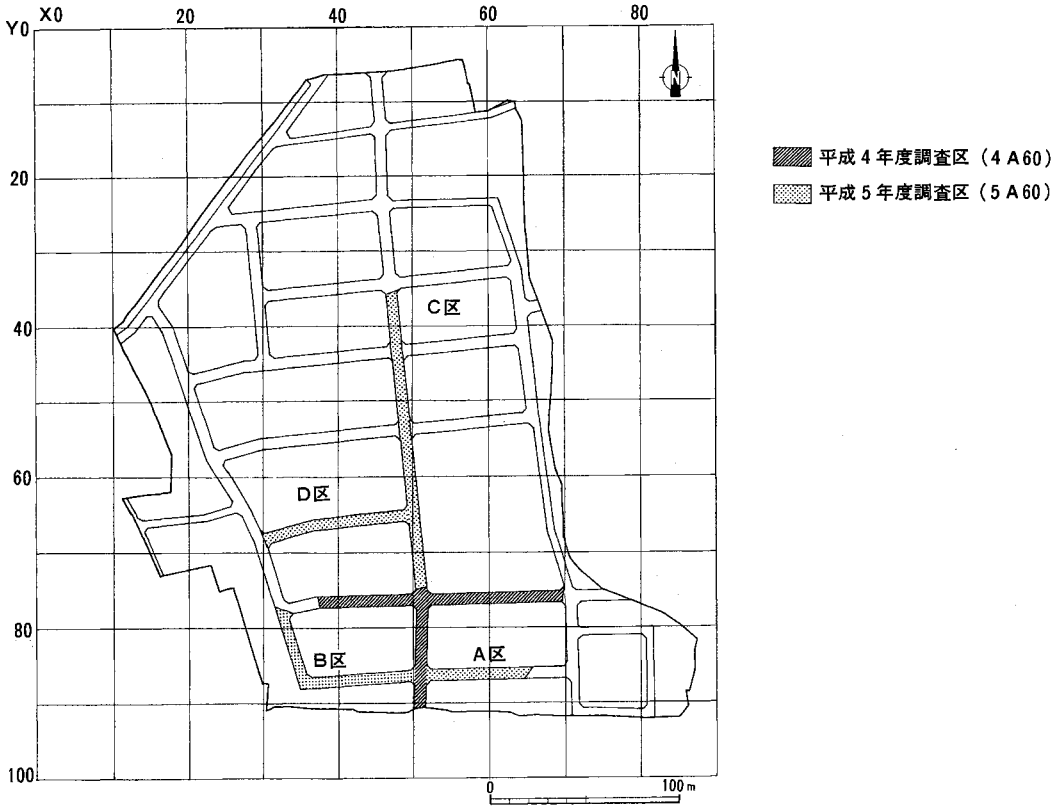


Fig. 4　グリッド設定図

2 調 査 経 過

本年度の現地発掘調査は、委託契約の締結直後の４月23日から始まった。まず、今年度の調査対象地区の南端にあたるＡ区とＢ区の一部より着手し、重機（バックフォー0.4㎥）による表土掘削、それに追従してのプラン確認に早速取り掛かった。当遺跡においては、他の遺跡に比べて、この段階が大きな山場となる。利根川の西部に位置する当地区ではローム層の堆積がほとんど認められず、粘性の強い黒褐色土層主体の地層構成である上に、昨年度の調査結果が示す通り、当遺跡においては、ほとんどの住居址が重複して検出されるのである。プラン確認は文字通り困難を極めたが、指先と腕の感覚が麻痺する程の鋤簾掛けの結果、ここでは、17軒の住居址が確認された。次いで、５月中旬に最も調査面積の広いＣ区の表土掘削を行った結果、なんと40軒の住居が検出された。しかも、Ａ区・Ｃ区にはその後の精査によっては、さらに大幅に住居址数の増える可能性のある複雑に絡み合った重複住居址群が数箇所存在した。４・５月はＡ区・Ｂ区の遺構掘り下げにフル稼働で当たった。６月に入り、ようやくＣ区の掘り下げに着手できたが、同月中旬より例年にない降雨にたたられ、これ以降、屋外での作業が滞る日々が続いた。粘性の強い土壌が災いし、特にＣ区などは、遺構のみならず、トレンチそのものが冠水しプールと化してしまうことも一度や二度ではなかった。排水ポンプを常時回転させ、まさに、水との格闘が続いた。８月に入ってすぐに、作業の遅れを取り戻すべく、作業員の増員に踏み切ったが、結局、最初から手掛けているＡ区の精査終了さえも、８月12日までずれ込んでしまった。この時点でＣ区の進捗状況は50％に満たない状態であった。早速、時を同じくしてＢ区の西端部分とＤ区の表土掘削、及びプラン確認を実施し、９月以降は、作業の能率をより高めるべく、やや人員に無理はあるが、Ｂ区西端・Ｃ区・Ｄ区の三箇所同時進行の体制を取ることにした。しかし、はやる気持ちをあざ笑うかのように、９月も無情の雨が降り続いた。作業が思うように進み出したのは、10月を目前にした時期であった。以後、毎日が時間との戦いの連続であったが、10月下旬には全ての遺構の精査を終え、晴れて遺跡全景の空撮を実施するところまで漕ぎ着けることができた。結局、最終的な遺構数は、住居址103軒、井戸址３基、溝址５条、土坑４基、落込み１基という、当初の予想をはるかに上回る数にのぼった。その後、調査区埋め戻し、現場事務所撤去作業等を滞りなく済ませ、11月１日現地発掘調査を終了した。なお、その後の整理作業は、11月２日から翌年３月25日まで文化財保護課整理棟において行い、全ての業務を終了した。

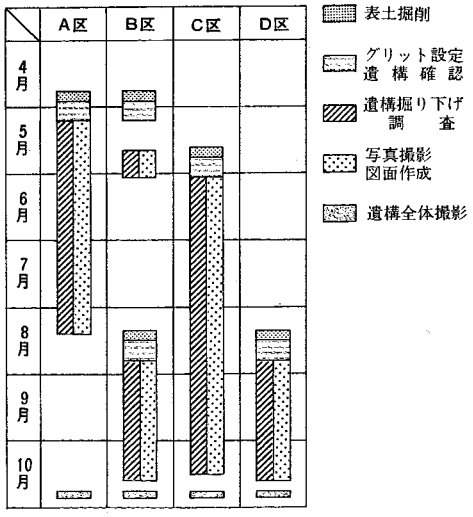


Fig. 5 調 査 経 過 図

Ⅳ　層　　序

本遺跡のほぼ中央に設定した深堀から観察される地層は基本的には、大きく２つに分類できる。上位の厚さ１ｍほどの黒褐色土層と下位に堆積するラミナ（縞目）状の硬くしまった砂とシルトの互層である。この灰褐色系統の砂層は総社、元総社付近を中心に利根川右岸一帯に広がっており、層厚は元総社市内の遺跡地（『元総社明神遺跡Ｘ』1991年）で約２～４ｍを測り、本遺跡のように５ｍを越える（天狗岩用水に接するの段丘崖）ところもある。本報告書はこの砂層を「総社砂層」と呼ぶことにする。この砂層はAs－Sj（浅間－総社軽石：約1.１万年前）を含む前橋泥炭層の上にあることからその堆積は約１万年前以降から始まったと推測されるが、正確な堆積年代は今のところ明らかにされていない。ただ昨年度の発掘調査（大屋敷遺跡Ｉ）で、縄文中期の加曽利Ｅ式土器が検出されたことや周辺遺跡の縄文土器出土状況（縄文中期に集中）から類推すれば、堆積期間は縄文時代前期（約6000年前）のころまでは続いていたと思われる。また総社砂層の上に乗る黒褐色土層は硬く、極めて粘性が強い。ただし本年度調査区の西部にあたるＢ区、Ｄ区の一部ではこの黒褐色土層は見られず、代わりに淡い黄褐色土層が総社砂層の上に広がっていた。

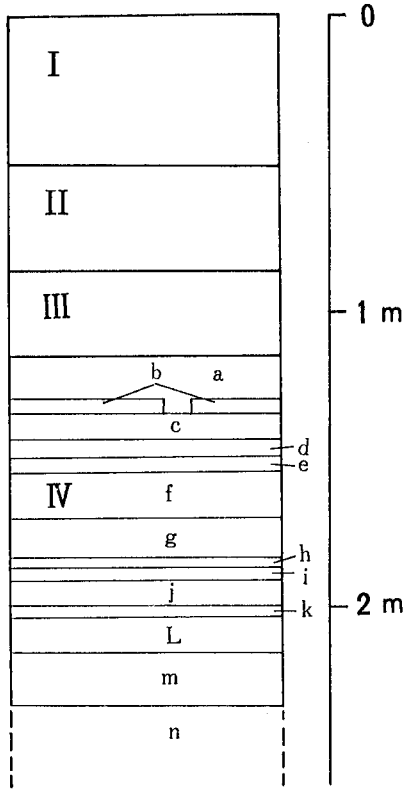


Fig.　6　大屋敷遺跡標準土層図

Ⅰ　層：暗褐色粗砂層　耕作土。As－B（浅間Ｂテフラ；1108年）を若干含む。

Ⅱ　層：極暗褐色粗砂層　二時堆積のAs－C（浅間Ｃテフラ；４世紀中頃）10％、およびHr－S（榛名－渋川テフラ；６世紀初頭）を若干含む。

Ⅲ　層：黒褐色細砂層　二時堆積のAs－C（浅間Ｃテフラ；４世紀中頃）20％、およびHr－S（榛名－渋川テフラ；６世紀初頭）を10％若干含む。

Ⅳ　層：総社砂層　砂、シルトの互層。

ａ…黄褐色シルト層　ｂ…褐色シルト層
ｃ…浅黄色シルト層　ｄ…にぶい黄褐色微砂層
ｅ…にぶい黄橙色シルト層　ｆ…褐色細砂層
ｇ…灰黄褐色粗砂層　ｈ…にぶい黄色シルト層
ｉ…にぶい黄褐色微砂層　ｊ…灰黄褐色粗砂層
ｋ…にぶい黄褐色微砂　ｌ…灰黄褐色細砂層
ｍ…にぶい黄褐色細砂層　ｎ…灰黄褐色粗砂層

V　遺構と遺物

本年度の調査区から検出された遺構は、竪穴住居址103軒、溝址5条、井戸址3基、落込み1基、土坑4基である。古墳時代後半の竪穴住居址から中世の溝址までと昨年同様に幅広い範囲におよんでいる。そのほとんどが粘性の強い黒褐色土を掘り込む形で構築されているうえに、幅6mのトレンチの中に複雑に重複しながら検出されたため、苦労しながらの調査となった。特に住居が多く検出されたのは、A区、B区西側、C区南側からD区東側にかけておよびC区北側である。また、遺構は確認されないが、601点の縄文時代中期の土器片が古墳時代後半以降の住居址中や遺物包含層から出土している。

遺構数が多いことから、すべての遺構を図示するとともに一覧表（Tab. 2）にまとめた。なお、遺構番号は昨年度の続き番号を使用している。（H－28、W－4、I－2、D－47、O－2からである。）

1　住　居　址

H－28号住居址（A区、Fig. 10・12・45・63、PL. 16）

（形状）方形。（床面）住居址の北側と南東部分に攪乱がみられたが、全体に平坦である。（竈）東壁に位置し、全長22cm、焚口部幅53cmを測る。（遺物）総数1,028点。うち土器1点、鉄器1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀後半と思われる。

H－29号住居址（A区、Fig. 10・12・45）

（形状）H－91との重複により竈付近のみの検出。東壁に位置し、全長123cm、焚口部幅37cmを測る。（重複）H－91・101と重複する。H－101→本遺構→H－91の構築順である。（遺物）総数166点。うち土器1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀と思われる。

H－30号住居址（A区、Fig. 10・13）

（形状）H－87との重複により竈付近のみの検出。東壁に設置され、全長92cm、焚口部幅58cmを測る。燃焼部本体を壁の外側に有する。（重複）H－87と重複。本遺構が先行する。（遺物）総数119点。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀と思われる。

H－31号住居址（A区、Fig. 10・13）

（形状）方形。（床面）他の遺構と重複していない床面は堅緻。（竈）東壁のほぼ中央に位置し、全長94cm、焚口部幅47cmを測る。（重複）H－32・46・87・88と重複。構築順序は、H－32→H－87→H－88→本遺構→H－46である。（遺物）総数403点。（備考）重複関係・出土遺物から本住居址は10～11世紀と思われる。

H－32号住居址（A区、Fig. 10・14・45・61・63、PL. 9・16）

（形状）方形。他の遺構との重複により東壁の大部分を削られる。（床面）全面に平坦で極めて堅緻な面が確認された。（竈）ほとんどの部分を重複により削平されているが、東壁の中央に位

置し、全長82㎝、焚口部幅27㎝を測る。（柱穴）調査範囲内で3個の柱穴を検出。規模は、P_1（47×45×56㎝）、P_2（57×45×60㎝）、P_3（68×47×52㎝）である。P2からは、土師器小甕が出土した。（重複）H－31・46・87・88と重複。構築順は、本遺構→H－87→H－88→H－31→H－46である。（遺物）総数3,561点。このうち図示したものは、土器5点、鉄器1点、臼玉1点である。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀前半と思われる。

H－33号住居址（A区、Fig. 10・15）

（形状）住居址の南西隅のみの検出。方形。（床面）ほぼ平坦。（備考）出土遺物がないため本住居址の時期は不明。

H－34号住居址（A区、Fig. 10・15）

（形状）正方形。（床面）ほぼ平坦。（竈）東壁中央に設置され、全長90㎝、焚口部幅24㎝を測る。（重複）H－35と重複し、本遺構が先行する。（遺物）総数325点。（備考）重複関係・出土遺物から本住居址は7世紀と思われる。

H－35号住居址（A区、Fig. 10・15・45、PL. 3・9）

（形状）正方形。（床面）平坦で竈付近を中心に堅緻面が広がっていた。（竈）東壁のほぼ中央部に設置され、全長81㎝、焚口部幅45㎝を測る。（重複）H－34•36と重複し、H－36→本遺構→H－34の構築順である。（遺物）総数752点。竈付近を中心に須恵器坏・高台椀等の遺物が出土した。うち図示したものは土器7点。須恵器大型器台は流れ込み。（備考）出土遺物から本住居址は9世紀後半～10世紀前半と思われる。

H－36号住居址（A区、Fig. 10・16、PL. 3）

（形状）正方形。H－35との重複により東側が切られる。（床面）極めて堅緻な面が見られた。中央から西側にかけて、床下土坑が検出された。（竈）H－35により壊されており、燃焼部下部のみを東側に残していた。（重複）H－35・37・38と重複している。H－35より古く、H－37・38より新しい。（遺物）総数274点。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀と思われる。

H－37号住居址（A区、Fig. 10・16）

（形状）H－36との重複により北東隅のみを検出。（床面）堅緻な床面。（重複）H－36より本遺構が先行。（遺物）総数44点。（備考）遺物・重複関係から本住居址は7世紀と思われる。

H－38号住居址（A区、Fig. 10・17・45・46・61、PL. 3・9）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻面が検出された。（竈）東壁のやや南側に位置し、全長132㎝、焚口部幅27㎝を測る。（重複）H－36・39と重複しており、H－39→本遺構→H－36の順である。（遺物）総数486点。図示した土器は3点だが、流れ込みと考えられる。遺物の多くに鬼高I期の坏や甕の破片がみられる。他に臼玉1点、土玉1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀前半と思われる。

H－39号住居址（A区、Fig. 10・17、PL. 3）

（形状）H－38との重複により南西隅のみの検出。（床面）平坦な床面。（重複）H－38より本

遺構が先行。（遺物）総数２点。（備考）遺物・重複関係から本住居址は６世紀と思われる。

Ｈ－40号住居址（Ａ区、Fig. 10・17）

（形状）調査区内では住居址の南西隅のみの検出。方形。（床面）平坦で堅緻面が検出された。（遺物）総数30点。（備考）出土遺物から本住居址は７世紀と思われる。

Ｈ－41号住居址（Ａ区、Fig. 10・18・45）

（形状）方形。（床面）極めて堅緻な床面が広がる。床下土坑を検出。（竈）東壁のほぼ中央部に設置され、全長75cm、焚口部幅40cmを測る。（柱穴）調査範囲内で３個の柱穴を検出。規模は、P_1（38×33×54cm）、P_2（41×35×54cm）、P_3（35×30×54cm）である。P_2からは、土師器甕（18）が出土した。（重複）Ｈ－45・85と重複。本遺構が先行する。（遺物）総数１３１点。うち土器１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀中葉と思われる。

Ｈ－42号住居址（Ｂ区、Fig. 10・16・46・64、ＰＬ. ９・16）

（形状）正方形。（床面）川砂利を含む覆土の下に平坦で堅緻な床面が検出された。（遺物）総数２５１点。うち土器２点、瓦１点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は７世紀と思われる。

Ｈ－43号住居址（Ｂ区、Fig. 10・19・46、ＰＬ. ３・９）

（形状）方形。（床面）川砂利を含む覆土の下に平坦で堅緻な床面が検出された。南東隅に長胴甕を埋め込んだP_1（径25cm、深さ40cm）を検出。（遺物）総数１９５点。うち土器３点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は７世紀中葉と思われる。

Ｈ－44号住居址（Ｂ区、Fig. 10・19）

（形状）長方形。（床面）堅緻な床面を検出。（竈）東壁の南寄りに位置し、全長１０４cm、焚口部幅50cmを測る。（遺物）総数24点。（備考）出土遺物から本住居址は８世紀と思われる。

Ｈ－45号住居址（Ａ区、Fig. 10・18）

（形状）遺構上部は耕作による削平を受けるとともに他の遺構との重複により一部のみの検出である。（床面）確認できた範囲では堅緻面がみられた。（竈）重複で壊されており、燃焼部下部のみを検出。（重複）Ｈ－41・85と重複し、Ｈ－41→本遺構→Ｈ－85の順である。（遺物）総数45点。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀と思われる。

Ｈ－46号住居址（Ａ区、Fig. 10・13・46・64、ＰＬ. ４・10・16）

（形状）当初Ｈ－32の竈と考えられたため、竈付近のみの検出となった。東壁に位置し、全長97cm、焚口部幅50cmを測る。（重複）Ｈ－31・32・87・88と重複。構築順は、本遺構が最も新しい。（遺物）総数３１８点。うち図示したものは土器４点、瓦４点である。（備考）出土遺物から本住居址は10世紀後半～11世紀と思われる。

Ｈ－47号住居址（Ｃ区、Fig. 11・20・46・47、ＰＬ. ４・10）

（形状）方形。北側一部をＨ－48と重複し、西側一部が調査区外となっている。（床面）ほぼ全面にわたって平坦で堅緻面が検出された。（竈）東壁のほぼ中央部に位置し、全長55cm、焚口部幅52cmを測る。（重複）Ｈ－48・89と重複し、本遺構が先行する。（遺物）総数79点。うち土器

4点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は5世紀末～6世紀初頭と思われる。

H－48号住居址（C区、Fig. 11・20・47・63、PL. 10・16）

（形状）西側一部が調査区外となっている。方形。（床面）重複のない所では堅緻面が検出された。（竈）支柱が残る燃焼部本体を東壁外側に有し、全長97㎝、焚口部幅47㎝を測る。（重複）H－47・50・120と重複し、本遺構が最も新しい。（遺物）総数222点。うち土器8点、鉄器1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は10世紀と思われる。

H－49号住居址（C区、Fig. 11・19）

（形状）東側は調査区外。方形。（床面）重複のない所では堅緻面が検出された。（重複）H－50・90と重複し、本遺構が最も新しい。（遺物）遺物なし。（備考）時期は不明。

H－50号住居址（C区、Fig. 11・21・47、PL. 10）

（形状）北西隅は調査区外。正方形。（床面）竈付近を中心に堅緻面が検出された。（竈）東壁の南側に位置している。竈上部をわずかにH－49に削平されているが、良好な形で検出された。全長100㎝、焚口部幅42㎝を測る。（重複）H－48・49・120と重複している。構築順は本遺構が最も古い。（遺物）総数182点。うち土器2点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀前半と思われる。

H－51号住居址（C区、Fig. 11・20）

（形状）東側が調査区外に伸びるため、西側のみを検出。方形。（床面）平坦な床面が検出された。（遺物）総数33点。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀と思われる。

H－52号住居址（C区、Fig. 11・21）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な面が確認された。（竈）全長80㎝、焚口部幅66㎝を測る。（遺物）総数86点。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀後半と思われる。

H－53号住居址（C区、Fig. 10・21・47・63、PL. 10・16）

（形状）H－54と重複し西側が調査区外に伸びるため、竈付近の検出にとどまった。（床面）極めて堅緻な面が検出された。（竈）重複により北側を壊されているが、焼土・灰も多く検出された。（重複）H－54より本遺構が先行する。（遺物）総数428点。うち土器1点、瓦1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は9世紀と思われる。

H－54号住居址（C区、Fig. 11・22・48・61・62）

（形状）西側が調査区外。方形と思われる。（床面）平坦で極めて堅緻な床面。（竈）東壁の南側に位置し、良好な形で検出された。全長110㎝、焚口部幅64㎝。（重複）H－53・56・97より本遺構が最も新しい。（遺物）総数953点。うち土器1点、H－97よりの流れ込みと考えられる石製模造品4点、臼玉2点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は9世紀と思われる。

H－55号住居址（C区、Fig. 11・22・48・61・62、PL. 10）

（形状）東側半分が調査区外に伸びる。方形。（床面）平坦で極めて堅緻な面が検出され、中央付近に少量の焼土がみられた。幅20㎝、深さ10㎝の周溝を検出。（柱穴）調査範囲内でP_1（49×

40×64cm)、P_2(50×40×60cm)の2個の柱穴を検出する。(重複)H－98と重複し、本遺構が先行する。(遺物)総数1,326点。うち土器2点、石製模造品4点、臼玉11点を図示。図示したものを含めて、須恵器大型器台の口縁部が7点出土した。図示できなかったが、鬼高I期の坏や甕等の破片が多く出土。(備考)出土遺物から本住居址は6世紀前半と思われる。

H－56号住居址(C・D区、Fig. 11・23・24・48・57・62、PL. 4・10)

(形状)H－117との重複と調査区外のため西側は検出できず。方形。(床面)平坦で堅緻な床面を検出。(竈)東壁のやや南側に位置し、全長103cm、焚口部幅36cmを測る。(重複)H－57・97・117と重複している。H－117より古く、H－57・97より新しい。(遺物)総数665点。うち土器9点、H－97よりの流れ込みと考えられる石製模造品5点、臼玉13点を図示した。(備考)出土遺物から本住居址は6世紀中～後半と思われる。

H－57号住居址(C・D区、Fig. 11・23・48・62、PL. 4・10)

(形状)重複により北西部から南側を切られる。方形。(床面)平坦で堅緻な床面を検出。(重複)H－56・117と重複し、本遺構が先行する。(遺物)総数364。うち土器3点、石製模造品5点を図示した。図示した以外に器台口縁部が1点出土している。出土遺物には鬼高I期の坏や甕等の破片が多くみられた。(備考)出土遺物から本住居址は6世紀前半と思われる。

H－58号住居址(C区、Fig. 11・25・48・49、PL. 4・10)

(形状)正方形。本遺構内にH－86の竈付近が検出された。(床面)全面にわたり平坦で、竈前を中心に堅緻面を検出。(竈)東壁中央部に竈が設置され、全長100cm、焚口部幅26cmを測る。(重複)H－86より本遺構が先行する。(遺物)総数365点。うち土器4点を図示した。本住居址の南東隅より須恵器台付長頸壺(59)がほぼ2つに割れた状態で出土した。(備考)出土遺物から本住居址は6世紀中～後半と思われる。

H－59号住居址(C区、Fig. 11・25・49、PL. 5・11)

(形状)正方形。(床面)全面にわたり平坦で堅緻な床面。竈北側より長さ約20cm、幅約10cmの河原石が10個程並んで出土した。また、住居址南東隅には長軸120cm、短軸48cm、深さ10cmの一段下がった所がみられ、甕・高坏・坏が重なるように出土した。(竈)東壁中央部に支柱を有する竈が設置されており、全長106cm、焚口部幅39cmを測る。燃焼部内から遺物も多く出土した。(遺物)総数666点。うち土器10点を図示した。(備考)出土遺物から本住居址は6世紀前半と思われる。

H－60号住居址(C区、Fig. 11・26・49、PL. 6・11)

(形状)H－61・118と重複し東側は調査区外である。正方形。(床面)床面および北西から南東にかけての壁の下部には川砂利がみられ、本遺構が築かれる以前に河川が流れていたことを示している。全体にほぼ平坦で堅く締まっている。(重複)H－61・118と重複しており、構築順はH－118→本遺構→H－61となっている。(遺物)総数346点。うち2点(土師器坏、須恵器蓋)を図示した。(備考)出土遺物から本住居址は6世紀と思われる。

Ｈ－61号住居址（Ｃ区、Fig. 11・26・49・50・64、ＰＬ. 6・11・16）

（形状）長方形。（床面）他の遺構と重複のない所では、堅緻面が検出された。Ｈ－60と同様に北西から南東にかけては川砂利がみられ、本遺構が築かれる以前に河川が流れていたことが窺える。（重複）Ｈ－60・118と重複。構築順を遺構の切り合いからみるとＨ－118→Ｈ－60→本遺構となる。（遺物）総数1,337点。うち土器５点、瓦１点を図示。プランでは１軒の住居だが、遺物では６世紀と７世紀後半～８世紀初頭の２つに分けられるため、古い時期のものをＨ－61Ａ、新しい時期のものをＨ－61Ｂとする。Ｈ－61Ａの遺物は、土師器坏（72）須恵器椀（73）、Ｈ－61Ｂの遺物は、須恵器高台椀（74）土師器甕（75）須恵器台付長頸壺（76）である。（備考）出土遺物からＨ－61Ａは６世紀、Ｈ－61Ｂは７世紀後半～８世紀初頭と位置づけられよう。

Ｈ－62号住居址（Ｃ区、Fig. 11・26・50・61、ＰＬ. 11）

（形状）北側を攪乱により壊されていた。方形。（床面）全体に平坦で、竈付近に堅緻面が検出された。（竈）南壁の東隅に竈が設置され、全長97㎝、焚口部幅47㎝を測る。（遺物）総数３０５点。うち土器１点、臼玉１点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀と思われる。

Ｈ－63号住居址（Ｃ区、Fig. 11・27・50・61・64、ＰＬ. 5・16）

（形状）西側は調査区外に伸びる。方形。（床面）竈前から住居址南東隅に多量の灰が検出され、１段低くなっている。他の床面は極めて堅緻であった。（竈）東壁のやや南側に形状の似た２つの竈を有する。北側は全長87㎝、焚口部幅57㎝、南側は全長98㎝、焚口部幅60㎝を測る。精査の結果、北側の竈を当初築き使用した後に南側に竈を構築している。甕等の破片が両竈内および竈前から出土し接合したことから、同時に使用したと考えられる。（遺物）総数4,062点。うち土器４点、瓦３点、臼玉２点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は９世紀と思われる。

Ｈ－64号住居址

プラン確認時にＨ－63の北側の竈を持つ住居址をＨ－64としたが、精査の結果、１軒の住居址であることが判明したため、欠番扱いとなる。

Ｈ－65号住居址（Ｃ区、Fig. 11・28・50）

（形状）西側は調査区外である。方形。（床面）全体に平坦で堅緻な面が検出された。（竈）東壁南寄りに位置し、良好な形で検出された。焼土・灰を多量に含んでいる。全長83㎝、焚口部幅43㎝を測る。（貯蔵穴）住居址の南東隅にあり、長径85㎝、短径60㎝、深さ21㎝を測る。（重複）Ｈ－67と重複。本遺構が新しい。（遺物）総数808点。うち土器２点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は10世紀と思われる。

Ｈ－66号住居址（Ｃ区、Fig. 11・28・50・61）

（形状）東側が調査区外となる。（床面）平坦で堅緻な床面を検出。（重複）Ｈ－67・１２３と重複しているが、本遺構が最も新しい。（遺物）総数816点。うち土器３点、臼玉１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は９世紀後半と思われる。

Ｈ－67号住居址（Ｃ区、Fig. 11・28・50・63・64、ＰＬ. 16）

（形状）正方形。（床面）堅く締まった面が検出された。（竈）東壁南寄りに設置。H－66との重複により壊されていたが、両袖石と支柱を検出。（貯蔵穴）住居址の南東隅で、長径94cm、短径55cm、深さ15cmを測る。（重複）H－65・66と重複しており、本遺構がもっとも古い。（遺物）総数1,889点。うち土器1点、瓦1点、鉄器1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は8世紀後半と思われる。

H－68号住居址（C区、Fig. 11・29）

（形状）西側の多くの部分が調査区外のため東側部分のみの調査。（床面）竈左側に袖の高まりがみられる。他は平坦である。（竈）東壁南隅に設置され、全長86cm、焚口部幅58cmを測る。（遺物）総数35点。（備考）出土遺物から本住居址は8世紀と思われる。

H－69号住居址（C区、Fig. 10・28・49・62、PL. 11・16）

（形状）東側が調査区外とH－93に切られる。方形。（床面）平坦で極めて堅緻な面を検出。（柱穴）北西にP_1（35×27×20cm）、南西にP_2（37×34×18cm）が検出された。P_2からは土師器甕が出土している。（重複）H－93と重複しており、本遺構が古い。（遺物）総数487点。うち土器1点、鉄器1点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は5世紀後半と思われる。

H－70号住居址（C区、Fig. 11・30・51）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な面が検出された。（重複）O－2と重複しており、本遺構が先行する。（遺物）総数372点。うち1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は9世紀と思われる。

H－71号住居址（C区、Fig. 11・29・51）

（形状）耕作で削平されているため竈のみの検出となった。東壁に設置され、全長47cm、焚口部幅21cmを測る。（重複）W－4と重複している。本遺構が新しい。（遺物）総数80点。うち土器1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は9世紀と思われる。

H－72号住居址（C区、Fig. 11・30・51）

（形状）住居址の南西隅のみの検出。方形。（床面）平坦な床が検出された。（遺物）総数91点。うち2点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀と思われる。

H－73号住居址（C区、Fig. 11・31・51、PL. 5・11）

（形状）西側が調査区外に伸び、北側がH－103で切られる。方形。（床面）平坦な堅緻面が検出された。（竈）東壁に設置され、全長63cm、焚口部幅28cmを測る。（重複）H－103と重複し、構築順は、本遺構が先行する。（遺物）総数318点。うち土器2点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は10世紀と思われる。

H－74号住居址（C区、Fig. 11・31・51・64、PL. 11・16）

（形状）西側が調査区外に伸びる。方形。南東の壁際に一段高い部分が検出された。（床面）極めて堅緻な床だが、やや凹凸がみられ、竈前には一段低い部分も検出された。（竈）重複により上部が削平されていた。南壁の東寄りに設置され、全長60cm、焚口部幅29cmを測る。袖石に使用

されたと考えられる切石が竈手前より検出された。（重複）H－103・104と重複し、構築は本遺構が最も古い。（遺物）総数775点。うち土器5点、瓦2点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀後半～8世紀前半と思われる。

H－75号住居址（C区、Fig. 11・30・51・64、PL. 6・11・16）

（形状）東側が調査区外に伸びる。方形。幅約12cm、深さ約10cmの周溝を持つ。（床面）極めて堅緻な床面が検出された。（竈）調査区外であるが、南北セクションの南端に焼土を含む層が検出されたため、南壁に設置されているものと考えられる。（柱穴）北西にP_1（54×44×42cm）、南西にP_2（45×32×53cm）が検出された。（重複）H－103竈端と接している。本遺構が先行する。（遺物）総数550点。うち土器2点、瓦1点を図示した。須恵器坏（101）は流れ込みと思われる。（備考）出土遺物から本住居址は8世紀と思われる。

H－76号住居址（C区、Fig. 11・33・51、PL. 12）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な面が検出された。（竈）東壁の南寄りに設置され、全長76cm、焚口部幅31cmを測る。焼土・灰が多く、両袖石・支柱も検出された。（重複）H－83・105と重複し、構築順はH－83→本遺構→H－105となる。（遺物）総数498点。うち土器3点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀後半～8世紀前半と思われる。

H－77号住居址（C区、Fig. 11・33・51・64、PL. 12・16）

（形状）複雑に重複した中で検出されたため、南壁の一部と竈の位置以外は推定ラインとなる。方形と思われる。（床面）住居址の南西部分で堅緻な床が検出された。（竈）東竈と考えられる。右袖石の北側に焼土が多量に検出された。（重複）H－78・83・105・106と重複する。H－83→H－105→本遺構→H－78・106の構築順である。（遺物）総数1,019点。うち土器5点、瓦2点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀後半～8世紀前半と思われる。

H－78号住居址（C区、Fig. 11・32・51）

（形状）住居址の東側のみ調査。（床面）平坦で堅緻な床面。（竈）東壁の南寄りに設置され、全長67cm、焚口部幅38cmを測る。（重複）H－77・79・105と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数433点。うち土器1点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は8世紀と思われる。

H－79号住居址（C区、Fig. 11・32・52、PL. 5・12）

（形状）東側の一部のみの調査。方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（竈）東壁の北寄りに設置され、全長54cm、焚口部幅22cmを測る。（重複）H－78と重複。本遺構が先行する。（遺物）総数38点。うち3点を土器図示した。（備考）出土遺物から本住居址は5世紀後半と思われる。

H－80号住居址（C区、Fig. 11・34）

（形状）東側は調査区外。方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（重複）H－81・122と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数52点。（備考）出土遺物から本住居址は9世紀と思われる。

H－81号住居址（C区、Fig. 11・34・52・61、PL. 12）

（形状）正方形。（床面）ほぼ平坦で堅緻な床面が検出された。（竈）東壁のやや南寄りに設置

され、全長58㎝、焚口部幅11㎝を測る。竈先端部が重複で切られる。（重複）H－80・122と重複。H－122→本遺構→H－80の構築順である。（遺物）総数316点。うち土器3点、臼玉1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は8世紀と思われる。

H－82号住居址（C区、Fig. 11・32・52、PL. 7・12）

（形状）正方形。住居址の北西隅は調査区外。（床面）ほぼ平坦で堅緻な面が広がる。（竈）東壁の南寄りに設置され、全長116㎝、焚口部幅62㎝を測る。（貯蔵穴）住居址の南東隅。径約70㎝、深さ23㎝を測る。土師器甕内に土師器坏2個体が重なって出土した。（遺物）総数167点。うち土器4点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀中葉と思われる。

H－83号住居址（C区、Fig. 11・33・53・62、PL. 12）

（形状）重複で切られる箇所が多く全容はつかめないが、方形を呈す。（床面）極めて堅緻な床面。（竈）H－105により壊され、右袖部分を残すのみである。（重複）H－76・77・104・105・129と重複。本遺構が最も古い。（遺物）総数256点。うち土器3点、石製模造品1点を図示した。（備考）出土遺物・重複関係から本住居址は5世紀末～6世紀前半と思われる。

H－84号住居址（C区、Fig. 11・35）

（形状）正方形。（床面）ほぼ平坦で堅緻な床面。（竈）東壁の南寄りに設置され、全長58㎝、焚口部幅46㎝を測る。耕作で削られているが、両袖石が検出された。（遺物）総数199点。（備考）出土遺物から本住居址は8世紀と思われる。

H－85号住居址（A区、Fig. 10・18）

（形状）長方形。（床面）堅緻な床面。（竈）耕作でほとんど削られており、竈の痕跡を残すだけである。北壁の東寄りに設置。（重複）H－41・45と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数35点。（備考）出土遺物が少なく、本遺構の時期については不明である。

H－86号住居址（C区、Fig. 11・25）

（形状）H－58内に竈のみを検出。東竈で両袖石を有するが、西側はH－58の壁となるため、不明な部分が多い。全長136㎝、焚口部幅42㎝を測る。（重複）重複しているH－58より新しい。（遺物）総数78点。H－58と接合する遺物も出土。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀後半～7世紀前半と思われる。

H－87号住居址（A区、Fig. 10・13・53）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（竈）東壁の南寄りに設置され、全長67㎝、焚口部幅45㎝を測る。（重複）H－30・31・32・46・88と重複。構築順は、H－32→H－30→本遺構→H－88→H－31→H－46である。（遺物）総数269点。うち土器1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀と思われる。

H－88号住居址（A区、Fig. 10・13・53・61、PL. 12）

（形状）方形。（床面）凹凸もあるが、堅緻面が広がる。竈前に床下土坑がある。（竈）東壁中央に設置され、全長109㎝、焚口部幅37㎝を測る。両袖石を有す。（重複）H－31・32・46・87

と重複。構築順はH－32→H－87→本遺構→H－31→H－46である。（遺物）総数644点。うち土器4点、臼玉1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は10～11世紀と思われる。

H－89号住居址（C区、Fig. 11・19・53、PL. 12）

（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（重複）H－47・90と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数264点。うち土器1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀後半～7世紀前半と思われる。

H－90号住居址（C区、Fig. 11・19）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な面。（重複）H－49・89と重複。本遺構が最も古い。（遺物）総数9点。（備考）出土遺物・重複関係から本住居址は6世紀前半と思われる。

H－91号住居址（A区、Fig. 10・12・62、PL. 7）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻な面を検出。（竈）東壁の南寄りに設置され、全長149㎝、焚口部幅15㎝を測る。両袖を有す。（重複）H－29・30・87・100・101と重複する。構築順はH－101→H－29→本遺構→H－30→H－87→H－100である。（遺物）総数740点。うち管玉1点を図示した。（備考）出土遺物・重複関係から本住居址は7世紀と思われる。

H－92号住居址（A区、Fig. 10・35・53・66）

（形状）方形。（床面）堅緻な床面。（重複）H－102と重複。本遺構が先行する。（遺物）総数1,149点。うち土器1点、砥石1点を図示。（備考）遺物から本住居址は8世紀と思われる。

H－93号住居址（C区、Fig. 11・29・53）

（形状）方形。東側は調査区外に伸びる。（床面）堅緻面が検出された。（重複）H－69と重複。本遺構が新しい。（遺物）総数170点。うち土器2点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は10～11世紀と思われる。

H－94号住居址（C区、Fig. 11・36・54）

（形状）方形。西側は調査区外。（床面）ほぼ平坦。（竈）東壁のやや南寄りに設置され、全長58㎝、焚口部幅52㎝を測る。（重複）I－2と重複。本遺構が古い。（遺物）総数254点。うち土器2点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は10世紀と思われる。

H－95号住居址（C区、Fig. 11・36）

（形状）住居址の北西隅のみを検出。方形。（床面）ほぼ平坦。（遺物）総数2点。（備考）出土遺物が少なく本住居址の時期については不明。

H－96号住居址（C区、Fig. 11・36・54）

（形状）プラン確認の際は円形を呈するためD－48としたが、精査の結果、住居址の竈付近と判明したためH－96とした。（床面）炭化物の広がる堅緻面を検出。（遺物）総数59点。うち土器1点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は8世紀と思われる。

H－97号住居址（C区、Fig. 11・36・54・61・62・63、PL. 12・16）

（形状）方形。西側はH－54・56に切られる。（床面）平坦で堅緻な床面。（竈）東壁中央に設

置され、全長77cm、焚口部幅19cmを測る。煙道部先端がH－98と重複。竈右袖前に土師器坏が出土。（貯蔵穴）南東隅に検出。径約60cm、深さ68cmを測る。（重複）H－54・56・98と重複。本遺構が最も古い。（遺物）総数2,315点。うち石製模造品32点、臼玉131点が出土。土師器高坏が多く土器の60％を占めるが、破損度が極めて高く、故意に壊されたと考えられる。図示したものは高坏２点、坏１点、石製模造品12点、臼玉131点、鉄器１点である。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀前半と思われる。

H－98号住居址（C区、Fig. 11・22・61・63、PL. 16）

（形状）方形。幅12cm、深さ10cmの周溝を持つ。（床面）平坦で堅緻な床面を検出。（重複）H－55・97と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数758点。遺物の多くは８世紀代のものであった。H－97からの流れ込みと考えられる高坏の破片や石製模造品も出土した。鉄器１点、石製模造品１点、臼玉３点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は８世紀と思われる。

H－99号住居址（C区、Fig. 11・36）

（形状）住居址の南東隅を検出。方形。（床面）ほぼ平坦。（備考）調査範囲が狭く出土遺物もないため時期は不明。

H－100号住居址（A区、Fig. 10・35）

（形状）長方形。（床面）ほぼ平坦で堅緻な面を検出。竈前に灰を多量に含む床下土坑を有す。（竈）東壁に設置され、全長62cmを測る。（重複）H－91・101・102と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数719点。（備考）出土遺物から本住居址は９世紀と思われる。

H－101号住居址（A区、Fig. 10・35・54・66、PL. 12）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（竈）東壁の南寄りに設置され、全長92cm、焚口部幅23cmを測る。（重複）H－29・91・100・102と重複。本遺構が最も古い。（遺物）総数301点。うち土器３点、砥石１点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は７世紀前半と思われる。

H－102号住居址（A区、Fig. 10・35・54）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な面を検出。（竈）東壁の南寄りに設置。（重複）H－92・100・101と重複。構築順はH－101→H－92→本遺構→H－100である。（遺物）総数1,079点。うち土器１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は８世紀と思われる。

H－103号住居址（C区、Fig. 11・31・54、PL. 5・13）

（形状）長方形。（床面）ほぼ平坦で堅緻な床面を検出。（竈）東壁南寄りに設置され、全長78cm、焚口部幅54cmを測る。下部を粘土で固定した支柱石を検出。（重複）H－73・74・75と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数467点。うち土器１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は10～11世紀と思われる。

H－104号住居址（C区、Fig. 11・31・54・55・63・64、PL. 13・16）

（形状）方形。（床面）ほぼ平坦。（重複）H－74・83と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数911点。うち土器８点、瓦２点、鉄器１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は７

世紀後半～８世紀前半と思われる。

Ｈ－105号住居址（Ｃ区、Fig. 11・33・55・65、ＰＬ. ７・13・15・16）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻な面を検出。（竈）東壁ほぼ中央に設置され、全長158㎝、焚口部幅32㎝を測る。両袖石を有するが、左側は横転し燃焼部を塞いでいた。竈内より使用したと思われる瓦も出土。（重複）Ｈ－76・77・78・83・106と重複。構築順はＨ－83→Ｈ－76→本遺構→Ｈ－77→Ｈ－78・106である。（遺物）総数573点。うち土器４点、瓦２点を図示した。

（備考）出土遺物から本住居址は７世紀後半と思われる。

Ｈ－106号住居址（Ｃ区、Fig. 11・37・55）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（竈）東壁南寄りに設置され、全長84㎝、焚口部幅33㎝を測る。（重複）Ｈ－77・105・121と重複。構築順はＨ－105→Ｈ－77→本遺構→Ｈ－121である。（遺物）総数1,039点。うち土器１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は８世紀と思われる。

Ｈ－107号住居址（Ｄ区、Fig. 11・23・55、ＰＬ. ４）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻な面。（竈）東壁南寄りに設置され、全長118㎝、焚口部幅30㎝を測る。（重複）Ｈ－108・117と重複し、Ｈ－108→本遺構→Ｈ－117の構築順。（遺物）総数698点。うち土器１点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は７世紀後半と思われる。

Ｈ－108号住居址（Ｄ区、Fig. 11・23・55・61・63、ＰＬ. ４・13）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（竈）重複により壊されており、燃焼部下部を検出。全長84㎝、焚口部幅31㎝を測る。（重複）Ｈ－107・117と重複。本遺構が最も古い。（遺物）総数553点。うち土器４点、石製模造品１点、臼玉１点、土玉１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀中葉と思われる。

Ｈ－109号住居址（Ｄ区、Fig. 11・37・61）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な面を検出。（遺物）総数347点。うち土玉１点を図示した。

（備考）出土遺物から本住居址は７世紀と思われる。

Ｈ－110号住居址（Ｄ区、Fig. 11・38・55、ＰＬ. ８）

（形状）長方形。（床面）ほぼ平坦で重複のない所では堅緻な床面。（竈）東壁中央に設置され、全長104㎝、焚口部幅26㎝を測る。（重複）Ｈ－119と重複。本遺構が古い。（遺物）総数268点。うち土器１点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀後半～７世紀と思われる。

Ｈ－111号住居址（Ｄ区、Fig. 11・39・55・56・65、ＰＬ. ７・13・16）

（形状）正方形。壁面には焼土が検出され、炭化物も多くみられたため、焼失住居と考えられる。（床面）平坦で堅緻な床面。一面に炭化物が検出される。（竈）東壁のほぼ中央に設置され、全長133㎝、焚口部幅35㎝を測る。（貯蔵穴）南東隅に検出。長軸73㎝、短軸53㎝、深さ43㎝を測る。（柱穴）調査区内でP_1（40×33×38㎝）、P_2（45×37×50㎝）、P_3（41×35×35㎝）を検出。（重複）Ｈ－119と重複。本遺構が古い。（遺物）総数1,642点。うち土器７点、瓦１点を図

示した。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀と思われる。

Ｈ－112号住居址（Ｄ区、Fig. 11・39・56、ＰＬ. 13）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（重複）Ｗ－５と重複。本遺構が古い。（遺物）総数97点。うち土器３点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀と思われる。

Ｈ－113号住居址（Ｂ区、Fig. 10・38）

（形状）方形。西側は調査区外。（床面）ほぼ平坦。（遺物）総数17点。（備考）出土遺物から本住居址は８世紀と思われる。

Ｈ－114号住居址（Ｂ区、Fig. 10・40・56・65、ＰＬ. 13・16）

（形状）長方形。（床面）ほぼ平坦で堅緻な床面。（竈）東壁中央に設置され、全長72㎝、焚口部幅53㎝を測る。（貯蔵穴）南東隅に検出。径70㎝、深さ23㎝を測る。（遺物）総数９１１点。うち土器４点、瓦１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は９世紀と思われる。

Ｈ－115号住居址（Ｂ区、Fig. 10・40・56・57、ＰＬ. 14）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻な床面。幅15㎝、深さ10㎝の周溝を検出。（竈）東壁のやや南寄りに設置され、全長133㎝、焚口部幅41㎝を測る。（重複）Ｈ－116・124、Ｄ－51と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数258点。土器４点を図示。うち須恵器坏（179）は流れ込みと考えられる。（備考）出土遺物から本住居址は７世紀前半と思われる。

Ｈ－116号住居址（Ｂ区、Fig. 10・38・57・63、ＰＬ. 14・16）

（形状）方形。西側は調査区外、東側をＨ－115に切られる。（床面）平坦で堅緻な面。（竈）東壁の南寄りに設置。大部分をＨ－115により壊される。全長100㎝。（重複）Ｈ－115・124、Ｄ－52と重複。Ｄ－52→本遺構→Ｈ－124→Ｈ－115の構築順。（遺物）総数１７６点。うち土器２点、鉄器１点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は５世紀末～６世紀前半と思われる。

Ｈ－117号住居址（Ｄ区、Fig. 11・23・57・63、ＰＬ. ４）

（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（竈）両袖石・支柱石を有す。東壁の南寄りに設置され、全長104㎝、焚口部幅45㎝を測る。（重複）Ｈ－56・57・107・108と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数619点。うち土器１点、石製模造品１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は７世紀と思われる。

Ｈ－118号住居址（Ｃ区、Fig. 11・26・57・61、ＰＬ. ６・14）

（形状）長方形。（床面）平坦な床面。北西から南東にかけては川砂利が検出され、本遺構が築かれる以前に河川が流れていたことが窺える。（重複）Ｈ－60・61と重複。（遺物）総数477点。うち土器５点、臼玉１点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は６世紀と思われる。

Ｈ－119号住居址（Ｄ区、Fig. 11・38・57、ＰＬ. ８・14）

（形状）長方形。西壁と南壁をＨ－110と共有する。（床面）ほぼ平坦で堅緻な面を検出。（竈）東壁南寄りに設置され、全長123㎝、焚口部幅45㎝を測る。（重複）Ｈ－110・111と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数447点。うち土器２点を図示した。（備考）出土遺物から本住居

址は6世紀後半～7世紀と思われる。

H－120号住居址（C区、Fig. 11・20）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な面を検出。（竈）東壁南寄りに設置され、全長55cm、焚口部幅45cmを測る。（重複）H－48・50と重複。構築順はH－50→本遺構→H－48である。（遺物）総数80点。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀後半～7世紀前半と思われる。

H－121号住居址（C区、Fig. 11・37・57）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻な床面。（重複）H－106と重複。本遺構が新しい。（遺物）総数546点。うち土器2点を図示。（備考）出土遺物から本遺構は7世紀後半～8世紀前半と思われる。

H－122号住居址（C区、Fig. 11・34）

（形状）方形。東側は調査区外。（床面）ほぼ平坦で堅緻な面を検出。（重複）H－80・81と重複。本遺構が最も古い。（遺物）総数68点。（備考）出土遺物から本遺構は6世紀と思われる。

H－123号住居址（C区、Fig. 11・28）

（形状）方形。（床面）ほぼ平坦で堅緻な床面。（重複）H－66と重複。本遺構が古い。（遺物）総数4点。（備考）出土遺物が少なく本住居址の時期は不明。

H－124号住居址（B区、Fig. 10・38）

（形状）方形。（床面）平坦な床面。（重複）H－115・116・W－8と重複。構築順はH－116→本遺構→H－115→W－8である。（遺物）総数110点。（備考）出土遺物から本遺構は7世紀と思われる。

H－125号住居址（B区、Fig. 10・41、PL. 8）

（形状）方形。（床面）平坦な床面。（重複）H－126・W－8と重複。本遺構が最も古い。（遺物）1点。（備考）重複関係から本遺構は6世紀と思われる。

H－126号住居址（B区、Fig. 10・41・56、PL. 8）

（形状）方形。（床面）平坦で堅緻な床面を検出。（竈）上部をW－8で削られている。東壁南寄りに設置され、全長98cm、焚口部幅33cmを測る。4個の切石を用いた竈。（重複）H－125・W－8と重複。構築順はH－125→本遺構→W－8となる。（遺物）総数81点。うち土器1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀後半と思われる。

H－127号住居址（B区、Fig. 10・41・42・57、PL. 8・14）

（形状）長方形。（床面）ほぼ平坦で極めて堅緻な面を検出。（竈）東壁中央に設置され、全長82cm、焚口部幅35cmを測る。（貯蔵穴）南東隅に検出。長径115cm、短径95cm、深さ55cmを測る。（重複）H－130・W－8と重複。本遺構が最も新しい。（遺物）総数252点。うち1点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀後半～8世紀前半と思われる。

H－128号住居址（B区、Fig. 10・41・42・57、PL. 8・14）

（形状）長方形。（床面）ほぼ平坦で堅緻な面を検出。（竈）重複により大部分を壊されている。

東壁中央に設置され、現存値で全長85㎝、焚口部幅41㎝を測る。（重複）H－131・W－8と重複。本遺構が最も古い。（遺物）総数256点。うち土器2点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀後半と思われる。

H－129号住居址（C区、Fig. 11・33・58・59、PL. 8・14・15）

（形状）調査区で竈のみの検出。東向きに設置され、全長78㎝、焚口部幅40㎝を測る。支柱と粘土で固められた両袖を検出。土器が多数出土。（重複）H－83と重複。本遺構が新しい。（遺物）総数294点。うち土器7点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は6世紀初頭と思われる。

H－130号住居址（B区、Fig. 10・41・42・59・63、PL. 8・15）

（形状）長方形。（床面）平坦な床面。（竈）東壁北寄りに設置。全長73㎝、焚口部幅36㎝を測る。（重複）H－127・128・131・W－8と重複。他の住居址より新しくW－8より古い。（遺物）総数817点。うち土器1点、石製模造品1点を図示した。（備考）出土遺物から本住居址は8世紀後半と思われる。

H－131号住居址（B区、Fig. 10・41・42・59、PL. 8・15）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻な面を検出。（竈）東壁南寄りに設置され、全長58㎝、焚口部幅38㎝を測る。（重複）H－128・130・W－8と重複。構築順はH－128→本遺構→H－131→W－8である。（遺物）総数118点。うち土器1点を図示。（備考）出土遺物から本住居址は7世紀後半～8世紀前半と思われる。

2　溝　　址

W－4号溝址（C区、Fig. 11・43）

C区を東西に横切る形で検出された。遺物総数148点。うち土器1点を図示した。重複しているH－71（9世紀）より古く、出土遺物から8世紀のものと思われる。

W－5号溝址（D区、Fig. 11・43・61）

D区を南北に横切る形で検出された。遺物総数140点。うち臼玉1点を図示。重複するH－112（6世紀）より新しい。出土遺物から7世紀後半～8世紀前半のものと考えられる。

W－6号溝址（D区、Fig. 11・43、PL. 8）

D区の西端で検出された。出土遺物が10点と少ないため、構築時期は不明。

W－7号溝址（D区、Fig. 11・43・65・66、PL. 8・15）

D区の西端でW－6と並んで検出された。遺物総数456点。うち土器4点、瓦4点、凹石1点、石臼1点を図示した。溝底付近から内耳鍋が6個体出土していることから、構築時期は中世と考えられる。

W－8号溝址（B区、Fig. 10・43）

B区西側で南北に伸びる形で検出された。重複する古墳～平安時代の遺構を削っていること、平安時代の遺物（総数436点）が多く出土していることから、平安時代の構築と考えられる。

3 井　戸　址

Ｉ－２号井戸址（Ｃ区、Fig. 11・44、ＰＬ. 8）

長径2.85ｍ、短径2.70ｍの円形を呈し、深さ（2.2ｍ）を測る。周囲を粘土で固め人頭大の石を巡らし、総社砂層を掘り抜き構築されている。Ｈ－94（10世紀）と重複。本遺構が新しい。出土遺物は162点。うち土器２点を図示。構築時期は重複関係・出土遺物から平安時代と思われる。

Ｉ－３号井戸址（Ｄ区、Fig. 11・44）

Ｄ区の西端に位置し、径約1.6ｍの円形を呈し、深さ（2.4ｍ）を測る。総社砂層を掘り抜き構築されている。出土遺物は総数58点。構築時期は８世紀と思われる。

Ｉ－４号井戸址（Ｄ区、Fig. 11・44）

径約1.4ｍの円形を呈し、深さ（1.5ｍ）を測る。総社砂層を掘り抜き構築されている。出土遺物は総数27点。構築時期は７世紀後半～８世紀と思われる。

4 落　込　み

Ｏ－２号落込み（Ｃ区、Fig. 11・44）

一部調査区外であるが長軸4.63ｍ、深さ42㎝を測り、不定形を呈する。総社砂層を掘り込み形成されている。Ｈ－70と重複。本遺構が新しい。出土遺物は総数44点。本遺構の構築時期は平安時代と考えられる。

5 土　　坑

Ｄ－47号土坑（Ａ区、Fig. 10・42）

Ａ区西側で検出。隅丸方形を呈する。総数13点と少ないが出土遺物より、古墳時代の構築と思われる。

Ｄ－48号土坑

プラン確認の際は円形を呈するためＤ－48としたが、精査の結果、Ｈ－96の竈付近と判明したため、欠番扱いとなる。

Ｄ－49号土坑（Ｃ区、Fig. 11・42）

Ｈ－68の南隣に位置し、西側が調査区外になる。出土遺物が少なく、構築時期は不明。

Ｄ－50号土坑

プラン確認の際は円形を呈するためＤ－48としたが、精査の結果、Ｈ－129に変更されたため、欠番扱いとなる。

Ｄ－51号土坑（Ｂ区、Fig. 10・42）

隅丸方形を呈する。遺物は少ないが、重複するＨ－115（７世紀）より古いため、構築時期は古墳時代と思われる。

D－52号土坑（B区、Fig. 10・42）

楕円形を呈する。遺物は少ないが、重複するH－116（5世紀末～6世紀前半）より古いため、構築時期は古墳時代と思われる。

6　縄文時代の遺物　(Fig. 66・67、PL. 9)

本年度も縄文時代の遺構は検出されなかったが、包含層として遺物が出土している。昨年度と同様に縄文時代中期後半の加曽利E式土器が70.9％を占め、この時代の遺構の存在の可能性を示唆している。その他は中期前半の阿玉台式土器が17点出土している。詳細はTab. 1の通りである。しかし、いずれの土器も破片のみであり、個体を復元できるものの出土には至らなかった。出土位置は、A区412点、B区114点、C区64点、D区11点となっている。特にA区ではX60Y86付付近を中心に出土している。B区ではX47Y86から多く出土している。C区では南側に多く、北側では9点と少なくなっている。阿玉台式土器も同しような出土傾向にある。石器は、打製石斧8点、石鏃6点、削器1点、凹石・磨石1点、剥片17点となっている。うち11点（石鏃5点、打製石斧5点、凹石・磨石1点）を図示した。石器の出土位置は縄文式土器の出土と同じような傾向を示している。このことから、遺構は検出されていないが、縄文時代の生活の場が本遺跡の南側を中心に広がっていたことが窺える。

Tab. 1　包含層出土の縄文式土器一覧

分類		点数	割合
中期前半	阿玉台式	17	2.8
中期後半	加曽利E式	426	70.9
	沈線＋縄文	156	26.0
	微隆起＋縄文	17	2.8
	沈線	51	8.5
	微隆起	4	0.7
	条線	25	4.1
	隆帯	37	6.1
	隆帯＋縄文	13	2.2
	隆帯＋刺突	1	0.2
	刺突	3	0.5
	円形刺突	3	0.5
	縄文	116	19.3
底部		4	0.7
不明		154	25.6
合計		601	100%

7　石製模造品　(Fig. 9・62・63)

本年度出土した石製模造品は、259点である。その内訳は、臼玉180点、勾玉7点、剣形品7点、刀子4点、鏃2点、紡錘車2点、管玉1点、盾1点、斧1点、鎌1点、有孔板44点（有孔円板9点・有孔方板35点）、板状品9点（うち碁盤目状等の線刻のあるもの6点）となっている。その他に3㎝以下の不明・細片が358点出土している。なお、未だ覆土のふるい作業を継続しており途中経過の報告であることを了解していただきたい。

石製模造品の石材は、滑石（35％）、頁岩（62％）、その他（3％）となっている。うち臼玉を除く石製模造品の石材に限れば、製品70点のうち頁岩が62点を占めている。滑石製模造品は、盾や紡錘車等のように丁寧な細工が要される「精製」に用いられている。それに対して、頁岩製模造品は、薄く剥がれ易い性質のため、勾玉・刀子・斧・有孔板等の偏平化したもの「粗製」に用いられる傾向があり、中には自然面を残したままの製品も見られる。このことは、本遺跡地においては滑石より頁岩が容易に入手し得る石材であったことと同時に、6世紀代の簡略化された

製法・偏平化した特徴を表している。また、偏平化した石製模造品の中に、碁盤目状の線刻のあるものが見られるのも本遺跡地の特徴といえよう。今回、不明・細片とした358点の9割以上が頁岩であり、これらの中には、孔や磨り等の細工を施した痕が窺えるものも数多く見られる。薄く剥がれ易い材質のため、製品であったものが剥がれたり壊れたりしたと考えられる。

石製模造品の出土位置でみると、H－97号住居址に製品の64%、臼玉に限ってみると73%が集中している。周辺の住居址まで範囲を広げると、約9割の石製模造品がH－97号住居址を中心に出土している。

8　グリッド出土の遺物　(Fig. 59・60、PL. 15)

本年度の大屋敷遺跡の多くの場所では遺構が重複し、遺物も数多く出土している。しかし、遺構が検出されずに遺物のみが出土している箇所もみられた。そのようなものについては、グリッド出土の遺物として取り扱った。うち図示できたものは、X32Y81、X38Y66、X59Y86の3カ所である。X32Y81は、B区西側である。ここではW－8に削られて多くの遺構が検出されている。この他にも遺構が存在していた可能性も考えられる。図示した以外にも古墳時代後期と思われる甕等の破片もみられた。X38Y66は、D区の中央部やや西寄りの場所である。この付近にはI－4以外の遺構は検出されておらず、X40付近に以前に河川が北から南へ流れていたことを示す川砂利が多量に検出されている。図示した土師器坏以外の遺物はみられなかった。X59Y86は、A区のほぼ中央部である。他のグリッドの遺物が表土掘削の際に出土しているのと異なり、H－34の掘り方の調査中に出土した遺物である。H－34の時期が竈付近出土遺物から7世紀と考えられるため、全く異なった時期の遺物となる。その時期は5世紀末～6世紀初頭にかけてと思われる。出土量から当然住居址の存在が予想されたが、遺構の検出には至らなかったため、X59Y86出土の遺物として取り扱った。

Tab. 2　大屋敷遺跡遺構一覧表

住居址一覧表

遺構名(調査区)	規模(m)東西×南北	面積(㎡)	壁高	主軸方向	竈	遺物	時期	Fig
H－28号住居址(A)	3.69 ×(3.24)	(10.65)	20cm	N-79°-E	東辺中央	甕、坏、鉄器	6C後	12
H－29号住居址(A)	— —	(0.80)	—	N-86°-E	東辺	甕、坏	7C	12
H－30号住居址(A)	— —	(0.70)	—	N-86°-E	東辺	甕、坏	7C	13
H－31号住居址(A)	(0.24)×(4.36)	(6.90)	13cm	N-72°-E	東辺中央	椀、甕、坏	10C～11C	13
H－32号住居址(A)	7.50 ×(7.00)	(40.70)	48cm	N-78°-E	東辺中央	臼玉、甕、坏、鉄器	6C前	14
H－33号住居址(A)	(1.20)×(0.83)	(0.45)	28cm	N-55°-E	未確認	なし	不明	15
H－34号住居址(A)	(3.60)× 3.98	(13.30)	22cm	N-73°-E	東辺中央	椀、蓋、甕、坏	7C	15

遺構名（調査区）	規模(m)東西×南北	面積(㎡)	壁高	主軸方向	竈	遺物	時期	Fig
H－35号住居址（A）	3.76 × 3.69	12.92	30cm	N-68°-E	東辺南寄	器台、椀、皿、坏	9C後～10C前半	15
H－36号住居址（A）	(3.36)×(4.35)	(12.60)	32cm	N-65°-E	東辺南寄	蓋、甕、坏	7C	16
H－37号住居址（A）	(2.96)×(1.70)	(2.90)	22cm	N-68°-E	未確認	蓋、椀、坏	7C	16
H－38号住居址（A）	6.12 ×(5.80)	(25.30)	28cm	N-78°-E	東辺南寄	臼玉、土玉、椀、皿、甕、坏	6C前半	17
H－39号住居址（A）	(4.48)×(2.32)	(5.00)	14cm	N-63°-E	未確認	坏	6C	17
H－40号住居址（A）	(3.33)×(0.76)	(1.20)	13cm	N-78°-E	未確認	甕、坏	7C	17
H－41号住居址（A）	6.00 ×(6.80)	(28.70)	18cm	N-63°-E	東辺中央	甕、坏	6C中	18
H－42号住居址（B）	5.18 ×(3.58)	(17.30)	23cm	N-92°-E	未確認	蓋、甕、坏	7C	16
H－43号住居址（B）	4.17 ×(1.78)	(5.50)	18cm	N-98°-E	未確認	長頸壺、甕、坏	7C中	19
H－44号住居址（B）	3.44 × 2.97	10.00	15cm	N-87°-E	東辺南寄	蓋、甕、坏	8C	19
H－45号住居址（A）	(3.55)×(3.12)	(11.10)	5cm	N-62°-E	東辺南寄	甕、坏	6C	18
H－46号住居址（A）	— —	(0.40)	—	N-75°-E	東辺 瓦使用	椀、皿、甕、羽釜、坏、瓦	10C後半～11C	13
H－47号住居址（C）	(3.45)× 3.18	(8.90)	25cm	N-58°-E	東辺中央	甕、坏	5C末～6C初頭	20
H－48号住居址（C）	(2.30)× 3.33	(8.20)	15cm	N-76°-E	東辺南寄	椀、甕、坏、鉄器	10C	20
H－49号住居址（C）	(3.00)×(3.00)	(7.75)	10cm	N-76°-E	未確認	なし	不明	19
H－50号住居址（C）	5.27 × 5.40	(23.70)	37cm	N-62°-E	東辺南寄	甕、坏	6C前半	21
H－51号住居址（C）	1.20 × 2.59	(2.40)	9cm	N-88°-E	未確認	甕、坏	6C	20
H－52号住居址（C）	(2.77)× 3.12	(7.30)	8cm	N-75°-E	東辺中央	甕、坏	6C後半	21
H－53号住居址（C）	(0.95)×(1.63)	(1.80)	43cm	N-88°-E	東辺	甕、坏、瓦	9C	22
H－54号住居址（C）	(1.40)× 4.85	(5.50)	50cm	N-85°-E	東辺南寄	石製模造品、臼玉、甕、高坏、坏	9C	22
H－55号住居址（C）	(2.24)× 5.23	(12.90)	47cm	N-88°-E	未確認	石製模造品、臼玉、大型器台、高坏、甕、坏	6C前半	22
H－56号住居址(CD)	(2.58)× 2.95	(5.90)	30cm	N-87°-E	東辺南寄	石製模造品、臼玉、蓋、甕、壺、坏	6C中～後半	23
H－57号住居址(CD)	(2.06)× 3.46	(6.67)	38cm	N-54°-E	未確認	石製模造品、大型器台、高坏、壺、鉢、甕、坏	6C前半	23
H－58号住居址（C）	4.73 × 4.62	(19.90)	54cm	N-47°-E	東辺中央	長頸壺、甕、坏	6C中～後半	25
H－59号住居址（C）	4.13 × 4.05	15.33	36cm	N-78°-E	東辺中央	高坏、甕、壺、甑、坏	6C前半	25
H－60号住居址（C）	3.44 × 3.00	(8.40)	46cm	N-51°-E	未確認	蓋、坏	6C	26
H－61号住居址（C）	6.10 × 4.90	(25.10)	42cm	N-56°-E	未確認	長頸壺、椀、甕、坏、瓦	6C、7C後半～8C初頭	26
H－62号住居址（C）	(2.85)× 4.23	(10.75)	28cm	N-152°-E	南辺東寄	臼玉、甕、坏	6C	26
H－63号住居址（C）	(3.80)× 6.04	(20.73)	45cm	N-85°-E	東辺南寄 二つ竈	臼玉、椀、甕、坏、瓦	9C	27
H－65号住居址（C）	(3.48)× 3.92	(10.30)	43cm	N-103°-E	東辺南寄	椀、羽釜、甕、坏	10C	28
H－66号住居址（C）	(1.92)× 3.38	(5.70)	48cm	N-80°-E	未確認	臼玉、壺、甕、坏	9C後半	28
H－67号住居址（C）	3.47 × 4.80	15.50	47cm	N-82°-E	東辺南寄	甕、坏、瓦、鉄器	8C後半	28
H－68号住居址（C）	(0.50)×(3.27)	(1.36)	40cm	N-88°-E	東辺南隅	甕、坏	8C	29
H－69号住居址（C）	(4.67)× 4.10	(12.84)	18cm	N-59°-E	未確認	椀、甕、坏、鉄	5C後半	29
H－70号住居址（C）	(2.67)× 5.05	(15.80)	27cm	N-93°-E	未確認	椀、甕、坏	9C	30
H－71号住居址（C）	— —	(0.18)	—	N-76°-E	東辺	甕、坏	9C	29
H－72号住居址（C）	2.20 × 2.38	(2.70)	12cm	N-125°-E	未確認	蓋、甕、坏	7C	30
H－73号住居址（C）	(3.40)×(2.45)	(8.20)	13cm	N-87°-E	東辺	椀、甕、坏	10C	31
H－74号住居址（C）	(2.97)× 4.93	(13.70)	40cm	N-171°-E	南辺東寄	長頸壺、蓋、甕、坏、瓦	7C後半～8C前半	31
H－75号住居址（C）	(2.37)× 6.20	(10.80)	25cm	N-88°-E	未確認	平瓶、甕、坏、瓦	8C	30

遺構名(調査区)	規模(m)東西×南北	面積(㎡)	壁高	主軸方向	竈	遺物	時期	Fig
H－76号住居址(C)	3.50 × 3.00	9.70	28cm	N-87°-E	東辺南寄	蓋、甕、坏	7C後半～8C前半	33
H－77号住居址(C)	(2.28)×(3.76)	(8.10)	42cm	N-82°-E	東辺南寄	蓋、甕、坏、瓦	7C後半～8C前半	33
H－78号住居址(C)	(0.85)× 5.22	(3.90)	35cm	N-87°-E	東辺南寄	甕、坏	8C	32
H－79号住居址(C)	(0.67)×(1.97)	(1.10)	16cm	N-98°-E	東辺北寄	高坏、甕、坏	5C後半	32
H－80号住居址(C)	(1.63)× 3.42	(4.70)	14cm	N-173°-E	未確認	甕、坏	9C	34
H－81号住居址(C)	3.33 × 3.55	10.31	17cm	N-67°-E	東辺南寄	臼玉、甕、坏	8C	34
H－82号住居址(C)	4.03 × 3.98	(12.70)	6cm	N-54°-E	東辺南寄	甕、坏	6C中	32
H－83号住居址(C)	4.07 ×(3.42)	(9.73)	45cm	N-52°-E	東辺北寄	石製模造品、高坏、甕、甑、坏	5C末～6C前半	33
H－84号住居址(C)	2.70 × 2.89	7.43	17cm	N-77°-E	東辺南隅	甕、坏	8C	35
H－85号住居址(A)	3.80 × 3.25	(10.80)	23cm	N-30°-E	北辺東寄	甕、坏	不明	18
H－86号住居址(C)	— —	(0.47)	—	N-88°-E	東辺	高坏、甕、坏	6C後半～7C前半	25
H－87号住居址(A)	(2.05)× 3.73	(6.60)	27cm	N-53°-E	東辺南寄	甕、坏	7C	13
H－88号住居址(A)	(1.30)×(3.40)	(4.80)	23cm	N-76°-E	東辺中央	臼玉、椀、甕、羽釜、坏	10～11C	13
H－89号住居址(C)	(3.04)× 3.04	(7.70)	27cm	N-76°-E	未確認	甕、坏	6C後半～7C前半	19
H－90号住居址(C)	(2.38)×(2.66)	(5.30)	17cm	N-72°-E	未確認	高坏、甕、坏	6C前半	19
H－91号住居址(A)	3.23 ×(3.92)	(11.20)	26cm	N-62°-E	東辺南寄	管玉、蓋、甕、坏	7C	12
H－92号住居址(A)	(2.17)×(3.55)	(6.80)	40cm	N-6°-W	未確認	甕、坏、砥石	8C	35
H－93号住居址(C)	(0.92)× 4.30	(3.09)	18cm	N-88°-E	未確認	羽釜、甕、坏	10～11C	29
H－94号住居址(C)	(1.31)× 3.63	(3.70)	18cm	N-97°-E	東辺南寄	壺、甕、坏	10C	36
H－95号住居址(C)	(1.17)×(0.73)	(0.43)	15cm	N-56°-E	未確認	甕、坏	不明	36
H－96号住居址(C)	— —	—	—	—	未確認	甕、坏	8C	36
H－97号住居址(C)	(2.76)× 2.77	(5.10)	5cm	N-45°-E	東辺中央	石製模造品、臼玉、甕、高坏、坏、鉄	6C前半	36
H－98号住居址(C)	(1.87)× 3.52	(5.75)	50cm	N-85°-E	未確認	石製模造品、臼玉、高坏、甕、壺、坏、鉄	8C	22
H－99号住居址(C)	(1.12)×(2.45)	(1.30)	21cm	N-60°-E	未確認	なし	不明	36
H－100号住居址(A)	3.15 ×(3.77)	(8.70)	50cm	N-57°-E	東辺南隅	甕、坏	9C	35
H－101号住居址(A)	(1.53)× 2.82	(3.30)	36cm	N-60°-E	東辺南寄	蓋、甕、坏、砥石	7C前半	35
H－102号住居址(A)	(4.20)×(3.50)	(12.30)	50cm	N-74°-E	東辺南寄	甕、坏	8C	35
H－103号住居址(C)	(3.30)× 2.43	(7.50)	20cm	N-85°-E	東辺中央	羽釜、甕、坏	10～11C	31
H－104号住居址(C)	(3.40)× 2.80	(8.70)	22cm	N-82°-E	未確認	蓋、甕、壺、坏、瓦、鉄	7C後半～8C前半	31
H－105号住居址(C)	3.74 × 5.61	19.30	39cm	N-87°-E	東辺中央 瓦使用	蓋、甕、椀、坏、瓦	7C後半	33
H－106号住居址(C)	3.40 × 4.73	(14.90)	32cm	N-89°-E	東辺南寄	甕、坏	8C	37
H－107号住居址(D)	3.24 × 4.07	(11.76)	45cm	N-57°-E	東辺南寄	甕、坏	7C後半	23
H－108号住居址(D)	(3.54)× 4.08	(13.80)	48cm	N-63°-E	東辺南寄	石製模造品、臼玉、土玉、甕、坏	6C中	23
H－109号住居址(D)	(4.00)× 1.24	(3.50)	60cm	N-73°-E	未確認	臼玉、土玉、甕、坏	7C	37
H－110号住居址(D)	3.52 × 3.00	9.20	30cm	N-53°-E	東辺中央	甕、坏	6C後半～7C	38
H－111号住居址(D)	4.82 × 4.95	(19.40)	49cm	N-56°-E	東辺中央	高坏、甕、壺、坏、瓦	6C	39
H－112号住居址(D)	4.16 ×(2.80)	(8.70)	30cm	N-97°-E	未確認	甕、甑、坏	6C	39
H－113号住居址(B)	(1.02)× 3.40	(3.00)	25cm	N-14°-W	未確認	甕、坏	8C	38
H－114号住居址(B)	3.47 × 4.16	14.00	32cm	N-85°-E	東辺中央	長頸壺、甕、坏、瓦	9C	40
H－115号住居址(B)	4.00 × 4.63	17.60	32cm	N-79°-E	東辺南寄	蓋、甕、坏	7C前半	40

遺構名(調査区)	規模(m)東西×南北	面積(㎡)	壁高	主軸方向	竈	遺物	時期	Fig
H－116号住居址(B)	(1.60)× 3.30	(4.70)	14cm	N-83°-E	東辺南寄	甕、坏、鉄	5C末～6C前半	38
H－117号住居址(D)	3.08 × 2.97	(6.50)	58cm	N-60°-E	東辺南寄	石製模造品、甕、坏	7C	23
H－118号住居址(C)	3.34 × 4.32	13.80	21cm	N-144°-E	未確認	臼玉、高坏、甕、皿、坏	6C	26
H－119号住居址(D)	2.56 × 3.31	8.10	50cm	N-53°-E	東辺南寄	甕、坏	6C後半～7C	38
H－120号住居址(C)	(1.10)× 3.60	(2.50)	18cm	N-75°-E	東辺南寄	蓋、甕、坏	6C後半～7C前半	20
H－121号住居址(C)	3.50 × 3.17	(10.00)	25cm	N-82°-E	未確認	蓋、甕、椀、坏	7C後半～8C前半	37
H－122号住居址(C)	(3.33)× 3.27	(9.24)	11cm	N-77°-E	未確認	高坏、甕、坏	6C	34
H－123号住居址(C)	(1.25)×(2.06)	(1.42)	19cm	N-54°-E	未確認	甕、坏	不明	28
H－124号住居址(B)	(1.50)× 3.92	(5.00)	14cm	N-18°-W	未確認	蓋、甕、坏	7C	38
H－125号住居址(B)	(2.25)×(3.07)	(3.60)	10cm	N-33°-W	未確認	坏	6C	41
H－126号住居址(B)	(2.92)× 4.65	(11.00)	30cm	N-66°-E	東辺南寄 石組	甕、坏	6C後半	41
H－127号住居址(B)	3.43 × 2.84	8.60	40cm	N-94°-E	東辺中央	甕、坏	7C後半～8C前半	41
H－128号住居址(B)	3.98 × 2.96	(10.20)	20cm	N-78°-E	東辺中央	甕、坏	6C後半	41
H－129号住居址(C)	－ －	(0.32)	－	N-88°-E	東辺	高坏、甕、甑、坏	6C初頭	33
H－130号住居址(B)	3.43 × 4.32	12.50	38cm	N-115°-E	東辺北寄	石製模造品、蓋、甕、坏	8C後半	41
H－131号住居址(B)	3.15 × 2.71	(8.10)	36cm	N-83°-E	東辺南寄	蓋、甕、坏	7C後半～8C前半	41

溝址一覧表

遺構名	位置	方位	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)	長さ(m)	時期	Fig
W－4	X－47～48 Y－46	N－83°－E	1.08～1.42	最大 0.97	14.0～37.0	東西 5.85	8C	43
W－5	X－42～43 Y－66	N－2°－E	1.32～1.70	最大 0.66	20.0～29.5	南北 6.20	7C後半～8C前	43
W－6	X－31 Y－67～68	N－2°－E	0.57～1.07	最大 0.80	14.5～25.5	南北 5.95	不明	43
W－7	X－28～30 Y－68～69	N－10°－W	2.45～3.00	最大 0.84	84.5～98.0	南北 8.55	中世	43
W－8	X－33 Y－79～84	N－3°－E	1.50～2.30	最大 1.84	6.0～24.0	南北 21.64	平安	43

井戸址一覧表

遺構名	位置	標高(m)	形状	規模(m)	深さ(m)	時期	Fig
I－2	X－47～48 Y－51	124.2	円形	2.85×2.70	(2.2)	平安	44
I－3	X－29 Y－67～68	124.8	円形	1.64×1.53	(2.4)	8C	44
I－4	X－37 Y－66	124.36	円形	1.45×1.36	(1.5)	7C後半～8C	44

土坑・落込み一覧表

遺構名	位置	形状	規模(m)	深さ(m)	重複	時期	Fig
D－47	X－54 Y－87	隅丸長方形	0.74 × 0.53	1.14		古墳時代	42
D－48	当初土坑と位置づけたが、後に住居址であることが判明し、H－96と変更した。						42
D－49	X－48 Y－54～55	楕円形	(1.17)×(0.38)	0.48		不明	42
D－50	当初土坑と位置づけたが、後に住居址H－129の一部であることが判明した。						42
D－51	X－33～34 Y－83～84	隅丸長方形	1.15 × 0.95	0.41	H－115	古墳時代	42
D－52	X－33 Y－84～85	楕円形	0.95 × 0.89	1.3	H－116	古墳時代	42
O－2	X－48～49 Y－48～49		(4.63)× －	0.42	H－70	平安時代	44

Ⅵ　ま　と　め

本年度で２年目を迎えた大屋敷遺跡の発掘調査では、住居址103軒、土坑４基、井戸址３基、溝址５条、落込み１基を検出することができた。出土遺物でみると、遺構は検出されていないが縄文時代中期の阿玉台式土器と加曽利Ｅ式土器から中世の内耳鍋に至るまでの広い時期にわたっている。中でも古墳時代から平安時代までの遺物が多く出土している。遺構・遺物両面から本遺跡地の主体をなすことが裏付けられた。特に住居址からの出土例の稀な古墳時代の遺物も検出された。そこで、古墳時代に焦点をあてて、特筆される遺物を中心に本年度の発掘調査の成果と問題点を述べてみたい。

須恵器台付長頸壺は、Ｈ－58号住居址の南東隅で出土している。口径11.4cm、脚部を欠損しているが、全体を復元すれば高さ45.2cm、底径20.4cmとなる。文様構成は、口頸部に３段の横位沈線区画に簾状文（４段目は磨り消した跡が見られる）、胴部に２段の横位沈線区画に櫛描斜行列点文を巡らしている。台部の多くは欠損しているが、３方に円孔が開き、その下部に方形透しの一部が認められる。胎土は精選され、器面に光沢が見られる。型式的にはＴＫ43期に該当し、６世紀第３～４四半期に位置付けられる。今回のように住居址からの出土は他に事例がなく、類例としては古墳石室の副葬品としての出土が一般的である。その中で類似しているものを求めると、高崎市綿貫観音山古墳の石室から出土している有蓋台付壺が挙げられる。大きさは大屋敷遺跡出土のものに比べてやや小さいが、文様構成・器形の特徴等において極めて類似しており、同一工人集団により製作された可能性を思わせるほどである。このことから、本遺跡と観音山古墳との係わりを考えることができよう。地域豪族を傘下に治め、榛名山南面に君臨し、上毛野国の中枢に就いた豪族の墳墓と推定されるといわれる観音山古墳（注1）と大屋敷遺跡との結び付きが注目される。

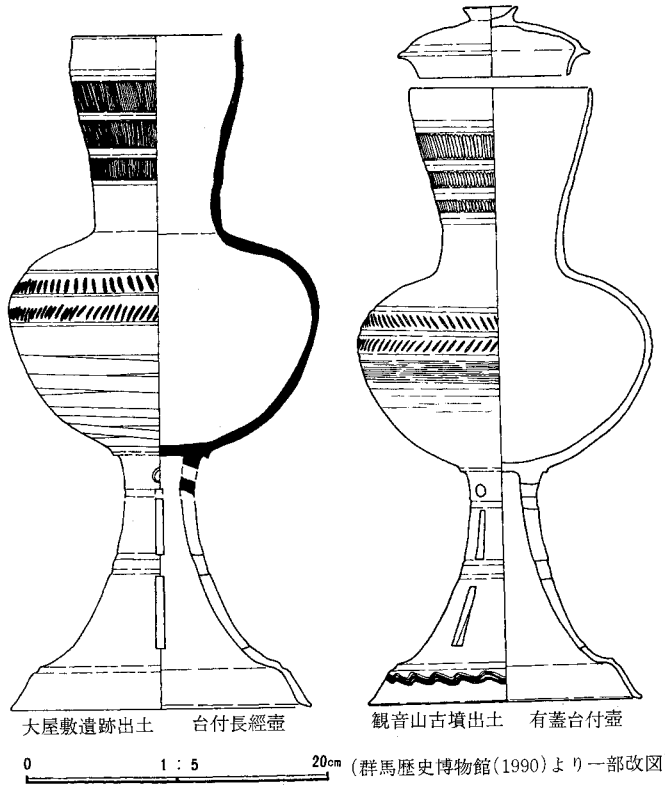


Fig.　7　観音山古墳出土須恵器との比較

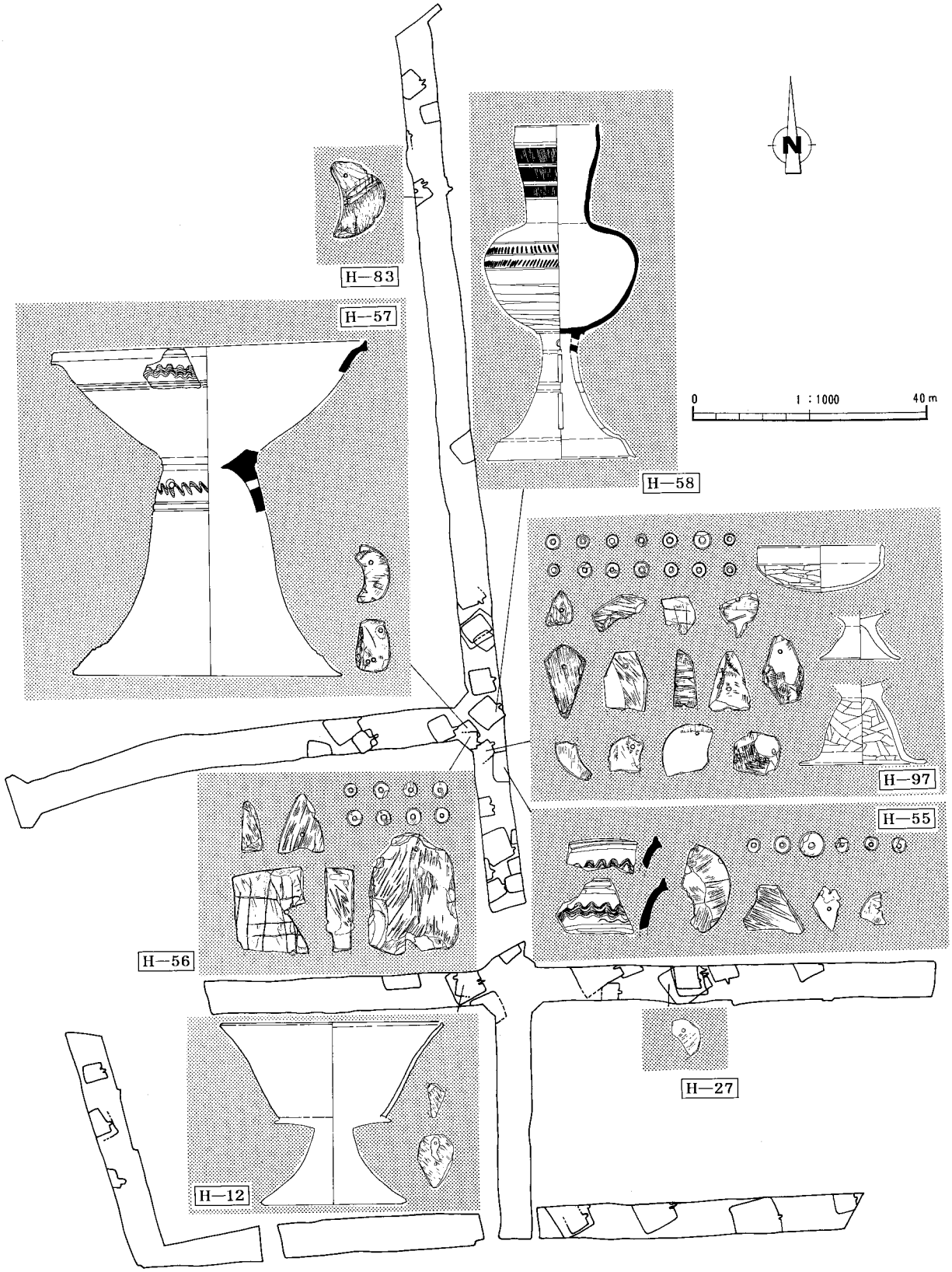


Fig. 8　大屋敷遺跡古墳時代（6世紀）全体図と石製模造品等出土遺構

古墳時代（6世紀）住居址の出土遺物

住居址名	出土遺物（石製模造品他）
H－11	臼玉1
H－12	大型高坏（土師器）、剣形品2
H－27	剣形品1
H－32	臼玉1
H－38	臼玉1、土玉1
H－55	大型器台（須恵器）、勾玉1、剣形品1 有孔板1、板状品1、臼玉11
H－56	刀子2、斧1、鏃1、有孔板6、臼玉13
H－57	大型器台（須恵器）、勾玉1、紡錘車1 有孔板2、板状品3
H－58	台付長頸壺（須恵器）
H－62	臼玉1
H－83	勾玉1
H－97	勾玉3、剣形品5、刀子1、鏃1 有孔板23、板状品4、臼玉131
H－108	有孔板1、土玉1
H－118	臼玉1

他の時期の遺構等出土の関連遺物

住居址名	出土遺物（石製模造品他）
H－35	大型器台（須恵器）
H－54	鎌1、刀子1、有孔板3 板状品1、臼玉2
H－63	臼玉2
H－66	臼玉1
H－81	臼玉1
H－88	臼玉1
H－91	管玉1
H－98	有孔板2、板状品1、臼玉3
H－109	土玉1
H－117	有孔板4
H－130	紡錘車1
W－5	臼玉1
X48Y55	臼玉1
X49Y66	臼玉1
X61Y77	紡錘車1
A区表採	有孔板1
C区表採	剣形品1、盾1、有孔板1 臼玉8
D区表採	勾玉1

また、本年度は一般の集落での例は極めて稀な須恵器大型器台も出土している。H－35号住居址では脚部、H－55・57号住居址では脚部と口縁部の出土である。脚部は4方に円孔を有し、その下部に櫛描波状文を巡らせ、方形の透しをもつものである。H－55・57号住居址出土の口縁部は、口唇部に鍔状で2条の沈線がみられ、その下部に櫛描波状文と沈線を巡らしている。H--35、55・57号住居址出土の両者ともに胎土・整形がよく似ているが、接点がなく出土位置も離れており、同一個体であるか不明であるため、2個体の出土と考えられる。型式的にはMT15～TK10期に該当し、6世紀前半～中葉に位置付けられる。須恵器大型器台の類例としては、前橋市前二子古墳、伊勢崎市原之城遺跡、高崎市上小塙稲荷山古墳、群馬町後疋間遺跡が挙げられる。前二子古墳は6世紀初頭の首長層級の大型前方後円墳であり、原之城遺跡は6世紀中葉の豪族の居館址であることから、大屋敷遺跡で出土した大型器台は本地域に豪族の存在を想定させる資料といえよう。

さらに、H－97号住居址を中心に出土している石製模造品は、祭祀と深い係わりをもつと思われる。細片（厚さ2㎜以下、長さ3㎝以下）が358点と多く出土していること、他の住居址との重複によりH－97号住居址に不明な部分も残されていること、石材である頁岩（注2）の性質から薄く剥がれ易く加工も容易なことから、石製模造品を生産する工房址の可能性も考えられる。しかし、H－97号住居址では、石核のような比較的大きなものや荒割り工程や加工の際に生ずる砕片の出土は見られず、細片の中には磨り痕や有孔が見られるものが多くある。これは、製作過程で出る剥片ではなく、製品であったものが、薄く板状に剥がれ易い頁岩の性質のために細かく剥がれたり、大屋敷遺跡特有の粘性の強く堅く締まった土のために掘って行く過程で砕かれたりしたものも含まれていると思われる。これらのことから、仮に本住居を製作址とした場合でも、集落外の需要のために石製模造品を製作し搬出・供給していたものではなく、本遺跡内の祭祀のた

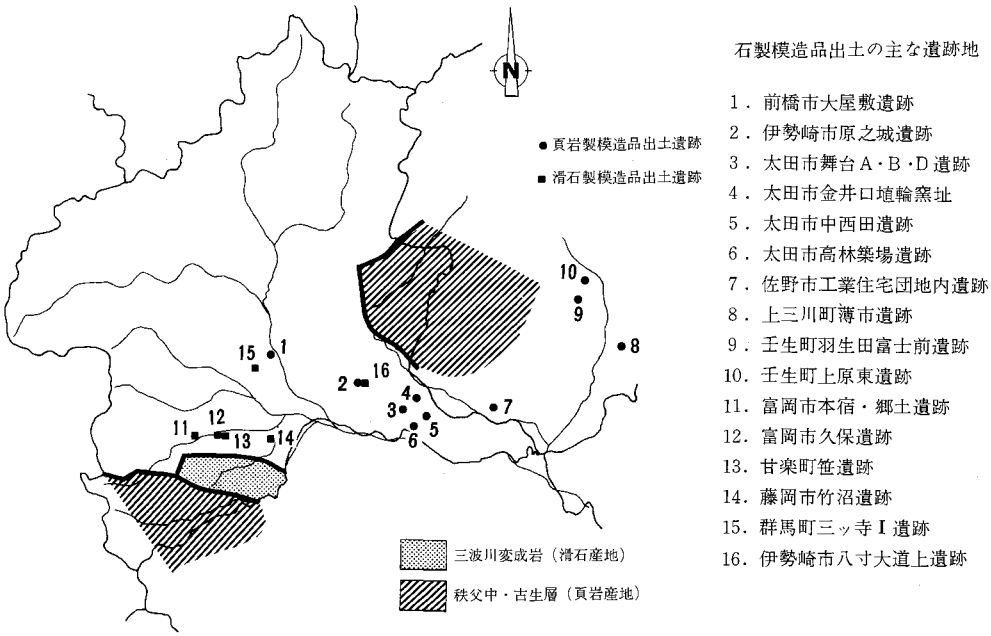


Fig. 9　石製模造品の出土遺跡と石材産地

めに製作を行った最終工程のみの作業を実施した工房址と考えられる。H－97号住居址の出土土器の総数は1,861点であるが、そのうち土師器高坏が60%を占めている。その破損が著しいため高坏の脚部で個体数を見ると、16個体以上（破損度が高く、図示できたものは高坏脚2点）と一般住居址の出土数とは大きく異なっている。このため、H－97号住居址は、工房址の可能性を示すとともに、祭祀に深く係わりのある遺構としておきたい。出土した高坏を見ると、底部の摩耗が少なく接合が困難な程破損度が高いことから、使用期間は一般の土器類と比較して極めて短く一時的に使用された後に故意に壊されたと考えられる。つまり、祭祀のためのみに使用され、祭祀を終えると破砕され、H－97号住居址に石製模造品とともに投棄されたのであろう。その時期は、偏平化した石製模造品やH－97号住居址出土の鬼高Ⅰ期に該当する土師器から6世紀前半と考えられる。

以上のような本年度の出土遺物から考えると、大屋敷遺跡は古墳時代の単なる集落ではなく、有力者の存在を思い起こさせる遺跡地である。石製模造品や高坏等が多く出土して祭祀に深い係わりを持つ遺構、古墳や豪族の居館址にその出土例を求めることができる須恵器大型器台、観音山古墳石室に納められていたものと同一工人集団の製作と考えられる台付長頸壺、さらに昨年度出土した「三ッ寺型高坏」(注3) から6世紀初頭～後半にかけての豪族の存在が浮かび上がってくる。その一方で、原之城遺跡 (注4) と八寸大道上遺跡 (注5) の関係ような豪族の居館址と周辺に位置しその勢力を支える集落のような見方もできる。近辺に豪族の居館址が存在し、本遺跡がその勢力に従属する集落になる可能性も否定できない。いずれにしても本年度の発掘調査により有力者の存在が浮かび上がってこよう。周囲に濠や柵列・土塁が見られないことから豪族の居館

址と断定できないが、三ツ寺Ⅰ遺跡や原之城遺跡や本宿・郷土遺跡のように祭祀に関連する遺物・遺構を伴うこと、西側から南側を八幡川、東側を現在の天狗岩用水（本遺跡地の立地する台地面との比高差５～６ｍを測ることから秋元氏開削以前に河川が流れていたと考えられる）を自然の濠と考えれば、豪族の居館址を想定することもできよう。さらに、古墳に深く係わる出土遺物からその墳墓について推測すれば、当然のことながら周囲に位置する総社古墳群が考えられよう。上毛古墳綜覧（注6）に記載されているが現在は開発等によりその姿を目にすることはできない古墳も考慮しなければならないであろうが、現存する古墳と大屋敷遺跡出土遺物で単純に対応させてみると、須恵器大型器台・石製模造品・「三ツ寺型高坏」は王山古墳の構築時期にあたり、台付長頸壺は総社二子山古墳と同時期のものといえよう。

幅６ｍのトレンチ調査であるが、来年以降も発掘調査が継続されることにより、大屋敷遺跡の全貌も少しずつ解明されるであろう。北から東に総社古墳群を携え、西に山王廃寺、南に国府域を望む場所に立地している本遺跡の位置付けは、今後の周辺地域の遺跡も含めて検討されなければならないであろう。

（注１）　梅澤重昭「観音山古墳の発掘調査」『藤ノ木古墳と東国の古墳文化』 群馬県立博物館（1990）。

（注２）　大屋敷遺跡出土の頁岩製模造品と同じ石材を使用した製品は、宮田毅氏（太田市教育委員会）の御教示によれば、市内の金井口埴輪窯址、舞台Ａ・Ｂ・Ｄ遺跡、中西田遺跡、梁場遺跡にもみられる。栃木県埋蔵文化センターの篠原裕一氏の御教示によれば、栃木県内では小山市周辺の鬼高期の遺跡で多出しているとのことである。また、祭祀遺構である富岡市久保遺跡では、石製模造品（製品）が、約6,000点出土しているが、滑石製が99％を占め、大屋敷遺跡と同じ頁岩製のものは、約１％（64点）である。

（注３）　『大屋敷遺跡Ⅰ』（前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1993）において、三ツ寺Ⅰ遺跡・元総社明神遺跡Ⅴ・大屋敷遺跡Ⅰで出土した土師器大型高坏を「三ツ寺型高坏」と呼称した。大屋敷遺跡のＨ－11号住居址で出土した高坏は口径30.6cmを測る。

（注４）　原之城遺跡では、石製模造品が臼玉を含めて約150点出土している。うち滑石製のものは約10％で、他の約90％の石材は頁岩（報告書では「粘板岩質」と表記されているが、大屋敷遺跡出土の頁岩製の石製模造品と同一石材）である。原之城遺跡出土の頁岩製模造品は、大屋敷遺跡のものに比べて肉厚で大きなものである。自然面を残したままの石製模造品もみられる。大屋敷遺跡出土の石製模造品の石材は、臼玉を除くと89％（臼玉を含めると62％）が頁岩製であり、原之城遺跡に近い比率を示している。また、製品に自然面を残したままのものが確認されている点においても共通性がある。これらのことは、２つの遺跡の勢力の違いであるか、頁岩の産地からの距離の違いであるか確定できないが、いずれにしても、原之城遺跡においては大屋敷遺跡より頁岩製模造品を入手し易いことを示していると考えられる。

（注５）　八寸大道上遺跡は、原之城遺跡の約150ｍの谷を挟んだ東側に位置する玉類の製作をしていた集落である。製品も含めてそのほとんどの石材が滑石であり、頁岩製のものは極めて少なく、臼玉や剣形品等において稀にみることができる程度である。また、穿孔した未製品や割り工程の滑石の剥片が大量に出土している。報告書では、八寸大道上遺跡の玉類の生産は、粕川下流域内（原之城遺跡）と東方地域へ向けた生産流通の拠点としての姿であり、原之城居館豪族の権力基盤の一面であったと推定している。しかし、八寸大道上遺跡の石材は滑石であり、原之城遺跡の石製模造品の石材において頁岩が約90％を占めることとは大きく異なっている。このことから考えると八寸大道上遺跡で製作した玉類が原之城居館へ供給されていたかは検討を要するであろう。

（注６）　『上毛古墳綜覧』（群馬縣 1938）には、総社地区に15基の古墳が記載されている。

参　考　文　献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団（1993）『大屋敷遺跡Ⅰ』
前橋市教育委員会（1993）『前二子古墳』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団（1986）『元総社明神遺跡Ⅴ』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団（1988）『三ツ寺Ⅰ遺跡』
伊勢崎市教育委員会（1985）『原之城遺跡』
群　　馬　　県（1988）『群馬県史 資料編1　原始古代1』　群馬県史編さん室
前　　橋　　市（1971）『前橋市史 第1巻』　前橋市史編さん委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団（1989）『八寸大道上遺跡』
群馬県教育委員会（1991）『舞台・西大室丸山』
群馬県立博物館（1990）『藤ノ木古墳と東国の古墳文化』
群　　馬　　縣（1938）『上毛古墳綜覧』
東日本埋蔵文化財研究会（1993）『古墳時代の祭祀―祭祀関係の遺跡と遺物―』
群馬県地域文化振興会（1986）『群馬文化 第208号』坂口　一「古墳時代後期の土器の編年」
群馬県史編さん委員会（1986）『群馬県史研究 第24号』
坂口　一・三浦京子「奈良・平安時代の土器の編年」

Tab. 3　古墳時代～中世土器観察表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig
1	H-28	土師小甕	[12.2]	13.6	①細粒②良好③にぶい褐④1/3	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		45
2	H-29	土師坏	[12.8]	4.5	①細粒②良好③橙④1/2	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		45
3	H-32	土師坏	[14.2]	[5.1]	①細粒②良好③橙④1/2	内斜口縁、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に暗紋。黒色処理。	45
4	H-32	土師坏	11.0	5.4	①細粒②良好③橙④4/5	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。口唇部角頭状。	45
5	H-32	土師坏	12.2	5.2	①細粒②良好③橙④1/2	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に微かに暗紋。	45
6	H-32	土師小甕	13.6	11.5	①中粒②良好③赤橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	欠損。		45
7	H-32	須恵大甕	25.8	13.3	①細粒②良好③灰白④1/6	外反。轆轤。	欠損。	胴部に最大径。内面にたたき痕。	45
8	H-35	須恵高台皿	13.0	2.7	①細粒②良好③明青灰④完形	外反。轆轤。	回転糸切り未調整。	高台後付け。窯変。	45
9	H-35	須恵坏	13.0	3.5	①細粒②不良③灰④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整。		45
10	H-35	須恵坏	[14.8]	3.7	①細粒②良好③明オリーブ灰④1/3	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		45
11	H-35	須恵坏	11.5	3.8	①細粒②良好③灰白④1/3	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整。		45
12	H-35	須恵坏	12.0	3.9	①細粒②良好③灰黄④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		45
13	H-35	須恵高台椀	15.2	5.1	①細粒②良好③灰④2/3	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整。	高台後付け。	45
14	H-35	須恵大型器台	－	[4.7]	①細粒②良好③灰白④小片	欠損。	欠損。	円形の透し口を有す接合部の一部のみ残存。	45
15	H-38	土師盤状坏	17.6	4.6	①細粒②良好③橙④2/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。		45
16	H-38	灰釉高台皿	[13.0]	3.0	①細粒②極良③灰白④1/4	外傾。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。	内面に釉薬刷毛塗り。	46
17	H-38	須恵高台椀	[13.6]	5.7	①細粒②良好③浅黄④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。	高台後付け。	46
18	H-41	土師甕	18.6	[27.0]	①中粒②不良③橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	欠損。	頸部に1条の沈線。	46
19	H-42	須恵坏蓋	12.2	3.1	①細粒②良好③浅黄④3/4	轆轤。回転篦調整。宝珠摘まみ。天井部から口縁部にかけて段と1条の沈線を回らす。口縁部に返し。天井部にわずかに自然釉が付着。			46
20	H-42	土師坏	[10.2]	3.0	①細粒②良好③橙④1/3	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		46
21	H-43	土師坏	15.0	4.6	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		46
22	H-43	須恵台付長頸壺	－	[15.7]	①細粒②良好③明オリーブ灰④1/2	口縁部欠損。轆轤。	後付けされた台部に3方向の円形透かし口。肩部に間隔の空いた櫛状の刺突。		46
23	H-43	土師甕	[21.6]	40.0	①中粒②良好③にぶい橙④5/6	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径。	46
24	H-46	灰釉高台皿	12.8	2.7	①細粒②極良③灰白④ほぼ完形	外傾。轆轤	回転糸切り後篦調整。	高台後付け。釉薬浸し漬け。	46
25	H-46	灰釉高台椀	[13.6]	4.2	①細粒②極良③明オリーブ灰④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り後篦調整。	高台後付け。釉薬浸し漬け。	46
26	H-46	土師小甕	[10.8]	9.2	①細粒②良好③にぶい黄褐④1/2	外傾、横撫で。篦撫で、篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	46
27	H-46	須恵羽釜	[21.0]	[12.4]	①細粒②良好③灰白④1/10	内傾。轆轤。	欠損。	鍔部に最大径。上向きの鍔。	46
28	H-47	土師坏	[12.8]	6.4	①細粒②良好③橙④1/2	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に放射状の暗紋。	46
29	H-47	土師坏	13.8	4.6	①細粒②良好③橙④完形	内斜口縁。横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に放射状の暗紋。	46
30	H-47	土師甕	17.0	29.3	①細粒②良好③明黄褐④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	47

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig
31	H-47	土師小甕	14.4	10.0	①細粒②良好③黄橙④4/5	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		47
32	H-48	須恵坏	10.8	3.6	①細粒②良好③浅黄橙④4/5	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		47
33	H-48	須恵坏	12.0	3.8	①細粒②良好③にぶい褐④3/4	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		47
34	H-48	土師坏	[12.6]	3.6	①細粒②良好③明赤褐④1/4	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		47
35	H-48	須恵高台椀	[19.4]	[7.3]	①細粒②良好③青灰④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。	高台後付け。高台部欠損。大型品。	47
36	H-48	須恵坏	10.8	3.7	①細粒②良好③にぶい橙④3/4	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		47
37	H-48	須恵坏	13.2	3.4	①中粒②不良③明緑灰④完形	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		47
38	H-48	須恵高台椀	[14.0]	7.1	①細粒②不良③にぶい橙④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。	高台後付け。内外面微かに篦磨き。	47
39	H-48	須恵椀	10.2	4.1	①細粒②良好③にぶい黄橙④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		47
40	H-50	土師坏	[13.0]	[5.5]	①細粒②極良③明赤褐④1/3	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	47
41	H-50	土師甕	19.0	32.0	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	47
42	H-53	須恵坏	12.3	4.0	①細粒②良好③緑灰④ほぼ完形	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整		48
43	H-54	須恵坏	11.2	3.6	①細粒②不良③灰褐④2/3	外傾。轆轤。	回転篦削り。		48
44	H-56	須恵坏蓋	[11.2]	3.2	①細粒②良好③灰白④1/2	轆轤。回転篦削り。天井部中心に隆起。			48
45	H-56	土師坏	11.8	3.5	①細粒②良好③橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	48
46	H-56	土師坏	10.8	3.4	①細粒②良好③黄橙④完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。小型品。	48
47	H-56	土師坏	[16.7]	5.2	①細粒②極良③橙④1/2	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		48
48	H-56	土師坏	11.2	3.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	48
49	H-56	土師小壺	[7.2]	7.2	①細粒②良好③橙④1/2	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	頸部に1条の沈線。	48
50	H-56	土師坏	16.0	5.6	①細粒②極良③橙④2/3	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。		48
51	H-56	土師小壺	8.8	10.6	①細粒②良好③浅黄橙④3/4	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	肩部に最大径。	48
52	H-56	土師甕	22.2	36.1	①中粒②不良③明黄褐④2/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径を有する。	48
53	H-57	須恵台付壺	－	[4.5]	①細粒②良好③灰④1/10	脚部のみ残存。脚部に2条の沈線、円形透口。底径（8.6）。			48
54	H-57	土師鉢	[10.4]	6.5	①細粒②良好③浅黄④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	底部肥厚。	48
55	H-57	須恵大形器台	－	[8.1]	①細粒②極良③緑灰④－	鍔状の口唇部に2条の沈線。口縁部に櫛掻き波状文及び1条の沈線。接合部径12.6。脚部に4方向の円と方形の透し口。			48
56	H-58	土師坏	[13.2]	[3.4]	①細粒②不良③赤褐④1/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	48
57	H-58	須恵台付長頸壺	11.4	[31.1]	①細粒②極良③暗緑灰④2/3	直立。轆轤。脚部欠損。頸部に3段の櫛描直線文、胴部に2段の櫛描斜行列点文、脚部3方向に円形および方形の透し口。			48
58	H-58	土師甕	19.6	12.5	①中粒②不良③にぶい橙④1/4	外反、横撫で。篦削り。	欠損。		49
59	H-58	土師甕	20.8	[34.0]	①中粒②不良③にぶい褐④1/3	外反、横撫で。篦削り。	欠損。	口縁部に最大径。	49
60	H-59	土師坏	[9.6]	5.6	①細粒②極良③明赤褐④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	口唇部角頭状。形態特殊。	49
61	H-59	土師坏	13.1	5.2	①細粒②良好③橙④完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	鋭い外稜。口唇部角頭状。	49
62	H-59	土師高坏	－	[5.5]	①細粒②極良③橙④1/2	欠損。	脚部横撫で、篦削り。	脚部のみ残存。底径9.4。	49
63	H-59	土師坏	12.6	5.2	①細粒②良好③橙④完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。口唇部角頭状。	49
64	H-59	土師高坏	[12.8]	9.2	①細粒②良好③橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	脚部篦削り。	坏部に外稜。	49
65	H-59	土師坏	13.2	5.9	①細粒②良好③橙④完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。口唇部角頭状。	49
66	H-59	土師坏	13.0	5.6	①細粒②良好③明赤褐④完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	鋭い外稜と1条の沈線。口唇部角頭状。	49
67	H-59	土師甑	14.0	14.2	①中粒②不良③にぶい橙④完形	直立。篦削り。	篦削り。	内面に刷毛目。焼成後に穿孔。甕の製作変更品。	49
68	H-59	土師甕	14.8	29.0	①中稜②良好③にぶい赤褐④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	49
69	H-59	土師甕	24.0	25.5	①中粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	49
70	H-60	須恵蓋	14.2	5.8	①細粒②良好③暗緑灰④ほぼ完形	轆轤。回転篦調整。摘まみ部撫で調整。突出した円形摘まみ。天井部に外稜。			49
71	H-60	土師坏	15.2	4.4	①細粒②極良③赤褐④ほぼ完形	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。内面底部にベンガラ付着。立ち上がり外面に外稜及び2段の段。底部外面に磨き痕。		49
72	H-61	土師坏	11.8	4.5	①細粒②良好③黄橙④3/4	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	49
73	H-61	須恵椀	[7.8]	6.1	①細粒②極良③緑灰④1/2	直立。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。口縁内側に段。胴部外面に2条1組の沈線が2組。内外面に自然釉付着。		49
74	H-61	須恵高台椀	17.8	4.1	①細粒②極良③灰白④3/4	外傾。轆轤。	回転篦削り。	高台後付け。	50
75	H-61	土師甕	[22.2]	[18.0]	①中粒②不良③黄橙④1/4	外反、横撫で。篦削り。	欠損。	口縁部に最大径。	50
76	H-61	須恵台付長頸壺	－	[15.4]	①細粒②良好③青灰④1/3	頸部から上欠損。肩部に5条の沈線と櫛状の刺突が2列。外面に自然釉付着。内面に平行のたたき目。胴部最大径22.0。			50
77	H-62	土師坏	12.3	4.2	①細粒②良好③橙④4/5	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	50
78	H-63	須恵坏	10.4	4.1	①細粒②極良③明紫灰④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		50
79	H-63	須恵坏	[11.4]	3.9	①細粒②極良③灰④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整		50
80	H-63	土師坏	12.2	3.2	①細粒②良好③にぶい橙④2/3	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		50

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig
81	H－63	土師甕	20.6	[17.5]	①細粒②良好③明褐④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	欠損。		50
82	H－65	須恵高台椀	[13.8]	6.2	①細粒②良好③明オリーブ灰④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。	高台後付け。	50
83	H－65	須恵羽釜	17.2	15.0	①細粒②良好③オリーブ灰④1/10	内傾。轆轤。	欠損。	上向きの鍔。口縁部の一部分のみ残存。	50
84	H－66	土師小壺	[12.0]	[8.0]	①細粒②良好③赤褐④1/8	外反、横撫で。篦削り。	欠損。	胴部に最大径。	50
85	H－66	須恵坏	[12.2]	3.6	①細粒②良好③緑灰④1/3	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整。		50
86	H－66	土師坏	[12.2]	3.1	①細粒②良好③明褐④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		50
87	H－67	土師坏	[12.4]	3.0	①細粒②良好③橙④1/3	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		50
88	H－69	土師椀	[12.2]	6.2	①細粒②良好③橙④1/3	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に暗紋。和泉系統の鬼高Ⅰ式土器。	50
89	H－70	須恵高台椀	[13.0]	3.9	①細粒②良好③明オリーブ灰④1/4	端部外反。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。		51
90	H－71	須恵坏	9.6	3.2	①細粒②極良③灰白④1/4	外傾。轆轤。	回転篦削り。		51
91	H－72	須恵蓋	[13.4]	2.8	①細粒②良好③明緑灰④1/4	轆轤。回転篦調整。摘まみ部撫で調整。円形摘まみ。口縁部に返し。			51
92	H－72	須恵坏	[11.4]	3.1	①中粒②良好③明オリーブ灰④1/3	外傾。轆轤。	回転篦調整。	外面にかすかに自然釉付着。	51
93	H－73	灰釉高台椀	[16.2]	6.2	①細粒②極良③灰白④1/3	外傾。轆轤。	回転篦調整。	内面に釉薬刷毛塗り。	51
94	H－73	土師坏	13.2	3.7	①細粒②良好③橙④2/3	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		51
95	H－74	須恵台付長頸壺	－	[7.5]	①細粒②極良③灰白④1/3	欠損。轆轤。	回転篦調整。	底部～胴部にかけての一部のみ残存。	51
96	H－74	須恵蓋	13.2	2.7	①中粒②不良③灰④4/5	轆轤。回転篦調整。偏平化した宝珠摘まみ。天井部から口縁部にかけて緩やかな段差。口縁部に返し。			51
97	H－74	土師坏	11.0	3.6	①細粒②良好③橙④2/3	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に細い条線状の使用痕。	51
98	H－74	土師坏	12.6	3.7	①細粒②不良③にぶい橙④完形	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。	底部に『井』状の線刻。	51
99	H－74	土師坏	12.8	3.2	①中粒②良好③橙④1/2	外湾、横撫で。篦削り。	篦削り。	底部に『井』状の線刻。	51
100	H－75	須恵平瓶	－	[6.0]	①細粒②極良③灰黄④3/4	欠損。回転篦調整。	篦削り。	肩部全面に同心円状の模様。最大径13.9。	51
101	H－75	須恵坏	[12.8]	4.0	①細粒②極良③灰黄④1/3	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		51
102	H－76	須恵蓋	0.4	[1.7]	①中粒②良好③白④ほぼ完形	轆轤。回転篦調整。つまみ欠損。天井部に3本の線刻と1条の沈線。口縁部に返し。			51
103	H－76	須恵甕	24.4	[7.0]	①細粒②極良③灰④1/6	外反。轆轤。	欠損。	胴部内外面にたたき痕。	51
104	H－76	土師坏	[12.2]	3.9	①細粒②良好③橙④1/2	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。		51
105	H－77	須恵蓋	[12.6]	2.6	①細粒②良好③オリーブ灰④1/3	轆轤。回転篦調整。摘まみ部撫で調整。偏平な円形摘まみ。口縁部に返し。			51
106	H－77	土師坏	11.6	3.5	①細粒②良好③明褐④ほぼ完形	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		51
107	H－77	須恵坏	[12.8]	4.1	①細粒②極良③明オリーブ灰④1/3	外傾。轆轤。	回転糸切り後篦調整。		51
108	H－77	土師坏	[18.0]	3.7	①中粒②不良③橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部の立ち上がりがなだらかで皿状。	51
109	H－77	土師坏	[11.8]	3.7	①細粒②良好③橙④2/3	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		51
110	H－78	土師坏	12.2	3.1	①細粒②良好③にぶい橙④2/3	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		51
111	H－79	土師坏	[15.6]	[5.0]	①細粒②良好③橙④1/4	内斜口縁、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に平行な暗紋。	52
112	H－79	土師高坏	17.2	13.0	①細粒②極良③橙④5/6	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	坏部内外面及び脚部に暗紋。	52
113	H－79	土師甕	17.2	[15.5]	①中粒②良好③にぶい橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。	欠損。		52
114	H－81	土師坏	[12.2]	3.7	①中粒②良好③橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。内面に微かに放射状暗紋。	52
115	H－81	土師小壺	11.4	11.7	①中粒②良好③明赤褐④2/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	52
116	H－81	須恵大甕	－	[26.0]	①細粒②良好③にぶい赤褐④1/8	欠損。撫で調整。	欠損。	内外面にたたき痕。胴部一部分のみ残存。	52
117	H－82	土師坏	12.6	4.6	①中粒②不良③淡黄④完形	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	立ち上がり外面に外稜及び1条の沈線。	52
118	H－82	須恵坏身	11.9	4.2	①細粒②良好③緑灰④口縁部一部欠損	内傾。轆轤。	篦調整。	鋭い外稜。	52
119	H－82	土師坏	12.6	4.5	①中粒②不良③にぶい黄橙④完形	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	鋭い外稜。	52
120	H－82	土師甕	－	[20.0]	①中粒②良好③浅黄④1/3	欠損。篦削り。	篦削り。	底径8.3。	52
121	H－83	土師甑	13.4	11.8	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径。	53
122	H－83	土師高坏	16.6	14.0	①細粒②極良③橙④ほぼ完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	坏部に外稜。	53
123	H－83	土師甕	20.4	35.5	①中粒②良好③浅黄④ほぼ完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	53
124	H－87	土師坏	11.6	3.8	①細粒②良好③にぶい橙④2/3	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		53
125	H－88	須恵高台椀	[12.6]	3.7	①中粒②不良③明オリーブ灰④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整。	高台後付け。	53
126	H－88	灰釉高台椀	[14.8]	4.5	①細粒②良好③灰白④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切り後篦調整。	内面に釉薬刷毛塗り。	53
127	H－88	土師坏	11.8	4.1	①細粒②良好③浅黄④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整。	内面篦磨き黒色処理。	53
128	H－88	須恵羽釜	[21.0]	[13.5]	①細粒②良好③にぶい褐④1/10	内傾。轆轤。	欠損。	鍔部に最大径。上向きの鍔。	53
129	H－89	土師坏	10.0	3.3	①細粒②良好③橙④4/5	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	53
130	H－92	土師坏	[12.6]	3.3	①細粒②良好③橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		53

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig
131	H−92	須恵坏	[13.0]	4.0	①細粒②極良③明オリーブ灰④1/2	外傾。轆轤。	回転篦調整。		53
132	H−93	須恵坏	13.0	3.6	①細粒②良好③灰白④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り後篦調整。		53
133	H−93	須恵羽釜	[19.6]	[6.0]	①細粒②極良③黒④1/20	内傾。轆轤。	欠損。	水平の鍔。口縁部の一部のみ残存。	53
134	H−94	灰釉長頸壺	−	[12.5]	①細粒②極良③オリーブ灰④1/3	欠損。轆轤。	欠損。	胴部一部分のみ残存。外面に自然釉付着。	54
135	H−94	土師坏	[14.0]	4.0	①細粒②極良③橙④1/4	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に平行な暗紋。	54
136	H−96	土師甕	23.6	[28.0]	①細粒②良好③黄橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。	欠損。	口縁部に最大径。	54
137	H−97	土師高坏	−	[4.6]	①細粒②極良③明褐④1/3	欠損。	脚部横撫で、篦削り。	脚部のみ残存。底径8.2。	54
138	H−97	土師高坏	[8.4]	13.0	①細粒②極良③橙④1/3	欠損。	脚部篦削り、撫で調整。	脚部に大きな膨らみ。	54
139	H−97	土師坏	12.6	4.8	①細粒②稜③橙④4/5	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	54
140	H-101	土師坏	10.2	3.2	①中粒②良好③橙④2/3	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。小型品。	54
141	H-101	須恵坏	9.2	3.3	①細粒②良好③緑灰④ほぼ完形	直立。轆轤。	不定方向篦削り。	蓋の可能性有り。	54
142	H-101	土師坏	[14.0]	4.7	①細粒②良好③橙④1/2	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		54
143	H-102	土師坏	12.6	3.7	①細粒②良好③橙④1/2	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		54
144	H-103	須恵羽釜	21.6	23.6	①細粒②極良③にぶい黄④1/2	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面に暗紋。鍔部に最大径。下向きの鍔。	54
145	H-104	土師坏	13.0	3.8	①細粒②良好③黄橙④2/3	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		54
146	H-104	土師坏	10.8	3.4	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		54
147	H-104	土師坏	15.6	5.8	①細粒②極良③橙④1/2	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		54
148	H-104	土師坏	11.4	3.3	①細粒②良好③にぶい橙④3/4	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		54
149	H-104	土師小甕	12.0	[8.0]	①細粒②良好③明赤褐④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	54
150	H-104	須恵甕	12.8	[12.0]	①中粒②良好③にぶい橙④1/2	外反。轆轤。	欠損。		54
151	H-104	須恵蓋	[19.2]	[2.5]	①細粒②良好③青灰④1/4	轆轤。回転篦調整。口縁部に返し。摘まみ欠損。			55
152	H-104	須恵坏	[13.2]	4.0	①細粒②良好③灰白④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。		55
153	H-105	須恵蓋	18.9	3.5	①細立②良好③灰白④4/5	轆轤。回転篦調整。偏平な円形摘まみ。口縁部に返し。			55
154	H-105	須恵高台椀	[16.2]	4.2	①細粒②極良③緑灰④1/3	外傾。轆轤。	回転篦削り。		55
155	H-105	土師坏	17.4	3.8	①細粒②良好③橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	55
156	H-105	土師坏	14.8	5.1	①中粒②良好③にぶい橙④完形	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		55
157	H-106	土師坏	12.8	3.0	①細粒②良好③黄橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		55
158	H-107	土師坏	11.6	2.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。		55
159	H-108	土師坏	12.0	4.2	①中粒②良好③灰黄褐④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	55
160	H-108	土師坏	12.5	4.3	①中粒②不良③浅黄④3/4	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	55
161	H-108	土師坏	13.0	4.8	①細粒②良好③橙④2/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	55
162	H-108	土師小甕	[13.6]	[10.0]	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/3	外反、横撫で。篦削り。	欠損。	口縁部に最大径。	55
163	H-110	土師坏	[14.4]	[4.0]	①細粒②良好③橙④1/4	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		55
164	H-111	須恵大甕	23.4	44.2	①細粒②極良③明オリーブ灰④2/3	外反、轆轤。口縁端部に沈線及び波状文。頸部に波状文。胴部外面に平行なたたき痕。内面に青海波状文。			55
165	H-111	土師高坏	[13.0]	7.3	①細粒②極良③にぶい橙④1/3	端部外反、横撫で。篦削り。	篦削り。(脚部)横撫で。		56
166	H-111	土師坏	11.8	4.1	①細粒②良好③橙④完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	56
167	H-111	土師坏	11.8	4.5	①細粒②良好③黄橙④ほぼ完形	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	56
168	H-111	須恵小壺	7.4	7.9	①細粒②極良③暗赤褐④完形	湾曲。轆轤。	回転糸切り後撫で調整。	胴部に『井』状の線刻。二次焼成を受ける。	56
169	H-111	土師大型坏	18.0	8.5	①細粒②極良③黄橙④ほぼ完形	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	56
170	H-111	土師甕	23.2	[17.9]	①中粒②良好③にぶい橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。	欠損。	胴部に最大径。	56
171	H-112	土師坏	[12.0]	3.7	①細粒②良好③橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	56
172	H-112	土師小甕	13.6	15.1	①中粒②良好③明黄褐④完形	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	56
173	H-112	土師甑	[24.0]	25.8	①中粒②良好③明黄褐④4/5	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径。	56
174	H-114	台付長頸壺	8.0	[9.8]	①細粒②極良③緑灰④1/10	外反。欠損。	欠損。	頸部のみ残存。	56
175	H-114	土師坏	[11.4]	4.4	①細粒②良好③橙④1/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面にまばらな暗紋。	56
176	H-114	須恵坏	12.8	3.8	①細粒②良好③明緑灰④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整。		56
177	H-114	須恵坏	11.8	3.7	①細粒②良好③緑灰④4/5	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。	内外面自然釉付着。	56
178	H-115	土師坏	13.0	4.2	①細粒②良好③黄橙④2/3	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。		56
179	H-115	須恵坏	10.3	3.0	①中粒②不良③淡赤橙④3/4	端部外反。轆轤。	回転糸切り未調整。		56
180	H-115	須恵坏蓋	[10.6]	3.5	①細粒②極良③灰白④1/2	轆轤。回転篦削り。天井部に1条の沈線。			57

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig
181	H-115	土師坏	[17.4]	6.3	①細粒②極良③橙④1/3	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		57
182	H-116	土師坏	12.0	5.6	①中粒②良好③明赤褐④完形	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。	内面にまばらな暗紋。	57
183	H-116	土師甕	15.4	18.5	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	欠損。	胴部に最大径。	57
184	H-117	土師坏	14.4	5.2	①細粒②良好③橙④2/3	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。		57
185	H-118	土師坏	[13.2]	[4.8]	①細粒②良好③橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	57
186	H-118	土師高坏	15.0	[5.9]	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	欠損。	杯部に外稜。	57
187	H-118	土師皿	−	3.6	①細粒②極良③橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁が楕円形を成す。	57
188	H-118	土師坏	[14.4]	5.2	①細粒②極良③にぶい橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。内面黒色処理。	57
189	H-118	土師坏	[12.0]	4.9	①細粒②極良③黄橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	不明瞭な幅広の外稜。	57
190	H-119	土師坏	10.6	3.2	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。		57
191	H-119	土師甕	[22.0]	43.0	①中粒②不良③にぶい橙④2/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径。	57
192	H-121	須恵高台椀	[17.6]	5.4	①細粒②極良③灰④1/4	外傾。轆轤。	回転篦削り。		57
193	H-121	須恵坏	[12.0]	3.4	①細粒②良好③灰白④1/2弱	外傾。轆轤。	回転篦削り。		57
194	H-126	土師坏	[14.4]	3.6	①細粒②良好③灰黄④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。底部に2本の線刻。	57
195	H-127	土師坏	11.0	3.4	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	端部外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	小型品。	57
196	H-128	土師坏	12.8	4.3	①細粒②良好③赤褐③完形	内傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	57
197	H-128	土師坏	12.8	4.2	①細粒②良好③黄橙④完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	57
198	H-129	土師坏	12.8	5.4	①細粒②極良③橙④完形	直立ぎみ外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	鋭い外稜。口唇部角頭状。	57
199	H-129	土師高坏	17.4	[8.5]	①細粒②極良③橙④1/2	外傾、横撫で。篦調整。	脚部欠損。	坏部に外稜。口唇部角頭状。	58
200	H-129	土師坏	12.4	5.5	①中粒②良好③橙④完形	端部外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。口唇部角頭状。	58
201	H-129	土師甕	19.0	33.4	①中粒②良好③にぶい黄橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	58
202	H-129	土師甕	19.0	35.8	①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	58
203	H-129	土師甑	27.5	31.5	①中粒②良好③浅黄④5/6	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径。	58
204	H-129	土師甑	26.8	34.5	①中粒②良好③浅黄④ほぼ完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径。	58
205	H-129	土師甕	16.8	24.4	①中粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。	59
206	H-130	須恵坏	10.5	3.6	①細粒②良好③灰白④完形	外傾。轆轤。	回転糸切り後篦調整。		59
207	H-131	須恵蓋	19.6	3.2	①細粒②極良③オリーブ灰④1/2	外面回転撫で調整。天井部篦削り。内面ほぼ中央に特殊な返し。承皿か?			59
208	W−4	土師坏	12.0	3.8	①細粒②良好③橙④3/4	内湾、横撫で。篦削り。	篦削り。		59
209	W−7	カワラケ	12.6	2.6	①細粒②良好③橙④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切り後篦調整。		59
210	W−7	須恵高台椀	[14.0]	5.6	①細粒②不良③にぶい橙④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。	高台後付け。	59
211	W−7	カワラケ	7.6	2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外傾。轆轤。	回転糸切り後篦調整。	内面にすす付着。	59
212	W−7	内耳鍋	29.2	14.8	①細粒②良好③灰④2/3	外傾。轆轤。	撫で調整	口縁部内側に二つの内耳。	59
213	I−2	須恵高台椀	11.8	[3.8]	①細粒②極良③灰④1/2	外傾。轆轤。	回転篦削り。	高台部欠損。	59
214	I−2	須恵坏	[12.0]	3.8	①細粒②良好③明青灰④1/3	外傾。轆轤。	回転糸切り未調整。		59
215	X32Y81	土師高坏	−	[5.7]	①細粒②良好③橙④1/4	欠損。	(脚部)篦削り。	脚部のみ残存。	59
216	X38Y66	土師坏	[16.0]	6.1	①細粒②良好③明赤褐④1/3	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	59
217	X59Y86	土師坏	13.0	6.1	①細粒②良好③橙④完形	直立、横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。口唇部角頭状。	59
218	X59Y86	土師小甕	13.6	12.6	①細粒②良好③明黄褐④4/5	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り、撫で調整。		60
219	X59Y86	土師台付甕	[10.4]	[12.9]	①細粒②良好③明赤褐④2/3	外反、横撫で。篦削り。	篦削り。	台部欠損。	60
220	X59Y86	土師甑	[26.0]	27.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	外反、横撫で。篦削り。		口縁部に最大径。	60
221	X59Y86	土師甕	19.4	38.5	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外傾、横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径。	60
222	X59Y86	須恵大甕	20.2	[25.5]	①細粒②極良③緑灰④1/4	外反。轆轤。	底部欠損。口唇部に1条の沈線。胴部外面に格子状のたたき痕。内面に刷り消し調整。		60
223	A区表採	灰釉高台皿	16.2	2.8	①細粒②極良③明緑灰④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切り後篦調整。	口縁部外側に段。内面に釉薬刷毛塗り。	60

注）表の記載は以下の基準で行った。

① 胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0〜1.9㎜以下）、粗粒（2.0㎜以上）とした。

② 焼成は、極良・良好・不良の三段階。

③ 色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原　1976）によった。

④ 大きさの単位は㎝であり、現存値を［　］、復元値を（　）で示した。

Tab. 4 臼 玉 観 察 表

番号	出土位置	幅	厚さ	重さ	石材
1	H－32	7	5	0.2	滑蛇紋
2	H－38	[8]	[10]	[0.7]	土 玉
3	H－38	8	6	0.4	滑 石
4	H－88	6	4	0.05	蛇紋岩
5	H－91	管玉(石製模造品として分類)			
6	H－54	9	6	0.4	滑 石
7	H－54	7	3	0.05	滑 石
8	H－55	8	4	0.2	頁 岩
9	H－55	5	2	0.01	滑蛇紋
10	H－55	7	5	0.2	滑 石
11	H－55	9	4	0.3	頁 岩
12	H－55	14	6	2.1	滑 石
13	H－55	7	3	0.05	滑 石
14	H－55	8	4	0.2	滑 石
15	H－55	7	3	0.1	滑 石
16	H－55	7	3	0.1	頁 岩
17	H－55	7	3	0.1	滑 石
18	H－55	[15]	[5]	[0.7]	滑 石
19	H－56	8	2	0.05	頁 岩
20	H－56	8	1	0.04	頁 岩
21	H－56	18	4	0.1	滑 石
22	H－56	7	4	0.1	滑 石
23	H－56	8	2	0.06	頁 岩
24	H－56	7	3	0.05	滑 石
25	H－56	8	2	0.05	頁 岩
26	H－56	8	3	0.2	頁 岩
27	H－56	8	4	0.2	頁 岩
28	H－56	8	2	0.05	頁 岩
29	H－56	8	3	0.1	頁 岩
30	H－56	7	5	0.2	滑 石
31	H－56	[4]	[5]	[0.1]	頁 岩
32	H－62	6	3	0.05	滑蛇紋
33	H－63	7	3	0.04	滑 石
34	H－64	8	3	0.1	滑 石
35	H－66	9	5	0.4	滑 石
36	H－81	13	6	1.8	滑 石
37	H－97	8	3	0.05	頁 岩
38	H－97	7	4	0.1	滑 石
39	H－97	9	8	1.0	滑 石
40	H－97	7	7	0.4	滑 石
41	H－97	7	3	0.1	滑 石
42	H－97	8	2	0.05	頁 岩
43	H－97	6	3	0.06	滑 石
44	H－97	6	4	0.05	滑 石
45	H－97	9	5	0.6	滑 石
46	H－97	7	4	0.1	滑 石
47	H－97	8	3.5	0.2	頁 岩
48	H－97	7	3	0.1	滑 石
49	H－97	8	3	0.06	滑 石
50	H－97	7	3	0.2	滑 石
51	H－97	8	4	0.2	滑 石
52	H－97	7	5	0.2	滑 岩
53	H－97	7	2	0.04	滑 石
54	H－97	8	5	0.2	頁 岩
55	H－97	8	4	0.06	頁 岩
56	H－97	8	2	0.05	頁 岩
57	H－97	8	4	0.2	頁 岩
58	H－97	8	3	0.05	頁 岩
59	H－97	8	2	0.04	頁 岩
60	H－97	7	2	0.06	滑 石
61	H－97	7	4	0.1	滑 石
62	H－97	8	5	0.3	滑 石
63	H－97	7	3	0.1	滑 石
64	H－97	7	5	0.2	滑 石
65	H－97	8	5	0.3	蛇紋岩
66	H－97	7	5	0.3	滑 石
67	H－97	6	5	0.2	滑 石
68	H－97	7	4	0.2	滑 石
69	H－97	8	4	0.2	蛇紋岩
70	H－97	8	3	0.2	頁 岩
71	H－97	8	6	0.4	滑 石
72	H－97	7	6	0.3	滑 石
73	H－97	8	5	0.3	頁 岩
74	H－97	8	4	0.3	滑 石
75	H－97	8	5	0.2	頁 岩
76	H－97	7	5	0.2	頁 岩
77	H－97	7	2	0.3	滑 石
78	H－97	8	3	0.05	頁 岩
79	H－97	7	5	0.2	滑 石
80	H－97	7	3	0.05	頁 岩
81	H－97	8	5	0.1	滑 石
82	H－97	8	5	0.3	滑 石
83	H－97	7	4	0.05	滑 石
84	H－97	[8]	[5]	[0.1]	滑 石
85	H－97	6	6	0.2	滑 石
86	H－97	7	4	0.2	滑 石
87	H－97	8	2	0.5	頁 岩
88	H－97	7	5	0.2	頁 岩
89	H－97	8	5	0.4	頁 岩
90	H－97	8	4	0.2	頁 岩
91	H－97	8	5	0.3	頁 岩
92	H－97	7	4	0.1	頁 岩
93	H－97	8	2	0.05	頁 岩
94	H－97	7	4	0.05	滑 石
95	H－97	7	4	0.1	滑 石
96	H－97	6	2	0.03	頁 岩
97	H－97	8	4	0.2	頁 岩
98	H－97	10	6	0.5	滑 石
99	H－97	6	5	0.1	滑 石
100	H－97	8	2	0.05	頁 岩
101	H－97	7	5	0.1	頁 岩
102	H－97	8	3	0.1	頁 岩
103	H－97	7	6	0.2	頁 岩
104	H－97	6	4	0.05	滑 石
105	H－97	[6]	[2]	[0.02]	頁 岩
106	H－97	8	7	0.4	頁 岩
107	H－97	8	4	0.2	頁 岩
108	H－97	7	4	0.1	頁 岩
109	H－97	8	3	0.1	頁 岩
110	H－97	7	4	0.05	頁 岩
111	H－97	8	3	0.06	頁 岩
112	H－97	7	4	0.2	蛇紋岩
113	H－97	8	2	0.05	頁 岩
114	H－97	8	2	0.05	頁 岩
115	H－97	7	3	0.05	頁 岩
116	H－97	8	2	0.04	頁 岩
117	H－97	8	1	0.05	頁 岩
118	H－97	5	3	0.02	頁 岩
119	H－97	9	6	0.6	滑 石
120	H－97	6	5	0.1	滑 石
121	H－97	6	4	0.1	滑 石
122	H－97	6	5	0.2	滑 石
123	H－97	6	4	0.2	滑 石
124	H－97	6	5	0.2	滑 石
125	H－97	6	4	0.1	滑 石
126	H－97	6	5	0.1	滑 石
127	H－97	[7]	[2]	[0.06]	滑 石
128	H－97	[7]	[5]	[0.1]	滑 石
129	H－97	6	6	0.05	滑 石
130	H－97	8	3	0.2	頁 岩
131	H－97	7	5	0.3	蛇紋岩
132	H－97	6	4	0.05	頁 岩
133	H－97	6	5	0.04	頁 岩
134	H－97	9	2	0.05	頁 岩
135	H－97	7	3	0.06	頁 岩
136	H－97	7	4	0.2	滑 石
137	H－97	6	4	0.2	滑 石
138	H－97	8	3	0.1	滑 石
139	H－97	7	4	0.1	滑 石
140	H－97	7	3	0.1	滑 石
141	H－97	7	2	0.05	滑 石
142	H－97	[7]	[2]	[0.02]	滑 石
143	H－97	8	5	0.3	蛇紋岩
144	H－97	7	2	0.04	滑 石
145	H－97	8	4	0.2	滑 石
146	H－97	6	3	0.5	滑 石
147	H－97	7	4	0.1	滑 石
148	H－97	7	3	0.05	滑 石
149	H－97	8	4	0.1	滑 石
150	H－97	8	2	0.1	頁 岩
151	H－97	[9]	[4]	[0.2]	滑 石
152	H－97	[7]	[2]	[0.1]	頁 岩
153	H－97	7	4	0.3	滑 石
154	H－97	8	3	0.3	頁 岩
155	H－97	8	2	0.1	頁 岩
156	H－97	7	1	0.05	頁 岩
157	H－97	7	5	0.3	滑 石
158	H－97	7	5	0.2	滑 石
159	H－97	8	5	0.3	滑 石
160	H－97	7	5	0.2	滑 石
161	H－97	7	2	0.1	滑 石
162	H－97	7	2	0.1	滑 石
163	H－97	[8]	[2]	[0.05]	頁 岩
164	H－97	9	3	0.3	頁 岩
165	H－97	7	3	0.05	頁 岩
166	H－97	7	3	0.05	頁 岩
167	H－98	8	4	0.2	滑 石
168	H－98	6	4	0.05	滑 石
169	H－98	7	4	0.1	頁 岩
170	H－118	10	4	0.3	頁 岩
171	X-48Y55	8	2	0.1	頁 岩
172	X-49Y66	8	3	0.1	滑 石
173	C区表採	8	4	0.3	滑 石
174	C区表採	9	7	0.6	滑 石
175	C区表採	8	4	0.3	頁 岩
176	C区表採	7	5	0.2	滑 石
177	C区表採	8	4	0.4	滑 石
178	C区表採	6	4	0.1	滑 石
179	C区表採	[7]	[4]	[0.05]	滑 石
180	C区表採	[8]	[4]	[0.05]	滑 石
181	H－97	[8]	[4]	[0.1]	滑 石
182	H－108	[10]	[10]	[0.8]	土 玉
183	H－109	[8]	[7]	[0.3]	土 玉
184	W－5	12	6	0.7	滑 石

注）表の記載で、幅と厚さの単位は mm 、重さは g であり、現存値は［ ］で示した。
※滑蛇紋は滑石質蛇紋岩を示している。

Tab. 5 石製模造品観察表

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	H－54	カマ	3.5	2.8	0.4	3.9	頁岩
2	H－54	刀子	3.1	2.7	0.6	4.0	頁岩
3	H－54	線刻の有る板状品	2.6	2.7	0.4	2.1	頁岩
4	H－54	有孔円板	2.4	1.9	0.4	1.8	頁岩
5	H－55	勾玉	5.8	3.4	0.7	15.0	頁岩
6	H－55	有孔円板	2.3	1.8	0.4	1.3	頁岩
7	H－55	板状品	4.2	3.5	0.6	8.0	頁岩
8	H－55	剣形品	3.1	2.0	0.3	1.2	頁岩
9	H－56	矢じり	4.0	3.2	4.0	5.4	頁岩
10	H－56	有孔板	3.6	3.8	0.5	6.5	頁岩
11	H－56	刀子	3.5	1.4	0.5	2.5	頁岩
12	H－56	刀子	5.7	2.0	0.8	15.0	頁岩
13	H－56	斧	8.3	6.1	0.8	64.0	頁岩
14	H-56•57	線刻の有る板状品	8.7	7.8	1.2	21.6	頁岩
15	H－57	勾玉	4.0	2.4	0.6	6.0	頁岩
16	H－57	紡錘車	2.9	1.7	0.6	2.9	滑石質蛇紋岩
17	H－57	有孔板	3.5	3.8	0.5	5.0	頁岩
18	H－57	有孔板	3.6	2.4	0.6	7.6	頁岩
19	H－83	勾玉	5.2	3.9	0.8	14.3	頁岩
20	H－91	管玉	2.5	0.6	－	1.8	蛇紋岩
21	H－97	剣形品	5.1	2.9	0.7	12.4	滑石
22	H－97	剣形品	4.2	3.1	0.6	11.2	頁岩
23	H－97	剣形品	4.0	1.9	0.4	4.0	滑石
24	H－97	剣形品	4.8	2.9	0.6	6.9	頁岩
25	H－97	矢じり	4.1	2.9	0.6	6.0	頁岩
26	H－97	刀子	3.9	1.7	5.0	3.8	頁岩
27	H－97	勾玉	2.2	2.6	0.5	3.0	頁岩
28	H－97	勾玉	2.6	2.4	0.5	3.5	頁岩
29	H－97	勾玉	3.3	3.8	0.5	6.2	頁岩
30	H－97	線刻の有る板状品	2.2	2.3	0.5	3.0	頁岩
31	H－97	有孔板	3.1	3.4	0.6	8.4	頁岩
32	H－97	有孔板	3.4	1.9	0.6	5.5	頁岩
33	H－98	線刻の有る板状品	5.7	4.7	0.9	17.2	頁岩
34	H-108	有孔板	3.7	2.1	0.7	6.0	頁岩
35	H-117	有孔板	2.3	2.7	0.6	4.0	頁岩
36	H-130	紡錘車	－	1.9	1.5	15.0	滑石
37	A区表採	有孔円板	2.1	2.0	0.5	2.2	頁岩
38	C区表採	剣形品	3.7	1.8	0.7	7.6	滑石
39	C区表採	盾	3.7	2.7	1.6	16.9	滑石
40	D区表採	勾玉	5.9	3.5	0.7	15.6	頁岩

注）表の記載で、大きさと重さについての単位は cm と g である。

大屋敷遺跡出土の頁岩の産地について

飯島静男

産地：足尾山地または多野山地か？

資料ＯＹ9401は大屋敷遺跡より出土した石製模造品の破片または剥離片である。肉眼的には頁岩と同定された。灰色極細粒で、剥理が一方向(堆積面？)に認められる。風化部分において淡褐白色を呈す。硬度に異方性があり、剥理面では研削されやすく、その直交方向にてはやや硬い。

鏡下では極微細なモザイク状石英と粘土鉱物および少量の炭質物様粒子等よりなる。石英は明らかに再結晶性のものであり、砕屑粒としての粒径ならびに外形のものは含まれない。消光角が比較的揃っている。

粉末Ｘ線回折では石英＞雲母類＞緑泥石などが認められた。

以上から、該資料は、やや珪質の頁岩、ないし珪質頁岩である。この場合の「珪質頁岩」は、初成的に珪質の頁岩であって、新第三紀層中によくみられる二次的に珪化し、硬質化した頁岩とは異なる。このような頁岩は半遠洋性～遠洋性の堆積環境を示し、陸棚層(県内では奥利根，戸倉，岩室中生層など)の地層中には産しない。該資料の産地が県内にあるとすれば、いわゆる秩父中・古生層の分布する、足尾山地または多野山地方面に、それをもとめることが可能であろう。

なおＳＥＭ（走査型電子顕微鏡）による観察では、多角形～不定形の結晶が雑然と集合しており、放散虫等の微生物遺骸は認められない。

Tab. 6 鉄器観察表

番号	出土位置	器形	長さ	幅	厚さ	残存	備考
1	H－28	斧	4.5	2.8	0.3	完形	柄の装着部を袋状にした鉄斧の模造品。
2	H－32	鳶口？	[20.5]	1.0	0.8	2/3	柄の装着部に木質が残る。先端部を欠く。
3	H－48	鎌	[10.0]	3.2	0.4	1/2	先端部及び柄の装着部を欠く。
4	H－67	釘	[10.3]	1.0	0.8	ほぼ完形	
5	H－69	紡錘車	[5.4]	6.5	0.2	2/3	軸両端を欠く。
6	H－97	釘	8.9	1.8	0.5	完形	偏平化。
7	H－98	鎌	13.5	2.3	0.3	ほぼ完形	先端部を欠く。柄の装着部に折り返しを有する。
8	H－104	釘	9.3	0.6	0.6	完形	
9	H－116	鎌	[5.9]	3.3	0.35	1/3	先端部および柄の装着部を欠く。

注）表の記載で、大きさについての単位は cm であり、現存値は［　］で示した。

Tab. 7 瓦 観 察 表

No.	出土地	瓦の種別	厚さ (cm)	胎土		焼成		成形技法							整形技法					摘要
				素地	夾雑物	焼き上り	色調	粘土版剥取 凹面	粘土版剥取 凸面	作り	桶寄木痕	粘土版合せ目	布の合せ目	叩目	轆轤痕	篦削	布の擦消 凹面	布の擦消 凸面	側部面取	
1	H－42	桟瓦	1.5																	桟瓦藤岡
2	H－46	男瓦	2.2	並	少	硬	灰	○	－	半截	－	－	－	－	○	－	－	－	2	秋間
3	H－46	男瓦	2.0	粗	並	並	灰	－	－	半截	－	S	－	－	○	－	－	－	－	秋間
4	H－46	男瓦	1.7	粗	並	軟	灰褐	－	－	半截	－	－	－	縄多	○	－	－	－	2	秋間
5	H－46	男瓦	1.9	並	少	硬	灰	－	－	半截	－	－	－	－	○	－	－	－	－	秋間
6	H－53	女瓦	1.4	密	微	締	暗灰	○	－	桶？	－	－	－	正格子	？	－	－	－	2	秋間
7	H－61	女瓦	2.0	密	微	締	暗灰	－	－	桶？	－	－	－	－	○	凹	－	－	2	秋間
8	H－63	女瓦	2.1	並	少	硬	灰	○	－	桶巻	－	－	－	－	○	－	－	－	2	秋間
9	H－63	女瓦	2.1	並	並	硬	暗灰	○	－	桶巻	－	－	－	－	○	－	－	－	2	秋間
10	H－63	女瓦	1.9	密	微	締	灰	－	－	桶巻	－	－	－	－	？	－	－	－	－	秋間
11	H－67	女瓦	1.6	密	微	締	灰	－	－	桶？	－	－	－	－	○	－	－	－	2	秋間
12	H－74	女瓦	1.7	密	微	締	灰	－	－	桶巻	○	－	－	－	○	－	－	－	－	秋間
13	H－74	男瓦	1.5	密	微	締	灰	－	－	半截	－	－	－	－	○	－	－	－	－	秋間
14	H－75	女瓦	1.6	密	微	締	灰	－	－	桶巻	－	－	－	－	○	－	－	－	2	秋間
15	H－77	女瓦	1.7	並	並	並	灰	○	－	桶巻	－	－	－	－	○	－	－	－	－	秋間
16	H－77	女瓦	1.5	密	少	締	灰	－	－	桶か	○	－	－	縄単	－	－	－	－	－	秋間
17	H－104	女瓦	1.9	密	少	硬	灰褐	○	－	桶巻	○	－	－	－	○	－	－	－	1	秋間
18	H－104	男瓦	1.1	密	少	締	暗灰	－	－	半截	－	－	－	－	○	－	－	－	－	秋間
19	H－105	男瓦	1.3	密	少	締	暗灰	○	－	半截	－	－	－	－	○	－	－	－	1	秋間
20	H－105	女瓦	1.5	並	少	硬	灰白	○	－	桶か	細	－	－	－	轆？	－	－	－	2	秋間
21	H－111	女瓦	1.1	密	微	締	灰	－	－	桶か	細	－	－	縄単	－	－	－	－	2	秋間
22	H－114	男瓦	1.0	密	微	締	灰	－	－	半截	－	－	－	－	○	－	－	－	2	秋間
23	W－7	女瓦	2.0	密	少	硬	灰	－	－	桶巻	？	－	－	－	○	－	－	－	－	秋間
24	W－7	男瓦	1.0	粗	少	硬	灰	－	－	半截	－	－	－	－	○	－	－	－	－	秋間
25	W－7	女瓦	1.7	粗	少	軟	灰白	－	－	一枚	○	－	－	縄多	－	－	－	－	－	秋間
26	W－7	女瓦	1.7	密	微	締	灰	－	－	桶巻	○	？	－	－	○	－	－	－	2	秋間
27	B区表採	鐙瓦	1.1	密	少	締	暗灰	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	秋間
28	B区表採	女瓦	1.8	並	並	並	橙灰	－	－	一枚か	－	－	－	－	－	－	－	－	3	吉井
29	D区表採	女瓦	2.1	粗	多	硬	灰	－	－	桶巻	○	－	－	－	○	縦撫	－	－	3	秋間
30	D区表採	女瓦	1.7	粗	多	並	暗灰	－	－	一枚か	－	－	－	－	－	縦撫	－	－	－	吉井
31	D区表採	男瓦	1.2	並	並	硬	灰	－	－	半截	－	－	－	－	○	－	－	－	－	秋間
32	D区表採	女瓦	2.0	密	少	締	灰	－	－	桶巻	○	○	－	－	○	－	－	－	－	秋間

※ 秋間の古手が多い。その中で、9C後半の吉井系が2点入っている。

Tab. 8 石器・石製品観察表

番号	出土位置	器種	長	幅	厚	重さ	石材	備考
1	X33Y79	石鏃	[2.0]	2.2	0.4	2.0	黒色安山岩	凹器無茎鏃。先端部欠損。
2	X47Y41	石鏃	[1.5]	2.4	0.8	0.8	黒色頁岩	平基無茎鏃。先端部欠損。
3	X49Y60	石鏃	2.6	1.7	3.0	1.0	黒色安山岩	凹器無茎鏃。右側基部欠損
4	X48Y57	石鏃	[2.0]	1.3	0.4	1.0	黒色頁岩	有舌尖頭器。先端部(茎部)欠損。
5	C区表採	石鏃	3.5	1.7	0.5	2.3	黒色頁岩	凸器有平茎鏃。
6	X47Y86	打製石斧	7.5	4.6	1.3	40	黒色頁岩	両側縁から刃部にかけて調整。
7	X48Y51	打製石斧	[4.6]	3.8	1.2	20	細粒安山岩	表裏面に自然面を残す。刃部欠損。両側縁に細かい調整。
8	X49Y63	打製石斧	[4.9]	6.6	1.2	25	黒色頁岩	両側縁から刃部にかけて細かい調整。
9	X62Y86	打製石斧	[7.0]	5.1	1.5	55	黒色頁岩	両側縁から刃部にかけて細かい調整。
10	X64Y86	打製石斧	[6.0]	3.3	2.1	50	黒色頁岩	表裏面に自然面を残す。刃部欠損。片側縁に細かい調整。
11	X61Y85	凹石・磨石	56.5	42.8	23.2	26000	角閃石安山岩	中央部に広範囲な凹。表面に摩耗痕。
12	H－92	砥石	9.6	2.6	3.0	100	砥沢石	小型で上部に円孔を有する。携帯用として使用か？表面に著しい使用痕が認められる。
13	H－101	砥石	16.1	6.2	5.9	600	砥沢石	全ての側面に使用痕が認められる。
14	D区表採	砥石	[10.7]	4.0	2.8	90	砥沢石	下部欠損。全ての側面に使用痕が認められる。
15	W－7	凹石	[14.7]	10.3	6.3	1500	粗粒安山岩	表裏面中央部に凹。
16	W－7	石臼	[9.4]	[10.1]	6.6	520	粗粒安山岩	上臼。縁部欠損。表裏面に摩耗痕。

注）表の記載で、大きさと重さについての単位はcm、gであり、現存値は［ ］で示した。

Tab. 9 縄文式土器観察表

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	備考
1	X48Y68	①中粒(金雲母)②良好③橙④口縁	微隆起。半截竹管による連続爪形文。	阿玉台
2	X51Y70	①中粒(金雲母)②不良③橙④口縁	微隆起。半截竹管による連続爪形文。	阿玉台
3	X32Y80	①細粒(金雲母)②極良③灰褐④胴部	沈線。縄文(RL)。沈線区画。	阿玉台
4	B区表採	①細粒②極良③橙④口縁	沈線。縄文(RL)。	加曽利E
5	X53Y86	①中粒②良好③橙④胴部	沈線。縄文(RL)。沈線区画。	加曽利E
6	X46Y86	①細粒②極良③明赤褐④胴部	沈線。縄文(LR)。沈線区画による磨消縄文帯。	加曽利E3
7	X47Y86	①細粒②極良③明赤褐④胴部	沈線。縄文(LR)。磨消縄文帯。	加曽利E3
8	X61Y86	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	沈線。縄文(RL.LR)。沈線区画による磨消縄文帯。	加曽利E
9	X61Y86	①中粒②極良③にぶい橙④胴部	沈線。縄文(L)。沈線区画による磨消縄文帯。	加曽利E
10	X62Y86	①細粒②良好③にぶい橙④口縁	沈線。縄文(LR)。沈線区画による磨消縄文帯。	加曽利E
11	X47Y86	①細粒②極良③にぶい橙④口縁	沈線。縄文(LR)。沈線区画。	加曽利E
12	X47Y86	①細粒②極良③橙④口縁	沈線。縄文(L)。細い沈線区画による磨消縄文帯。	加曽利E
13	X59Y86	①細粒②極良③にぶい褐④胴部	沈線。縄文(RL)。沈線区画。	加曽利E4
14	X47Y86	①細粒②極良③橙④胴部	沈線。縄文(LR)。沈線区画による磨消縄文帯。	加曽利E4
15	X34Y84	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	微隆起。縄文(LR)。微隆起線文。	加曽利E4
16	X34Y84	①中粒②良好③橙④胴部	微隆起。0段多条縄文(RL)。微隆起線文。	加曽利E4
17	X61Y86	①細粒②極良③にぶい橙④胴部	微隆起。縄文(L)。曲線的な沈線区画。	加曽利E4
18	X57Y86	①中粒②良好③橙④胴部	微隆起。沈線。縄文(LR)。	加曽利E4
19	X57Y86	①細粒②極良③橙④口縁	横位沈線。区画内を斜めの沈線で充填。	加曽利E
20	X58Y86	①細粒②極良③にぶい赤褐④口縁	横位沈線。区画内を斜めの沈線で充填。	加曽利E
21	X44Y87	①中粒②極良③にぶい橙④胴部	縦位・斜位沈線。	加曽利E
22	X59Y86	①細粒②極良③橙④胴部	微隆起。	加曽利E4
23	A区表採	①中粒②不良③橙④口縁	微隆起。	加曽利E4
24	X61Y86	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	条線。櫛歯条工具による直線的な条線文。縦位沈線。	加曽利E4
25	X63Y86	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	条線。微隆起による区画中に櫛歯条工具による波状条線文。	加曽利E4
26	X61Y86	①中粒②不良③にぶい橙④胴部	条線。櫛歯条工具による条線文。横位沈線。	加曽利E4
27	X43Y87	①細粒②良好③橙④胴部	条線。櫛歯条工具による波状条線文。	加曽利E4
28	X50Y65	①中粒②不良③橙④胴部	条線。櫛歯条工具による直線的な条線文。	加曽利E4
29	X49Y61	①中粒②良好③橙④胴部	隆帯。横S字条隆帯区画中に縦位沈線を充填。	加曽利E2
30	X47Y86	①中粒②極良③明赤褐④口縁	隆帯。口唇部に円形把手。隆帯による渦巻文。	加曽利E
31	X49Y68	①中粒②良好③明赤褐④胴部	隆帯。斜位沈線。	加曽利E
32	X57Y86	①中粒②極良③明赤褐④口縁	隆帯。地文に縄文(LR)。	加曽利E
33	X49Y86	①細粒②極良③橙④胴部	隆帯。縄文(LR)。隆帯区画中に縄文(LR)を充填。縦位条線。	加曽利E
34	X58Y86	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁	隆帯。縄文(LR)。隆帯区画中に縄文(LR)を充填。縦位条線。	加曽利E
35	B区表採	①粗粒②良好③にぶい橙④口縁	隆帯。縄文(LR)。地文に縄文(LR)。隆帯による口縁部文様帯。	加曽利E
36	B区表採	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	隆帯。刺突。横位沈線中に刺突。	加曽利E
37	X61Y86	①中粒②不良③明褐④胴部	刺突。横位沈線中に刺突。	加曽利E
38	X61Y86	①中粒②不良③橙④胴部	刺突。	加曽利E
39	X58Y86	①中粒②不良③にぶい橙④胴部	刺突。	加曽利E
40	X47Y86	①中粒②不良③にぶい橙④胴部	円形刺突。横位沈線。	加曽利E
41	X64Y86	①細粒②良好③にぶい赤褐④口縁	円形刺突。肥厚な口唇部に円形刺突。	加曽利E
42	A区表採	①中粒②不良③橙④口縁	円形刺突。横位沈線。	加曽利E

注）表の記載は以下の基準で行った。

① 胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜以下）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名を記載した。

② 焼成は、極良・良好・不良の三段階。

③ 色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原 1976）によった。

④ 残存は、ほとんどが小片のため、所属部位を記載した。

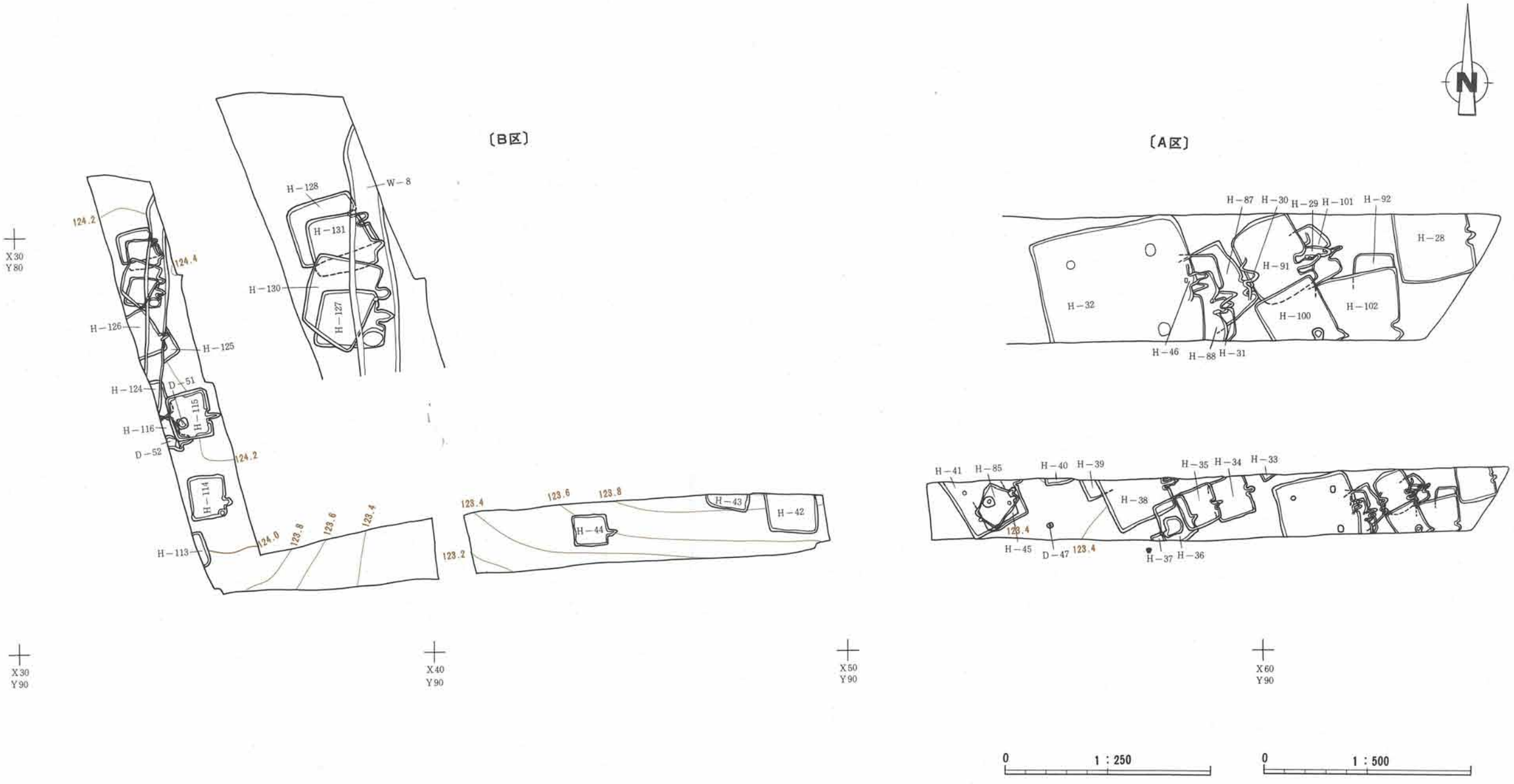


Fig.10 遺跡・遺構全体図（A・B区）

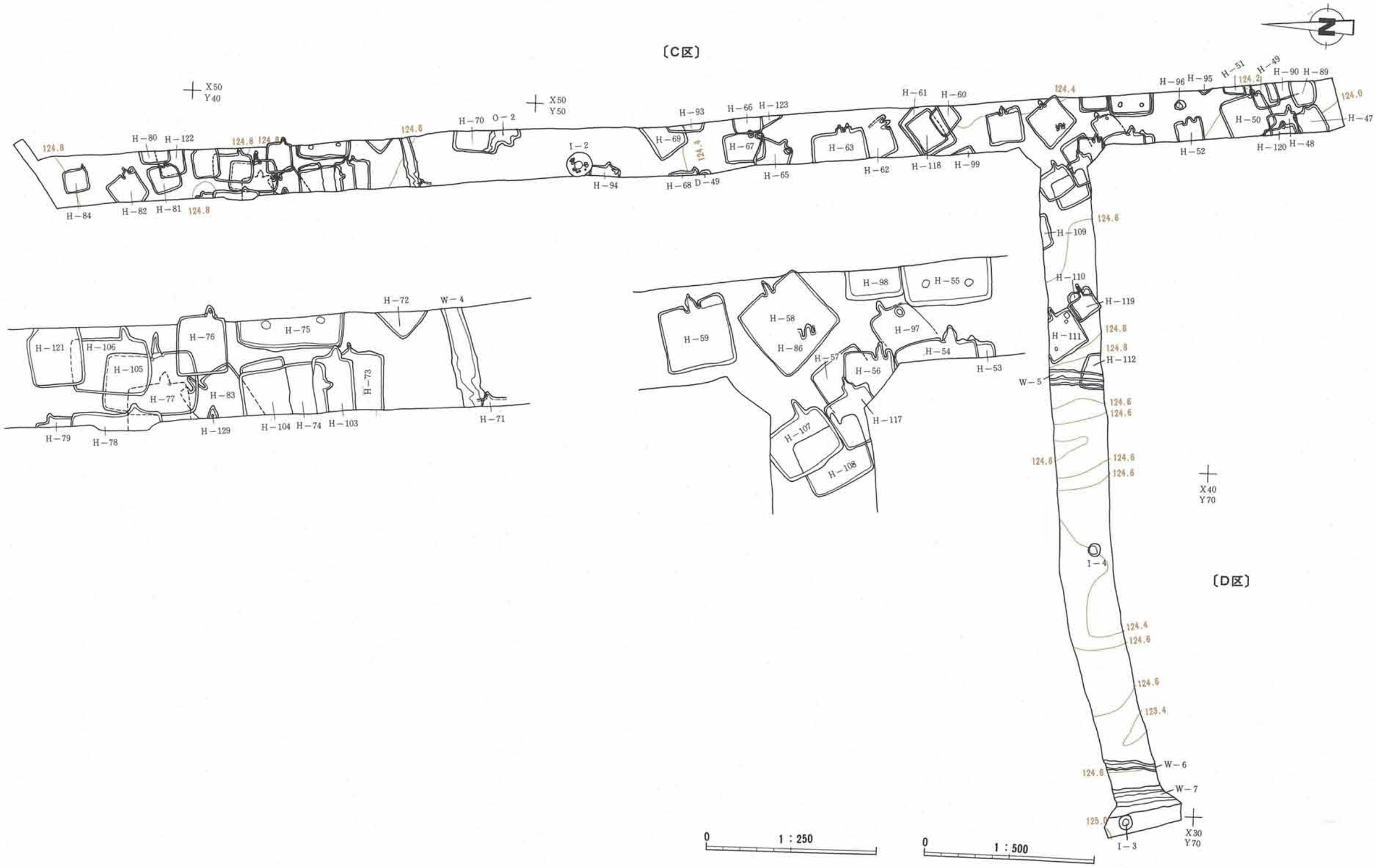
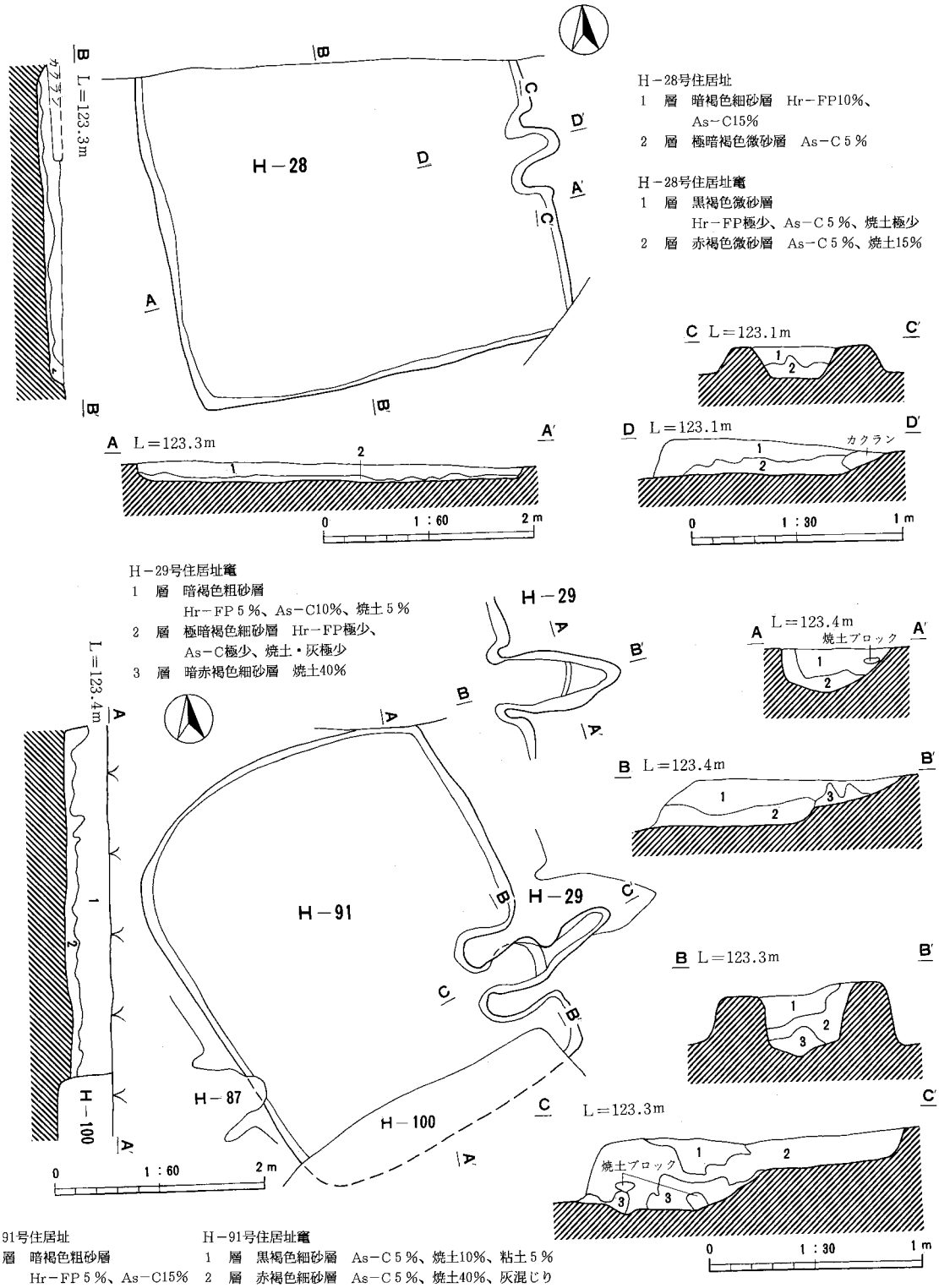


Fig. 11　遺跡・遺構全体図（C・D区）



H－28号住居址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP10%、As～C15%
2　層　極暗褐色微砂層　As－C５%

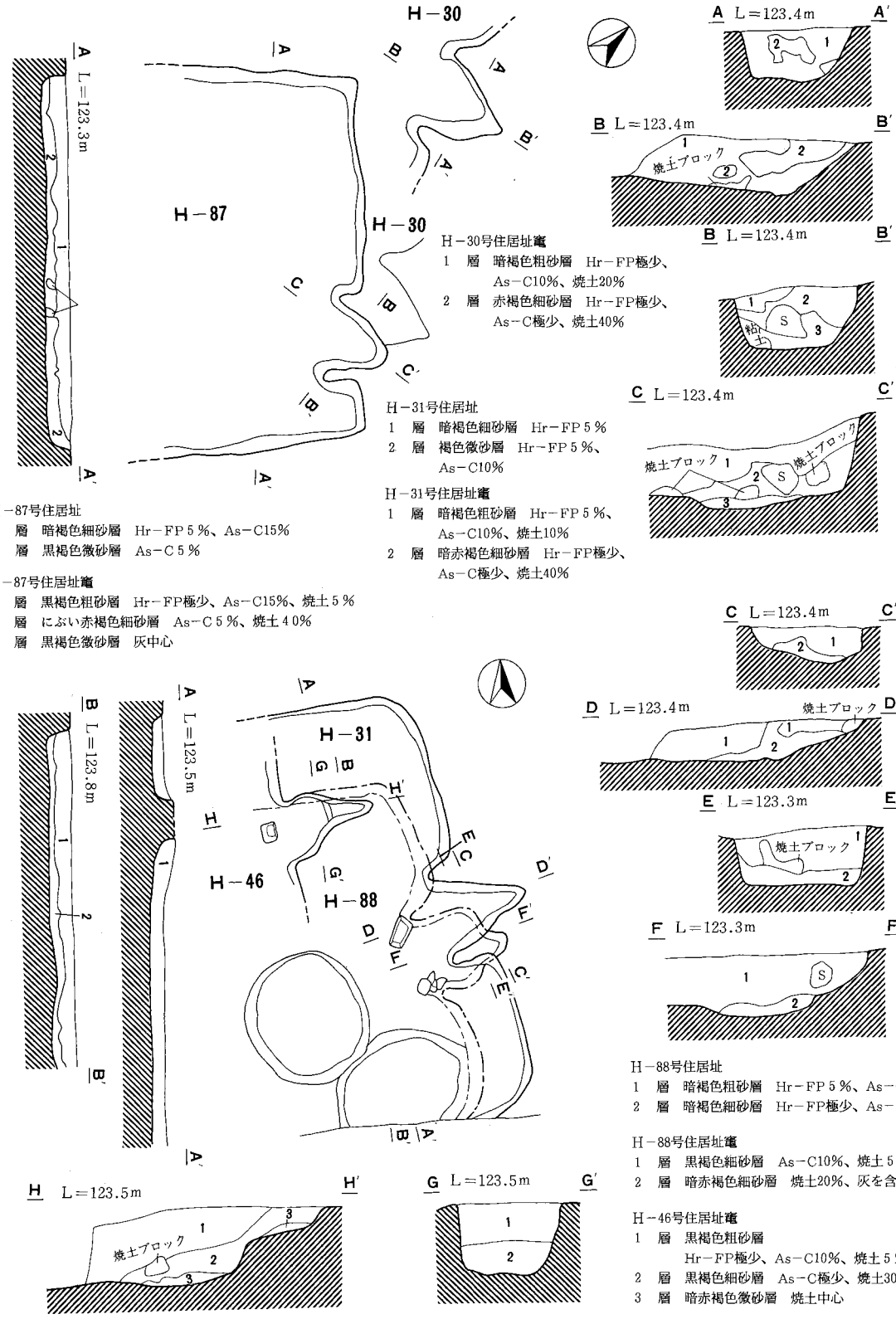
H－28号住居址竈
1　層　黒褐色微砂層　Hr－FP極少、As－C５%、焼土極少
2　層　赤褐色微砂層　As－C５%、焼土15%

H－29号住居址竈
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP５%、As－C10%、焼土５%
2　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C極少、焼土・灰極少
3　層　暗赤褐色細砂層　焼土40%

H－91号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP５%、As－C15%
2　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５%

H－91号住居址竈
1　層　黒褐色細砂層　As－C５%、焼土10%、粘土５%
2　層　赤褐色細砂層　As－C５%、焼土40%、灰混じり
3　層　極暗赤褐色細砂層　焼土20%、灰中心

Fig. 12　H－28, 29・91号住居址



H－30号住居址竈
1 層 暗褐色粗砂層 Hr－FP極少、As－C10%、焼土20%
2 層 赤褐色細砂層 Hr－FP極少、As－C極少、焼土40%

H－31号住居址
1 層 暗褐色細砂層 Hr－FP 5 %
2 層 褐色微砂層 Hr－FP 5 %、As－C10%

H－31号住居址竈
1 層 暗褐色粗砂層 Hr－FP 5 %、As－C10%、焼土10%
2 層 暗赤褐色細砂層 Hr－FP極少、As－C極少、焼土40%

H－87号住居址
1 層 暗褐色細砂層 Hr－FP 5 %、As－C15%
2 層 黒褐色微砂層 As－C 5 %

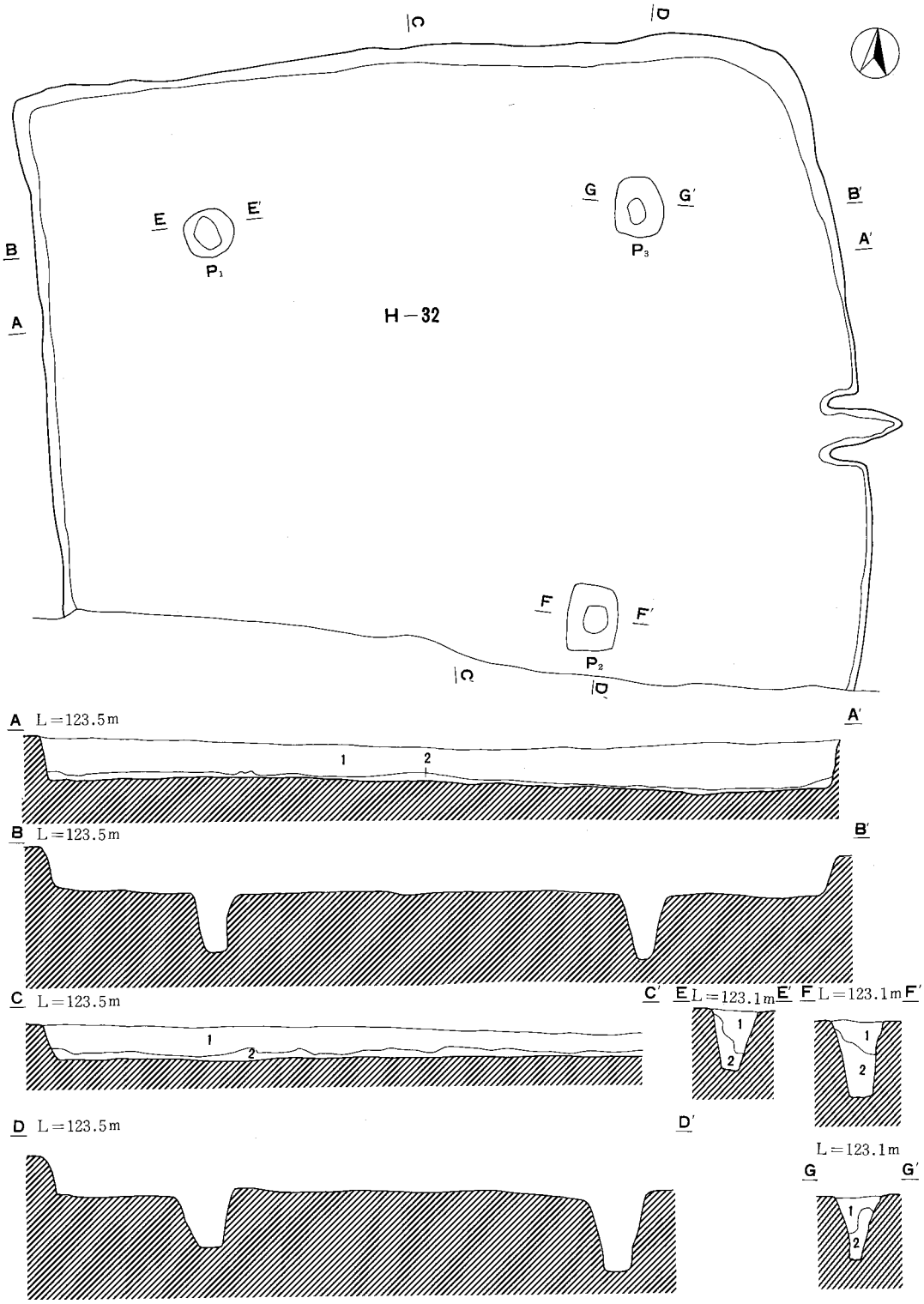
H－87号住居址竈
1 層 黒褐色粗砂層 Hr－FP極少、As－C15%、焼土 5 %
2 層 にぶい赤褐色細砂層 As－C 5 %、焼土 4 0%
3 層 黒褐色微砂層 灰中心

H－88号住居址
1 層 暗褐色粗砂層 Hr－FP 5 %、As－C15%
2 層 暗褐色細砂層 Hr－FP極少、As－C 5 %

H－88号住居址竈
1 層 黒褐色細砂層 As－C10%、焼土 5 %
2 層 暗赤褐色細砂層 焼土20%、灰を含む

H－46号住居址竈
1 層 黒褐色粗砂層 Hr－FP極少、As－C10%、焼土 5 %
2 層 黒褐色細砂層 As－C極少、焼土30%
3 層 暗赤褐色微砂層 焼土中心

Fig. 13 H－30・87, 31・46・88号住居址



H－32号住居址
1　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C10%
2　層　黒褐色微砂層　As－C 5 %

H－32号住居址 P1～P3
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　褐色微砂層　Hr－FP極少、As－C 5 %

Fig. 14　H－32号住居址

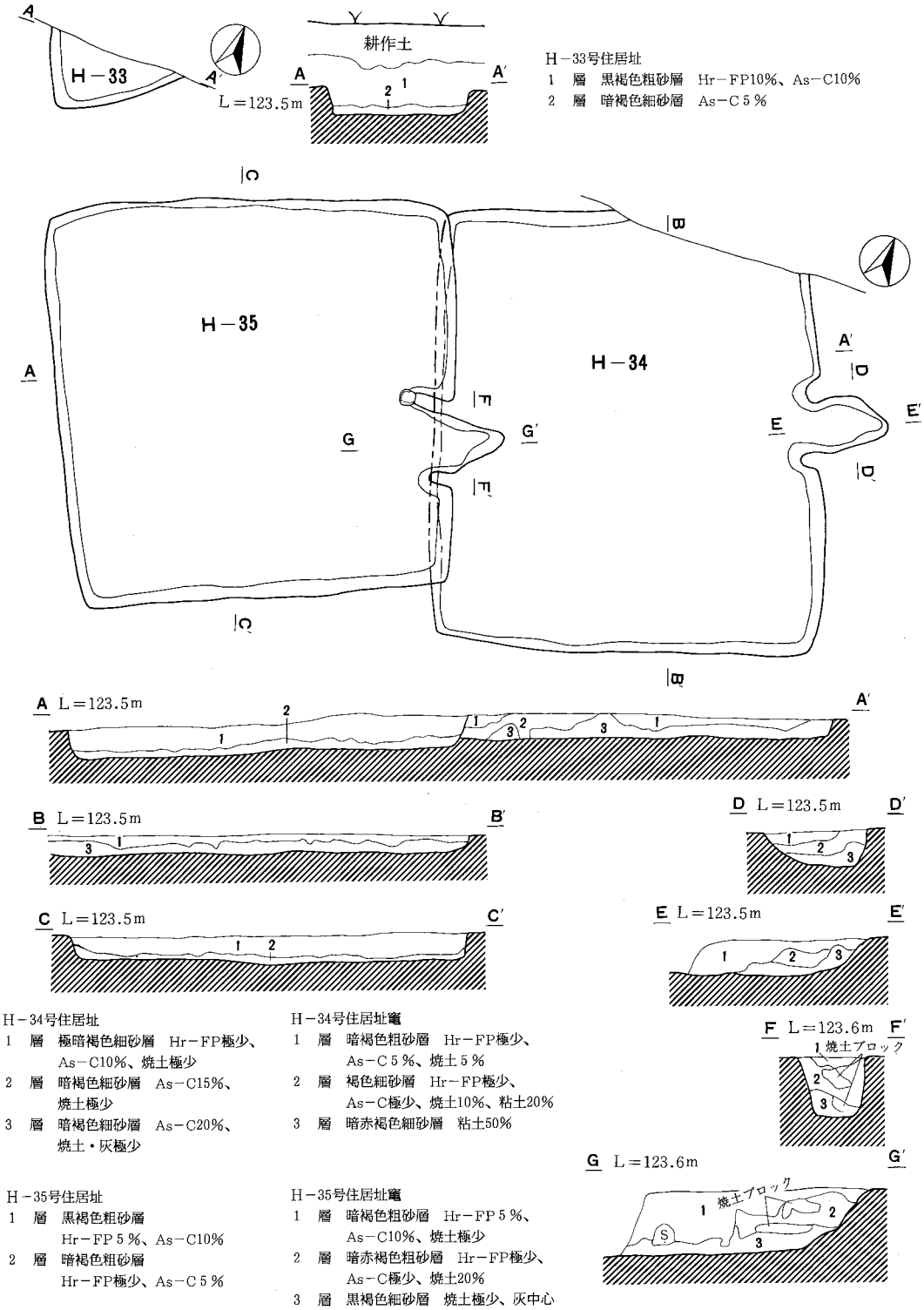
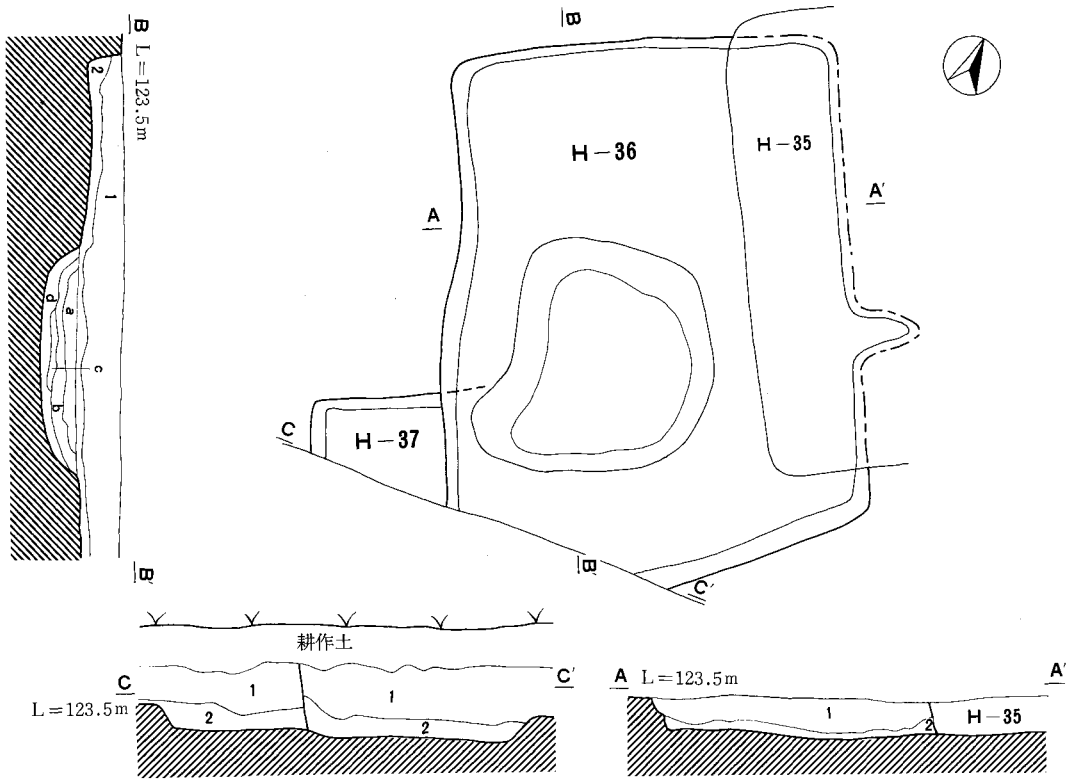
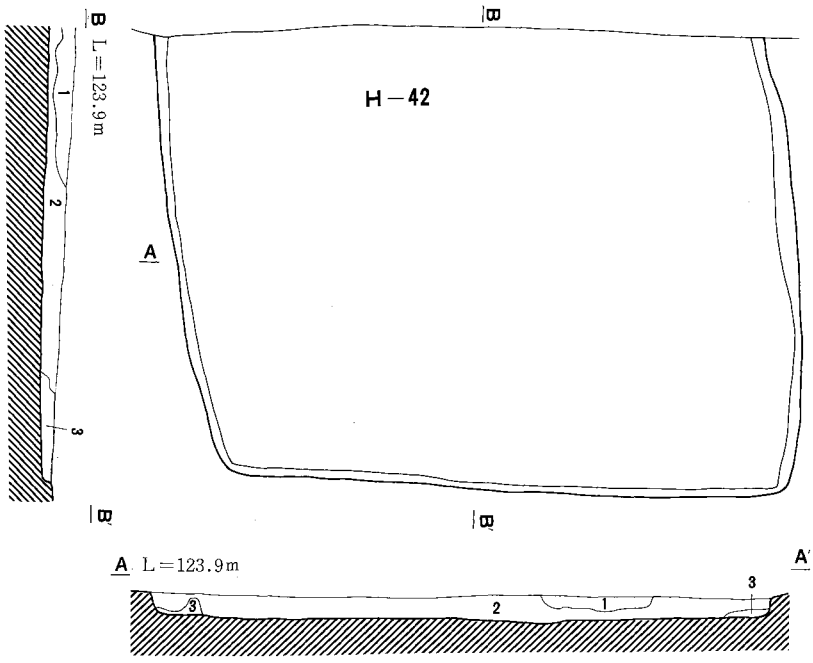


Fig. 15　H－33, 34・35号住居址





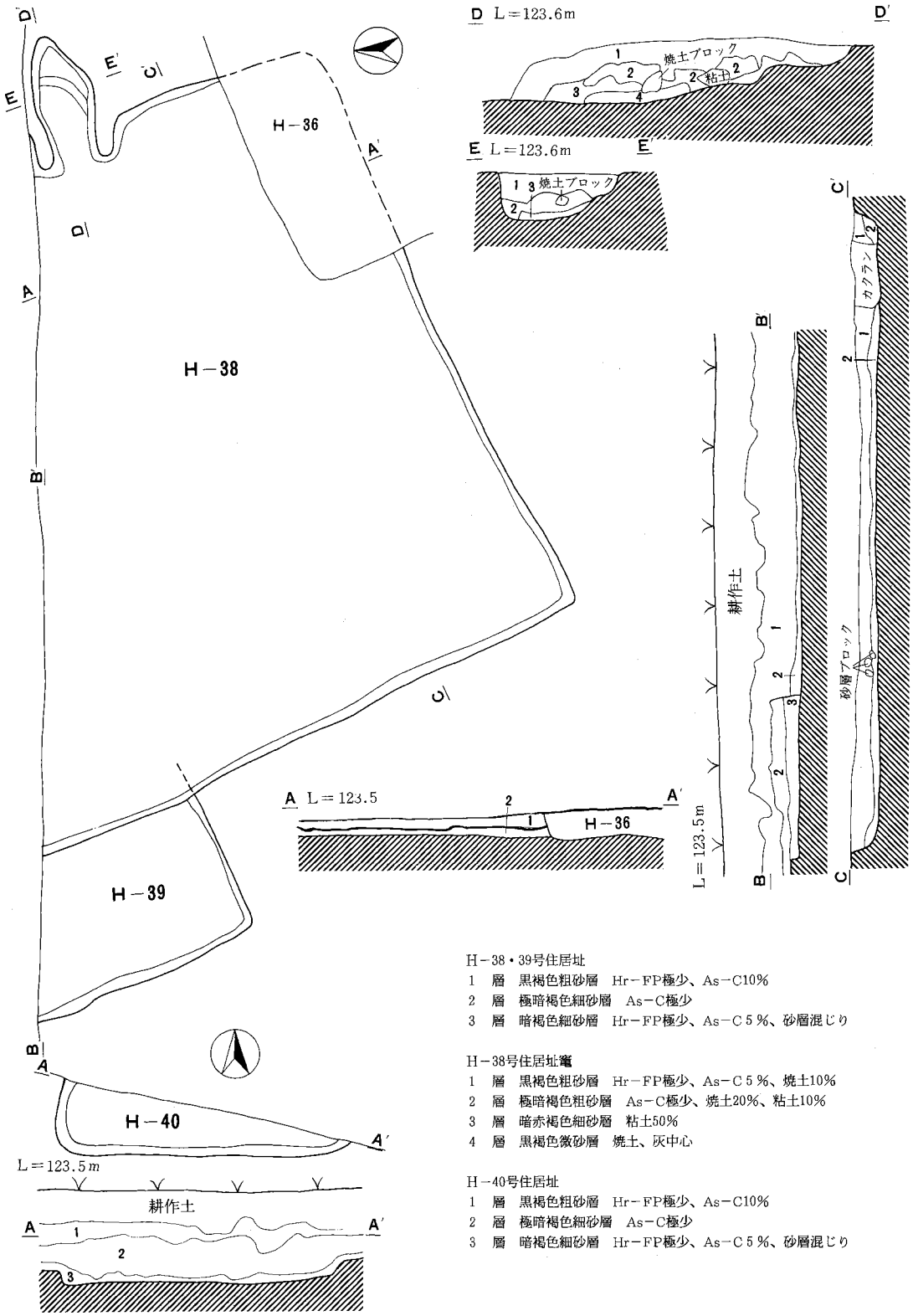
H－36号住居址
1　層　暗褐色粗砂層
Hr－FP５％、As－C５％
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、
As－C５％、砂層混じり

H－36号住居址床下土坑
a　層　にぶい褐色粘土層　As－C５％
b　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、
As－C極少
c　層　暗褐色細砂層　As－C５％
d　層　黒褐色細砂層　As－C極少

H－37号住居址
1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP極少、
As－C10％
2　層　極暗褐色細砂層　As－C極少

H－42号住居址
1　層　褐色粗砂層　Hr－FP５％、
As－C15％
2　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP極少、
As－C10％、川砂利５％
3　層　褐色細砂層　As－C極少、
川砂利20％

Fig. 16　H－36・37, 42号住居址



H－38・39号住居址

1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C10%

2　層　極暗褐色細砂層　As－C極少

3　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５%、砂層混じり

H－38号住居址竈

1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C５%、焼土10%

2　層　極暗褐色粗砂層　As－C極少、焼土20%、粘土10%

3　層　暗赤褐色細砂層　粘土50%

4　層　黒褐色微砂層　焼土、灰中心

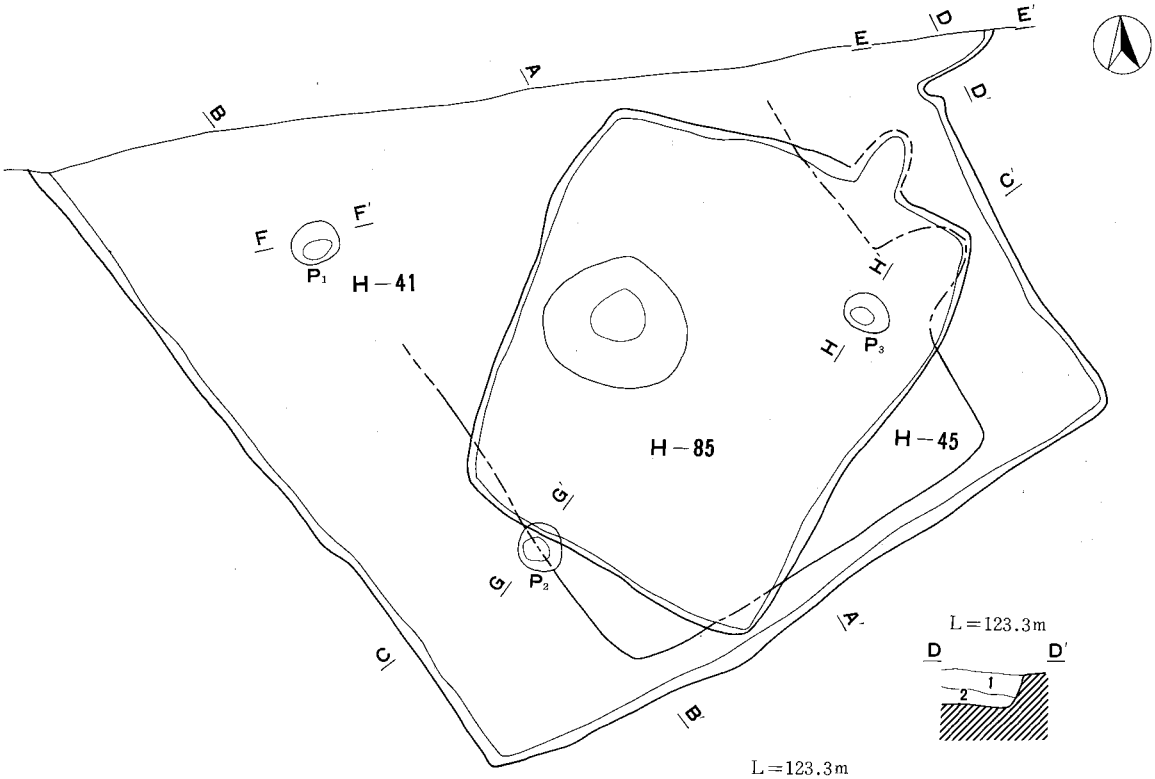
H－40号住居址

1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C10%

2　層　極暗褐色細砂層　As－C極少

3　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５%、砂層混じり

Fig. 17　H－38・39, 40号住居址



H－85・41号住居址

1　層　明褐色粗砂層　Hr－FP５％、As－C10％
2　層　黒褐色細砂層　Hr－FP５％、As－C５％
3　層　黒褐色粘土層　As－C５％
4　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５％
5　層　明褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C10％

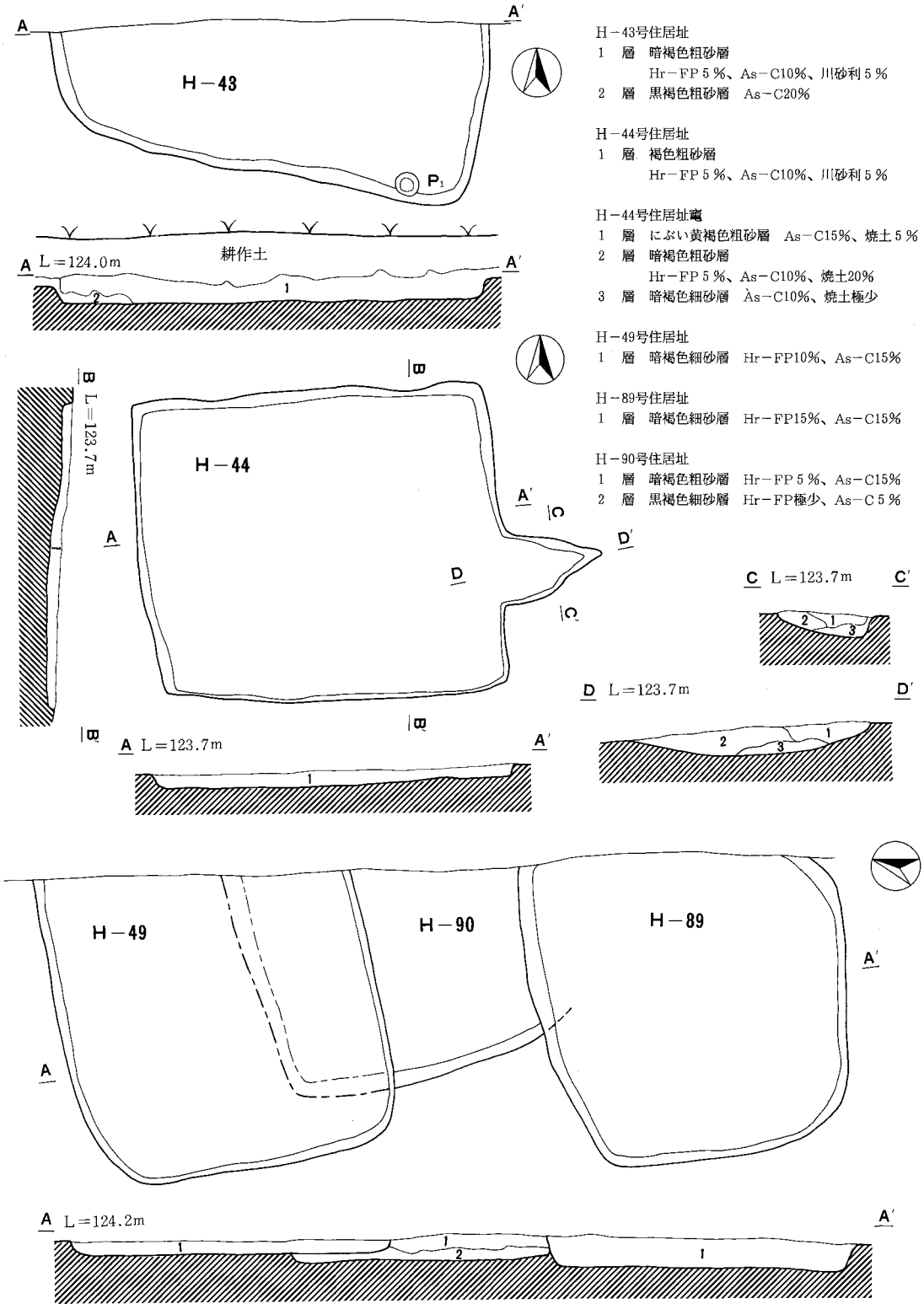
H－41号住居址竈

1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C５％、焼土５％
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP５％、As－C５％、焼土20％
3　層　極暗赤褐色細砂層
　　Hr－FP５％、As－C５％、焼土15％

H－41号住居址P1～P3

1　層　褐色細砂層　Hr－FP15％、As－C10％
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP５％、As－C５％
3　層　褐色細砂層　Hr－FP５％、As－C５％、砂層混じり
4　層　にぶい黄褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C極少

Fig. 18　H－41・45, 85号住居址



H－43号住居址
1　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C10%、川砂利 5 %
2　層　黒褐色粗砂層　As－C20%

H－44号住居址
1　層　褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C10%、川砂利 5 %

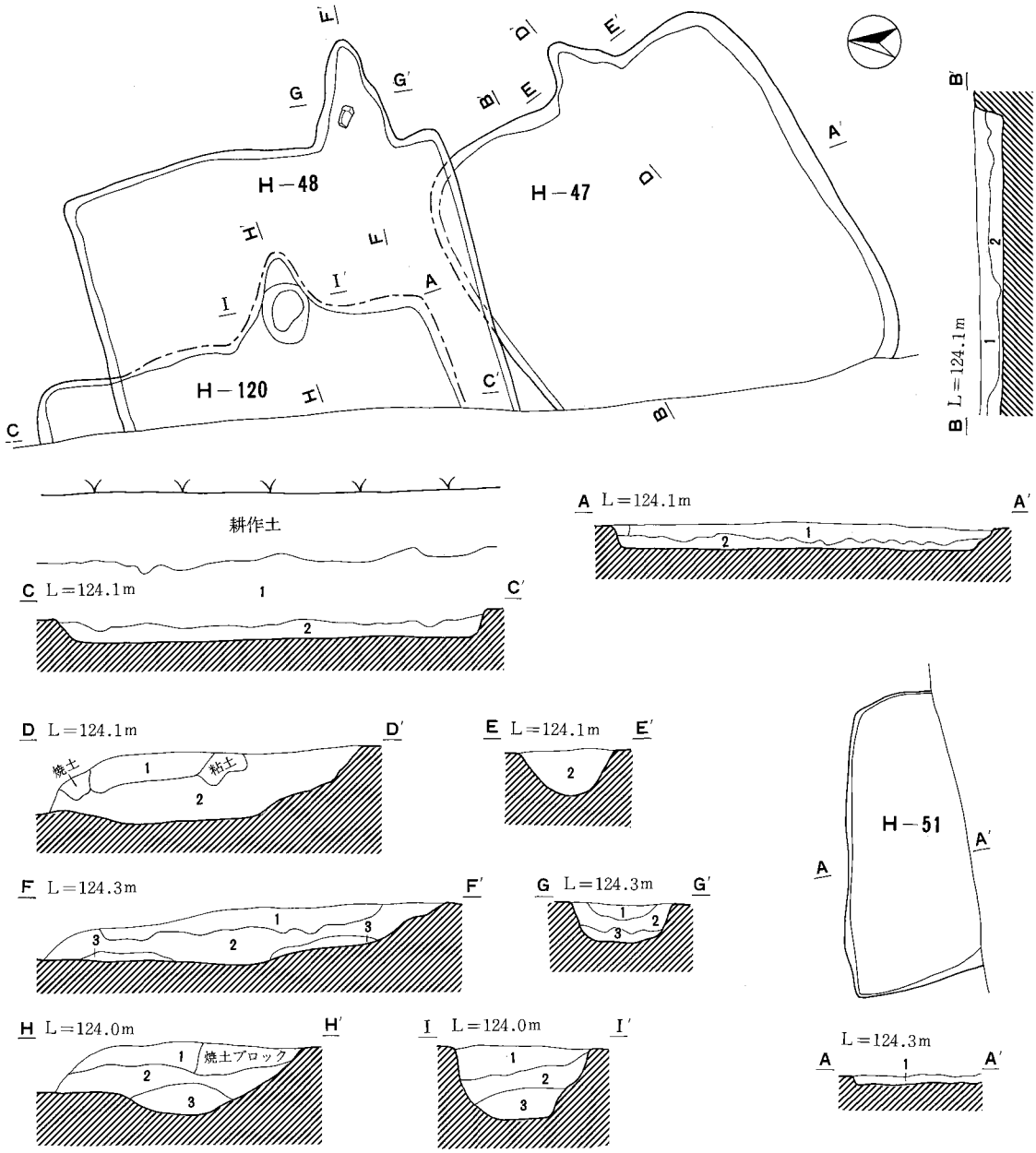
H－44号住居址竈
1　層　にぶい黄褐色粗砂層　As－C15%、焼土 5 %
2　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C10%、焼土20%
3　層　暗褐色細砂層　As－C10%、焼土極少

H－49号住居址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP10%、As－C15%

H－89号住居址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP15%、As－C15%

H－90号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP 5 %、As－C15%
2　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C 5 %

Fig. 19　H－43, 44, 49・89・90号住居址



H－47号住居址

1　層　黒褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C20%

2　層　極暗褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C 5 %

H－47号住居址竈

1　層　褐色粗砂層　Hr－FP10%、
　　As－C15%、焼土極少

2　層　褐色細砂層　Hr－FP10%、
　　As－C15%、焼土40%、粘土15%

H－48号住居址竈

1　層　褐色粗砂層　As－C極少

2　層　暗赤褐色細砂層　As－C 5 %、
　　焼土10%、炭化物 5 %

3　層　暗赤褐色細砂層　As－C 5 %、
　　焼土40%、灰混じり

4　層　黒褐色微砂層　灰中心

H－51号住居址

1　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C10%

H－120号住居址

1　層　黒褐色細砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C15%

2　層　暗褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C 5 %

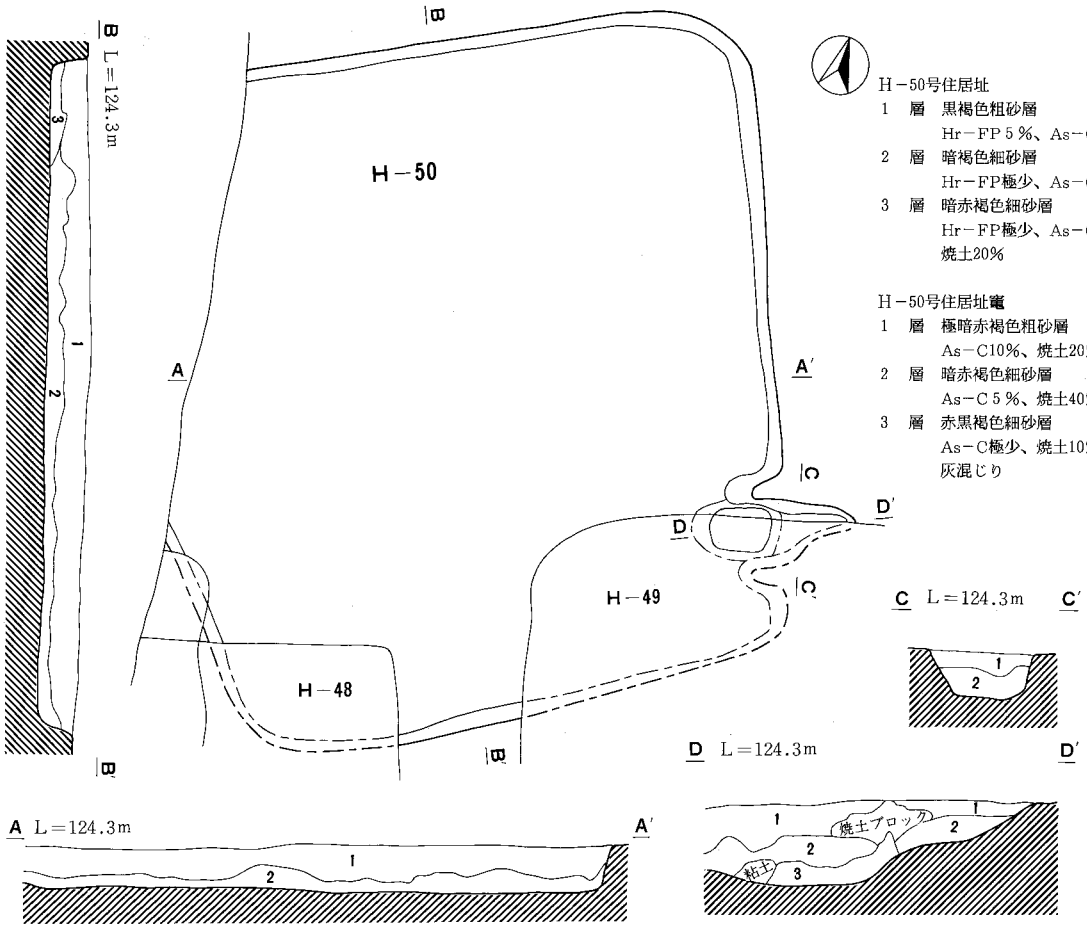
H－120号住居址竈

1　層　暗赤褐色微砂層
　　As－C極少、焼土20%

2　層　暗褐色微砂層　焼土10%、粘土25%

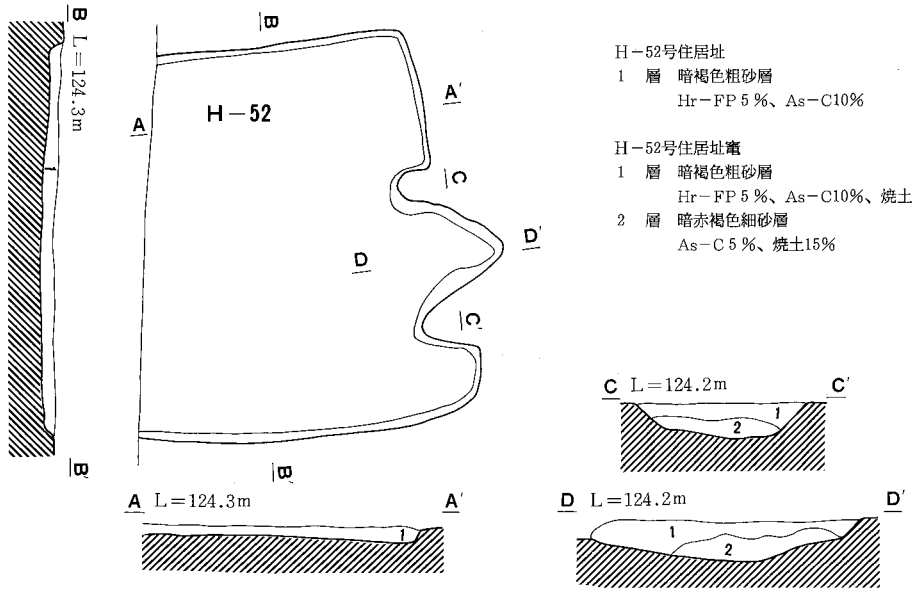
3　層　極暗赤褐色微砂層
　　焼土40%、灰25%

Fig. 20　H－47・48・120, 51号住居址



H－50号住居址
1　層　黒褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C20%
2　層　暗褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C10%
3　層　暗赤褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C 5 %、
　　焼土20%

H－50号住居址竈
1　層　極暗赤褐色粗砂層
　　As－C10%、焼土20%
2　層　暗赤褐色細砂層
　　As－C 5 %、焼土40%
3　層　赤黒褐色細砂層
　　As－C極少、焼土10%、
　　灰混じり



H－52号住居址
1　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C10%

H－52号住居址竈
1　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C10%、焼土 5 %
2　層　暗赤褐色細砂層
　　As－C 5 %、焼土15%

Fig. 21　H－50, 52号住居址

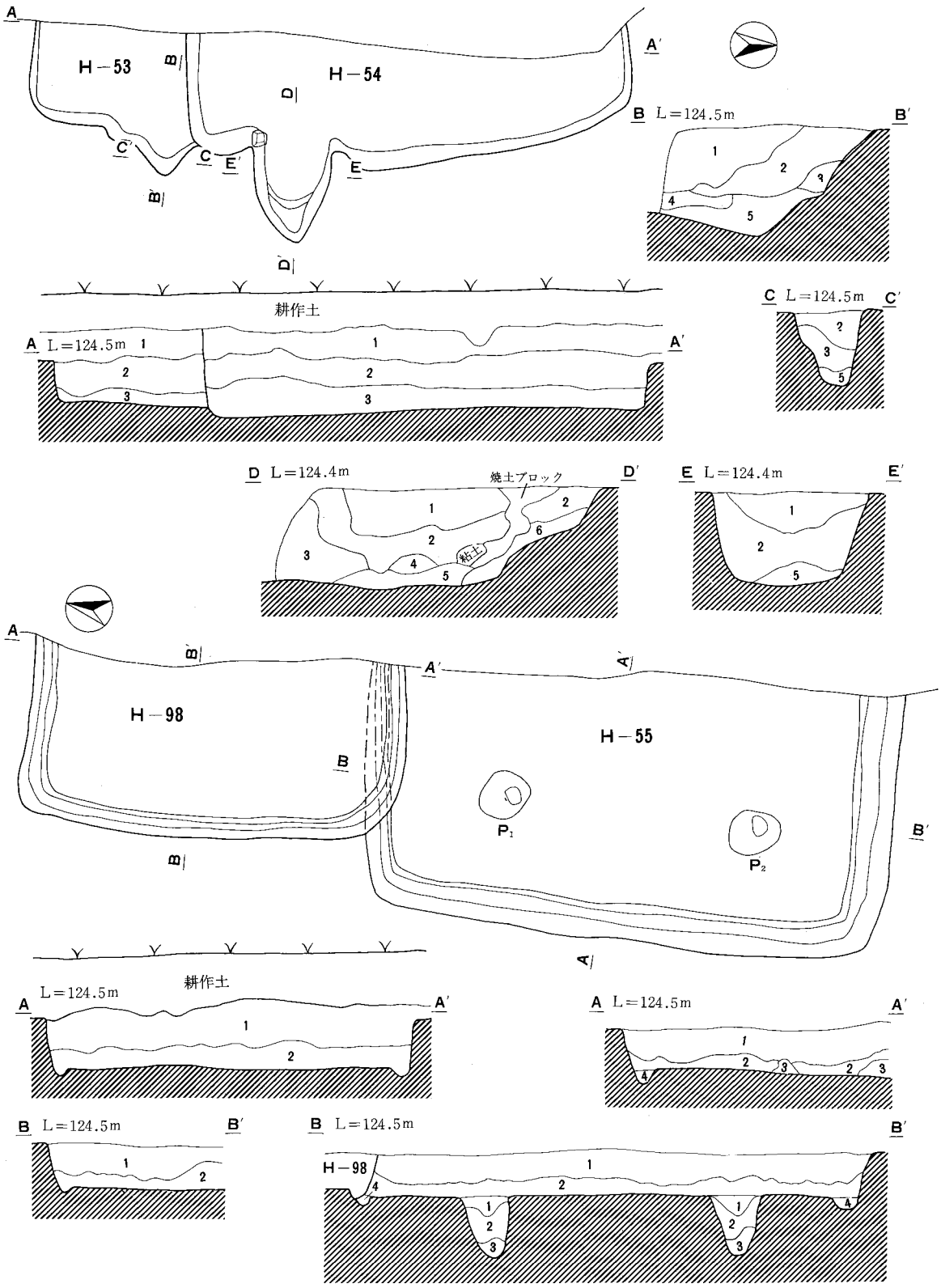


Fig. 22　H－53・54・55・98号住居址

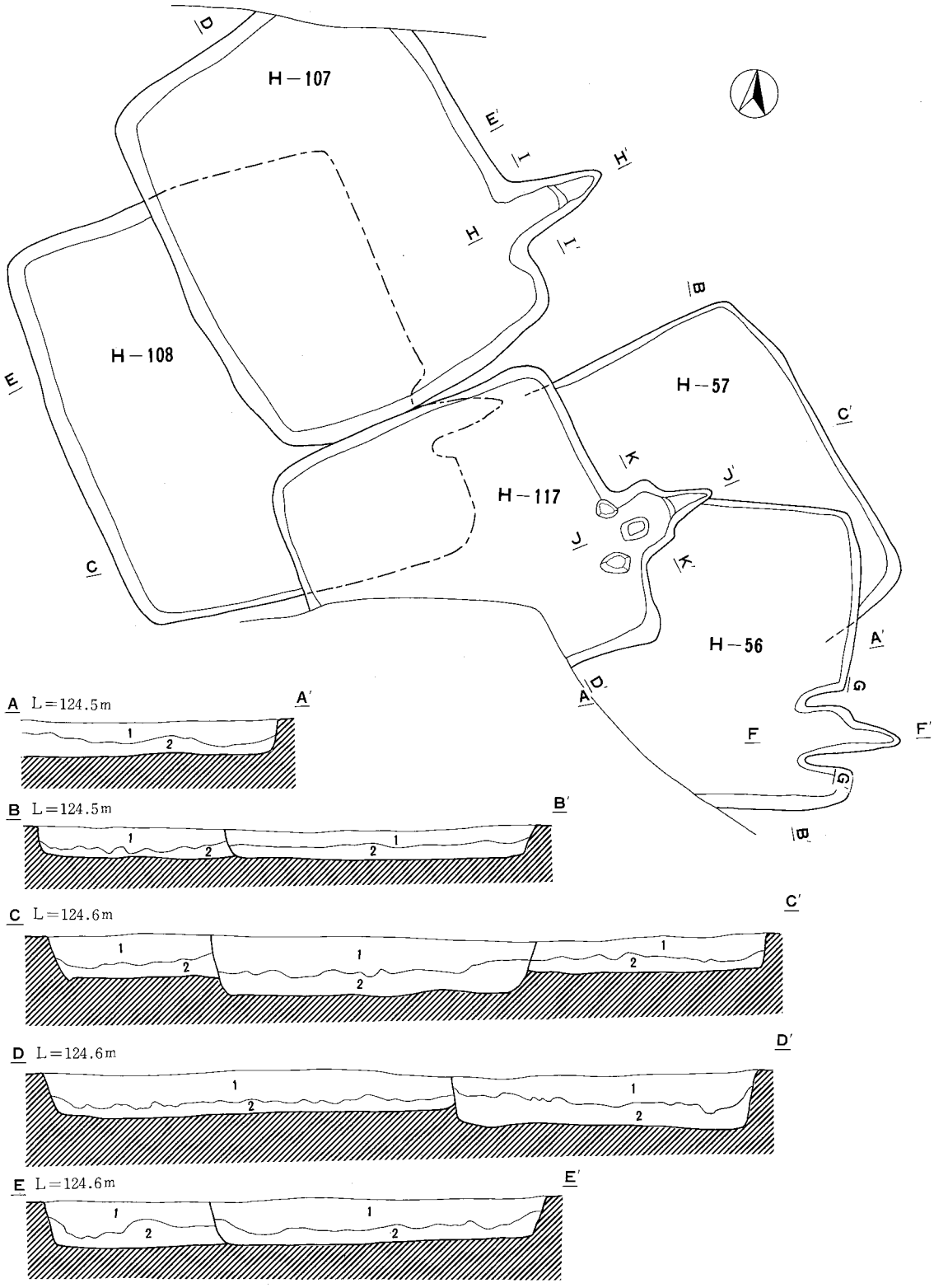
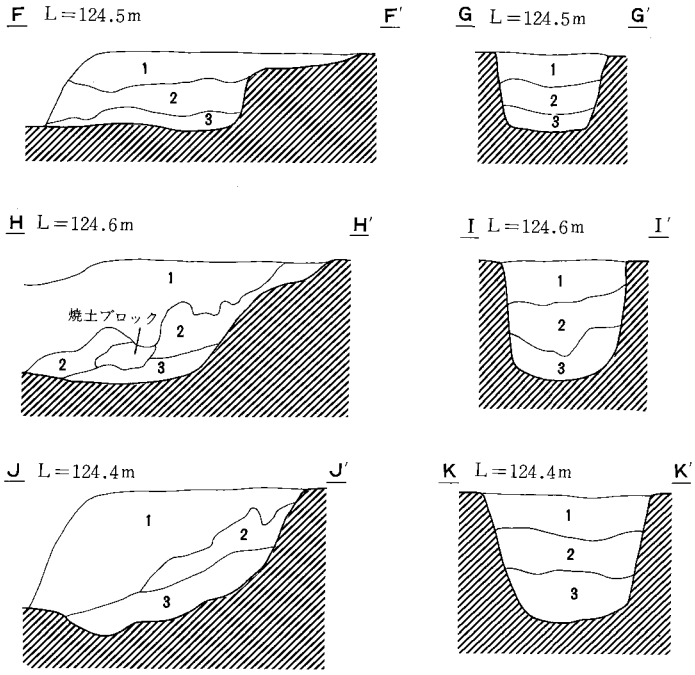


Fig. 23　H－56・57・107・108・117号住居址



H－53号住居址
1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C５％
2　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C５％
3　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C極少

H－53号住居址竈
1　層　極暗褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C10％
2　層　赤褐色細砂層　焼土50％
3　層　暗赤褐色粗砂層　As－C５％、焼土10％
4　層　暗褐色粗砂層　焼土20％
5　層　黒褐色細砂層　焼土５％、灰中心

H－54号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP５％、As－C５％
2　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP５％、As－C10％
3　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５％

H－54号住居址竈
1　層　褐色粗砂層　As－C５％、焼土５％、粘土20％
2　層　極暗赤褐色粗砂層　As－C極少、焼土10％
3　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５％
4　層　暗赤褐色粗砂層　焼土30％、粘土30％
5　層　にぶい黄褐色微砂層　焼土５％
6　層　暗赤褐色細砂層　焼土20％

H－55号住居址
1　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP５％、As－C10％
2　層　極暗褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C５％
3　層　黒褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C５％、
　　焼土５％、粘土15％
4　層　黒褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C５％

H－56号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C20％
2　層　黒褐色細砂層
　　As－C５％、焼土極少

H－107号住居址
1　層　黒褐色粗砂層
　　Hr－FP５％、As－C15％
2　層　極暗褐色粗砂層
　　Hr－FP極少、As－C５％

H－117号住居址
1　層　極暗褐色粗砂層
　　Hr－FP10％、As－C15％
2　層　黒褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C５％

H－55号住居址P1～P2
1　層　黒褐色粗砂層
　　Hr－FP５％、As－C10％
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、
　　As－C５％、粘土30％
3　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、
　　As－C極少、粘土15％

H－56号住居址竈
1　層　暗赤褐色粗砂層　Hr－FP５％、
　　As－C10％、焼土20％
2　層　極暗赤褐色細砂層　Hr－FP極少、
　　As－C５％、焼土10％
3　層　赤褐色細砂層
　　焼土10％、灰混じり

H－107号住居址竈
1　層　極黒赤色粗砂層　Hr－FP５％、
　　As－C10％、焼土10％
2　層　暗赤褐色細砂層
　　As－C極少、粘土40％
3　層　極暗赤褐色微砂層
　　焼土10％、灰混じり

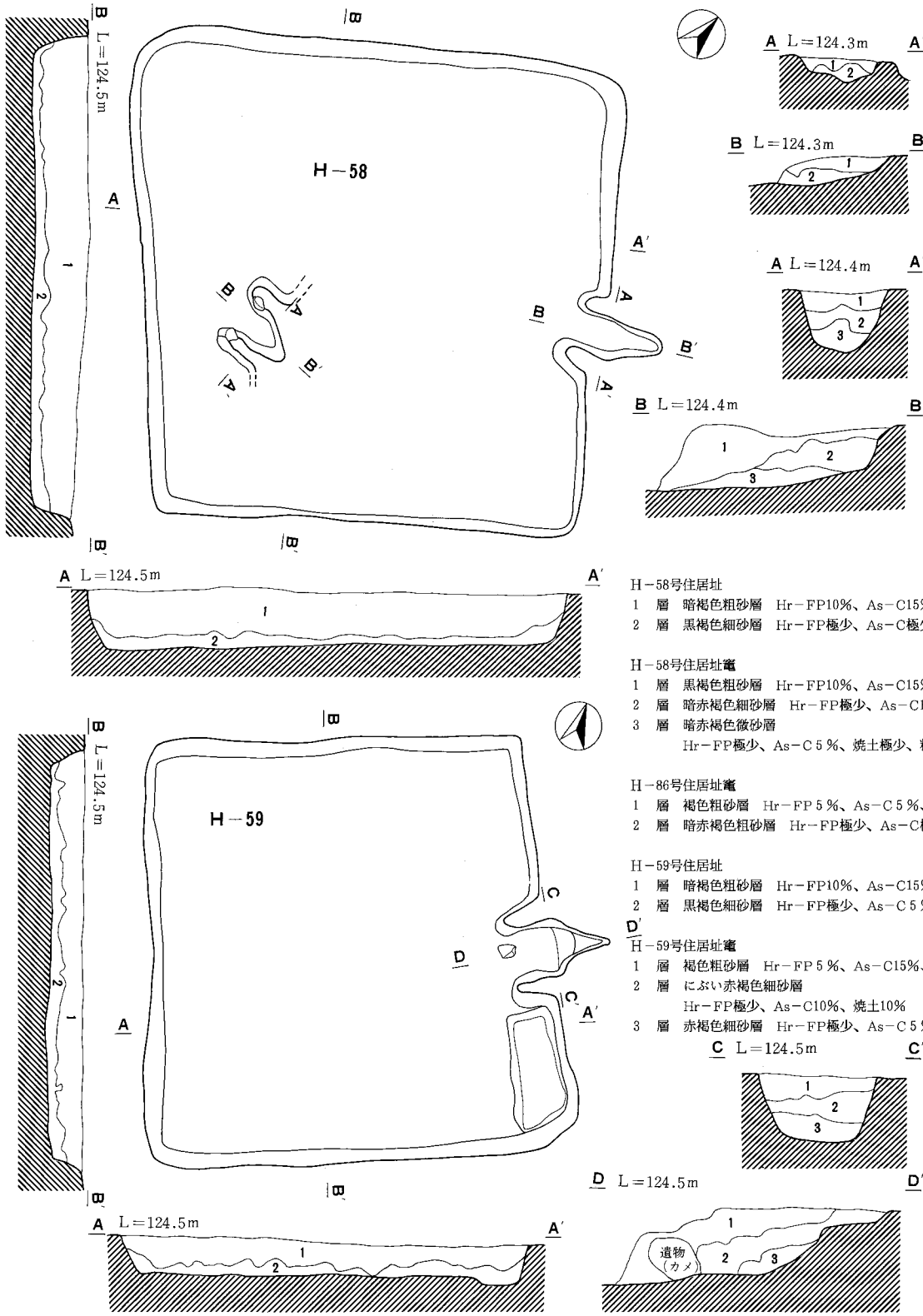
H－117号住居址竈
1　層　極暗赤褐色粗砂層　Hr－FP５％、
　　As－C10％、焼土10％
2　層　暗赤褐色粗砂層
　　As－C５％、焼土30％、灰混じり
3　層　極暗赤褐色粗砂層
　　焼土20％、灰混じり

H－98号住居址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP20％、
　　As－C20％、焼土混じり
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、
　　As－C５％、砂層混じり

H－57号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP５％、
　　Hr－FA20％、As－C10％
2　層　極暗褐色細砂層
　　Hr－FP５％、Hr－FA５％、
　　As－C５％

H－108号住居址
1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP５％、
　　As－C20％
2　層　極暗褐色細砂層　As－C５％

Fig. 24　H－56・57・107・108・117号住居址



H－58号住居址
1 層 暗褐色粗砂層 Hr－FP10%、As－C15%
2 層 黒褐色細砂層 Hr－FP極少、As－C極少

H－58号住居址竈
1 層 黒褐色粗砂層 Hr－FP10%、As－C15%、焼土極少
2 層 暗赤褐色細砂層 Hr－FP極少、As－C10%、焼土30%
3 層 暗赤褐色微砂層
Hr－FP極少、As－C５%、焼土極少、粘土混じり

H－86号住居址竈
1 層 褐色粗砂層 Hr－FP５%、As－C５%、焼土極少
2 層 暗赤褐色粗砂層 Hr－FP極少、As－C極少、焼土30%

H－59号住居址
1 層 暗褐色粗砂層 Hr－FP10%、As－C15%
2 層 黒褐色細砂層 Hr－FP極少、As－C５%、砂層混じり

H－59号住居址竈
1 層 褐色粗砂層 Hr－FP５%、As－C15%、焼土５%
2 層 にぶい赤褐色細砂層
Hr－FP極少、As－C10%、焼土10%
3 層 赤褐色細砂層 Hr－FP極少、As－C５%、焼土15%

Fig. 25 H－58・86, 59号住居址

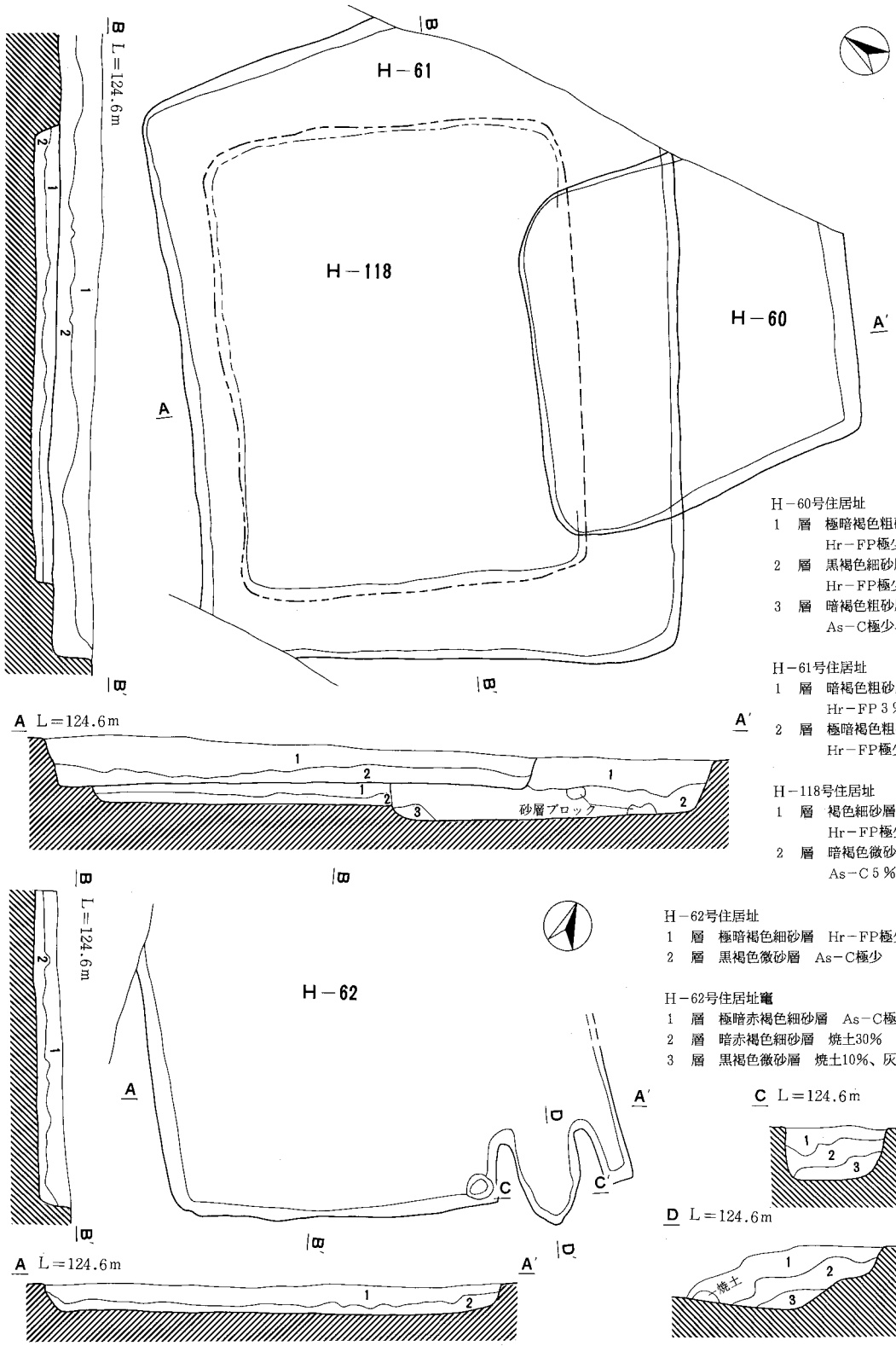
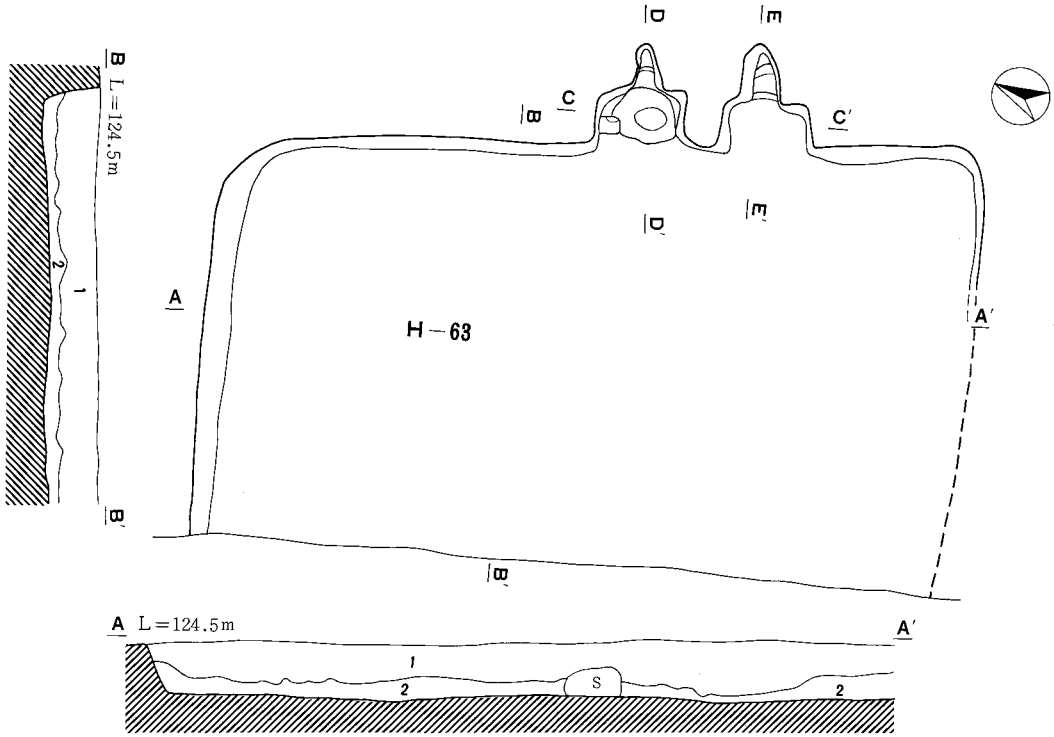
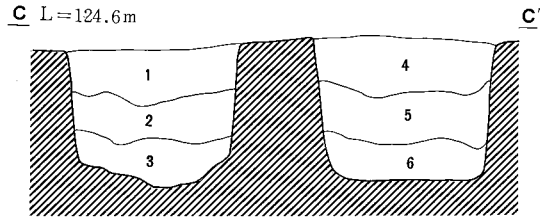
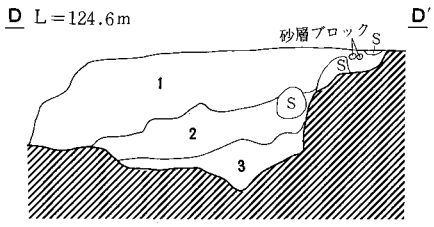
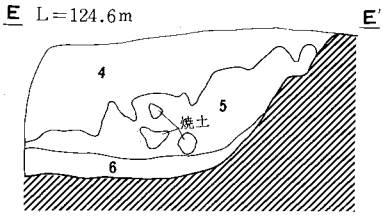


Fig. 26 H－60・61・118, 62号住居址









H－63号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP５％、As－C10％
2　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C極少

H－63号住居址竈
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP５％、As－C15％、焼土５％
2　層　暗赤褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C10％、焼土20％
3　層　暗赤褐色細砂層　As－C極少、焼土40％
4　層　極暗褐色粗砂層　Hr－FP５％、As－C15％、焼土５％
5　層　暗赤褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５％、焼土30％
6　層　暗赤褐色細砂層　焼土20％、灰混じり

H－65号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C５％
2　層　黒褐色細砂層　As－C極少

H－65号住居址竈
1　層　暗赤褐色粗砂層　As－C５％、焼土30％
2　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C10％
3　層　黒褐色微砂層　As－C極少、焼土10％、灰混じり
4　層　暗赤褐色細砂層　As－C極少、焼土30％、灰混じり
5　層　黒褐色微砂層　焼土10％、灰中心

H－67号住居址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP10％、As－C10％
2　層　暗褐色微砂層　As－C極少

H－66号住居址
1　層　褐色細砂層　Hr－FP10％、As－C15％、砂層混じり
2　層　褐色微砂層　As－C５％

H－123号住居址
1　層　褐色細砂層　Hr－FP10％、As－C20％
2　層　暗褐色微砂層　As－C極少、砂層混じり

Fig. 27　H－63号住居址

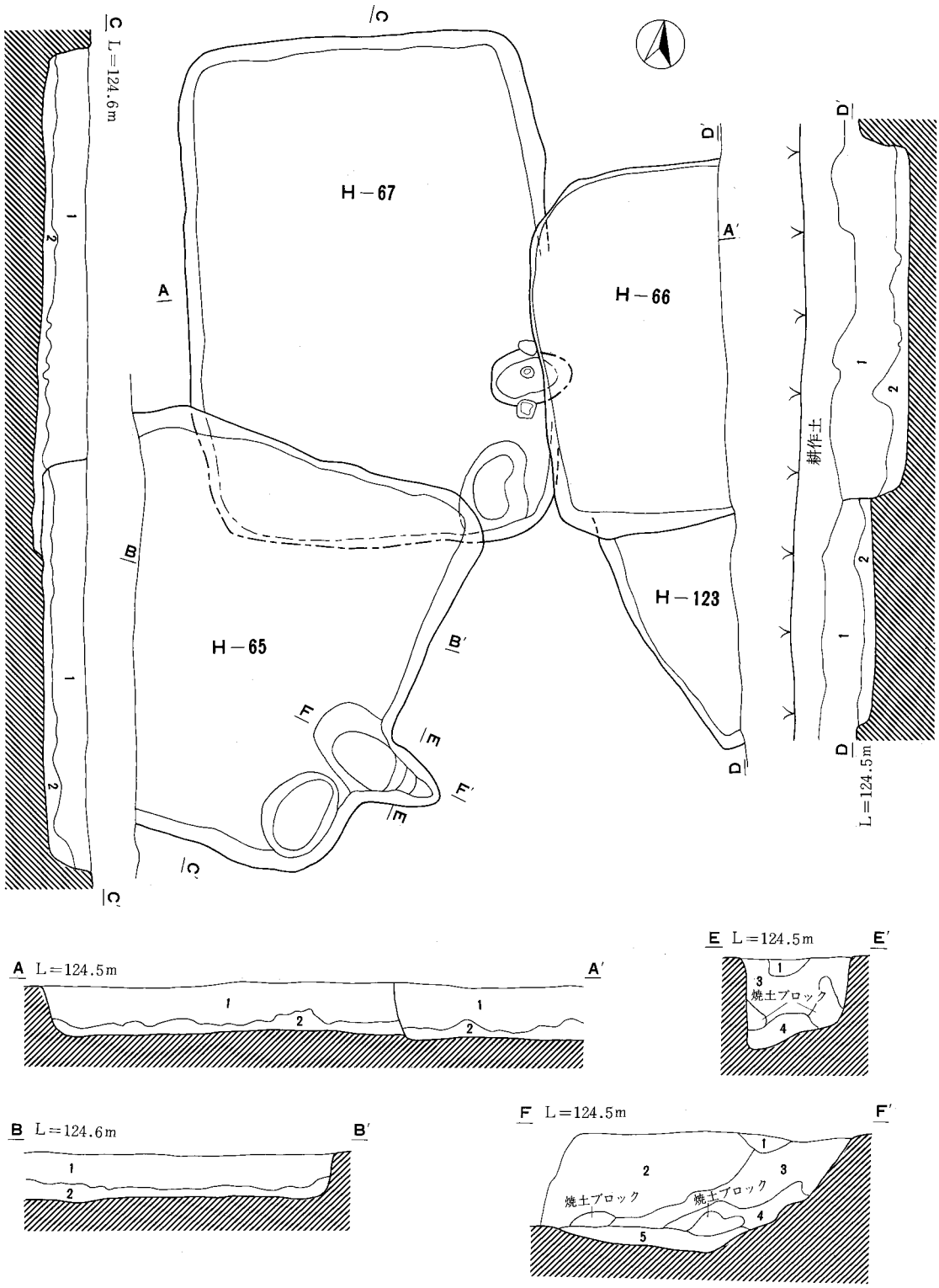
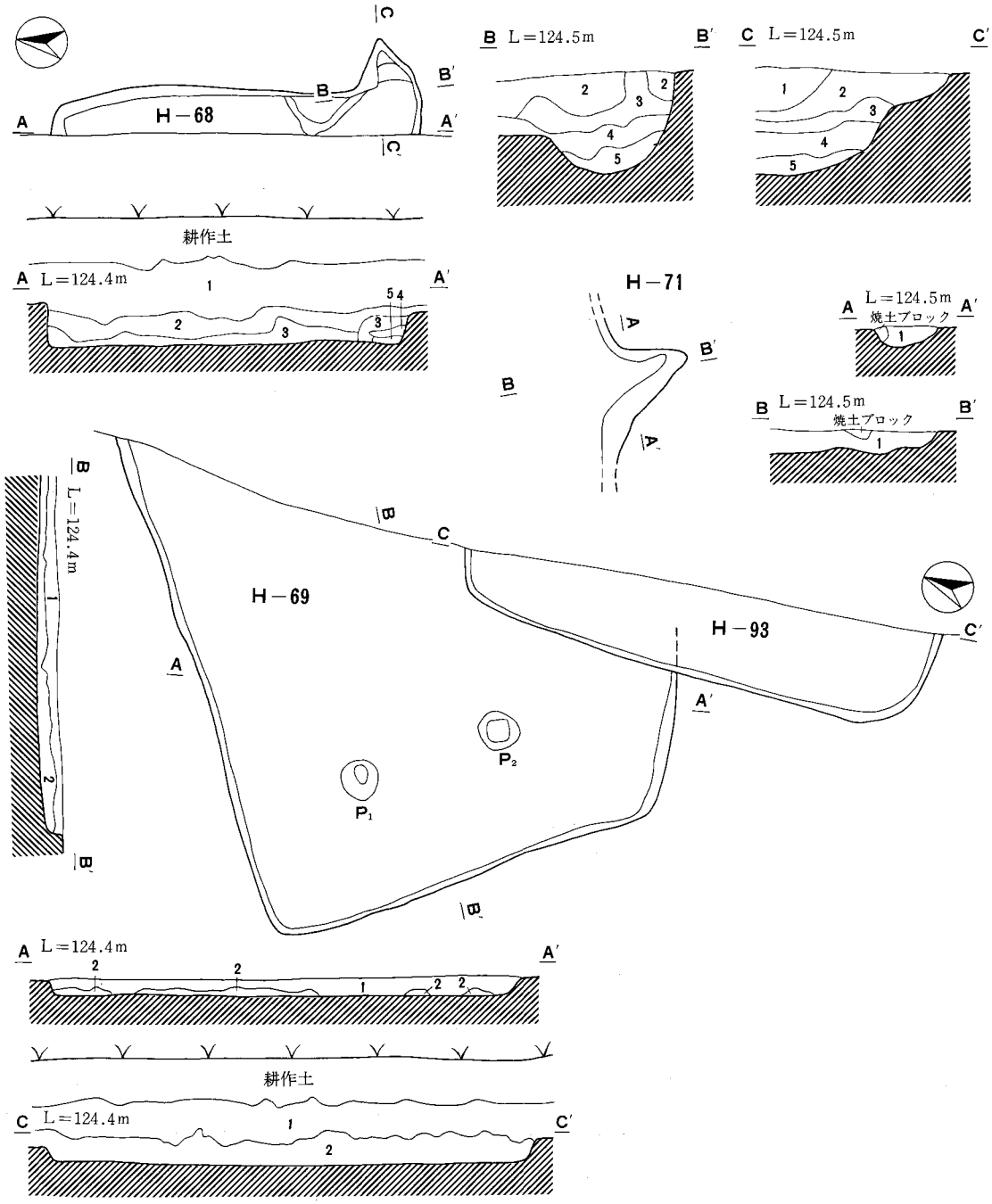


Fig. 28　H－65・66・67・123号住居址



H－68号住居址

1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C 5 %
3　層　暗褐色微砂層　As－C極少

H－68号住居址竈

1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C 5 %
3　層　暗赤褐色細砂層　As－C極少、焼土30%
4　層　極暗赤褐色微砂層　焼土 5 %、灰混じり
5　層　暗赤褐色微砂層　焼土中心、粘土混じり

H－71号住居址竈

1　層　極暗赤褐色細砂層　As－C極少、焼土 5 %

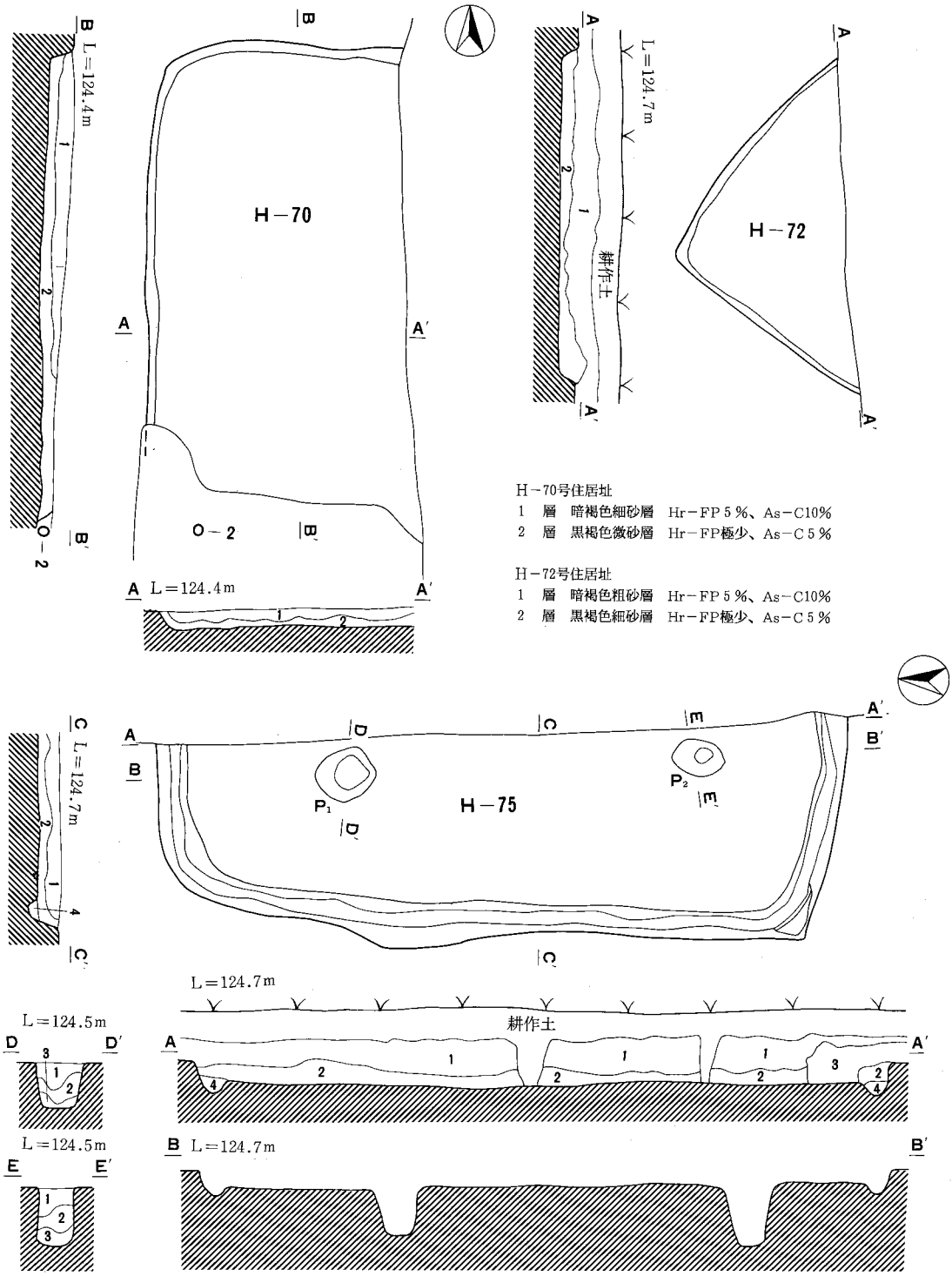
H－69号住居址

1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C20%、砂層混じり

H－93号住居址

1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP 5 %、As－C15%
2　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C 5 %

Fig. 29　H－68, 71, 69・93号住居址



H－70号住居址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　黒褐色微砂層　Hr－FP極少、As－C 5 %

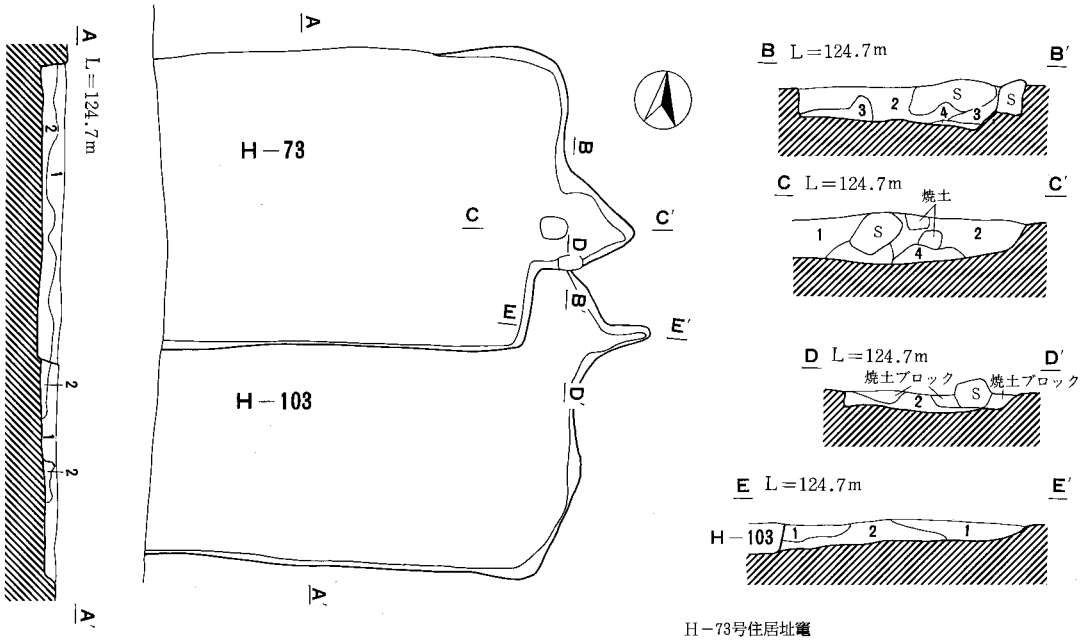
H－72号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C 5 %

H－75号住居址
1　層　暗褐色粗砂層
Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　黒褐色細砂層
Hr－FP極少、As－C 5 %
3　層　暗赤褐色細砂層
As－C 5 %、焼土30%
4　層　暗褐色細砂層　As－C 5 %、砂層混じり

H－75号住居址P1
1　層　極暗褐色粗砂層
Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　褐色細砂層
As－C 5 %、砂層混じり
3　層　暗褐色細砂層
Hr－FP極少、As－C極少

H－75号住居址P2
1　層　暗褐色細砂層
As－C 5 %、砂層混じり
2　層　黒褐色細砂層
Hr－FP 5 %、As－C10%
3　層　暗褐色細砂層
砂層混じり

Fig. 30　H－70, 72, 75号住居址



H－73号住居址

1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５％

2　層　褐色細砂層　As－C極少、砂層混じり

H－103号住居址

1　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５％

2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP５％、As－C10％

H－73号住居址竈

1　層　暗赤褐色細砂層　As－C10％、焼土20％

2　層　極暗赤褐色細砂層　焼土10％

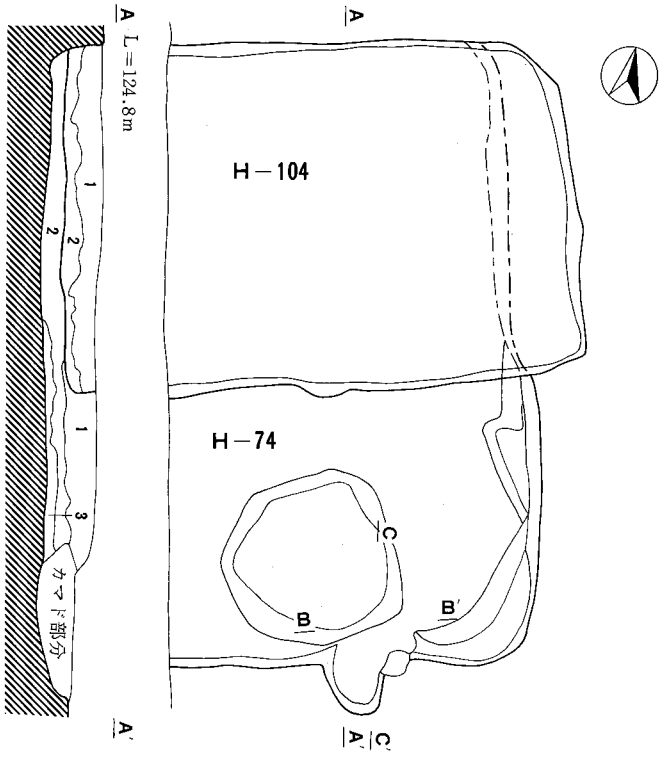
H－103号住居址竈

1　層　極暗赤褐色粗砂層
　　Hr－FP５％、As－C15％、焼土５％

2　層　暗赤褐色細砂層
　　Hr－FP５％、As－C10％、焼土10％

3　層　暗赤褐色細砂層　As－C５％、焼土30％

4　層　赤黒色微砂層　焼土５％、灰混じり



H－74号住居址

1　層　極暗褐色粗砂層　Hr－FP10％、As－C20％

2　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C10％

3　層　黒褐色微砂層　As－C極少、砂層混じり

H－74号住居址竈

1　層　暗赤褐色細砂層　As－C10％、焼土10％

2　層　極暗赤褐色微砂層　焼土20％、灰混じり

3　層　にぶい赤褐色細砂層　As－C極少、焼土30％

4　層　褐色細砂層　焼土50％、粘土混じり

H－104号住居址

1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP５％、As－C15％

2　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５％

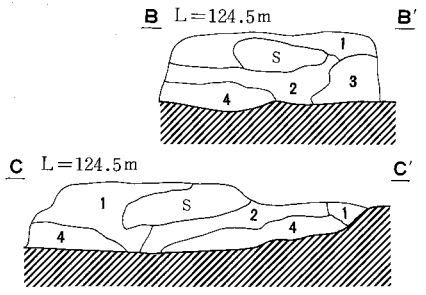


Fig. 31　H－73・103, 74・104号住居址

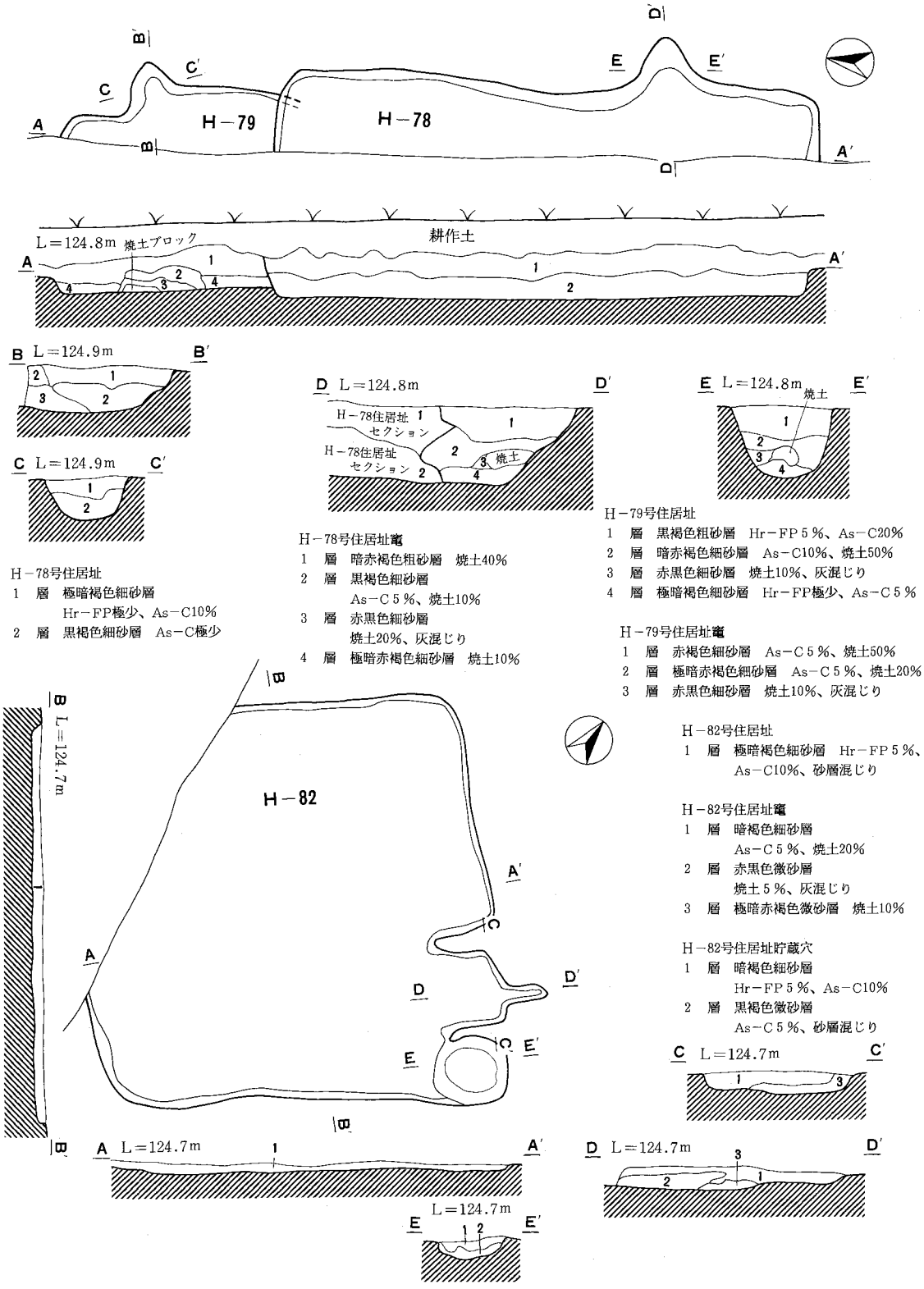


Fig. 32 H－78・79, 82号住居址

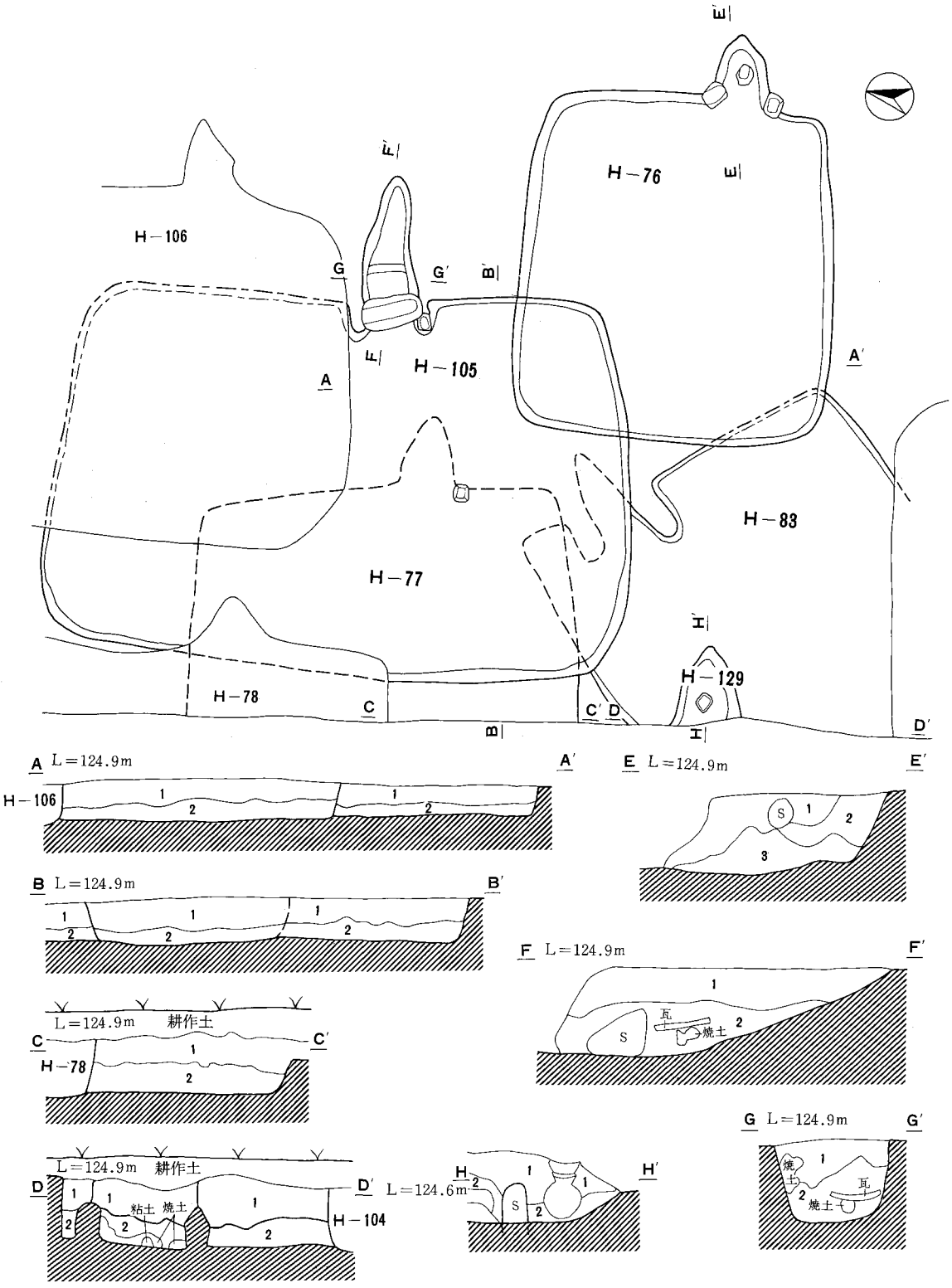
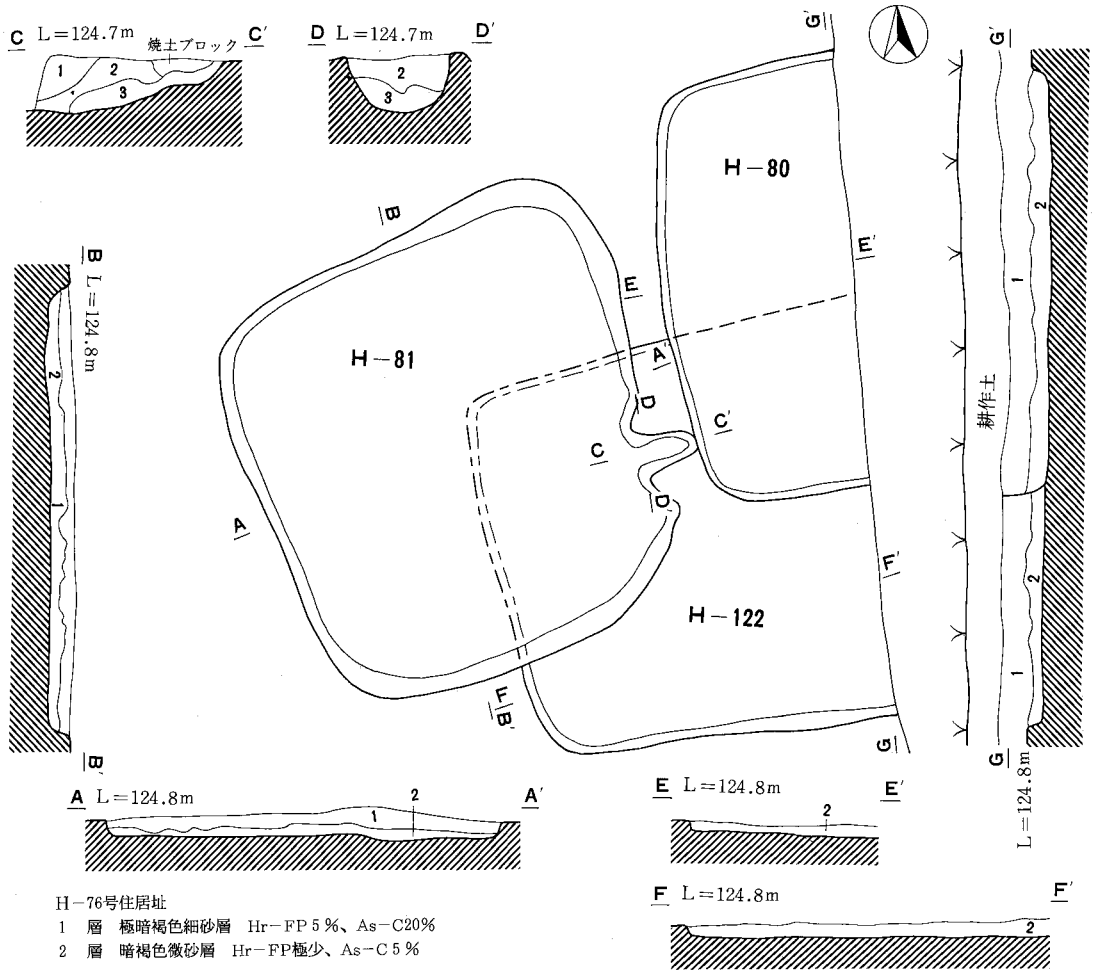


Fig. 33　H－76・77・83・105・129号住居址



H−76号住居址
1　層　極暗褐色細砂層　Hr−FP 5 %、As−C20%
2　層　暗褐色微砂層　Hr−FP極少、As−C 5 %

H−76号住居址竈
1　層　黒褐色粗砂層　Hr−FP 5 %、As−C10%、焼土10%
2　層　暗赤褐色粗砂層　As−C 5 %、焼土60%
3　層　極暗赤褐色細砂層　焼土20%、灰混じり

H−77号住居址
1　層　黒褐色粗砂層　Hr−FP 5 %、As−C15%
2　層　極暗褐色細砂層　Hr−FP極少、As−C 5 %

H−83号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr−FA30%、As−C10%
2　層　極暗褐色細砂層　As−C極少

H−105号住居址
1　層　黒褐色粗砂層　Hr−FP極少、As−C10%
2　層　黒褐色細砂層　As−C極少

H−105号住居址竈
1　層　極暗赤褐色細砂層
　　Hr−FA10%、As−C 5 %、焼土10%
2　層　暗赤褐色微砂層　Hr−FA20%、焼土20%、粘土20%

H−129号住居址竈
1　層　極暗赤褐色細砂層
　　Hr−FA10%、As−C 5 %、焼土10%
2　層　暗赤褐色微砂層　Hr−FA20%、焼土20%、粘土30%

H−80号住居址
1　層　黒褐色粗砂層　Hr−FP 5 %、As−C20%
2　層　極暗褐色細砂層　Hr−FP極少、As−C極少

H−81号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr−FP 5 %、As−C15%
2　層　黒褐色細砂層　Hr−FP極少、As−C 5 %、砂層混じり

H−81号住居址竈
1　層　極暗褐色細砂層　Hr−FP極少、As−C10%
2　層　暗赤褐色細砂層　As−C 5 %、焼土30%
3　層　極暗赤褐色微砂層　焼土10%、灰混じり

H−122号住居址
1　層　極暗褐色粗砂層　Hr−FP 5 %、As−C10%
2　層　暗褐色細砂層　As−C極少、砂層混じり

Fig. 34　H−80・81・122号住居址

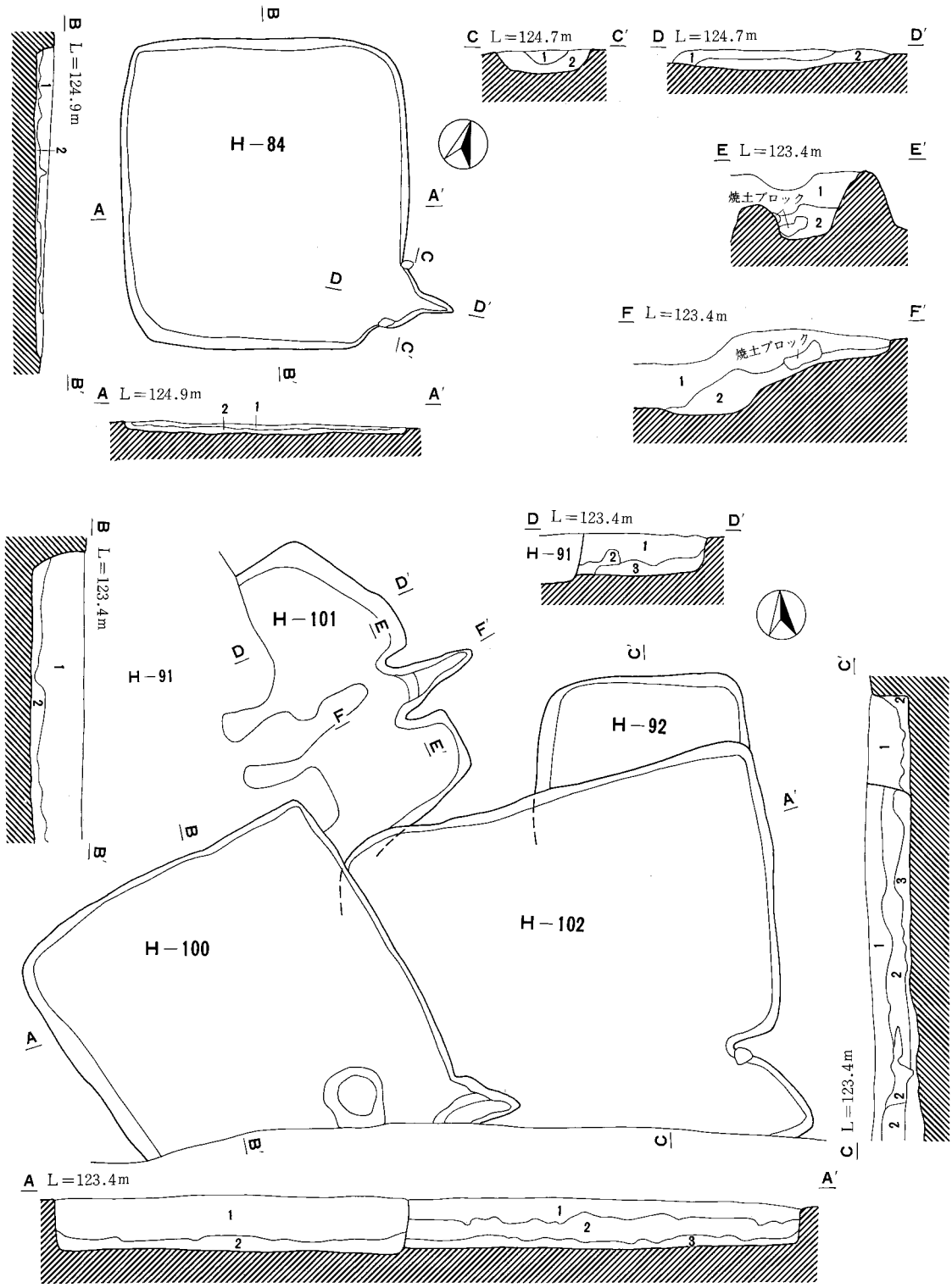
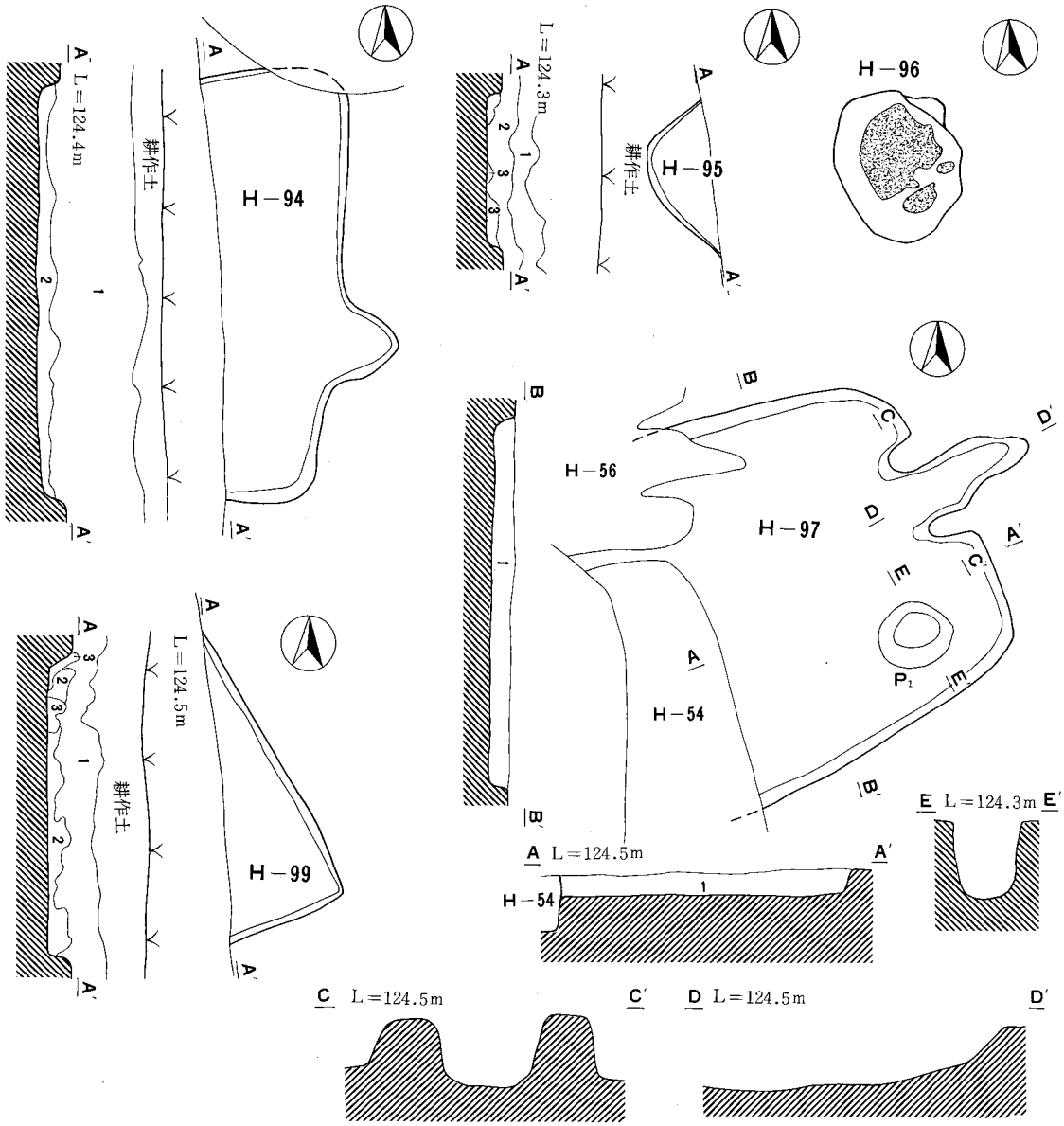


Fig. 35　H－84，92・100・102号住居址

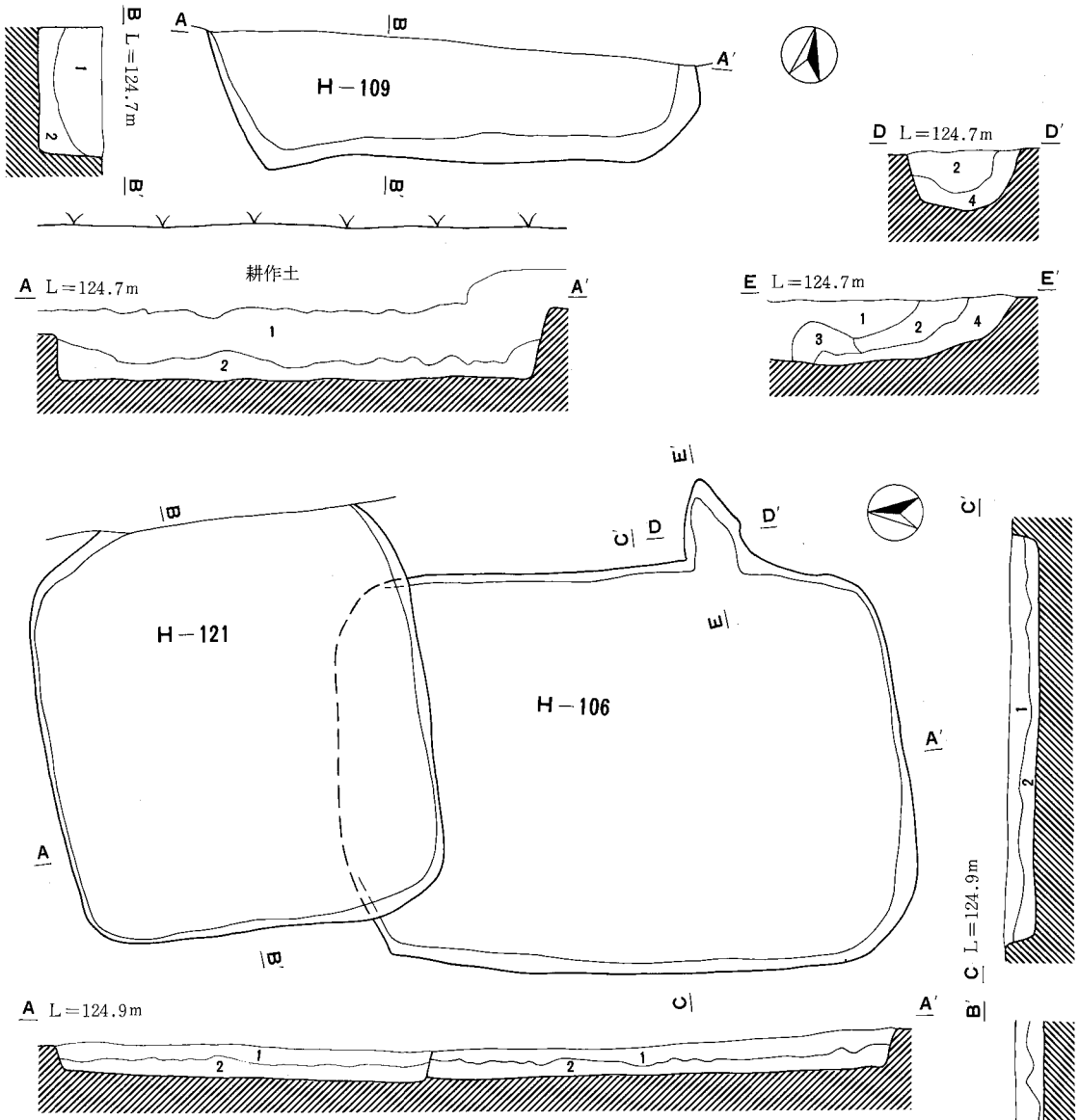


H－84号住居址
1　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP極少、As－C10%
2　層　褐色細砂層
　　As－C極少、砂層混じり
H－84号住居址竈
1　層　暗赤褐色細砂層
　　As－C５%、焼土15%
2　層　極暗赤褐色細砂層
　　As－C極少、焼土５%、
　　灰混じり
H－92号住居址
1　層　暗褐色細砂層
　　Hr－FP５%、As－C15%
2　層　黒褐色微砂層　As－C極少
H－100号住居址
1　層　暗褐色細砂層
　　Hr－FP10%、As－C10%
2　層　黒褐色微砂層
　　As－C極少、砂層混じり

H－101号住居址
1　層　暗褐色細砂層
　　Hr－FP10%、As－C10%
2　層　黒褐色細砂層
　　Hr－FP５%、As－C５%
3　層　黒褐色微砂層
　　Hr－FP極少、As－C３%
H－101号住居址竈
1　層　極暗赤褐色細砂層
　　As－C10%、焼土５%
2　層　暗赤褐色細砂層
　　As－C極少、焼土40%
H－102号住居址
1　層　暗褐色細砂層
　　Hr－FP10%、As－C15%
2　層　黒褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C10%
2ａ層　極暗褐色細砂層
　　As－C極少、焼土10%
3　層　黒褐色微砂層　As－C極少

H－94号住居址
1　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP５%、As－C10%
2　層　極暗褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C５%
H－95号住居址
1　層　黒褐色粗砂層
　　Hr－FP極少、As－C極少
2　層　極暗褐色粗砂層
　　Hr－FP極少、As－C５%
3　層　暗褐色細砂層　As－C10%
H－97号住居址
1　層　暗褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C10%
H－99号住居址
1　層　暗赤褐色細砂層
　　Hr－FP５%、As－C10%
2　層　褐色細砂層　As－C３%
3　層　明褐色粗砂層
　　As－C５%、川砂混じり

Fig. 36　H－94, 95, 96, 97, 99号住居址



H－109号住居址
1　層　極暗褐色粗砂層　Hr－FP10%、As－C15%
2　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５%

H－106号住居址
1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP５%、As－C15%
2　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C極少

H－106号住居址竈
1　層　極暗褐色粗砂層　Hr－FP極少、As－C10%
2　層　赤褐色粗砂層　焼土50%
3　層　暗赤褐色細砂層　As－C極少、焼土10%
4　層　極暗赤褐色細砂層　焼土25%、灰混じり

H－121号住居址
1　層　極暗褐色粗砂層　Hr－FP５%、As－C10%
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５%

H－110号住居址
1　層　極暗褐色粗砂層　Hr－FP５%、As－C10%
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５%

H－110号住居址竈
1　層　暗赤褐色粗砂層　As－C10%、焼土30%
2　層　極暗赤褐色細砂層　As－C５%、焼土20%
3　層　暗赤褐色細砂層　焼土40%

H－119号住居址
1　層　暗褐色粗砂層　Hr－FP５%、As－C20%
2　層　黒褐色細砂層　Hr－FP、As－C10%
3　層　暗褐色細砂層　Hr－FP、As－Cともに極少

H－119号住居址竈
1　層　暗褐色粗砂層　As－C５%
2　層　赤褐色細砂層　焼土50%、灰混じり
3　層　暗赤灰色微砂層　灰中心
4　層　暗赤褐色細砂層　焼土中心

Fig. 37　H－109, H－106・121号住居址

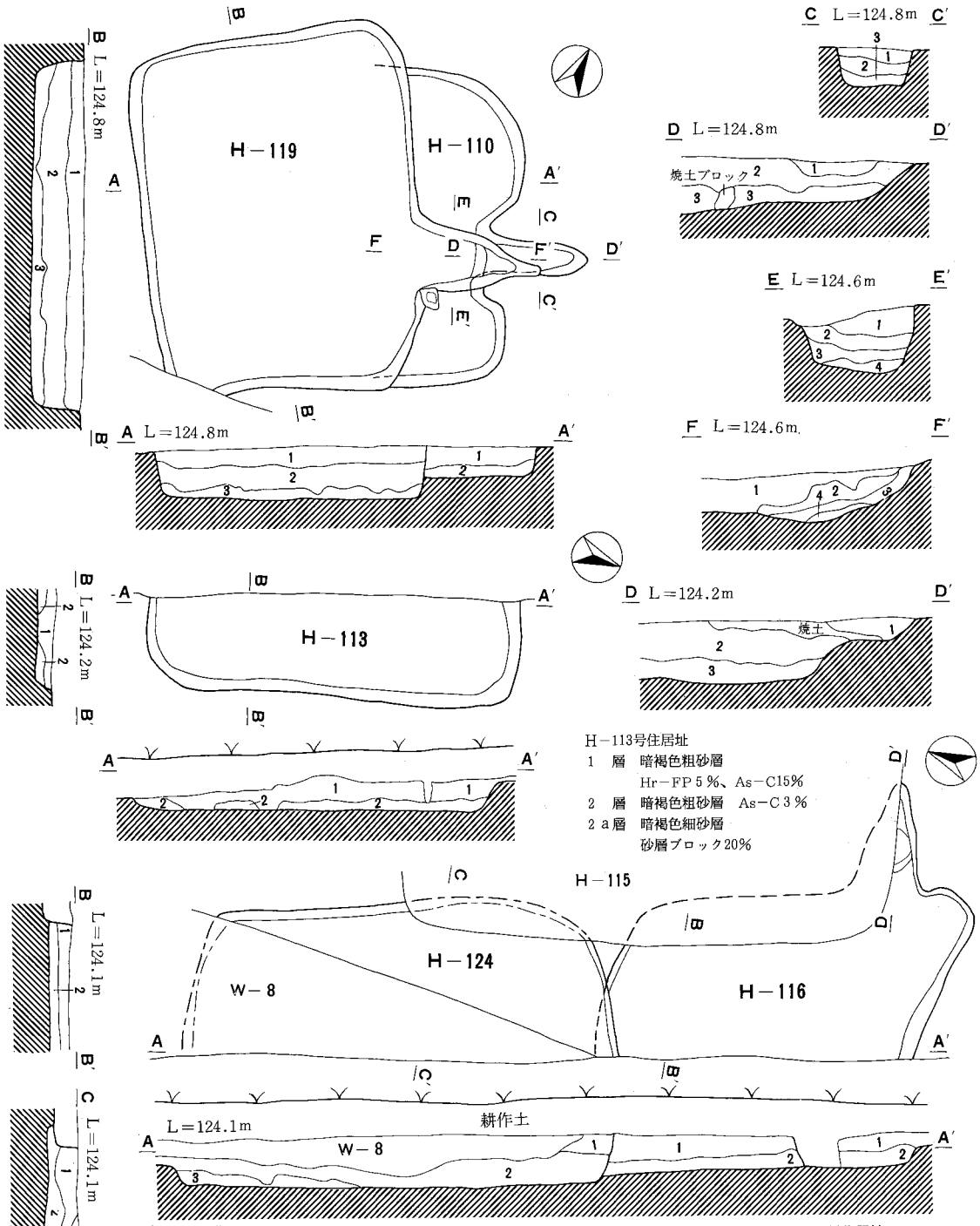
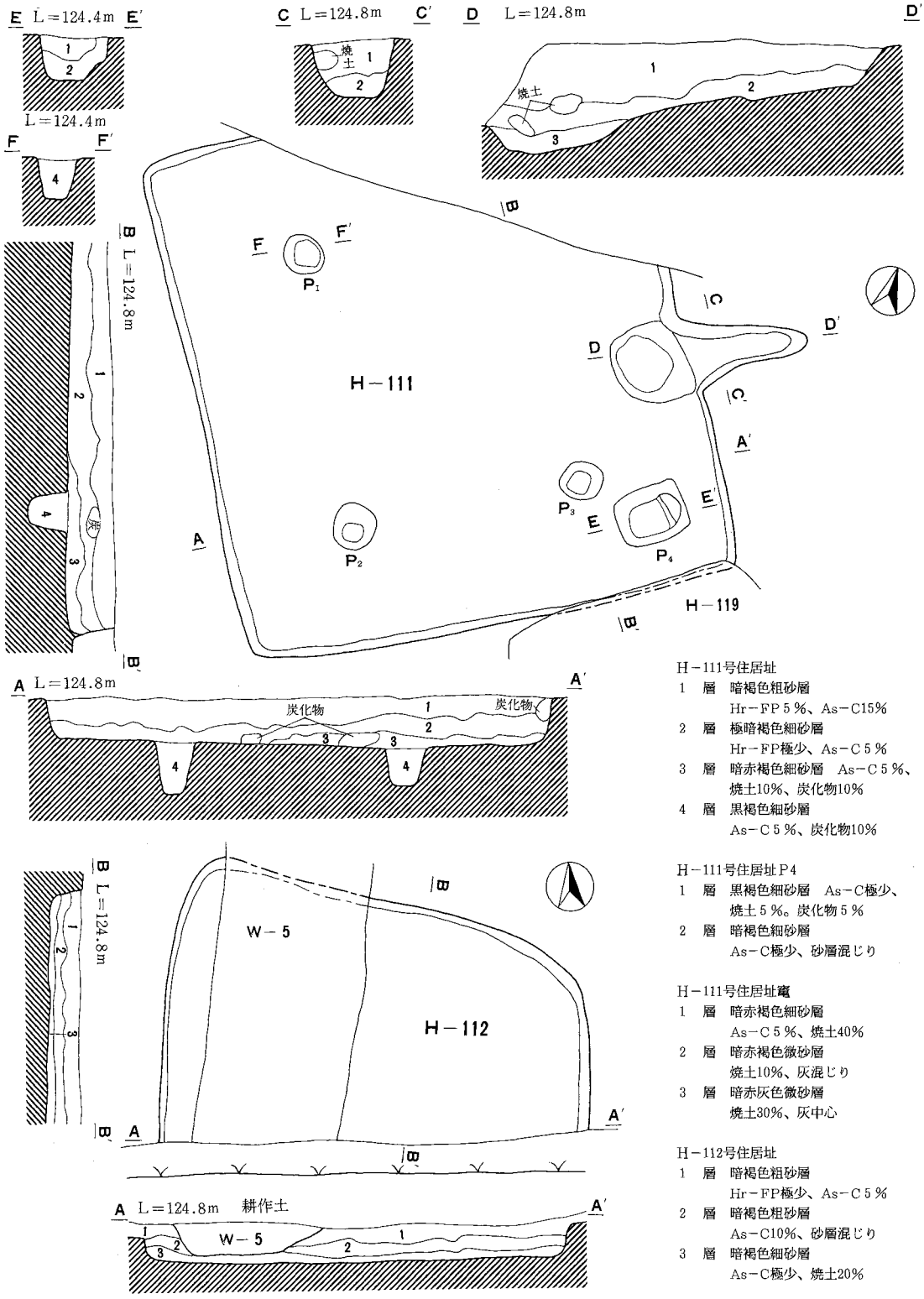


Fig. 38 H－110・119, 113, 116・124号住居址



H－111号住居址
1 層 暗褐色粗砂層
Hr－FP 5 %、As－C15%
2 層 極暗褐色細砂層
Hr－FP極少、As－C 5 %
3 層 暗赤褐色細砂層 As－C 5 %、
焼土10%、炭化物10%
4 層 黒褐色細砂層
As－C 5 %、炭化物10%

H－111号住居址P4
1 層 黒褐色細砂層 As－C極少、
焼土 5 %。炭化物 5 %
2 層 暗褐色細砂層
As－C極少、砂層混じり

H－111号住居址竈
1 層 暗赤褐色細砂層
As－C 5 %、焼土40%
2 層 暗赤褐色微砂層
焼土10%、灰混じり
3 層 暗赤灰色微砂層
焼土30%、灰中心

H－112号住居址
1 層 暗褐色粗砂層
Hr－FP極少、As－C 5 %
2 層 暗褐色粗砂層
As－C10%、砂層混じり
3 層 暗褐色細砂層
As－C極少、焼土20%

Fig. 39 H－111, 112号住居址

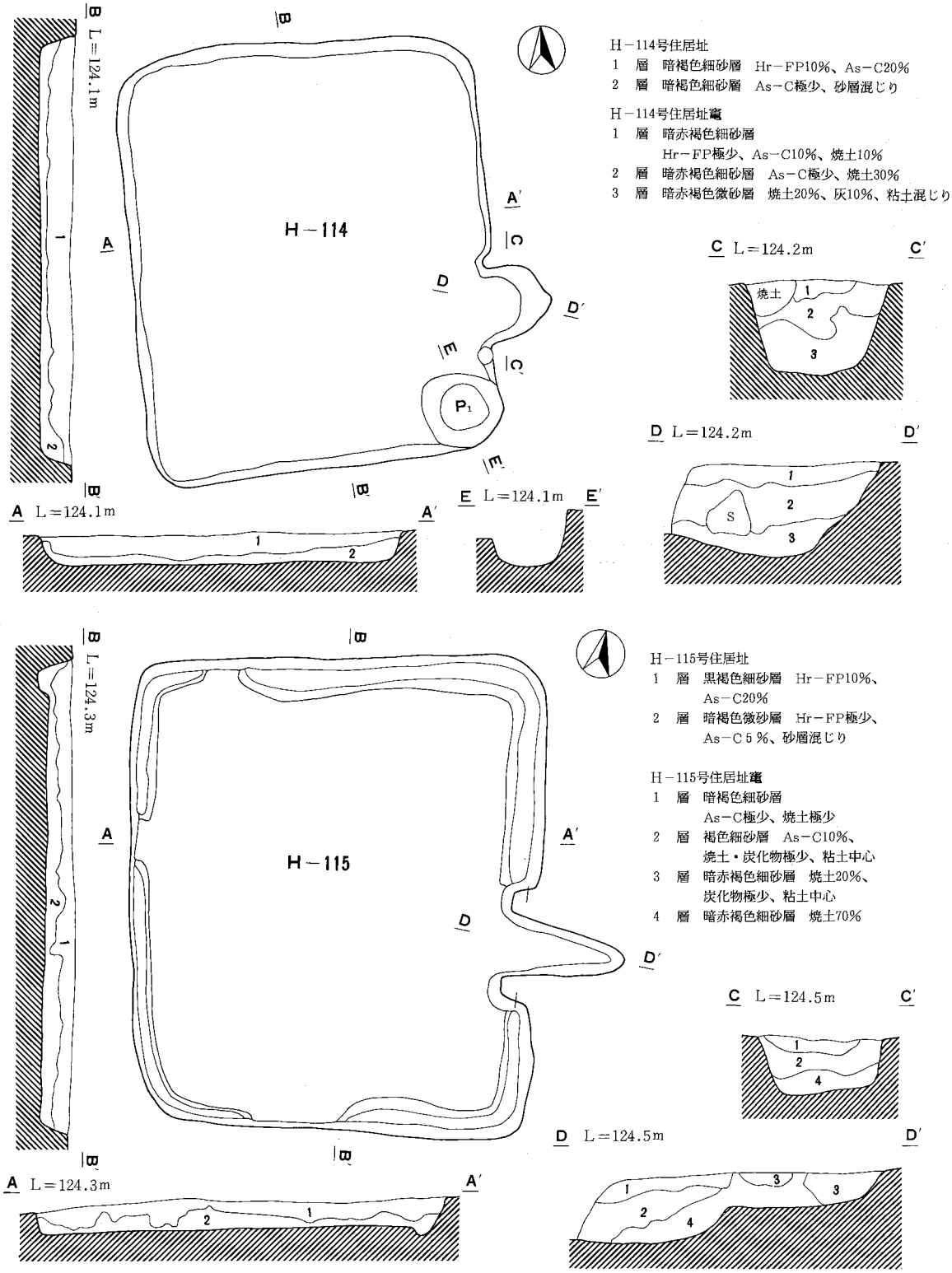
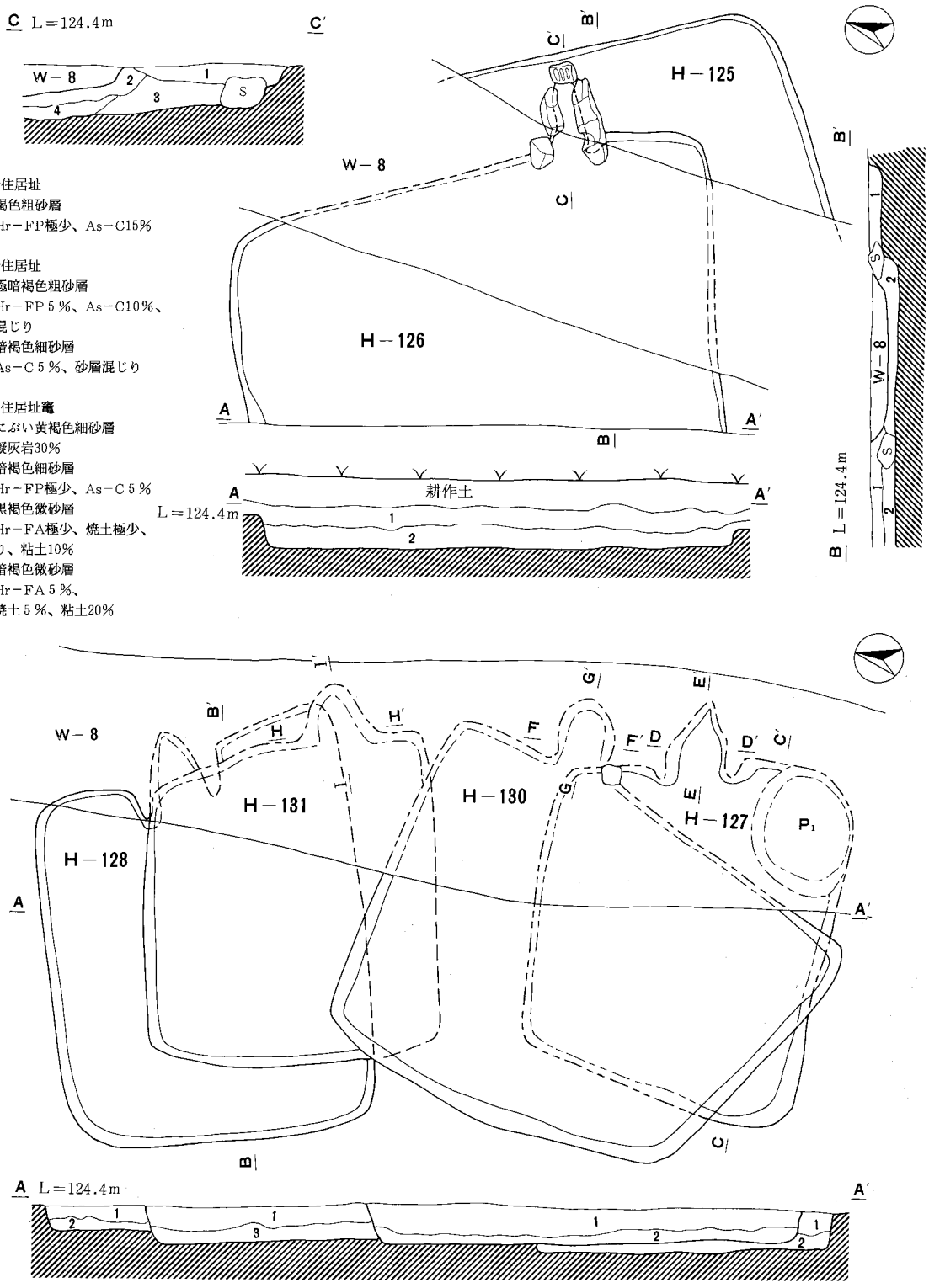


Fig. 40 H－114, 115号住居址

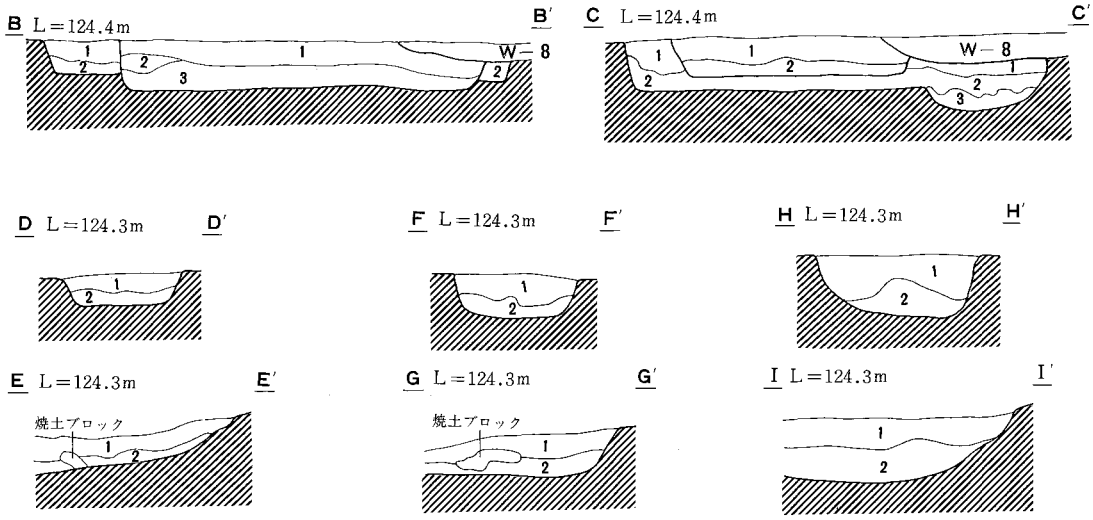


H－125号住居址
1　層　褐色粗砂層
　　Hr－FP極少、As－C15%

H－126号住居址
1　層　極暗褐色粗砂層
　　Hr－FP 5 %、As－C10%、
　砂層混じり
2　層　暗褐色細砂層
　　As－C 5 %、砂層混じり

H－126号住居址竈
1　層　にぶい黄褐色細砂層
　　凝灰岩30%
2　層　暗褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C 5 %
3　層　黒褐色微砂層
　　Hr－FA極少、焼土極少、
　灰混じり、粘土10%
4　層　暗褐色微砂層
　　Hr－FA 5 %、
　　焼土 5 %、粘土20%

Fig. 41　H－125・126, 127・128・130・131号住居址



H－127号住居址
1　層　極暗褐色粗砂層　Hr－FP10%、As－C５%
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C10%、焼土５%
3　層　褐色細砂層　As－C極少、焼土５%

H－128号住居址
1　層　黒褐色粗砂層　Hr－FP５%、As－C20%
2　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５%

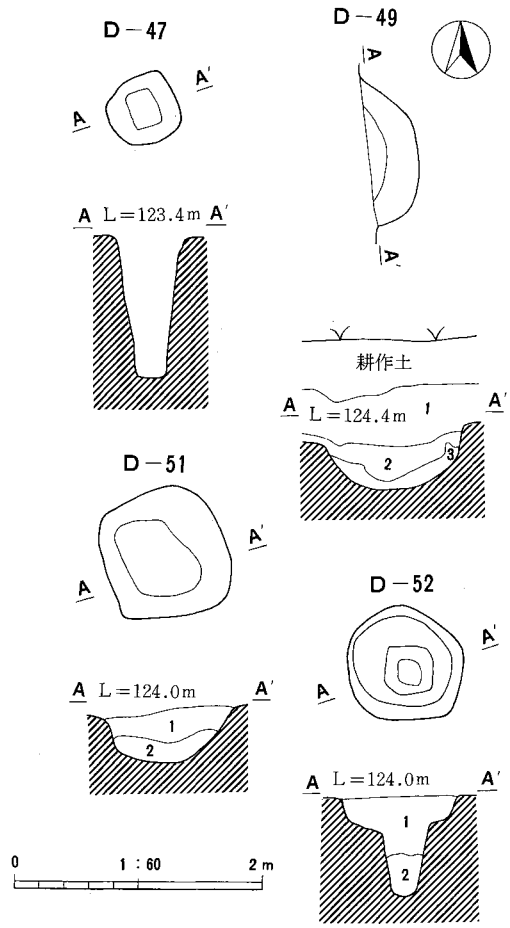
H－130号住居址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP５%、As－C15%
2　層　極暗褐色微砂層　Hr－FP極少、As－C５%

H－131号住居址
1　層　褐色細砂層　Hr－FP10%、As－C15%
2　層　暗褐色細砂層　As－C極少、砂層混じり
3　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C５%、灰混じり

H－127号住居址竈
1　層　暗赤褐色細砂層　Hr－FP５%、As－C５%、焼土15%
2　層　極暗赤褐色細砂層　焼土10%、灰混じり

H－130号住居址竈
1　層　にぶい赤褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C極少、焼土15%
2　層　暗赤褐色細砂層　As－C極少、灰混じり

H－131号住居址竈
1　層　極暗赤褐色細砂層　Hr－FP５%、As－C10%、焼土20%
2　層　暗赤褐色細砂層　As－C極少、焼土20%、灰混じり

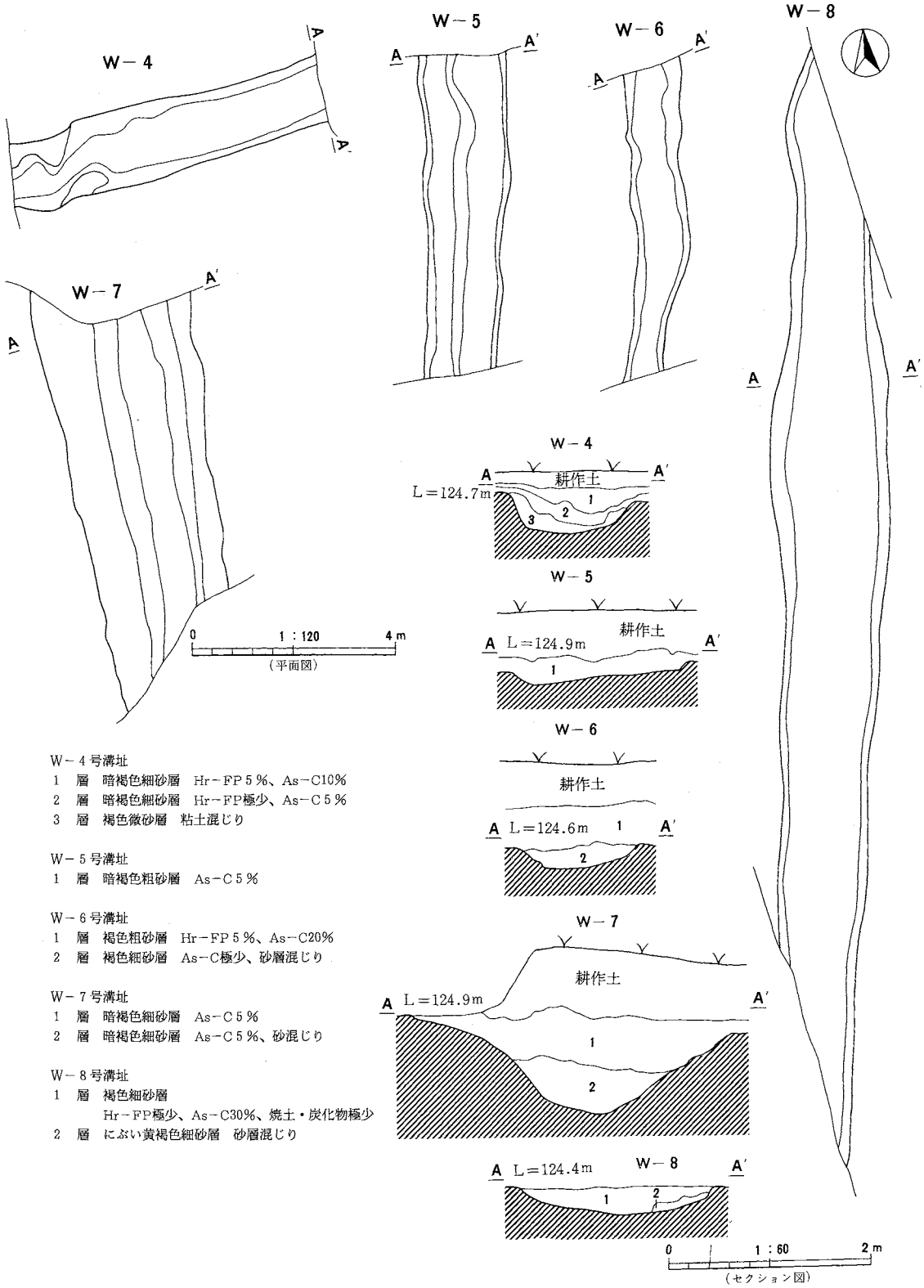


D－49号土坑
1　層　暗褐色粗砂層
　　Hr－FP５%、As－C10%
2　層　黒褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C５%
3　層　暗褐色細砂層
　　As－C極少、砂層混じり

D－51号土坑
1　層　黒褐色粗砂層
　　Hr－FP極少、As－C10%
2　層　暗褐色細砂層
　　As－C極少、砂層混じり

D－52号土坑
1　層　黒褐色細砂層　Hr－FP５%、焼土５%、炭化物５%
2　層　褐灰色微砂層　焼土５%、炭化物５%、灰白色粘土30%

Fig. 42　H－127・128・130・131号住居址，　D－47, 49, 51, 52号土坑



W－4号溝址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP 5％、As－C10％
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少、As－C 5％
3　層　褐色微砂層　粘土混じり

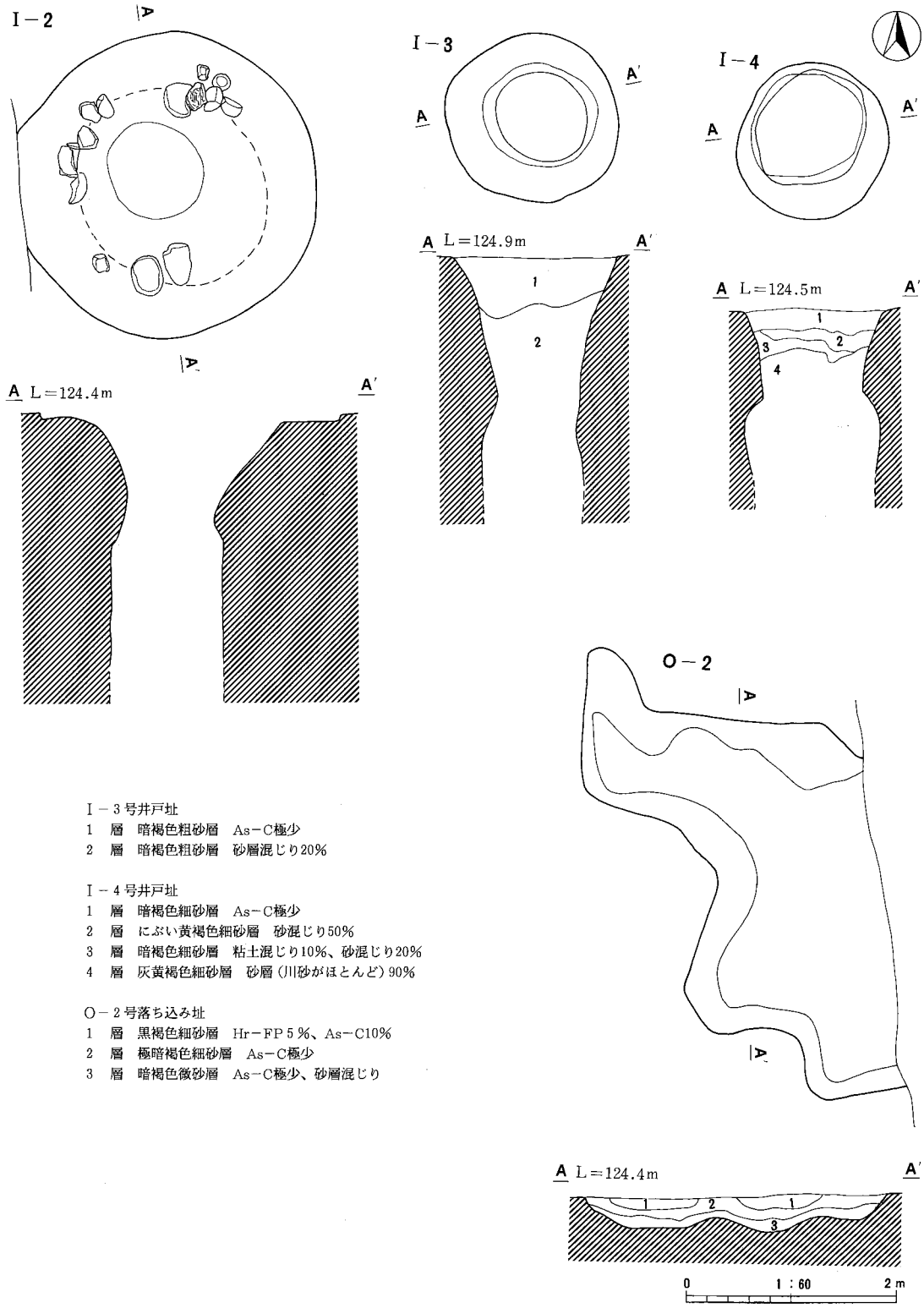
W－5号溝址
1　層　暗褐色粗砂層　As－C 5％

W－6号溝址
1　層　褐色粗砂層　Hr－FP 5％、As－C20％
2　層　褐色細砂層　As－C極少、砂層混じり

W－7号溝址
1　層　暗褐色細砂層　As－C 5％
2　層　暗褐色細砂層　As－C 5％、砂混じり

W－8号溝址
1　層　褐色細砂層
　　Hr－FP極少、As－C30％、焼土・炭化物極少
2　層　にぶい黄褐色細砂層　砂層混じり

Fig. 43　W－4～8号溝址



I－3号井戸址
1　層　暗褐色粗砂層　As－C極少
2　層　暗褐色粗砂層　砂層混じり20%

I－4号井戸址
1　層　暗褐色細砂層　As－C極少
2　層　にぶい黄褐色細砂層　砂混じり50%
3　層　暗褐色細砂層　粘土混じり10%、砂混じり20%
4　層　灰黄褐色細砂層　砂層（川砂がほとんど）90%

O－2号落ち込み址
1　層　黒褐色細砂層　Hr－FP 5 %、As－C10%
2　層　極暗褐色細砂層　As－C極少
3　層　暗褐色微砂層　As－C極少、砂層混じり

Fig. 44　I－2～4号井戸址，　O－2号落ち込み址

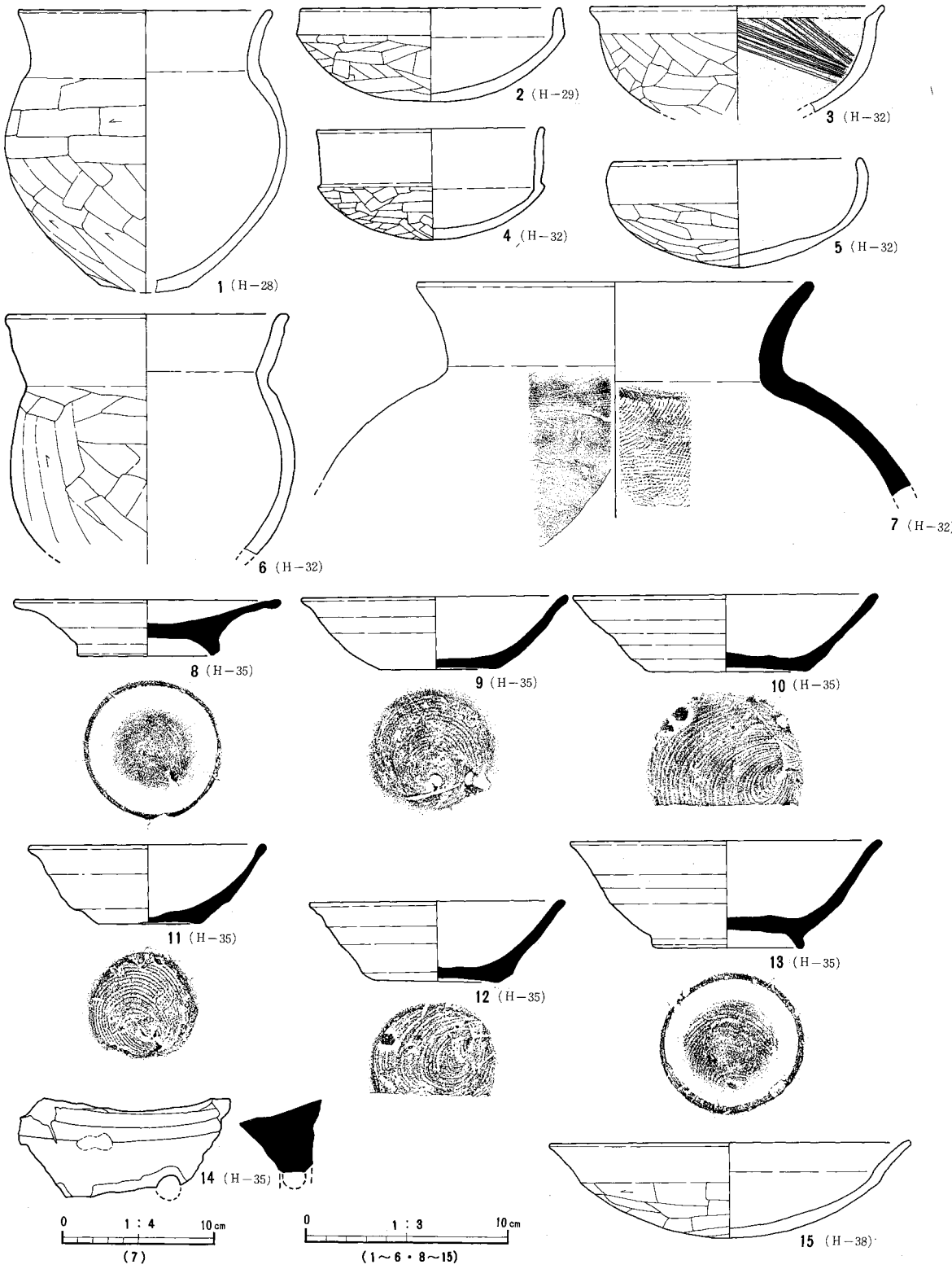


Fig.45 古墳〜平安時代の土器（1〜15）

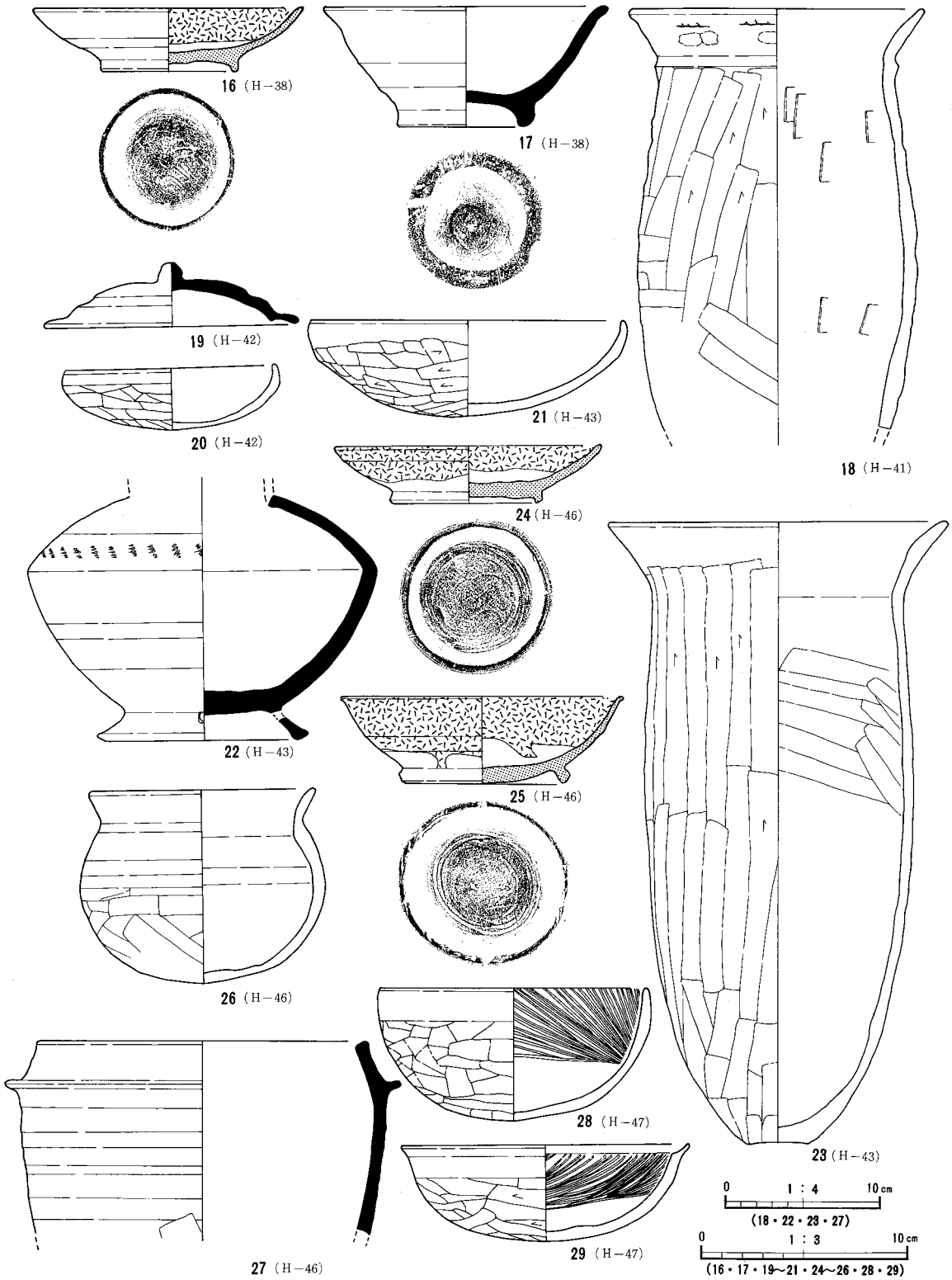


Fig. 46 古墳〜平安時代の土器 (16〜29)

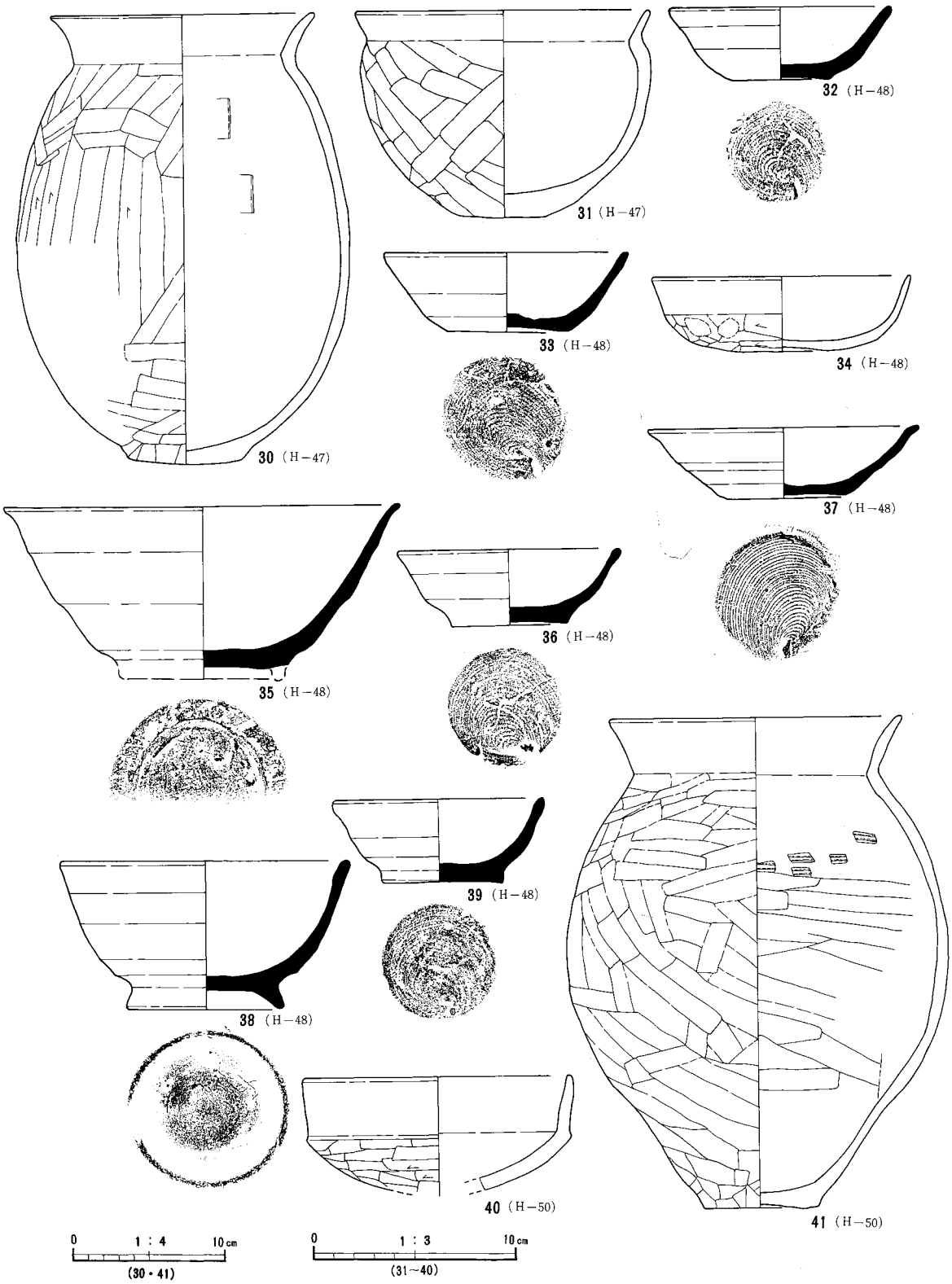


Fig. 47　古墳〜平安時代の土器（30〜41）

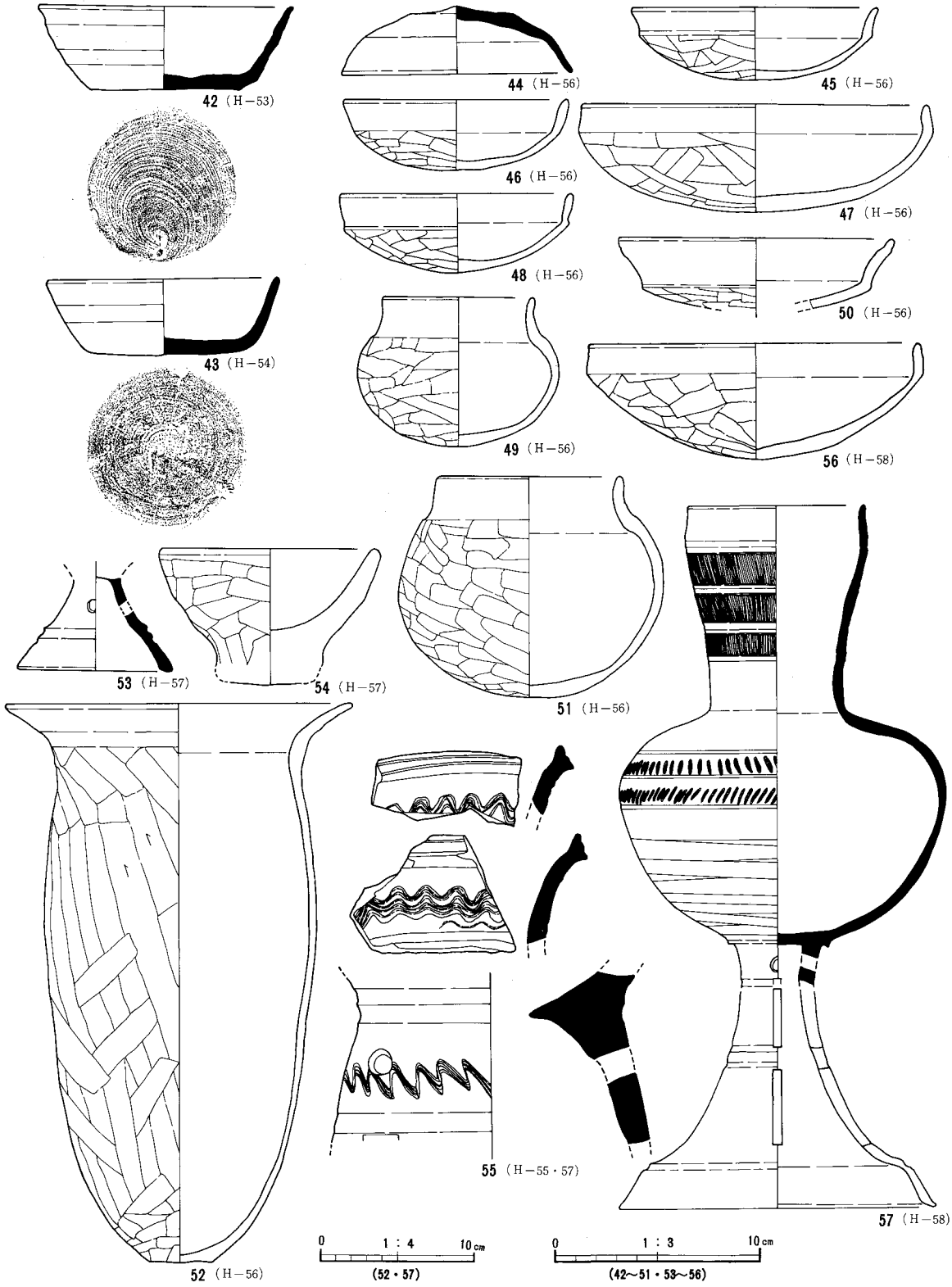


Fig. 48　古墳〜平安時代の土器（42〜57）

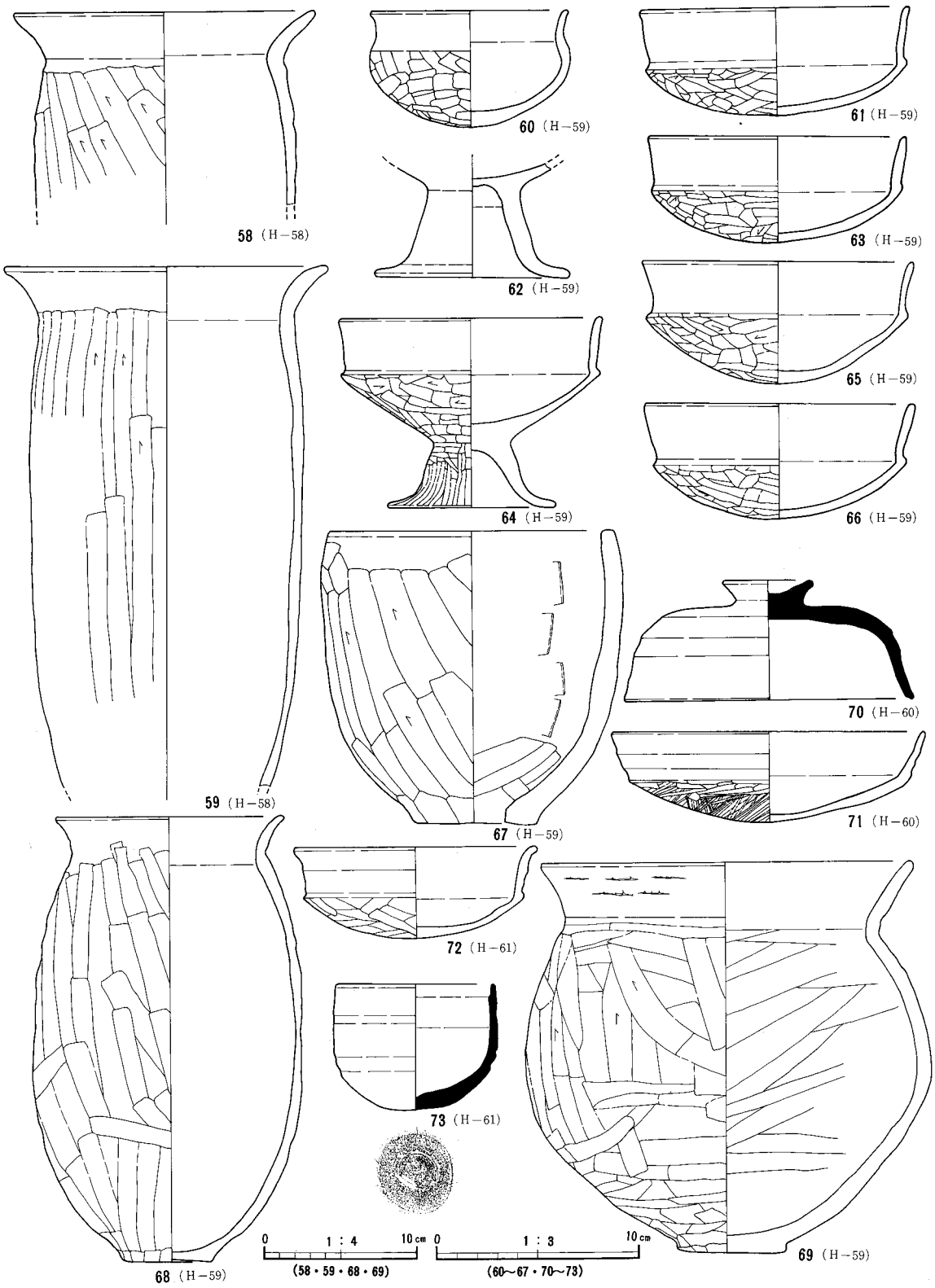


Fig.49 古墳時代の土器（58〜73）

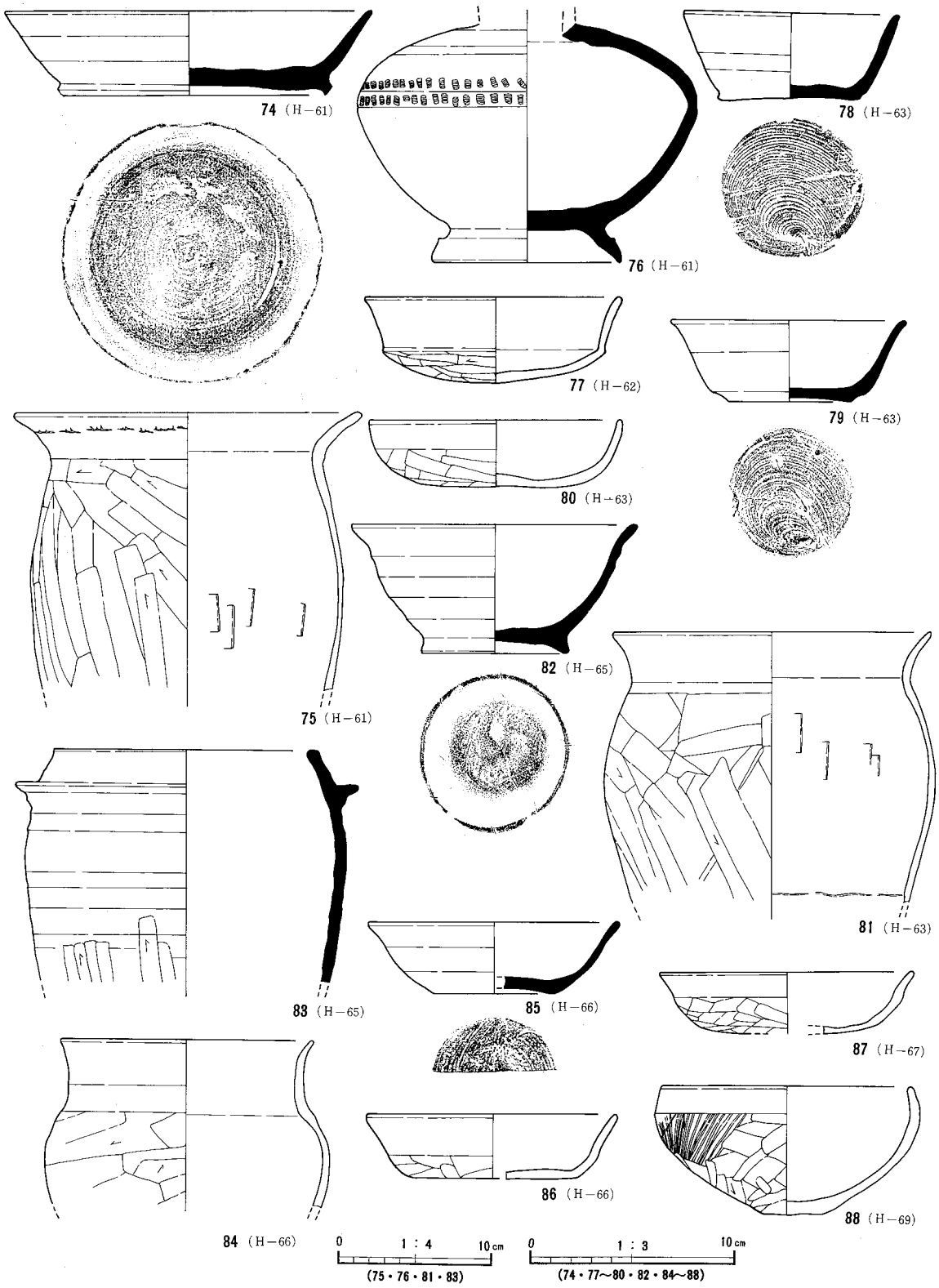


Fig. 50　古墳〜平安時代の土器（74〜88）

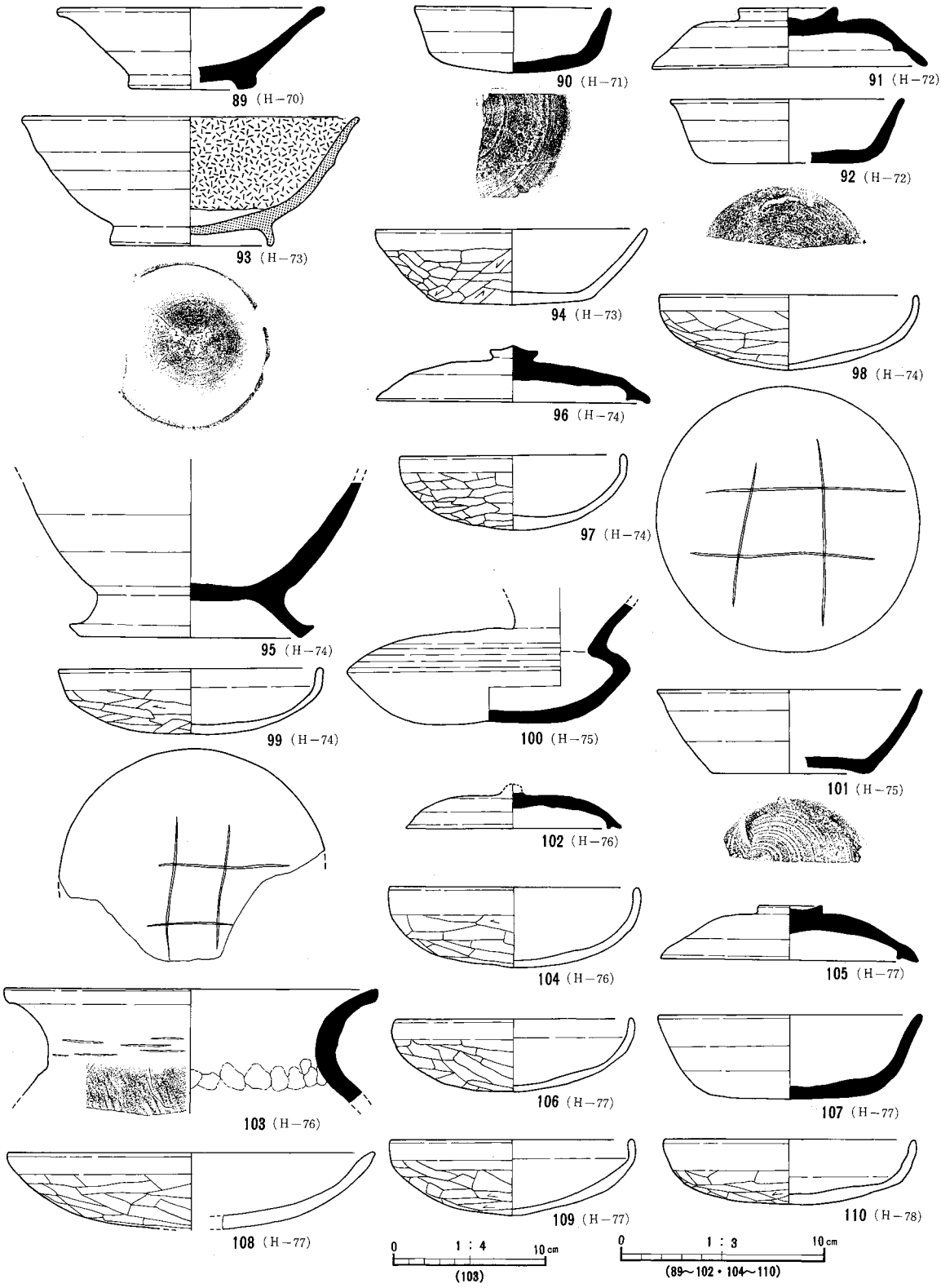


Fig. 51 古墳〜平安時代の土器 (89〜110)

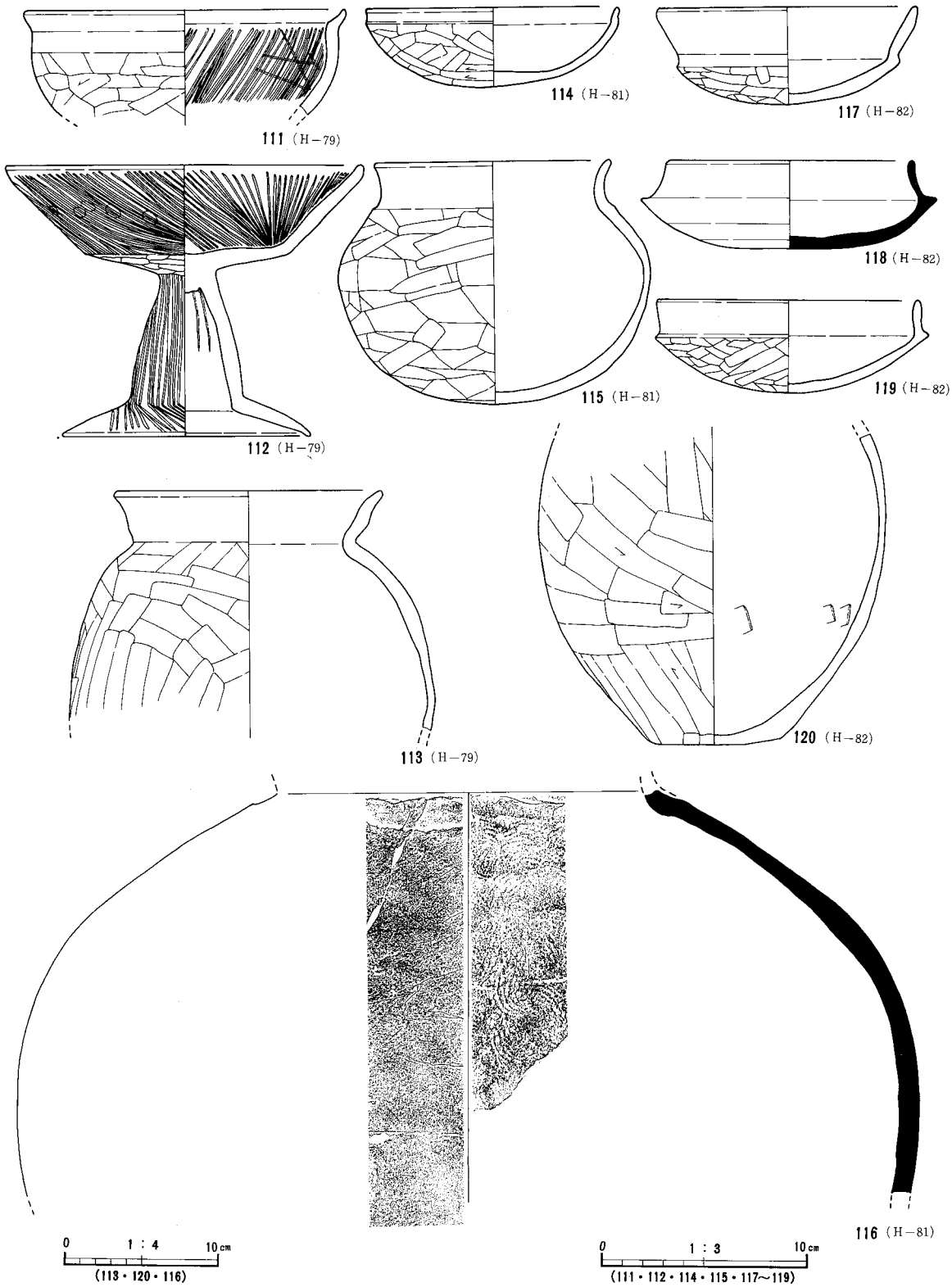


Fig. 52 古墳〜平安時代の土器（111〜120）

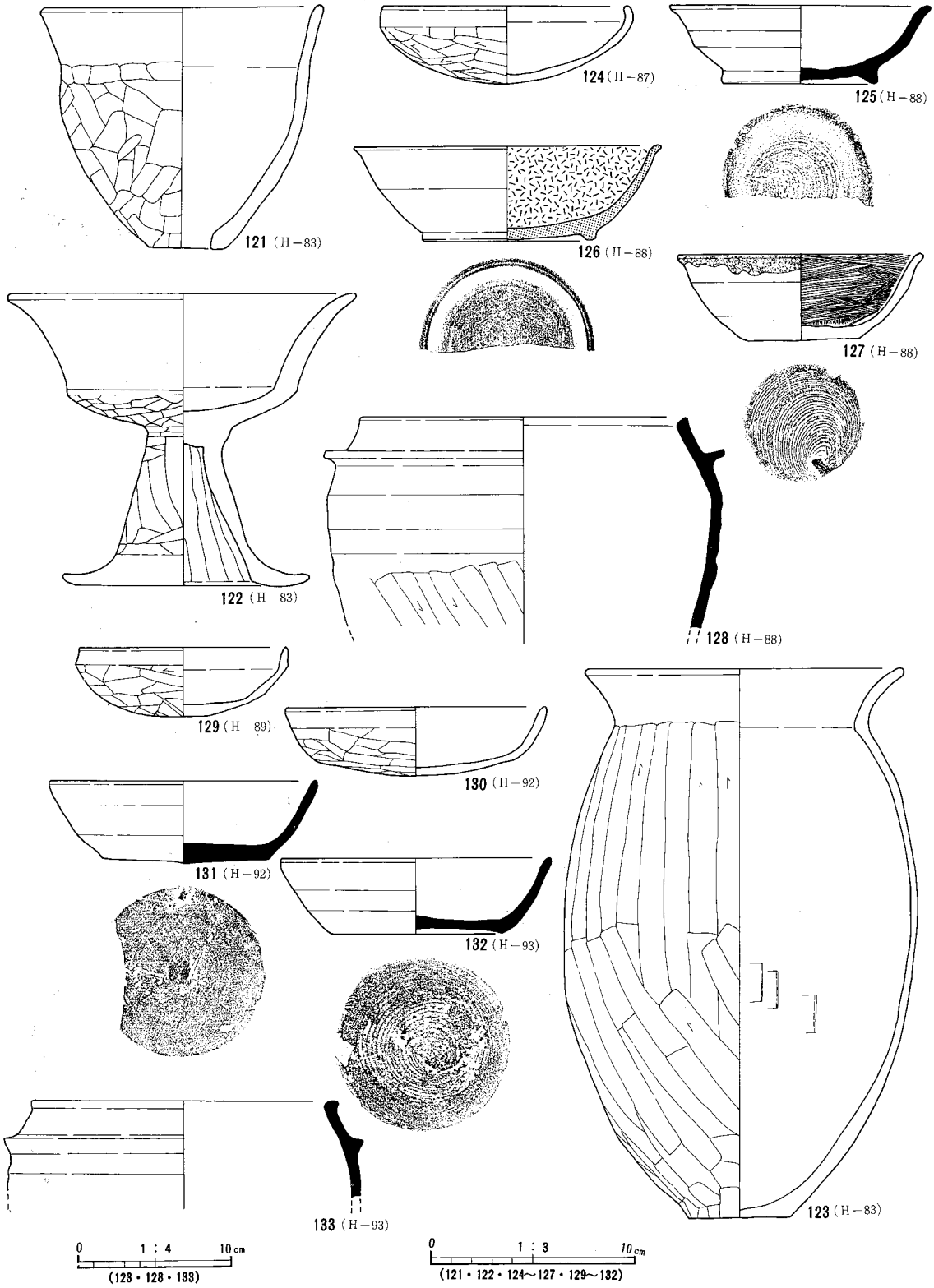


Fig. 53 古墳〜平安時代の土器 (121〜133)

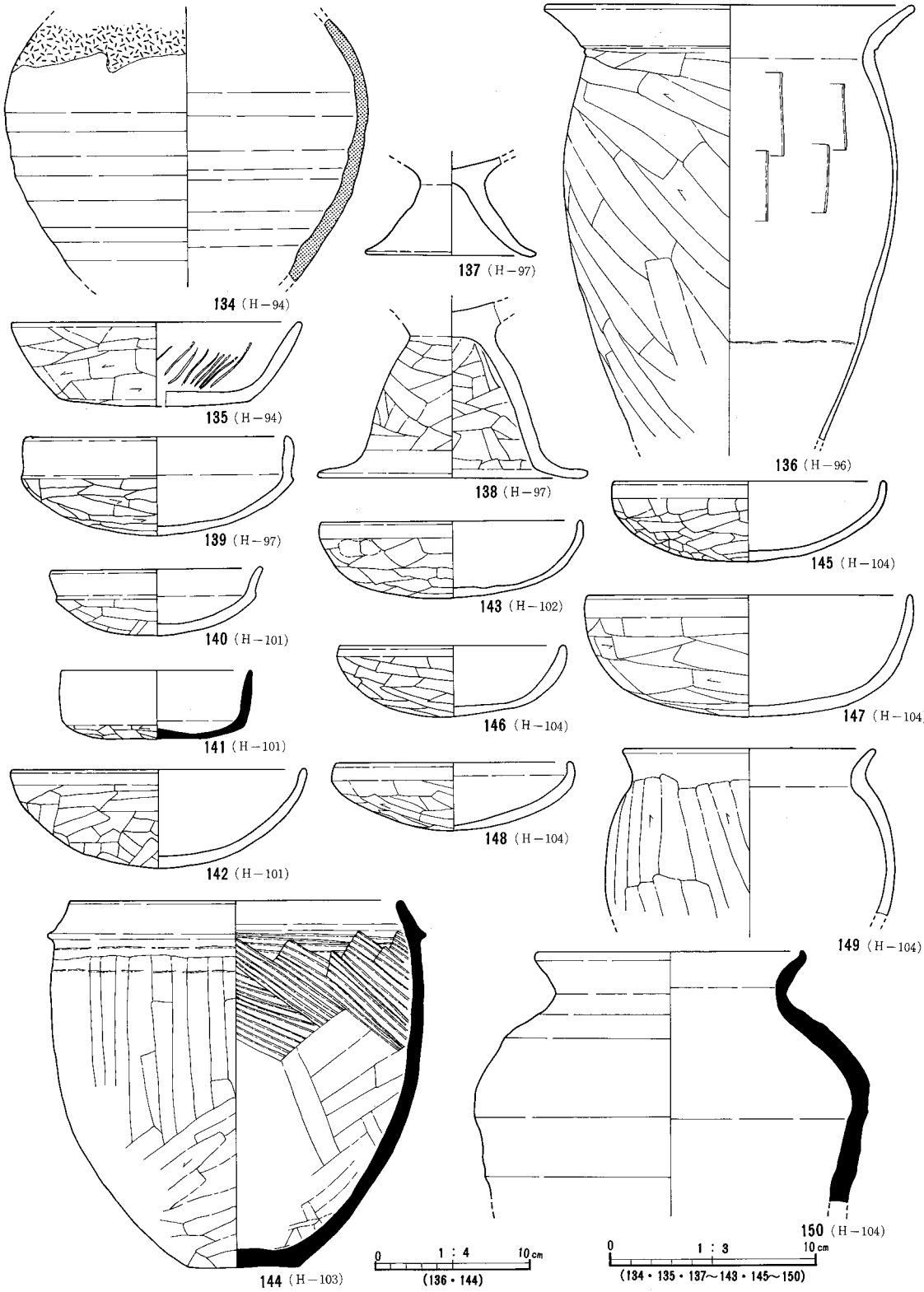


Fig. 54　古墳〜平安時代の土器（134〜150）

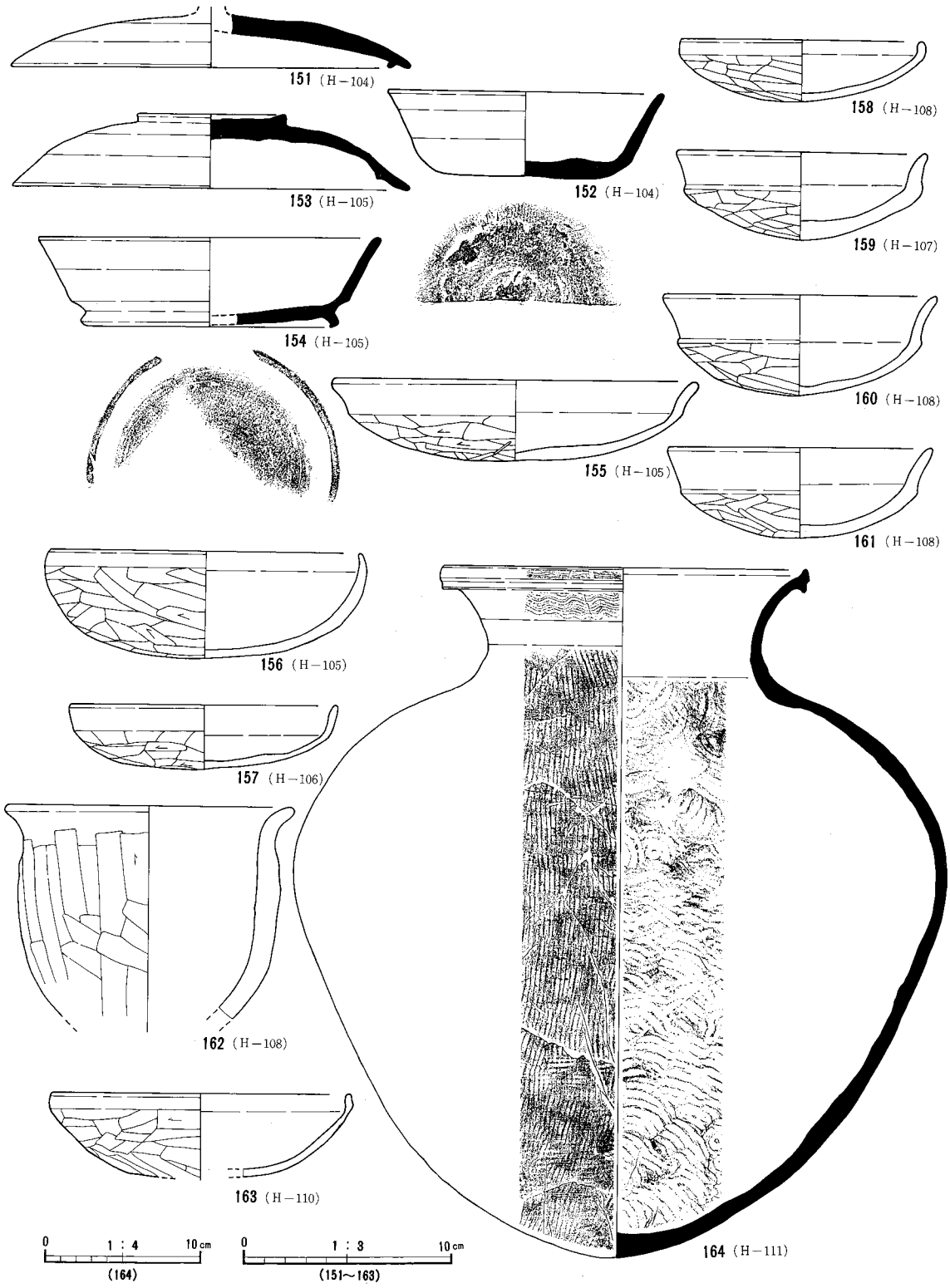


Fig.55 古墳～平安時代の土器（151～164）

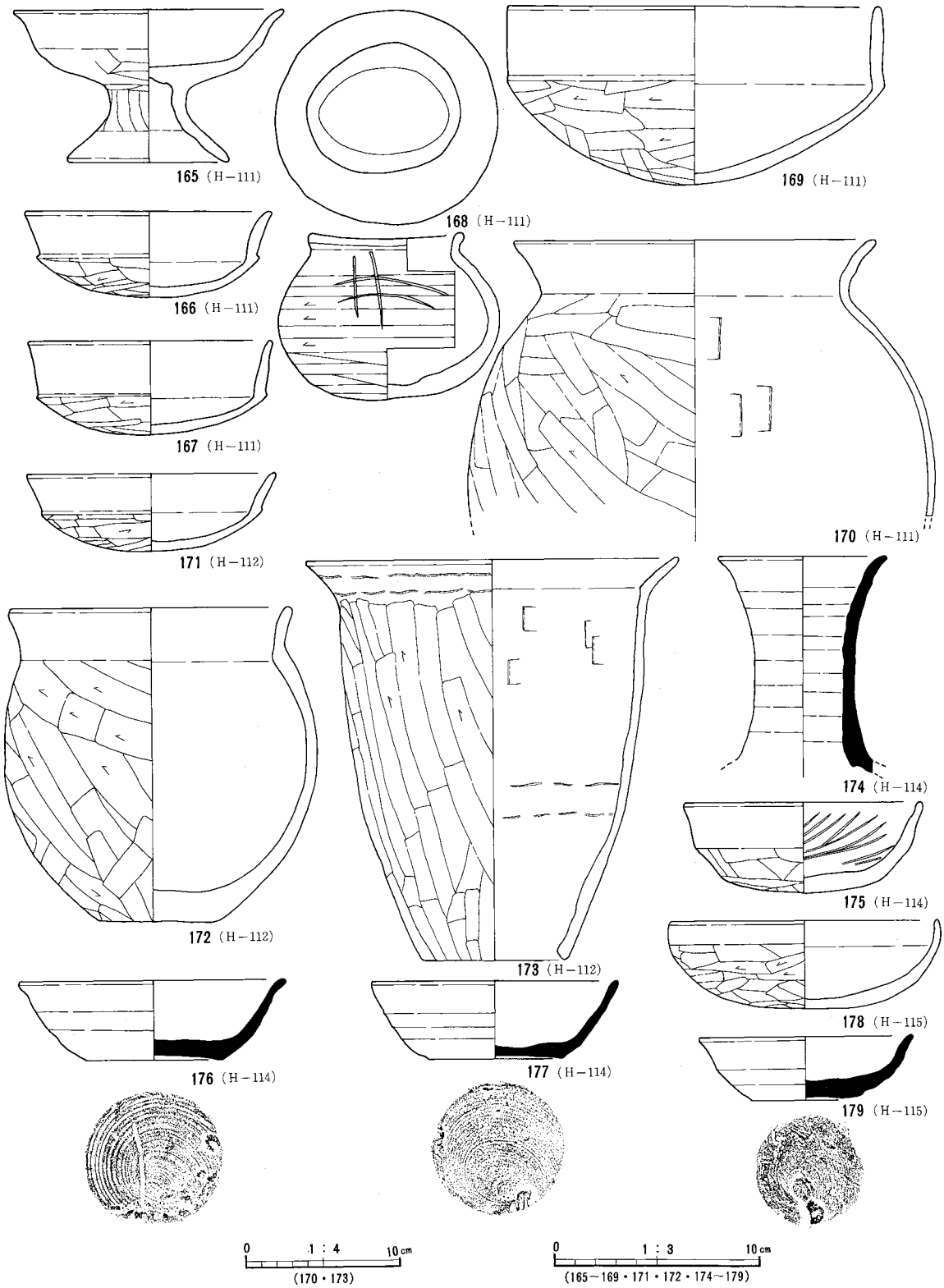


Fig. 56 古墳〜平安時代の土器（165〜179）

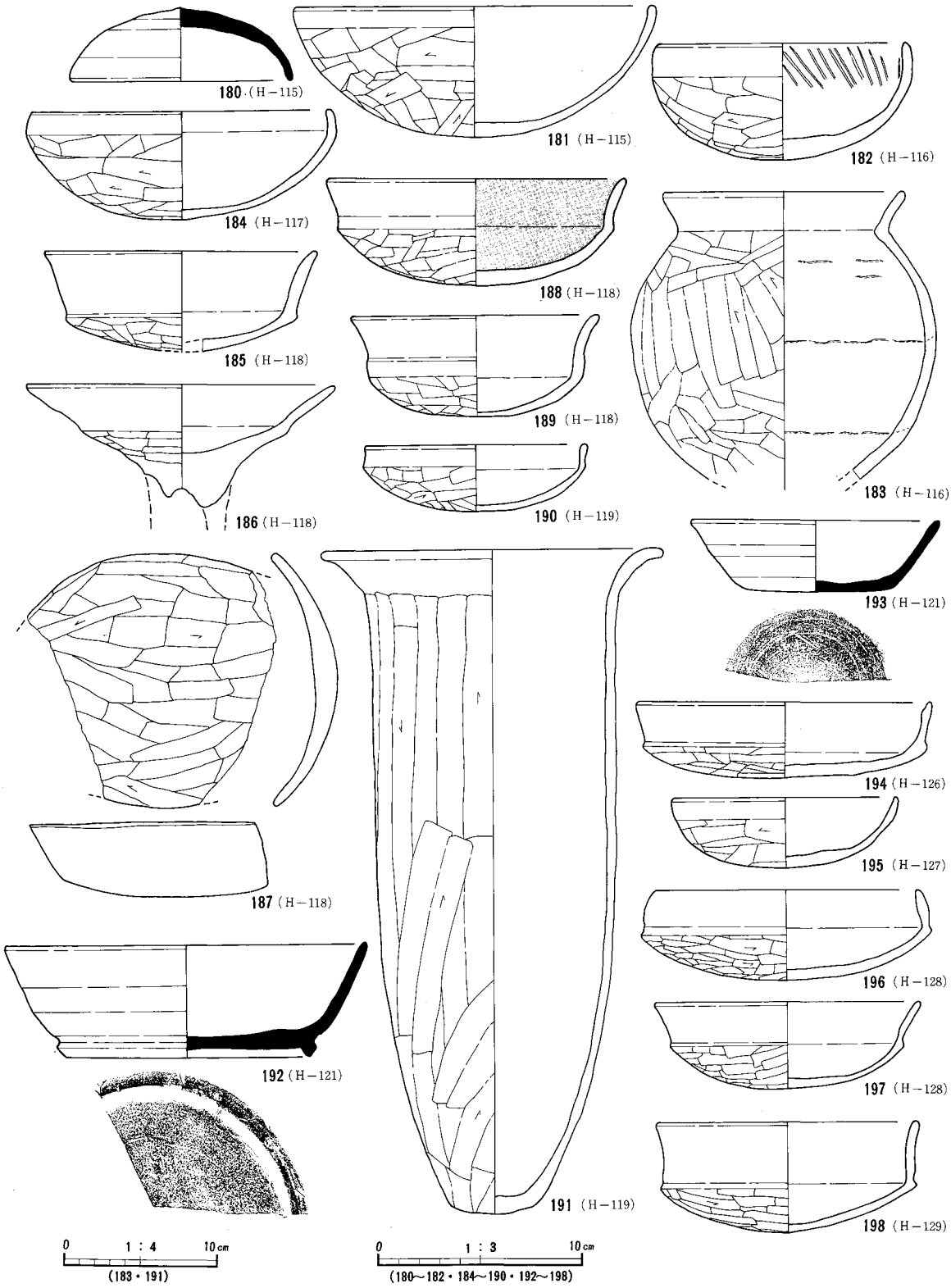


Fig.57 古墳〜平安時代の土器 (180〜198)

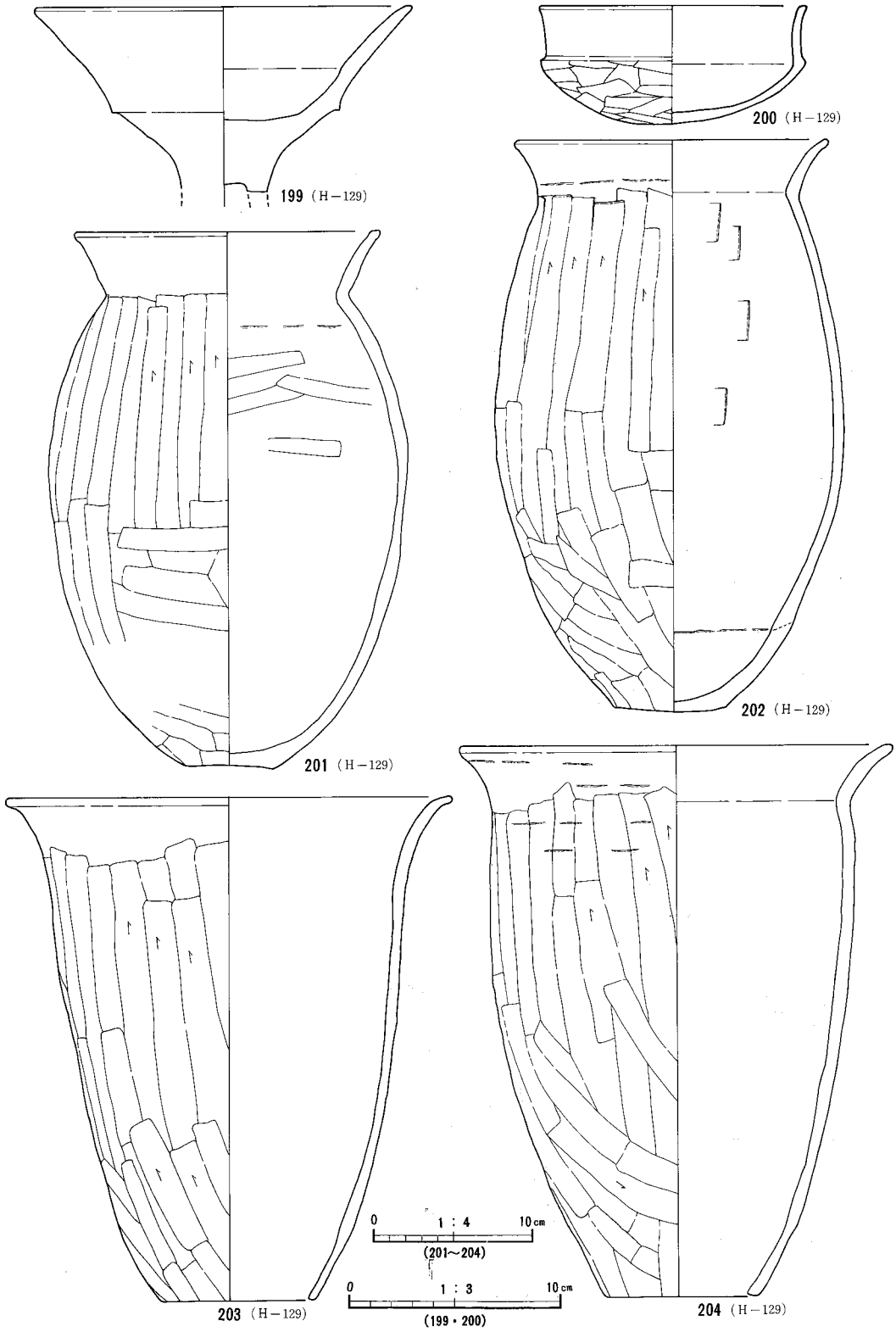


Fig.58　古墳時代の土器（199～204）

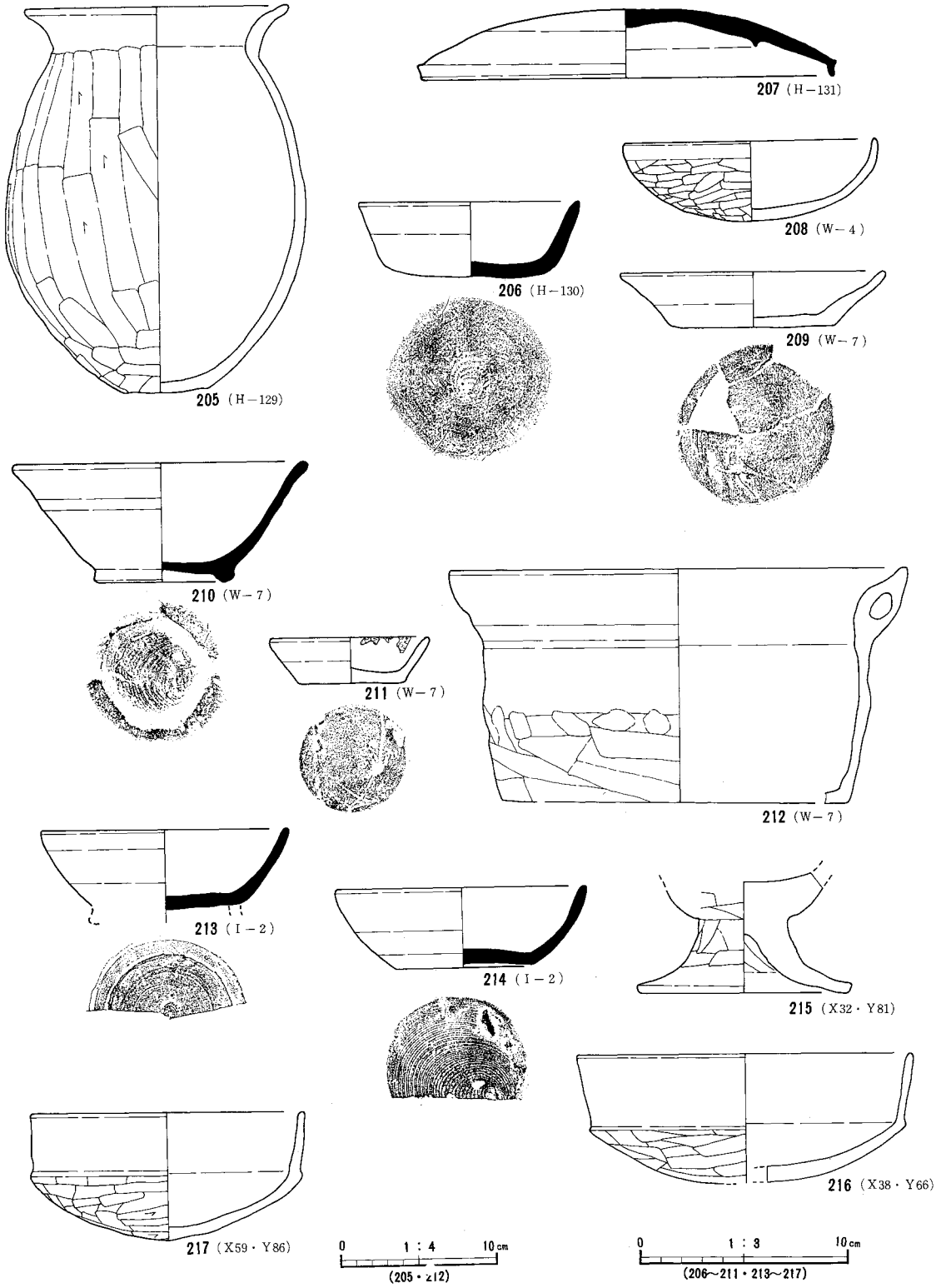


Fig. 59 古墳～中世の土器（205～217）

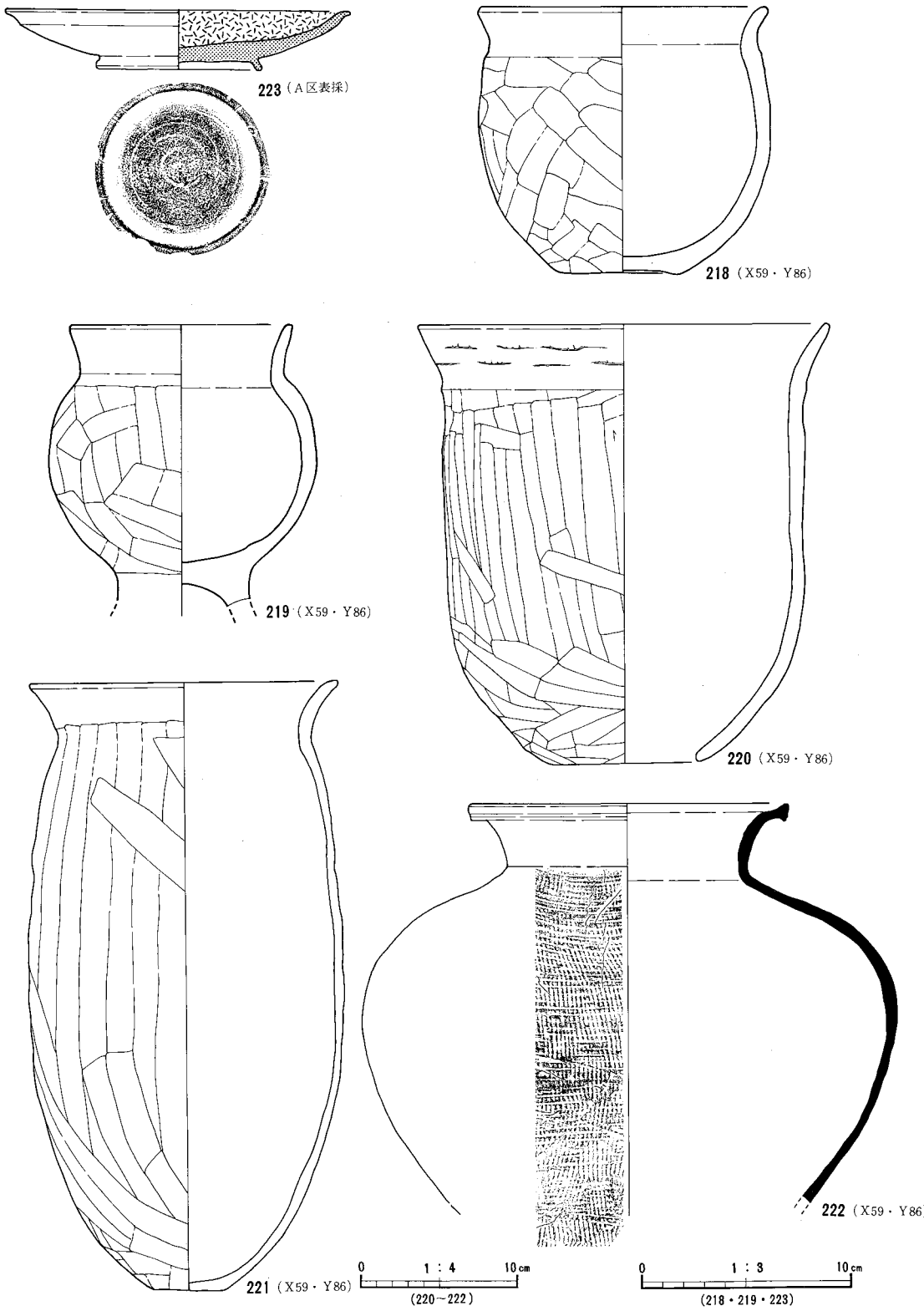
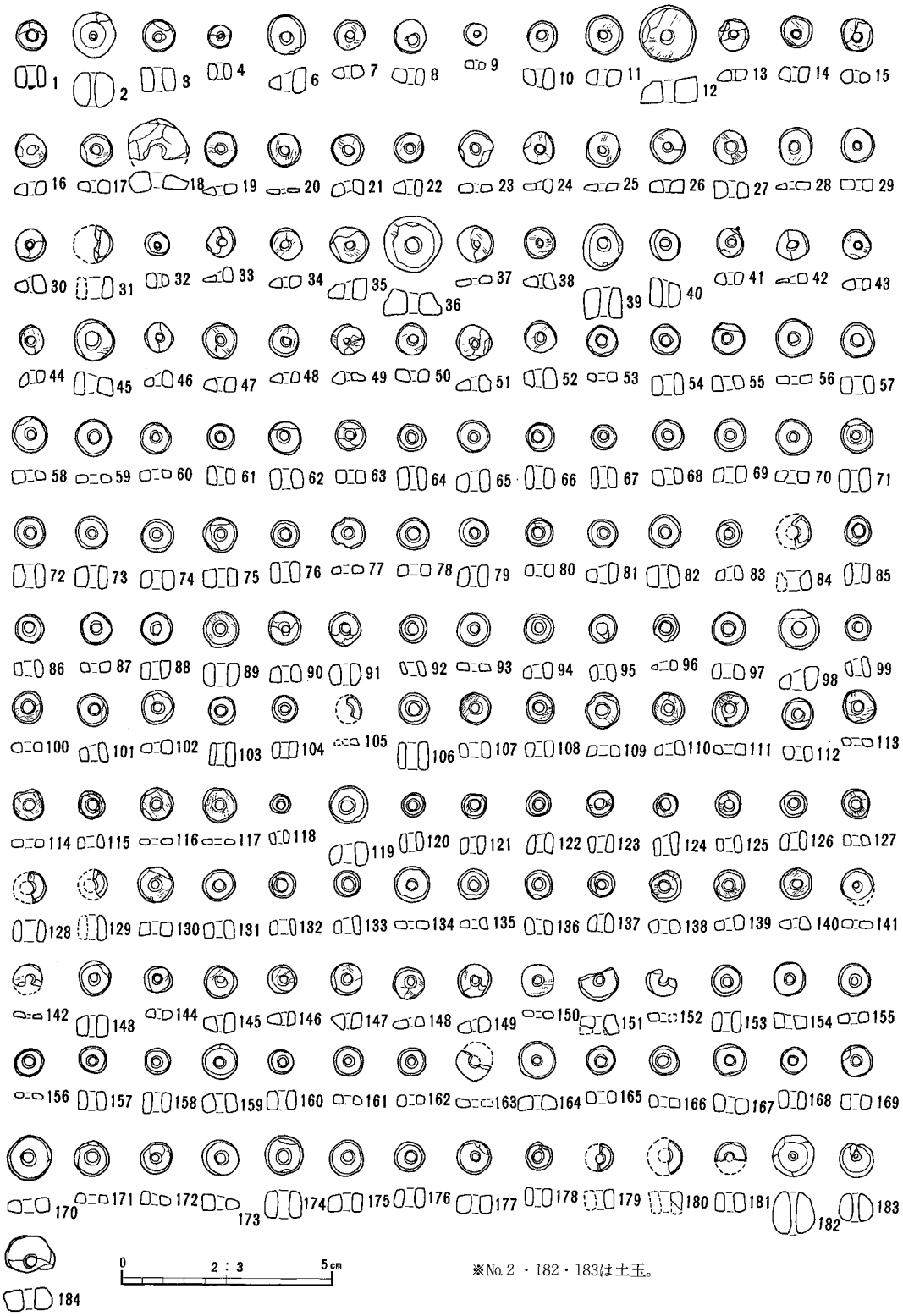


Fig.60　古墳～平安時代の土器（218～223）



※No.2・182・183は土玉。

Fig.61 白玉

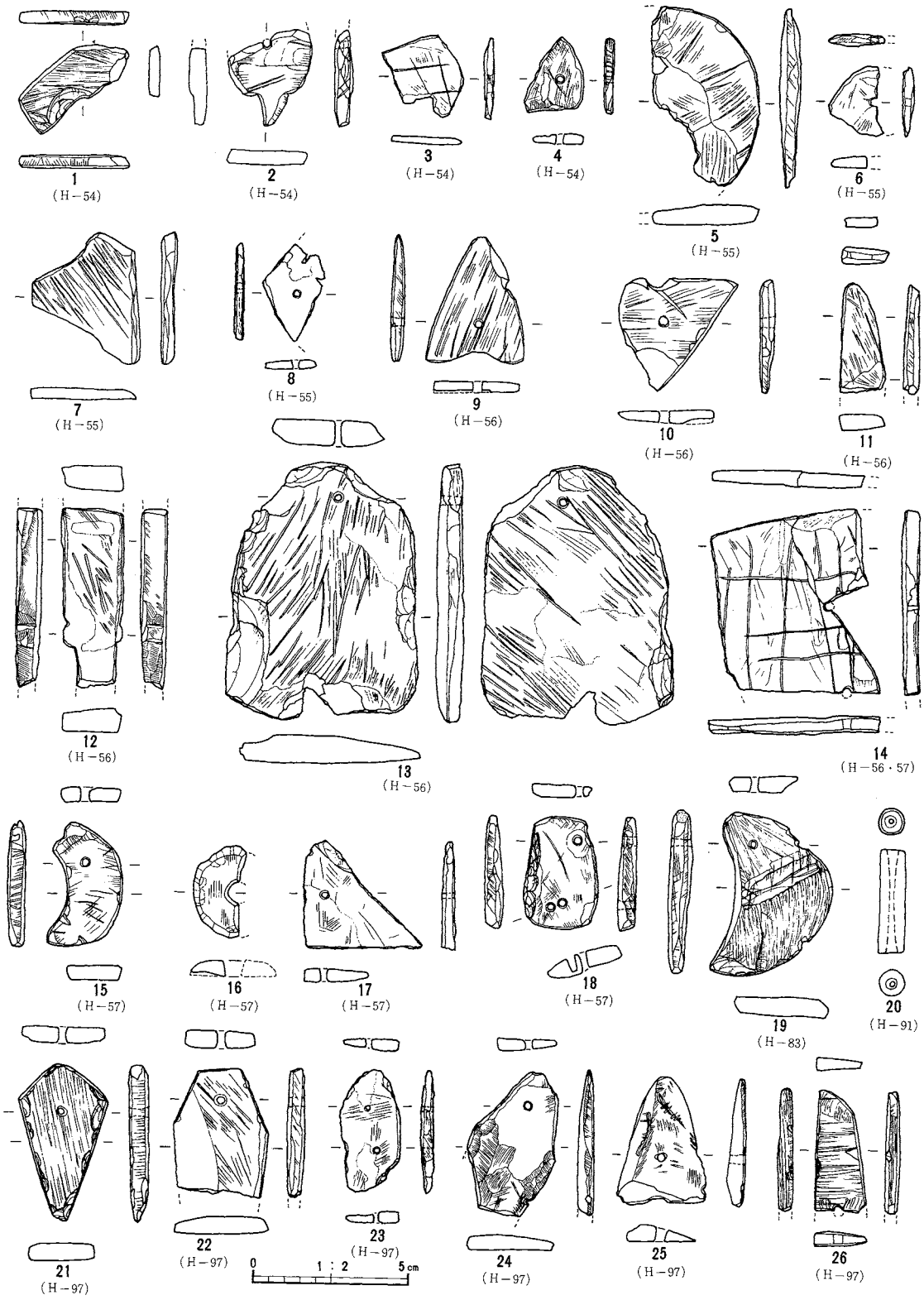


Fig. 62　石製模造品(1)

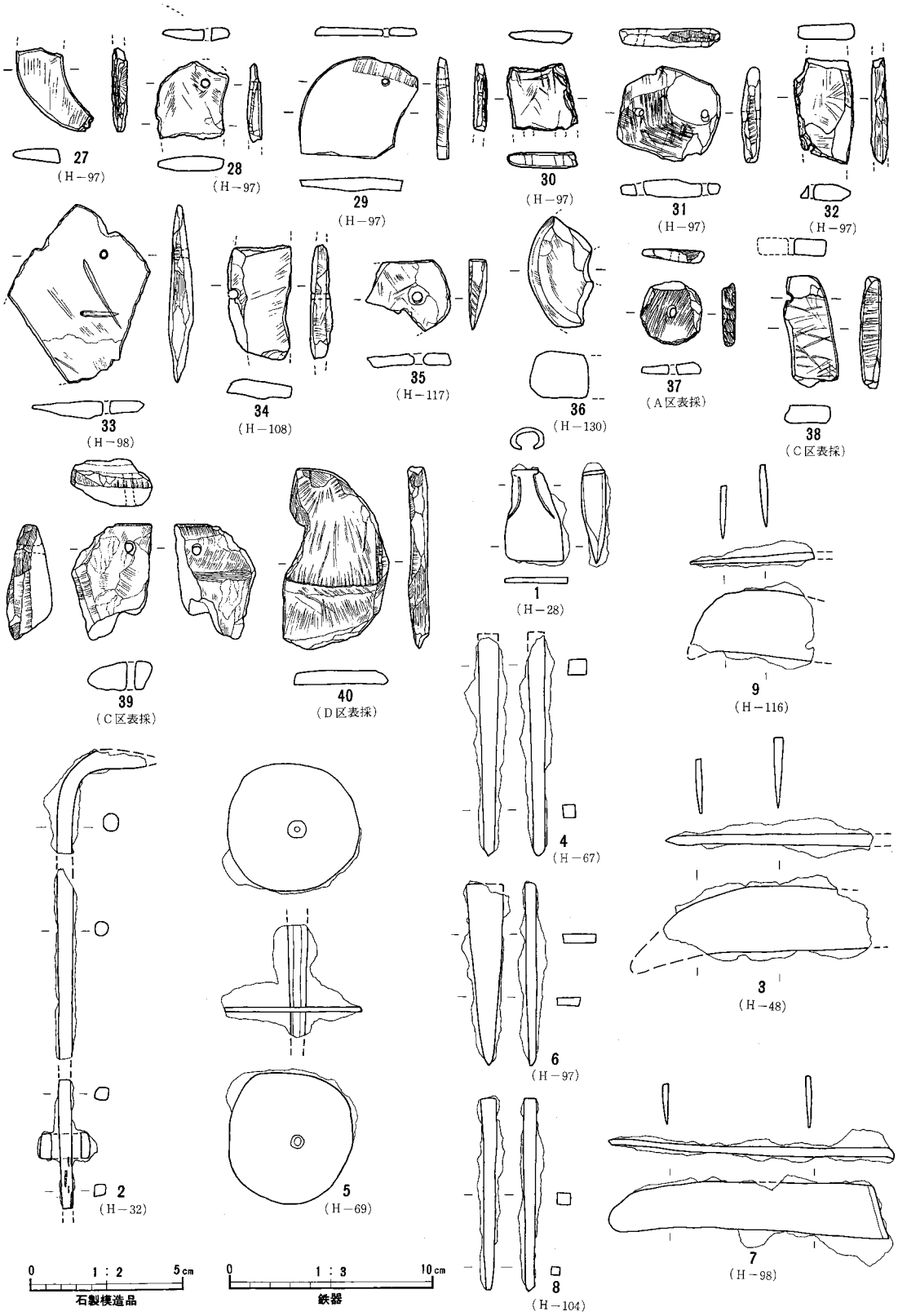


Fig. 63　石製模造品(2)，鉄器

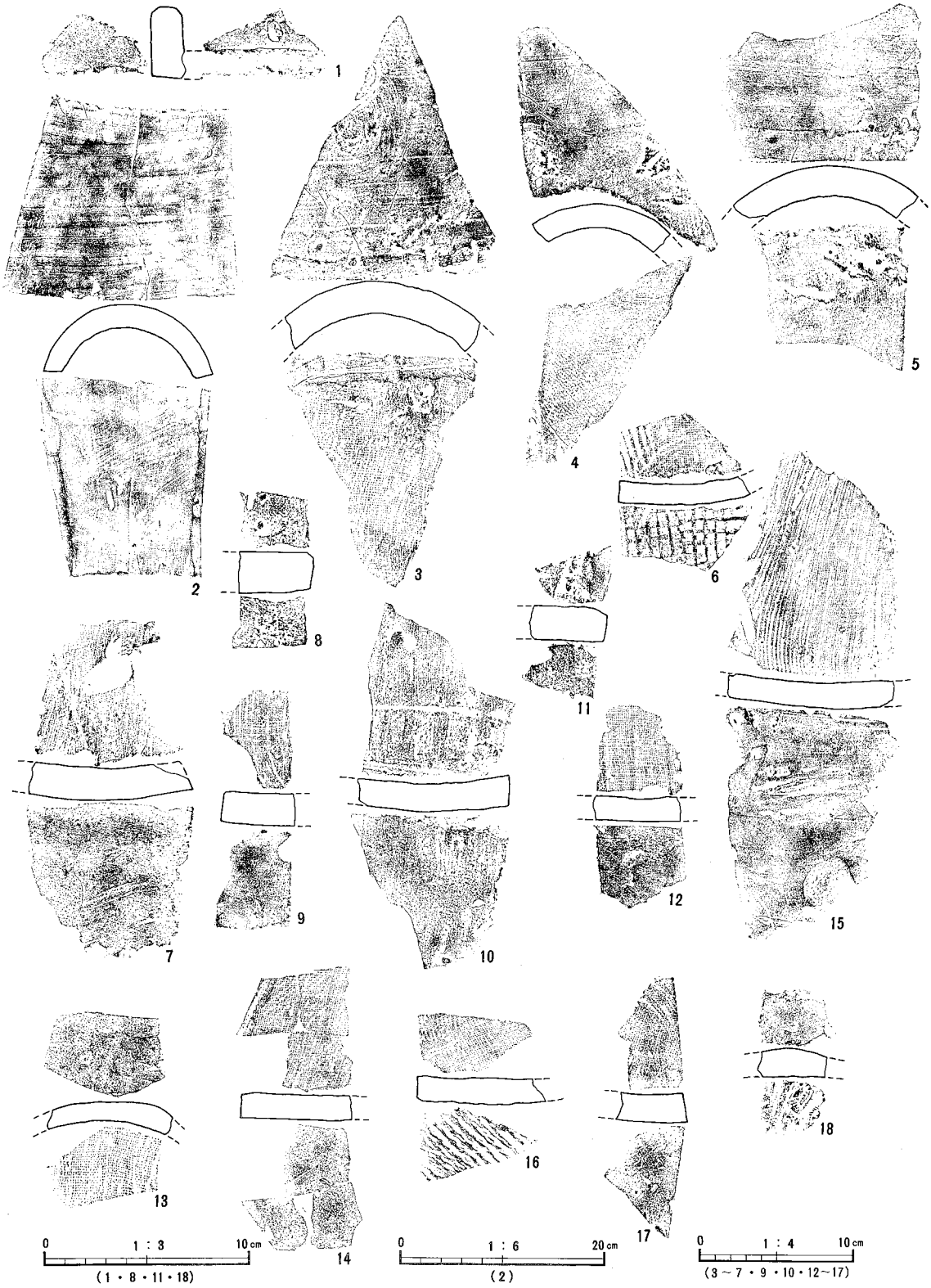

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
0 1 : 3 10cm
(1・8・11・18)
0 1 : 6 20cm
(2)
0 1 : 4 10cm
(3～7・9・10・12～17)

Fig. 64 瓦(1)

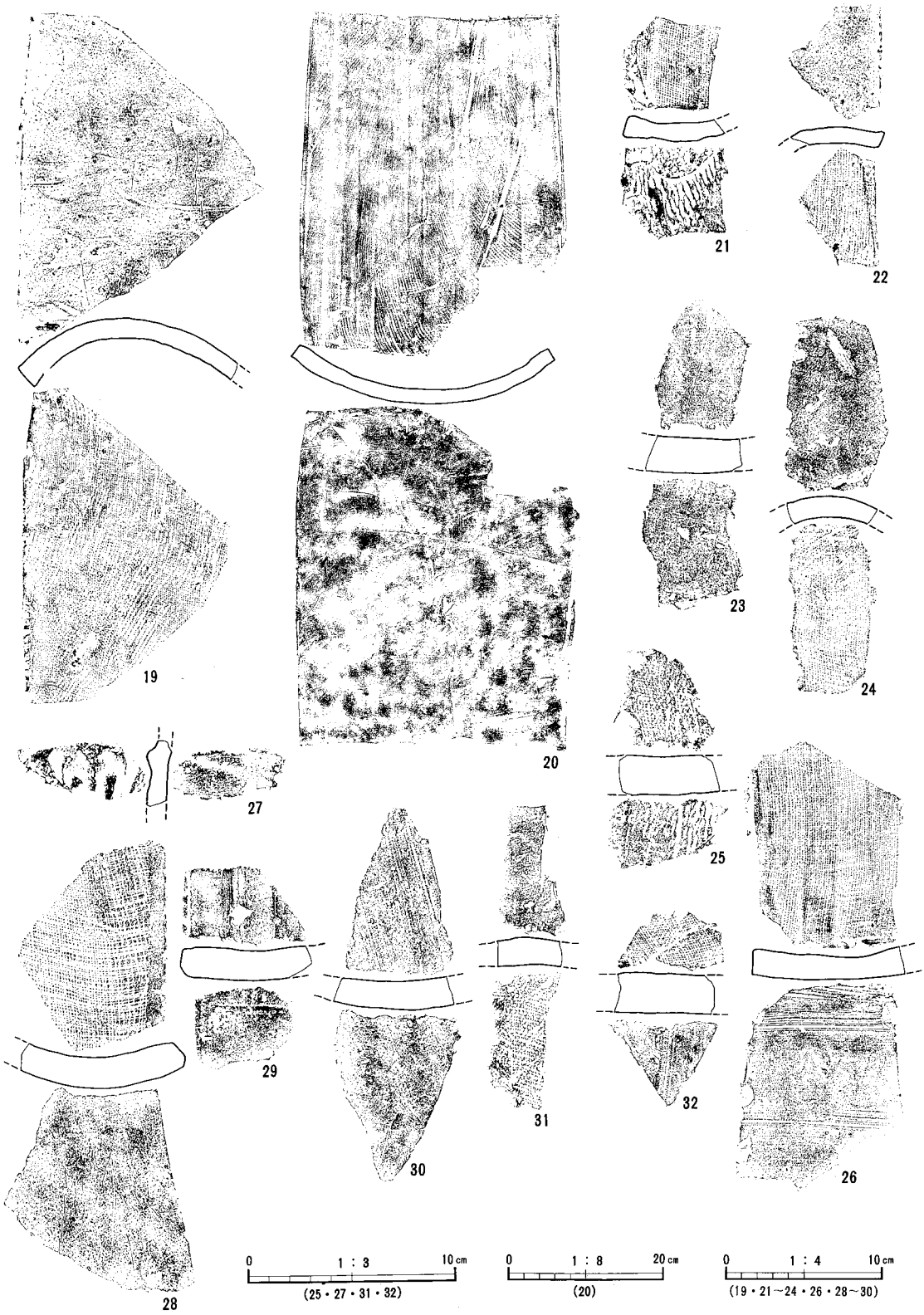

19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
0 1 : 3 10cm
(25・27・31・32)
0 1 : 8 20cm
(20)
0 1 : 4 10cm
(19・21～24・26・28～30)

Fig. 65 瓦(2)

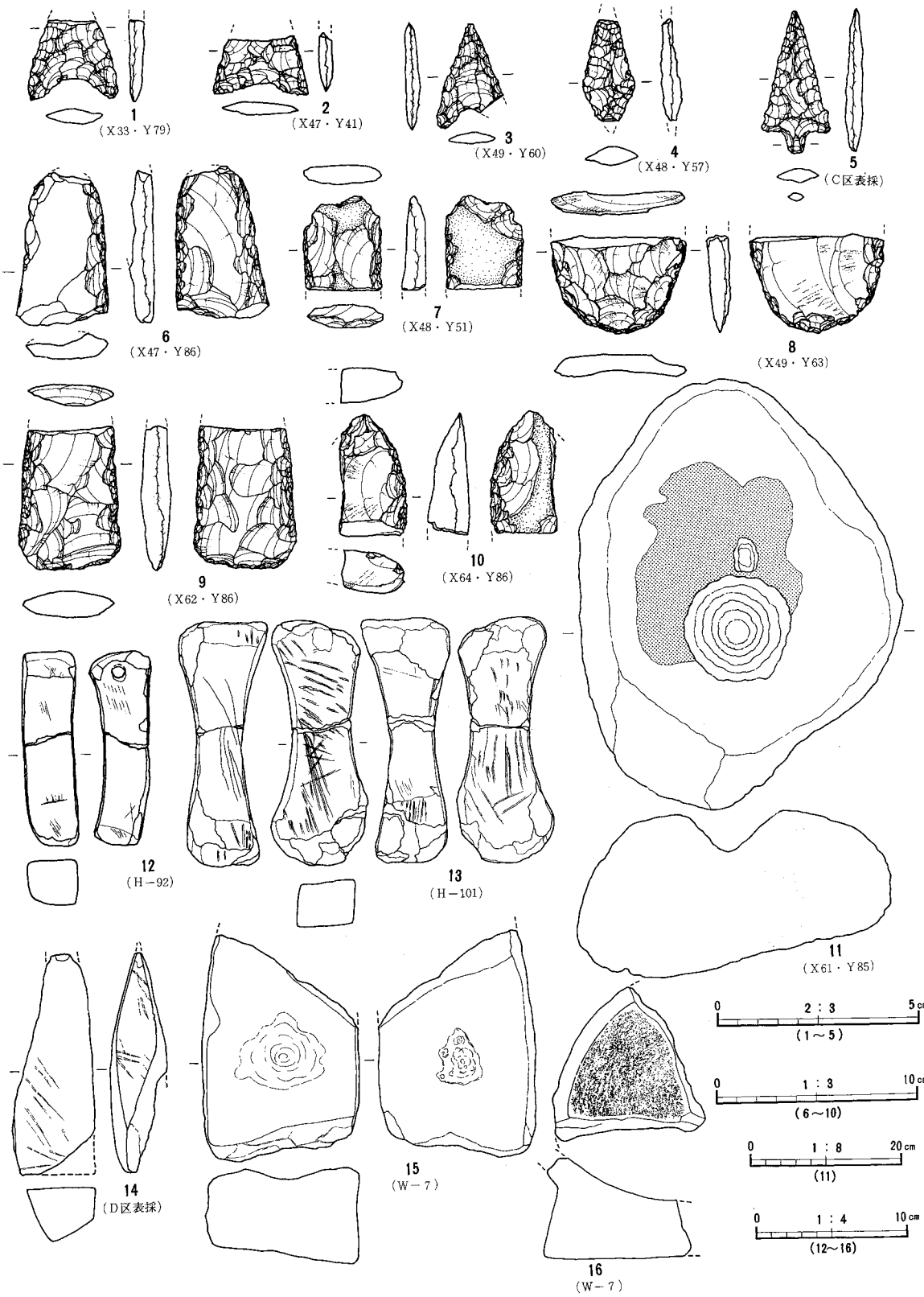

1
(X33・Y79)
2
(X47・Y41)
3
(X49・Y60)
4
(X48・Y57)
5
(C区表採)
6
(X47・Y86)
7
(X48・Y51)
8
(X49・Y63)
9
(X62・Y86)
10
(X64・Y86)
11
(X61・Y85)
12
(H−92)
13
(H−101)
14
(D区表採)
15
(W−7)
16
(W−7)
0 2:3 5cm
(1〜5)
0 1:3 10cm
(6〜10)
0 1:8 20cm
(11)
0 1:4 10cm
(12〜16)

Fig.66 石器，石製品

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
0
1 : 3
10cm

Fig.67　縄文式土器

1．赤城山と大屋敷遺跡

2．大屋敷遺跡全景

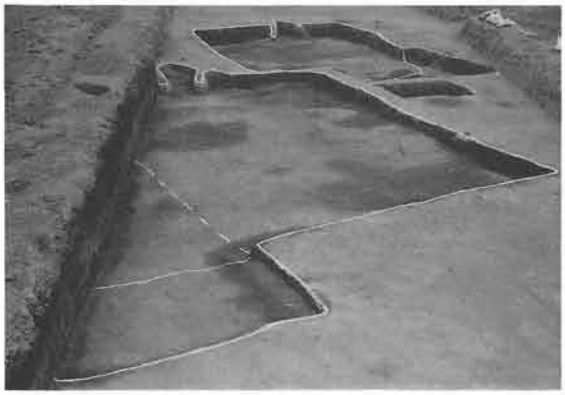
1．B区西側全景（北から）

2．C区全景（南から）

1．C区全景（北から）

2．C区プラン確認状態（南から）

3．D区全景（東から）



4．H－35・36・38・39号住居址（西から）

5．H－43号住居址遺物出土状態（南から）

1．H－46号住居址竈（西から）

2．H－47号住居址竈付近遺物出土状態（西から）

3．H－56号住居址遺物出土状態（東から）

4．H－58号住居址遺物出土状態（南から）

5．H－56・57・58・107・108・117号住居址全景（西から）

1．H－59号住居址（西から）

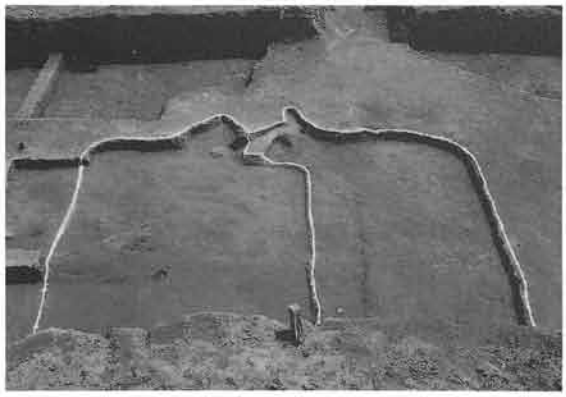
2．H－59号住居址竈遺物出土状態（西から）

3．H－59号住居址遺物出土状態（西から）

4．H－59号住居址遺物出土状態（西から）

5．H－63号住居址（西から）

6．H－63号住居址竈（西から）

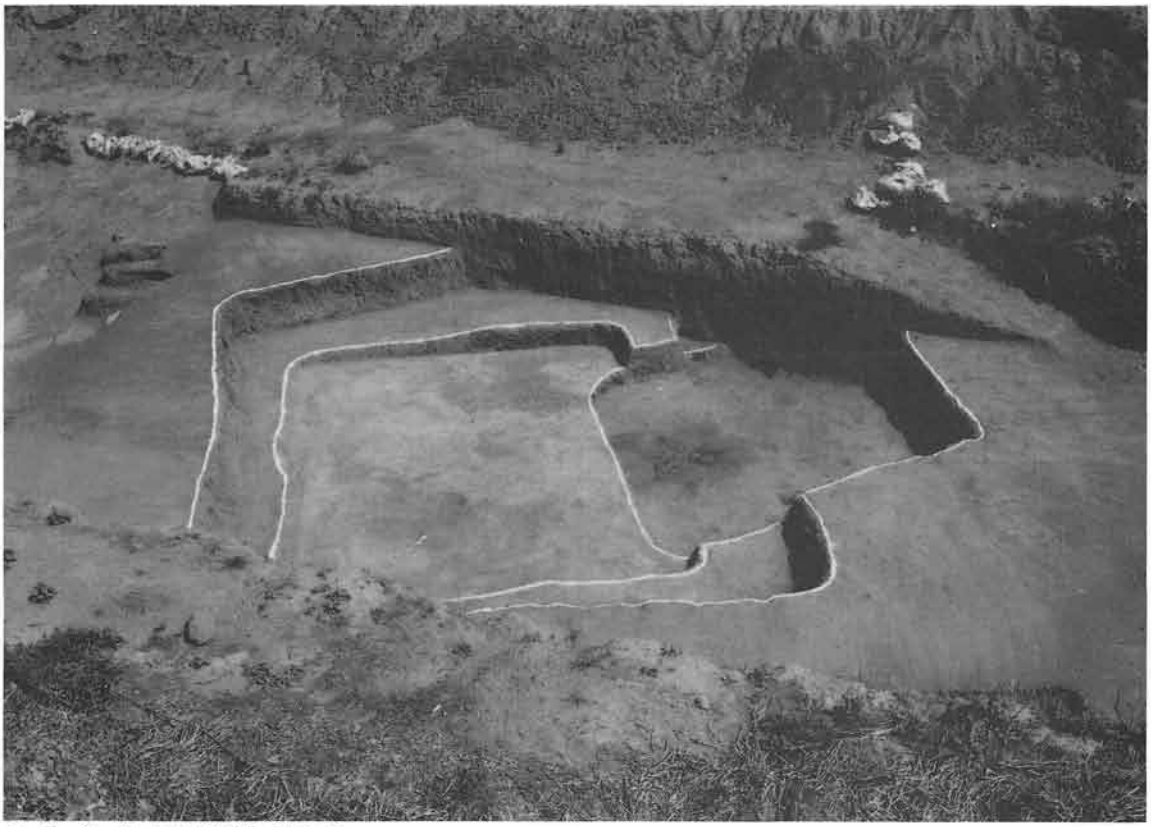


7．H－73・103号住居址（西から）

8．H－79号住居址遺物出土状態（南から）

1．H－60号住居址遺物出土状態（南から）

2．H－61遺物出土状態（北から）



3．H－60・61・118号住居址（西から）

4．H－75号住居址（北から）

5．H－75遺物出土状態（北西から）

1．H－82号住居址遺物出土状態（南から）

2．H－91号住居址（西から）

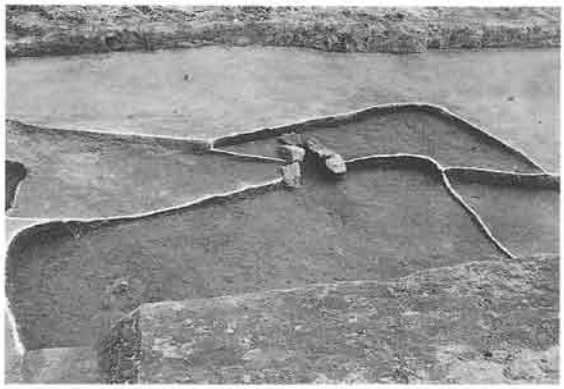
3．H－105号住居址竈（西から）

4．H－111号住居址（南西から）

5．H－111号住居址遺物出土状態（南西から）

1．H－110・119号住居址（西から）

2．H－127・128・130・131号住居址（南西から）



3．H－125・126号住居址（西から）

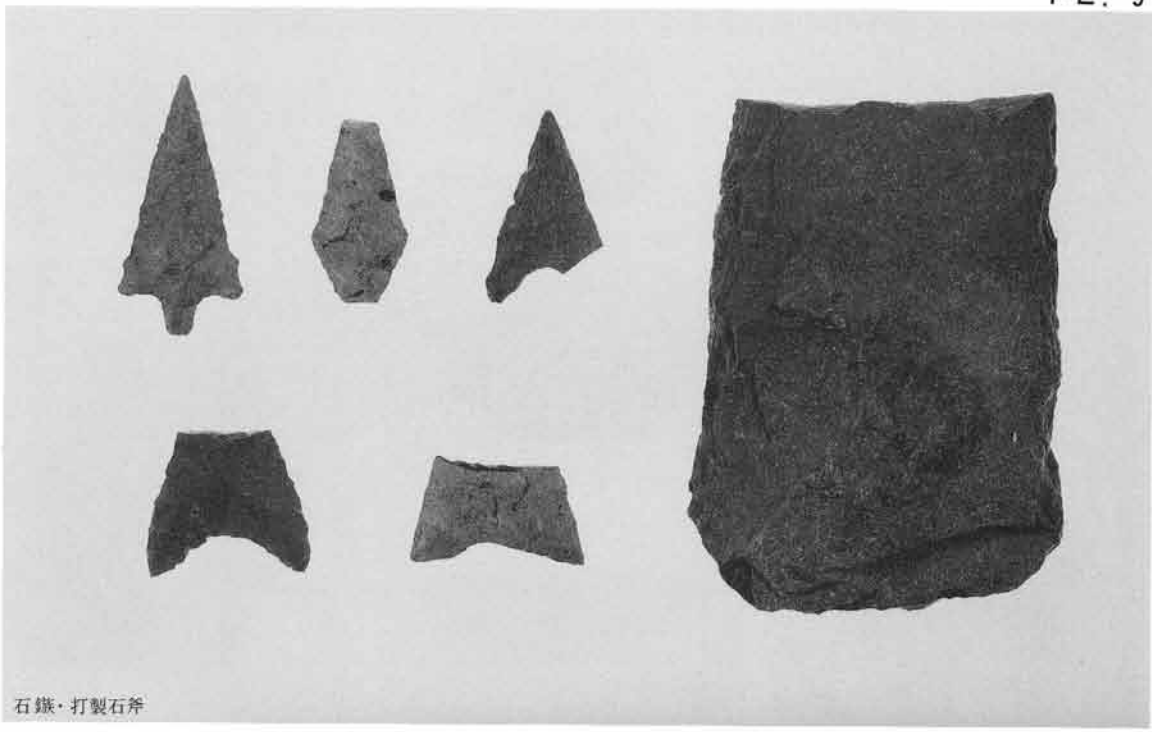
4．H－126号住居址竈（西から）

5．H－129号住居址遺物出土状態（南東から）

6．W－6・7，I－3（北から）

7．I－2（東から）

8．発掘を終えて

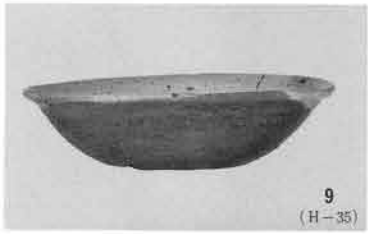


石鏃・打製石斧

4
(H－32)

13
(H－35)

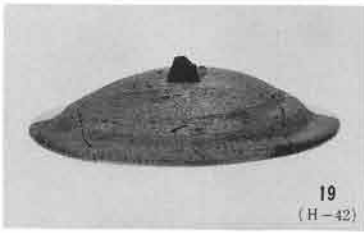
14
(H－35)



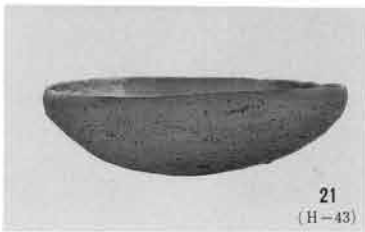
9
(H－35)

8
(H－35)

15
(H－38)



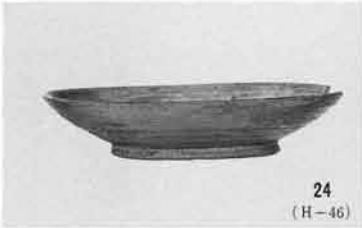
19
(H－42)



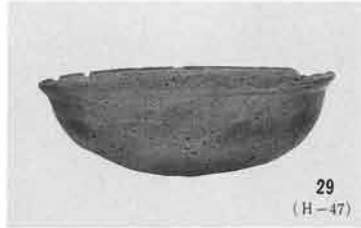
21
(H－43)

22
(H－43)

23
(H－43)


24
(H−46)

26
(H−46)

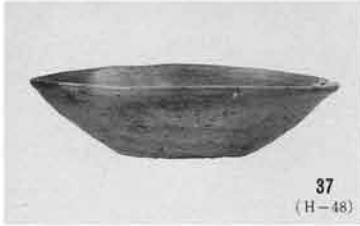

29
(H−47)

31
(H−47)

39
(H−48)

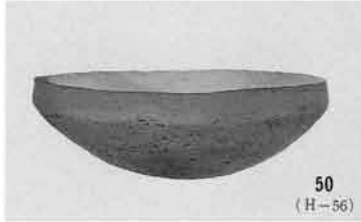
41
(H−50)

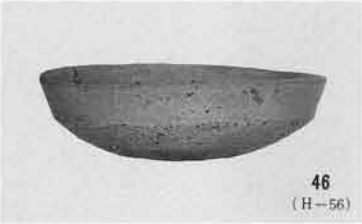
38
(H−48)

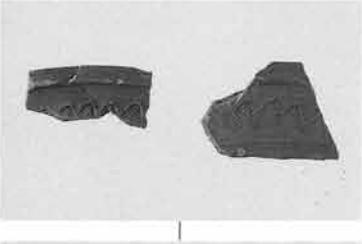

37
(H−48)

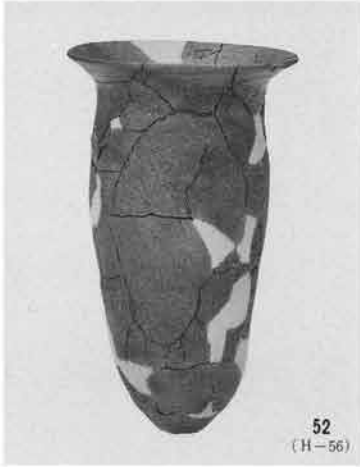
42
(H−53)

51
(H−56)


50
(H−56)


46
(H−56)




52
(H−56)

57
(H−58)

55
(H−55・57)

54
(H−57)

64
(H−59)

66
(H−59)

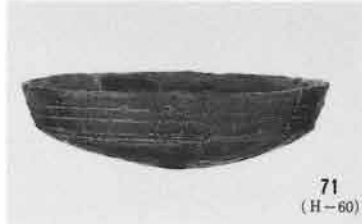
69
(H−59)

61
(H−59)

65
(H−59)

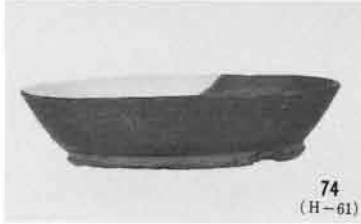
67
(H−59)

60
(H−59)


71
(H−60)

70
(H−60)

73
(H−61)


74
(H−61)

76
(H−61)

77
(H−62)

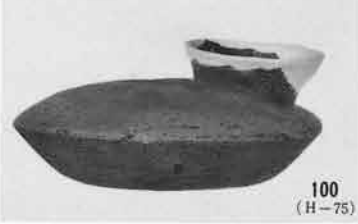
78
(H−64)

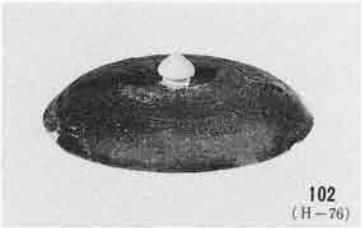
88
(H−69)

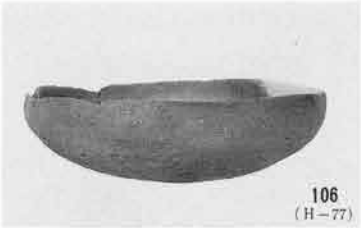
94
(H−73)

96
(H−74)

99
(H−74)


100
(H−75)


102
(H−76)

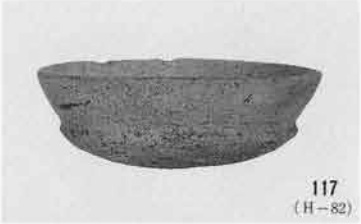

106
(H−77)

112
(H−79)

114
(H−81)

115
(H−81)

119
(H−82)


117
(H−82)

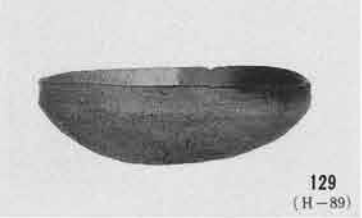
118
(H−82)

122
(H−83)

123
(H−83)

121
(H−83)

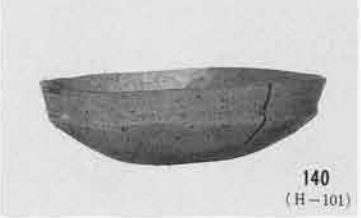
127
(H−88)

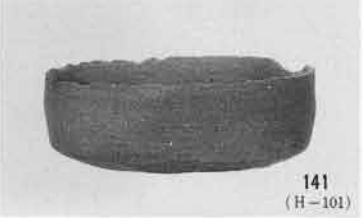

129
(H−89)

138
(H−97)

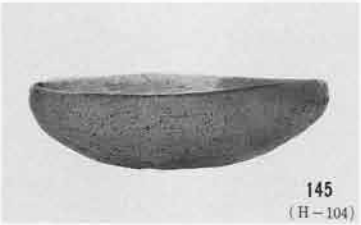
139
(H−97)

137
(H−97)


140
(H−101)


141
(H−101)

144
(H−103)


145
(H−104)

153
(H−105)

156
(H−105)

161
(H−108)

169
(H−111)

164
(H−111)

167
(H−111)

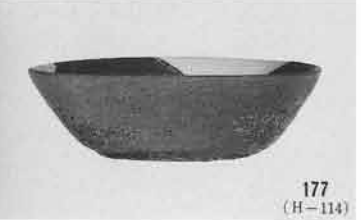
165
(H−111)

166
(H−111)

172
(H−112)

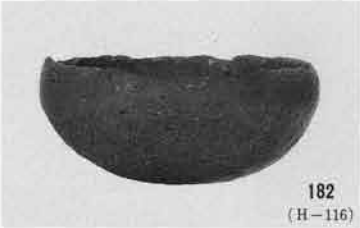
173
(H−112)

168
(H−111)


177
(H−114)

PL. 14

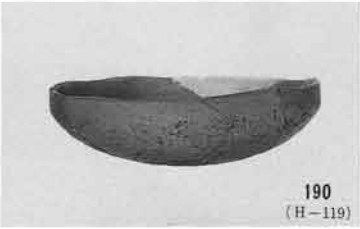
180
(H−115)

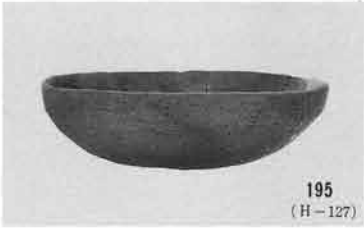

182
(H−116)

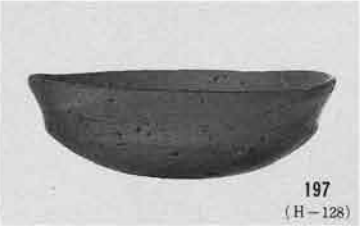
183
(H−116)

191
(H−119)

186
(H−118)


190
(H−119)


195
(H−127)


197
(H−128)

196
(H−128)

205
(H−129)

202
(H−129)

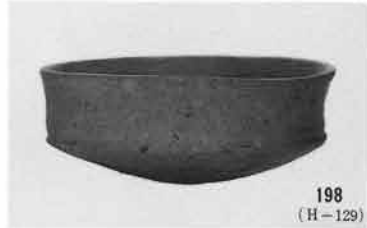
201
(H−129)

204
(H−129)

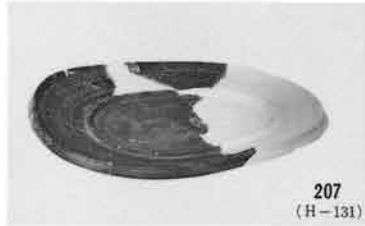
203
(H−129)

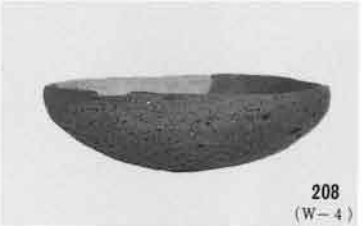
199
(H−129)

200
(H−129)


198
(H−129)

206
(H−130)


207
(H−131)


208
(W−4)

211
(W−7)

212
(W−7)

222
(X59・Y86)

218
(X59・Y86)

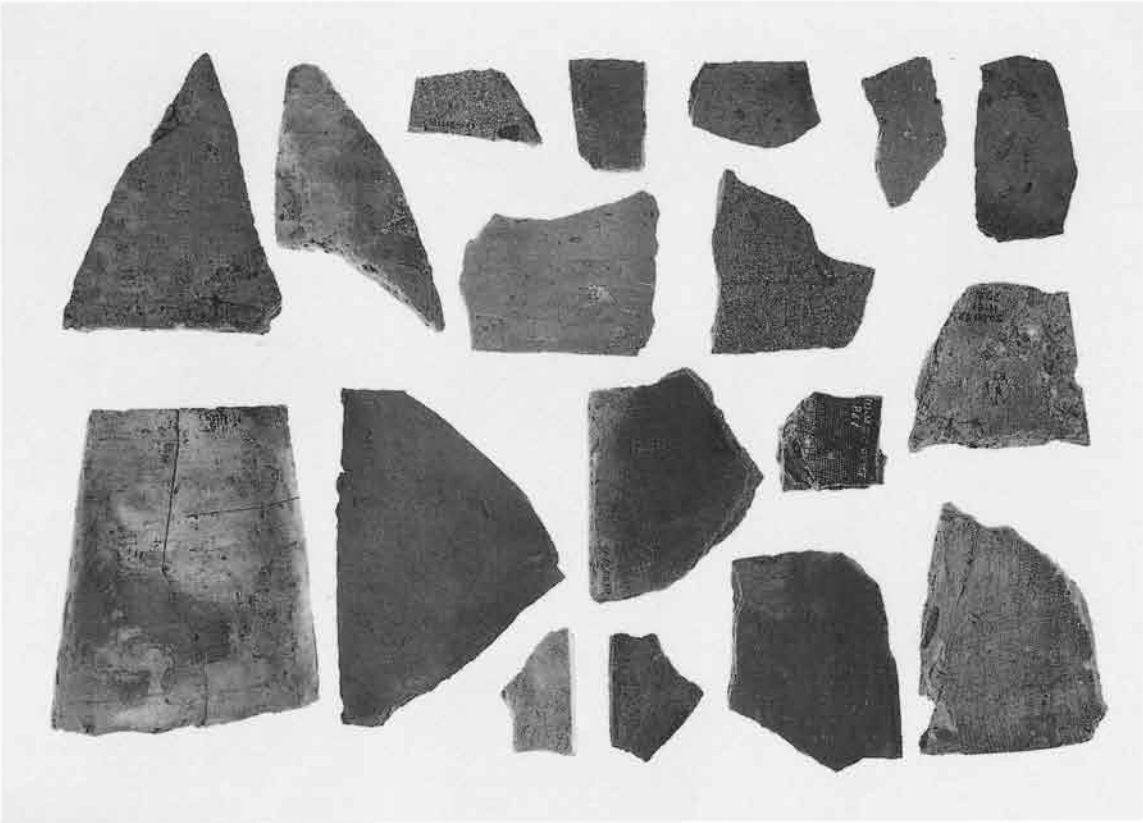
221
(X59・Y86)

217
(X59・Y86)

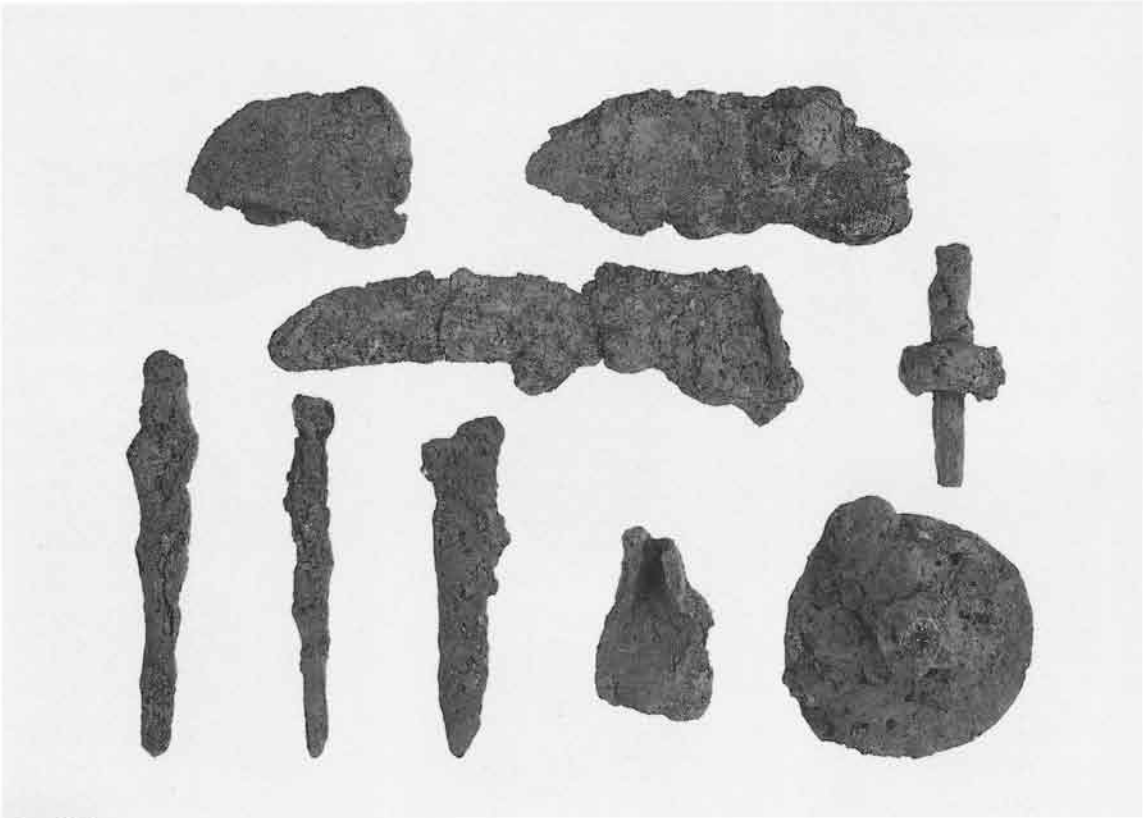
220
(X59・Y86)

瓦27 (B区表採)

瓦20 (H−105)



1．瓦



2．鉄器

抄　　録

フリガナ	オオヤシキイセキニ
書名	大屋敷遺跡Ⅱ
副書名	
巻次	
シリーズ名	オオヤシキイセキ
シリーズ番号	2
編著者名	大山知久　真塩欣一
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371　群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	西暦1994年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
オオヤシキ 大屋敷遺跡Ⅱ	マエバシシソウジャマチ 前橋市総社町	10201	5A60	36°24′01″	139°02′24″	19930423 19931101	2,386㎡	土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
大屋敷遺跡Ⅱ	集落跡	縄文時代 ～中世	竪穴式住居址103軒、 溝址5条、井戸址3基外	土師器（甕 壺 甑 高坏 坏 坩） 須恵器（台付長頸壺 大型器台 甕 蓋 椀 坏） 石製模造品、臼玉、鉄器外
特記事項	須恵器台付長頸壺（住居址より出土） 須恵器大型器台（住居址より出土） 祭祀に係わりのある住居址（石製模造品・土師器高坏等多数出土）			

大屋敷遺跡Ⅱ

平成6年3月18日　印　刷
平成6年3月25日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664－4
TEL　0272-31-9531

印　　刷　株式会社　開文社印刷所